

ANNUAL REPORT
2017



目 次

平成29年度の流れ	近代美術館	_____	3
	万代島美術館	_____	4
事業報告			
展覧会	近代美術館	常設展	第1期 新収蔵品を中心に _____ 7
			怪奇・夢・幻 _____ 7
		第2期 奇想のたくらみ _____ 9	
			〔前期〕 エッチングの楽しみ _____ 9
			〔後期〕 ミロ 太陽の賛歌 _____ 9
		第3期 自然と生きる _____ 11	
			近代美術館の名品 _____ 11
			暮らしの中での絵 _____ 11
		第4期 線と 面と _____ 13	
			ニイガタ×彫刻 _____ 13
			近代美術館の名品 _____ 13
		第5期 母たちの肖像 _____ 15	
			手は語る _____ 15
		企画展	漢字三千年 _____ 17
			生誕90年 加山又造展 _____ 22
			没後90年 萬籟五郎展 _____ 26
			堀口大學展 _____ 36
			ディズニー・アート展 _____ 45
		共催展	第72回新潟県美術展覧会長岡展 _____ 48
			第47回世界児童画展 _____ 48
			第21回新潟県立美術館友の会作品展 _____ 49
			第28回 MOA 美術館児童作品展長岡会場 _____ 49
			第21回長岡市中学校美術部作品展 _____ 50
			第19回亀倉雄策賞受賞記念 渡邊良重展 / JAGDA 新人賞展2017 _____ 50
			第48回新潟県ジュニア美術展覧会長岡展 _____ 51
			こどもものづくり大学校作品展覧会 _____ 51
	万代島美術館	所蔵品展	うつくしい暮らし _____ 52
		企画展	マリメッコ展 _____ 57
			レオナルド・フジタとモデルたち _____ 60
			チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地 _____ 65
			古代アンデス文明展 _____ 68
教育普及	近代美術館	イベント	_____ 76
			館外活動・地域との連携 _____ 79
			刊行物・鑑賞資料 _____ 84
			作品解説会 _____ 85
			団体の受入れ _____ 85
			学校教育との連携 _____ 86
			観覧料免除 _____ 88
			博物館実習 _____ 89
	万代島美術館	イベント	_____ 90
			刊行物 _____ 91
			作品解説会 _____ 91
			団体の受入れ _____ 92
			学校教育との連携 _____ 92
			観覧料免除 _____ 94
			サポートメンバー _____ 95
			博物館実習 _____ 96
調査・研究	近代美術館	_____	96
	万代島美術館	_____	98
収集・保存	美術品の収集	_____	99
	美術品の保存	美術品の修復 _____ 101	
		美術品の燻蒸 _____ 101	
	美術品の貸出	_____	102
管理・運営			
	開館及び入館状況	近代美術館 _____ 106	
		万代島美術館 _____ 107	
	施設の貸出	近代美術館 _____ 108	
	アンケート集計結果	近代美術館 _____ 109	
		万代島美術館 _____ 111	
	組織及び業務	_____ 114	
	職員	_____ 114	
施設	近代美術館	_____ 115	
	万代島美術館	_____ 117	
審議会等	美術館協議会（含 自己評価に対する委員評価）	_____ 119	
	美術品収集委員会	_____ 136	
	新潟県立美術館友の会	_____ 137	
沿革	_____	_____	138

平成29年度の流れ（新潟県立近代美術館）

4月	29日(土・祝) 企画展「漢字三千年—漢字の歴史と美—」開場式 「漢字三千年—漢字の歴史と美—」開会 30日(日) 漢字三千年展関連イベント「講座 初心者向け楽学中国語」
5月	3日(水・祝) 漢字三千年展関連イベント「講座 行書を書いてみよう」 6日(土) 漢字三千年展関連イベント「講演会 漢字にみる人生の知恵」 7日(日) 漢字三千年展関連イベント「講座 漢詩の響きを楽しもう」 11日(木) 漢字三千年展関連イベント「講座 古代文字を書いてみよう」 19日(金) 漢字三千年展関連イベント「講座 ひらがなの原点を探ろう」
6月	3日(土) ワークショップ「指でくるくる」チョークアートを描こう! 11日(日) 「漢字三千年—漢字の歴史と美—」閉会 17日(土) 映画鑑賞会「ジキル博士とハイド氏」 18日(日) コレクション展第1期閉会 22日(木) コレクション展第2期閉会 24日(土) ワークショップ「ペリペリ ワクワク ーメデュームはがし版画に挑戦!」
7月	1日(土) 美術鑑賞講座「版画のはなし」 7日(金) 企画展「生誕90年 加山又造展 生命の煌めき」開場式 8日(土) 「生誕90年 加山又造展 生命の煌めき」開会 加山又造展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」 13日(木) 博物館実習初日 16日(日) 加山又造展関連イベント「こらぼde茶会」 22日(土) 映画鑑賞会「火垂るの墓」 23日(日) 加山又造展関連イベント「特別講演会 戦後のチャンピオン—加山又造の芸術」 27日(木) 博物館実習最終日 29日(土) ギャラリートーク「美術でおしゃべり」 30日(日) 加山又造展関連イベント「ワークショップ 消しゴムはんこで作る又造の世界」
8月	5日(土) ギャラリートーク「美術でおしゃべり」 美術鑑賞講座「加山又造—伝統と革新」 12日(土) ギャラリートーク「美術でおしゃべり」 13日(日) 加山又造展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」 27日(日) 加山又造展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」 「没後90年 加山又造展 生命の煌めき」閉会
9月	2日(土) 映画鑑賞会「シャレード」 3日(日) コレクション展第2期閉会 7日(木) コレクション展第3期閉会 9日(土) ワークショップ「絵手紙をかいてみませんか?」 15日(金) 企画展「没後90年 萬鐵五郎展」開場式 16日(土) 「没後90年 萬鐵五郎展」開会 17日(日) 萬鐵五郎展関連イベント「担当学芸員によるギャラリートーク」 24日(日) 萬鐵五郎展関連イベント「担当学芸員によるギャラリートーク」 26日(火) 「巡回ミュージアム」開会 村上市総合文化会館にて
10月	1日(日) 萬鐵五郎展関連イベント「担当学芸員によるギャラリートーク」 5日(木) 「巡回ミュージアム」閉会 7日(土) ワークショップ「ミニ絵本をつくろう」 9日(月・祝) 萬鐵五郎展関連イベント「記念講演会 萬鐵五郎「近代」を越えて生きた画家」 15日(日) 萬鐵五郎展関連イベント「担当学芸員によるギャラリートーク」 22日(日) 萬鐵五郎展関連イベント「担当学芸員によるギャラリートーク」 28日(土) 萬鐵五郎展関連イベント「美術鑑賞講座 画家・萬鐵五郎への視点—藤田嗣治とくらべてみる」

11月	5日(日) 萬鐵五郎展関連イベント「担当学芸員によるギャラリートーク」 12日(日) 萬鐵五郎展関連イベント「担当学芸員によるギャラリートーク」 18日(土) 映画鑑賞会「カルメン」 19日(日) 萬鐵五郎展関連イベント「担当学芸員によるギャラリートーク」 「没後90年 萬鐵五郎展」閉会 25日(土) ワークショップ「毛糸で織る〜コースターをつくろう〜」 26日(日) コレクション展第3期閉会 30日(木) コレクション展第4期閉会
12月	1日(金) 企画展「堀口大學展」開場式 2日(土) 「堀口大學展」開会 共催展「第19回亀倉雄策賞受賞記念 渡邊良重展/JAGDA新人賞展2017」開会 亀倉雄策賞展関連イベント「開催記念講演会」 3日(日) 堀口大學展関連イベント「講演会 堀口大學は、誰が育てたか」 9日(土) 美術鑑賞講座「友情の双像と武石弘三郎」 16日(土) 映画鑑賞会「オルフェ」 17日(日) 堀口大學展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」 「第19回亀倉雄策賞受賞記念 渡邊良重展/JAGDA新人賞展2017」閉会 29日(金)
1月	年末年始の休館 3日(水) 6日(土) 美術鑑賞講座「堀口大學と美しい書物」 8日(月・祝) 「堀口大學展」閉会 16日(火) 共催展「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」開会 25日(木) 「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」閉会
2月	3日(土) 美術鑑賞講座「異邦人たちのバリ」 10日(土) 映画鑑賞会「ベリッシマ」 12日(月・祝) コレクション展第4期閉会 16日(金) コレクション展第5期閉会 企画展「ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法」開場式 17日(土) 「ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法」開会 24日(土) 美術鑑賞講座「ディズニー映画の魅力」 27日(火) ディズニー・アート展関連イベント「0歳からのミニコンサート@ディズニー・アート展」
3月	3日(土) 美術鑑賞講座「母子像に親しむ」 4日(日) 託児DAY 15日(木) 託児DAY 18日(日) ディズニー・アート展関連イベント「長岡少年少女合唱団ミニコンサート@ディズニー・アート展」 31日(土) コレクション展第5期閉会

平成29年度の流れ（新潟県立万代島美術館）

4月	1日(土) マリメッコ展関連イベント ギャラリートーク 16日(日) マリメッコ展関連イベント ギャラリートーク 23日(日) 美術鑑賞講座「近代日本のかわいいデザインー竹久夢二と杉浦非水を中心に」 29日(土・祝) マリメッコ展関連イベント ワークショップ「『にいがたもよう』オリジナルミニノートづくり」
5月	13日(土) マリメッコ展関連イベント ギャラリートーク
6月	11日(日) 企画展「マリメッコ展」 閉会 12日(月)～23日(金) 展示替えのため休館 23日(金) 企画展「レオナルド・フジタとモデルたち」 開場式 24日(土) 企画展「レオナルド・フジタとモデルたち」 開会
7月	2日(日) レオナルド・フジタとモデルたち関連イベント 学芸員によるギャラリー・トーク 9日(日) 美術鑑賞講座「レオナルド・フジタと5人の妻たち」 23日(日) レオナルド・フジタとモデルたち関連イベント ギャラリー・トーク「会田誠、フジタを語る」 30日(日) レオナルド・フジタとモデルたち関連イベント 講演会「絵画保存修復家の仕事～よみがえる絵画、そしてフジタ」
8月	6日(日) レオナルド・フジタとモデルたち関連イベント 学芸員によるギャラリー・トーク 13日(日) レオナルド・フジタとモデルたち関連イベント Noism 特別パフォーマンス 20日(日) 美術鑑賞講座「日本画家／挿絵画家 水島爾保布とビーズリー」 27日(日) レオナルド・フジタとモデルたち関連イベント 学芸員によるギャラリー・トーク
9月	3日(日) 企画展「レオナルド・フジタとモデルたち」 閉会 3日(日)～15日(金) 展示替えのため休館 16日(土) 所蔵品展「うつくしい暮らし」 開会 18日(月・祝) うつくしい暮らし関連イベント 当館学芸員による作品解説会 30日(土) うつくしい暮らし関連イベント 学芸員によるギャラリートーク
10月	15日(日) うつくしい暮らし関連イベント 当館学芸員による作品解説会 21日(土) 美術鑑賞講座「デザイナー・亀倉雄策のうつくしい暮らし」 28日(土) うつくしい暮らし関連イベント ワークショップ「うまのオーナメントをつくろう」

11月	5日(日) 所蔵品展「うつくしい暮らし」 閉会 6日(月)～22日(水) 展示替えのため休館 22日(水) 企画展「チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地」 開場式 23日(木・祝) 企画展「チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地」 開会
12月	2日(土) チームラボ展関連イベント コスプレイベント 29日(金)
1月	年末年始の休館 2日(火)
	13日(土) チームラボ展関連イベント ステッカーキャンペーン 30日(火) チームラボ展関連イベント 作品解説会 31日(水) チームラボ展関連イベント 作品解説会
2月	2日(金) チームラボ展関連イベント ステッカーキャンペーン 6日(火)～7日(水) チームラボ展関連イベント 作品解説会 6日(火)～9日(金) チームラボ展関連イベント ステッカーキャンペーン 13日(火)～14日(水) チームラボ展関連イベント 作品解説会 14日(水) チームラボ展関連イベント ステッカーキャンペーン 20日(火)～21日(水) チームラボ展関連イベント 作品解説会 27日(火)～28日(水) チームラボ展関連イベント 作品解説会
3月	4日(日) 企画展「チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地」 閉会 5日(月)～20日(火) 展示替えのため休館 20日(火) 企画展「古代アンデス文明展」 開場式 21日(水・祝) 企画展「古代アンデス文明展」 開会 古代アンデス文明展関連イベント 講演会「古代アンデス文明 その誕生から滅亡まで」

事業報告





常設展(コレクション展)



【趣 旨】

当館の所蔵品による展示。

本年度は、5期にわたり、例年どおり三つの展示室ごとにテーマを設けて所蔵品を展示紹介した。いずれも三室の内一室は「近代美術館の名品」とした。

第2期前期の「エッチングの楽しみ」では、近隣の長岡造形大学から用具を借用して展示し、より興味の持てる展示とした。同じく第2期「親と子のワクワク美術館③ 奇想（へんてこりん）のたくらみ」では、担当者と教育普及担当者が協力してアプローチの仕方を工夫し、また当展示に関連し、学校教員を講師に迎えるワークショップ「夏休みこどもアート」も実施した。また、第5期には、企画展が「ディズニー・アート展」であることに配慮して、美術館になじみのない人にもわかりやすいテーマで展示を行った。

【観覧料】

一般……………430円（340円）

大学・高校生……………200円（160円）

中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

※ 同時期の企画展観覧券で観覧可

第1期 2017年3月24日(金)～6月18日(日) (75日間)

展示室1 新収蔵品を中心に
展示室2 近代美術館の名品
展示室3 怪奇・夢・幻

新収蔵品を中心に

【趣 旨】

平成28年度に新しく収蔵された作品を中心に紹介。この年は45点もの寄贈があり、分野も、日本画、洋画、彫刻、工芸、水彩、素描、彫刻、デザイン、西洋画と多岐にわたり、展示替え作品も含め、ほぼ新収蔵品で占めることができた。ただしデザイン作品に関しては、保管の作品点数が多かったことに加え、展示方法が定まっていなかったため、展示しなかった。

【総 括】

●評価すべき点

- ・地元新潟県にゆかりのある作品が多く集まり、収蔵作品が充実してきた様を示すことができた。
- ・地元新聞の文化欄に執筆することで、当館所蔵品の充実度をアピールすることができた。

【関連記事】

●新聞

5月13日(土) 新潟日報 文化欄

「『お宝』 本間翠峰の絶筆」

／宮下東子（当館学芸課長代理）

担当 宮下東子

怪奇・夢・幻

【趣 旨】

当館所蔵品の中から、あやしく不思議な作品や、夢の中にあるような幻想的な作品など、見る者を夢の世界に誘うような独特の魅力を放つ作品を紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・会期中展示替が必要な版画連作作品を、パネルで全内容を補足することで、題材となったストーリー全体が分かるように工夫した。
- ・作品キャプションでは作品を端的に表す一言を添え、キャプションを全て読まなくても、内容が伝わるようにした。

●検討課題

- ・テーマについて内容を掘り下げられなかった。

担当 伊澤朋美

【出品リスト】

展示室1 新収蔵品を中心に		
作家名	作品名	制作年
原 正樹	蠟型鑄銅青銅の器	1980
瀧 和亭	四季花鳥画冊	1864
長谷川 嵐溪	四季山水画冊	1864
原 益夫	潮	1965
原 益夫	エンドレス	2002
長井 亮之	秋景色	昭和20~30年代
竹内 蘆風	晩秋	明治後期
矢部 友衛	裸婦	1932
矢部 友衛	婦人像	1938頃
矢部 友衛	わらを打つ	1951
佐藤 哲三	小鳥	不明
佐藤 哲三	自転車屋の職人の肖像	1940
佐藤 哲三	農婦	1937
木下 晋	自画像	1977
堀内 康司	開墾	1956
堀内 康司	無題〈案山子〉	1956
堀内 康司	日本海（浦本の浜辺・青海、糸島川、カジ屋敷）	1950年代
森川 ユキエ	這	1959
森川 ユキエ	ニッポン・風景	1984
本間 ケイ	ナーガの旅	1996
H.オットマン	屏風の前の裸婦	1920頃
野上 公平	燦燦 No. 9	1996
野上 公平	雲の行方 No. 8	1998
戸張 公晴	TORSO	1990
【前期】		
長谷川 嵐溪	離合山水図	江戸時代後期
瀧 和亭	長谷川嵐溪像 大槻磐溪題	1863
長谷川 嵐溪	仙山楼閣図	江戸時代後期
長谷川 嵐溪	墨竹図	江戸時代後期
長谷川 嵐溪	墨蘭図	江戸時代後期
長谷川 嵐溪 他	墨蘭図、牡丹図、七言詩	1857
広川 松五郎	風呂呂屏風	1935頃
広川 松五郎	染付牡丹額	1949頃
【後期】		
池上 秀畝	群鹿図	1907頃
岩田 正巳	手向けの花	1924
本間 翠峰	菖蒲図屏風	1877
広川 松五郎	模絵紅梅圖（光琳梗模圖）	1946頃

展示室2 近代美術館の名品		
作家名	作品名	制作年
浅井 忠	農人	1890
小山 正太郎	婦人	1891
児島 善三郎	森と聚落	1958
吉原 治良	静物	1929
武石 弘三郎	母	1917
溝谷 国四郎	裸婦	1923
牧野 虎雄	サンルーム	1929
牧野 虎雄	秋近き濱	1934
長谷川 利行	風景	1931
佐藤 哲三	農婦	1940
北川 民次	大地	1939
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
安井 曾太郎	読書	1942
難波田 龍起	森の詩	1960
脇田 和	あらそい	1955
末松 正樹	ボン・ボワイヤージュ	1962
阿部 展也	太郎	1949
菅井 汲	ナショナルルートNo.12	1964
白髪 一雄	白色のひろがり	1965
山口 長男	渾	1972
高橋 秀	アリスの月（白）	1976
高橋 秀	アリスの月（黒）	1976
横山 操	林	1968
土田 麦覆	鮭之図	1924
イサム・ノグチ	女（リシ・ケシュにて）	1956
岡 鹿之助	朝の城	1970
F.ボテロ	頭像	1989
堂本 尚郎	黒い太陽-W	1973
栢森 琢也	海の幸	1978
猪熊 弦一郎	犬とネクタイ	1991
G.カボグロッシ	表面 308	1959
金 昌烈	水滴	1974
岡本 太郎	顔	1965
J=E.ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
C.モネ	コロンプの平原、霜	1873
C.コロー	ビブリー	1874-75
G.ルオー	晩秋 No.3	1948-52
A.ロダン	考える人	1880
【前期】		
横山 操	林	1968
【後期】		
土田 麦覆	鮭之図	1924

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

ロビー

佐藤 可士和	ポスター：CD「Smap」	2000-01
竹田 康宏	Under the leaves 98 AU "Let's stay right here"	1998

展示室3 怪奇・夢・幻		
作家名	作品名	制作年
猪爪 彦一	風景	1990
猪爪 彦一	河	1990
M.エルンスト	鳥=人頭	1934-35 (1992鑄造)
工藤 甲人	夜	1963
上野 省策	からすの群	1976
星 兼雄	階段のある一変容・Ⅲ	2005
小山田 二郎	鳥女	不明
小山田 二郎	古代の夢	不明
小山田 二郎	題不明	不明
小山田 二郎	題不明	不明
小山田 二郎	題不明	不明
有元 利夫	無題	1986
原画・制作指導： M.シャガール 制作：C.ソルリエ	バラの花束のあるアンジュ湾	不明
安宅 安五郎	群蝶	1926
鷹山 宇一	花	不明
小原 稔	棚	1975
國領 經郎	遠い海	1987
編集：料治熊太 発行：白と黒社	版画	1933/4発行
市橋 敏雄	桃源の夢	1976
【前期】		
谷中 安規	影絵芝居 第三景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第八景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第九景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第十一景	1932
【後期】		
谷中 安規	影絵芝居 第二景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第十景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第十二景	1932
谷中 安規	影絵芝居 第十三景	1932

第2期 2017年6月22日(木)～9月3日(日)（64日間）

前期：6月22日(木)～7月30日(日)

後期：8月1日(火)～9月3日(日)

展示室1 親と子のワクワク美術館③ へんてこりん 奇想のたくらみ

展示室2 近代美術館の名品

展示室3 前期：エッチングの楽しみ 後期：ミロ 太陽の賛歌

親と子のワクワク美術館③

へんてこりん

奇想のたくらみ

【趣 旨】

本展は2011年第3期のコレクション展「奇想の風景」の続編的企画であると同時に、2015年から始まる親子向けの展覧会企画でもある。「奇想」という言葉には誰も思いつかないようなユニークな奇抜な考えという意味があり、前回の展覧会では「奇想」の視点で作品をセレクトし、かつ、その観点で作品解説を作成した。今回は対象を親子で対話しながら鑑賞することを視点として作品を選び、キャプションも作品解説ではなく、作者のユニークな試みに触れることを目的に、作品への魅力に鑑賞者自身の感覚で近づけるようなヒントを提示した。

また、展示作品も当館ではあまり紹介される機会の少なかった作品も加えて、所蔵作品の新たな魅力を提示できるよう作品セレクトを行った。

【総 括】

●評価すべき点

- ・夏休み期間中でもあり、親子で訪れた来館者には本展のアプローチは新鮮であり、好評であった。
- ・学校施設との協働活動の良い機会となった。

●検討課題

- ・当初、展示する機会の少ない作品を新たに視点により紹介することを目的の一つと考慮したが、親子向けを意識したため、前回の「奇想の風景」に比べ当館の主要作品が多くなった。

【関連行事】

ワークショップ

- ・夏休みこどもアート「へんてこりんをくみだてる」
（共催：新潟県立美術館友の会、中越美術教育研究会）
講 師：峰村恵利子氏（長岡市立高等総合支援学校教諭）
宮下東子（鑑賞活動のみ／当館学芸課長代理）
日 時：8月6日(日) 10：00～15：00
参加者数：9名

担当 藤田裕彦

エッチングの楽しみ

【趣 旨】

エッチングの魅力は、繊細な線の表情と深い陰影から生まれるドラマにある。刻一刻と変化する光をとらえた風景画や、人物の心理を影によって映し出した風俗画など、幅広い主題を扱ったエッチング作品を所蔵品から選んで紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・17世紀のジャック・カロが線の太さを自在に変えて、エッチングに革命をもたらしたこと、20世紀の菅井汲がフランスで専門の刷り師と出会って独自のエッチングを創造したことなど、各時代における多彩な発展の歴史を示すことができた。

●検討課題

- ・コレクション展で版画の技法的側面に光を当てることは稀だったが、今後はより具体的に伝える努力をすべきであろう。

【関連展示】

- ・技法に関する資料展示
エッチングは特殊な道具を必要とするため、一般の来場者にとってはあまりなじみがない技法といえる。今回は、版画道具の展示や技法別の作例をケース展示した。それによって表現への理解が深まるという効果が得られた。
企画：村山裕之（当館副参事）
協力：岡谷敦魚氏（長岡造形大学准教授・版画家）

担当 平石昌子

ミロ 太陽の賛歌

【趣 旨】

これまで連作すべてを展示する機会が少なかった《太陽の賛歌》を、彼が影響を受けたアッシジの聖フランチェスコによる詩『太陽の賛歌』とともに、一堂に展示。また、所蔵作品の中から、他のミロの作品や、エルンストやピカソ、カルダーなど、ミロと交流があった同時代の作家たちの作品もあわせてご紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・折り返した部分に別作品が刷られているため、見るができない一部の作品は、パネルを作成し、補足展示した。
- ・所蔵作品の中で、余り他作品と関連付けられ展示機会の少なかった作品を、併せて紹介する機会となった。

●検討課題

- ・今回展示した作品は個人コレクターが所蔵していた作品が多く、その来歴なども調査できればより解説に深みが増したと思われる。

担当 伊澤朋美

【出品リスト】

展示室1 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
東山 魁夷	森の静寂	1964
橋本 龍美	風の唄	1981
横山 操	港	1958
横山 操	炎々桜島	1956
浅井 忠	農人	1890
小山 正太郎	仙台の桜	1881
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
里見 勝蔵	赤と緑の静物	1928
佐伯 祐三	広告塔	1927
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
佐藤 哲三	郵便脚夫宮下君	1931
A.フォンタネージ	ブジェイ高原	1958-60頃
G.クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
K.コルヴィッツ	母と二人の子	1932-36
C.モネ	クロンプの平原、霜	1873
M.ドニ	夕映えの中のマルト	1892
P=E.ランソン	収穫する7人の女性	1895
J=E.ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
E.パヴラッハ	ロシアの恋人たち	1908

【前期】

尾竹 竹坡	梧桐	1911
錦木 清方	春の夜のうらみ	1922
横山 大観	朝暉	1954
土田 麦僊	扇売美人の図	1906

【後期】

川合 玉堂	春苑	1919
土田 麦僊	清暑	1905
小林 古径	紫苑	1933
錦木 清方	桜姫	1923

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

ロビー

鈴木 力	海に向かって (シシリア)	1999
竹田 康宏	Under the leaves 98 AU "Let's stay right here"	1998

展示室2 親と子のワクワク美術館③
奇想 (へんてこりん) のたくらみ

作家名	作品名	制作年
原 正樹	曲面の斜角柱	1970
亀倉 康之	枯野	1978
渡邊 利雄	門	1965
渡邊 利雄	陽	1968
安宅 雄雄	鸚鵡と少女	1936
峰村 リツ子	猫と裸婦	1988
新保 兵次郎	雪の朝	不明
新保 兵次郎	窓辺	不明
地主 悌助	石	1966
上野 省策	いすこえ	1975
長井 亮之	見学	1969
三輪 晃勢	草の上	1947
金井 二郎	海の詩	2002
近藤 直行	発掘された祈りC	1968
コイズミ アヤ	未知の信仰のための空の器 dialogue (対話)	1998
コイズミ アヤ	未知の信仰のための空の器 pursuit (追求)	1998
コイズミ アヤ	未知の信仰のための空の器 meditation (瞑想)	1998
コイズミ アヤ	未知の信仰のための空の器 link (環)	1998
吉原 治良	作品	1935
金 昌烈	水滴	1974
田畔 司朗	はりこ	1964
山口 啓介	水路-王の方舟	1990
長沢 明	Bookboard-Blue	1999
河原 温	JAN.1.1975	1975
八木 一夫	真珠取りの少女	1969

【前期】

小川 芋銭	仙洞刈羊の図	不明
土田 麦僊	鯉とねぎ	不明
A.ジラルドン	日本美術の友	1907
市橋 太郎	セルフポートレイト 1973年10月22日午後3時08分	1973
市橋 太郎	セルフポートレイト 1973年10月22日午後3時15分	1973
葛西 薫	HIROSHIMA APPEALS 2013 原画	2013
葛西 薫	HIROSHIMA APPEALS 2013 ポスター 「夏の陽のまぶしさ」	2013
八木 一夫	環境の表裏	1967 (~7/2まで展示)
三代 宮田 藍堂 伝承		1968 (~7/2まで展示)
C.ズベール	V.I.P	1993 (~7/2まで展示)

【後期】

石橋 犀水	中原鹿を逐う	1987
安井 曾太郎	三面の蛙	不明
H.ラシュー	飾り絵	1893
無木 研爾	樹水〈奥飛騨〉作品1986-I ver.1	1986
無木 研爾	樹水〈奥飛騨〉作品1986-I ver.2	1986
無木 研爾	樹水〈奥飛騨〉作品1986-I ver.3	1986
三木 健	個展の告知ポスター「APPLE+」より1点	2015

展示室3 〈前期〉エッチングの楽しみ

作家名	作品名	制作年
J.カロ	狩獵図 (大)	1620頃
J.カロ	戦争の惨禍〈大〉より 17. 農民の復讐	1633
J.カロ	戦争の惨禍〈大〉より 18. 褒賞の授与	1633
J.カロ	聖アントニウスの誘惑 (第2ヴァージョン)	1635以前
J-F.ミレー	落ち穂拾い	1855 *
J-M.ホイッスラー	ロンドンのオールド・バターシー橋	1879
F=H.ブラックモン	ブラックモンによる6枚の廣食銅版画	1887

表紙

雷雲

かもめ

華と小帽

つばめ

驚いた鴨

朝霧

F.ビュオ	断崖：サン・マロの入江	1886-90
F.ビュオ / H=C.ゲラルル	ジャボニスム：10のエッチング	1875-90
H=C.ゲラルル	扉絵	
H=C.ゲラルル	木彫りのお面	
H=C.ゲラルル	象牙の薬入れ	
H=C.ゲラルル	ブロンズの精	
H=C.ゲラルル	磁器のお茶入れ	
H=C.ゲラルル	漆塗りの銅製の花瓶	
H=C.ゲラルル	ヒキガエル-ブロンズのインク壺	
H=C.ゲラルル	騎手	
H=C.ゲラルル	大黒船	
H=C.ゲラルル	書票：蝶と蜻蛉	

H=C.ゲラルル	日本の装飾の研究	不明
E.ドラートル	ユイスマンズの肖像	1894
H-G-J.I.ムーニエ	モン・サン・ミシェル	不明
H-G-J.I.ムーニエ	モン・サン・ミシェル	不明
L.ファイニンガー	緑の橋	1910-11
F.ゴヤ	カプリーチョス	1799

8. 彼女は連れ去られた

32. 感じ易かったがために

M.クリンガー	オヴィディウス『変身譚』の犠牲者たちの救済 (1898第5刷)	1879
M.クリンガー	VII (VI) 第一間奏曲	
M.クリンガー	VIII (VII) ナルキッソスとエコー I	

南 桂子	平和の木	1958
浜田 知明	ボス	1980
菅井 汲	1993年1月	1993
菅井 汲	1993年2月	1993
菅井 汲	1993年5月	1993

展示室3 〈後期〉ミロ 太陽の賛歌

作家名	作品名	制作年
J.ミロ	太陽の賛歌	1975
J.ミロ	スペインを救え	1937
J.ミロ	ソプレティクシムと彫刻展ポスター	1972
J.ミロ	コピュの子供時代 7	1975
J.ミロ	コピュの子供時代 11	1975
M.エルンスト	喜びの鳥	1971
P.ピカソ	テーブルの上のギターと楽譜	1920
P.ピカソ	ランプの下の静物	1962
A.カルダー	無題	1975 *

*は寄託作品

第3期 2017年9月7日(木)～11月26日(日)（70日間）

展示室1 自然と生きる
展示室2 近代美術館の名品
展示室3 暮らしの中の絵

自然と生きる

【趣 旨】

四季のある国は珍しくはない。しかし、南北に細長く、周囲を海に囲まれた島国は日本しかないであろう。複雑な地形や海流などの影響を受け、様々な季節の彩りと豊かな自然の恵みがもたらされている。日本人は、時には厳しく、時には繊細な美しさをたたえた折々の自然とともに生き、その中から独自の美意識や文化を育んできた。

本展では、日本画、洋画、工芸などの作品から、一章「自然への畏敬」、二章「まか不思議な自然」の二つのテーマで展示を行った。それぞれの作家の繊細で柔らかな自然へのまなざしを楽しんでもらう機会とした。

【総 括】

●評価すべき点

- ・春夏秋冬と季節の流れを意識した具象作品中心の第一章とやや抽象的な作品を集めた第二章構成であったが、観覧者の意識が最後までつながっていくような展示であったと思う。また、しばらく展示されなかった作品も積極的に展示することができた。

●検討課題

- ・展示スペースの工夫により、もう少し作品数を多くすることも可能である。可動壁を有効に使って、たっぷりと作品に浸ることのできる見応えのある展示を考えていきたい。

担当 宇賀田和雄

近代美術館の名品

【趣 旨】

萬鉄五郎展開催に合わせ、萬が作品制作をした時代である大正期の同時代作品を展示し、萬の作品が生まれた背景を示しつつ、大正期における画家たちの様々な新傾向の美術の摂取と表現の様相を示す。

また、中村彝の洲崎義郎宛手紙（新収蔵）を併せて展示することで、大正期における画家と新潟の支援者との深い交流を紹介し、美術史上で大きな展開を迎えた大正浪漫の時代を感じていただく。

【総 括】

●評価すべき点

- ・大正期の多様な美術様式の展開を見ることで、萬の作品の展開について理解する助けとすることができた。
- ・美術史における大正時代の大きな展開の様相を多様な作品から窺うことができた。

●検討課題

- ・個々の作品については、キャプションで説明は付けたが、全体のテーマについては表示しなかったため、大正という時代をどれだけ感じていただけたか、いささか疑いの感が残っている。解説ばかりになっては鑑賞のさまたげになるが、表示物について考え直させられた。

担当 松矢国憲

暮らしの中の絵

【趣 旨】

画家は身の回りにあるものをモチーフに多くの作品を描いてきた。鑑賞者にとっても身近なもの、見慣れたものを描いた作品を鑑賞することで、作品に親しみを感じてもらおうと同時に、作者の創意にも注目してもらう展示を目指し、日常生活の様子が描かれた作品を集めて紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・展示機会の少ない作品を含めて紹介することができた。

●検討課題

- ・単調な空間になってしまった。もう少しテーマを掘り下げ、奥行きのある展示内容を目指したい。

担当 松本奈穂子

【出品リスト】

展示室1 自然と生きる

作家名	作品名	制作年
一章 自然への畏敬		
伊藤 赤水	佐渡島	2012
横山 操	伊豆	1964
村山 徑	雨の渦潮	1980
三輪 晃勢	瀟	1964
川合 清	秋	1983
富岡 惣一郎	北アルプス信濃川源流	1976
岩下 尊弘	地吹雪（3点組）	1997

【前期】

東山 魁夷	森の静寂	1964
佐々木 林風	柳におしどり	不明
小杉 未醒	風神雷神図	1917

【後期】

岩田 正巳	群飛	1974
行田 魁庵	鷺の図	江戸末期
松林 桂月	暮色野梅図	1951
長井 雲坪	筍図	不明
富田 溪仙	春山飛泉	不明

二章 まか不思議な自然

安宅 安五郎	群蝶	1926
木村 忠太	桜樹のある村	1984
猪爪 彦一	風景	1990
上野 省策	いすこえ	1976
難波田 龍起	人と自然10	1989
工藤 甲人	夜	1963
前田 常作	須弥山界道図シリーズ（寿量光）	1974-75

展示室2 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
北村 四海	すみれ	1920頃
北村 四海	女性立像	1926
岸田 劉生	冬枯れの道路（原宿附近写生）	1916
牧野 虎雄	麦扱く農婦等	1918
佐伯 祐三	広告塔	1927
佐伯 祐三	バンテオン寺院	1928
高村 真夫	ラバクール村	1915頃
高村 真夫	裸婦	1921
矢部 友衛	習作	1920
坂田 一男	椅子による裸婦	1924
溝谷 国四郎	裸婦	1924
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
坂本 繁二郎	牛	1915
中村 彝	小鳥の復活	1917 *
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
中村 彝	洲崎義郎宛書簡	1919-24
宮 芳平	自画像	1919 *
宮 芳平	カーテンに	1914
宮 芳平	ドント・オーブン	大正中期
安宅 安五郎	シャヴァンヌ模写（夏）	1921
安宅 安五郎	シャヴァンヌ模写（冬）	1921
安宅 安五郎	ルドン模写	1921
安宅 安五郎	レンブラント作品の模写	1922
F. ファンニゴッホ	長い棒を持つ農婦	1885 *
G. ルオー	晩秋 №3	1948-52
C. モネ	コロンプの平原、霜	1873
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
*は寄託作品		

【前期】

谷中 安規	カフェー	1932
谷中 安規	少年画集2〜8	1932
村山 槐多	裸婦	1916

川上 澄夫	アラスカウナラスカ港 或る教会堂 「HANGA」第1輯より	1924
川西 英	軽業 「HANGA」第1輯より	1924
平川 清蔵	失題 「HANGA」第1輯より	1924
旭 正秀	入江の春 「HANGA」第9・10輯より	1926
深澤 索一	瀬風景	1924
深澤 索一	風景	1925
深澤 索一	風景	1925
深澤 索一	代々木風景	1925
深澤 索一	早春郊外	1925
深澤 索一	山村暮趣	1926
深澤 索一	山村暮趣	1926
深澤 索一	切通	1927
深澤 索一	切通	1932

【後期】

谷中 安規	戦争画集1〜8	1933
平塚 運一	代々木風景「HANGA」第11輯より	1926
稲垣 知雄	風景 「HANGA」第9・10輯より	1926
小泉 突巳男	暖国の冬 「HANGA」第9・10輯より	1926
清水 孝一	郊外風景 「HANGA」第11輯より	1926
諏訪 兼紀	紫陽花 「HANGA」第9・10輯より	1926
深澤 索一	冬日	1925
深澤 索一	冬日 「索一自選小品集第1集」より	1932
深澤 索一	風景	1926
深澤 索一	代々木風景	1925
深澤 索一	港表紙	1927
深澤 索一	港街	1927
深澤 索一	港	1927
深澤 索一	詩人の散歩	1927
深澤 索一	茄子 「HANGA」第11輯より	1926

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

ロビー

末松 正樹	群青	1959
竹田 康宏	Under the leaves 98 AU "Let's stay right here"	1998

展示室3 暮らしの中の絵

作家名	作品名	制作年
1. 暮らしを彩るもの		
三輪 大次郎	苺	不明
梅原 龍三郎	メロンとトマト	1947
佐藤 哲三	柿	1934
川口 軌外	静物	1945
J. アンソール	シノワズリー	1920-25頃
安宅 庸雄	鏡台のある静物	1966
小原 稔	棚	1975
竹谷 富士雄	卓上のモチーフ	1982

2. くつろぎの空間

牧野 虎雄	サンルーム	1929
安井 曾太郎	読書	1942
鈴木 良治	つれづれ	1928
竹谷 富士雄	家族	1952
田中 道久	裸婦	1981
佐藤 哲三郎	裸婦	1930
平澤 熊一	静物	1950年代

【前期】

野田 哲也	日記 1999年9月4日 ソウル	1999
野田 哲也	日記 1995年2月11日	1995
野田 哲也	日記 1996年4月11日 サン・ジョゼ	1996

M. ドニ	アムール（愛）	1892-99 (1911刊行)
-------	---------	---------------------

E. ヴェイヤー	風景と室内	1896-99 (1899刊行)
----------	-------	---------------------

2. チェッカーの勝負	
-------------	--

5. 吊りランプのある室内	
---------------	--

6. バラ色の壁紙のある室内 I	
------------------	--

【後期】

野田 哲也	日記 1996年4月7日 ポストン	1996
野田 哲也	日記 1999年4月18日	1999
野田 哲也	日記 1998年1月18日	1998

F. ヴァロット	怠惰	1896
----------	----	------

E. ヴェイヤー	風景と室内	1896-99 (1899刊行)
----------	-------	---------------------

7. バラ色の壁紙のある室内 II	
-------------------	--

8. バラ色の壁紙のある室内 III	
--------------------	--

9. 炉辺	
-------	--

12. 料理女	
---------	--

13. 義理の姉妹	
-----------	--

第4期 2017年11月30日(木)～2018年2月12日(月・振) (60日間)

展示室1 線と面と
展示室2 ニイガタ×彫刻 新潟ゆかりの彫刻たち
展示室3 近代美術館の名品

線と面と

【趣 旨】

絵画の要素に焦点をあて、所蔵品の中から、線や面に特徴のあるものを展示した。「線」のコーナーでは、日本画を中心に、伝統的な漢画や大和絵の線の特徴が見出せる作品や、額装、厚塗りになったことによる日本画の線の変貌、また、日本美術の影響によって線を使用した西洋絵画、線の配置によって錯視を起こすオプティカル・アートなど、さまざまな方向から作品を選定。その他、面と面が接することによってできる線について考える「線と面」のコーナー、色面によって構成された作品を取り上げた「面」のコーナーも設置した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・グラフィックも含めた平面作品によって、線のさまざまな側面を紹介できたのみならず、思いがけず伝統的な日本画から近代絵画への変化をも示すことができた。

●検討課題

- ・絵画作品の面についての研究が不十分で、効果的な紹介をすることができなかった。

担当 宮下東子

ニイガタ×彫刻 新潟ゆかりの彫刻たち

【趣 旨】

当館所蔵の彫刻作品の中から、新潟出身作家の作品や、新潟の風土をモチーフにした作品など、新潟ゆかりの彫刻作品を紹介。

【総 括】

●評価すべき点

- ・各作家の影響関係や師弟関係に言及し、時代を辿りながら、新潟の彫刻界の大まかな潮流が見てとれるような展示を心がけた。
- ・作品キャプションでは作品を端的に表す一言を添え、キャプションを全て読まなくても、内容が伝わるようにした。

●検討課題

- ・設置方法を工夫したが、展示全体の雰囲気は単調になってしまった。

担当 伊澤朋美

近代美術館の名品

【趣 旨】

オーギュスト・ロダンの没後100年の機会に、当館所蔵および寄託のロダン作品をまとめて紹介。あわせて、所蔵品の中から、ロダンの影響を強く受けた大正時代の雑誌『白樺』に関連する国内外の作家の作品を特集展示した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・寄託のロダン作品について、作品の鑄造や来歴等の情報を今回の展示に合わせて調査し、明確にできたことで、初めて当館での展示が実現した。
- ・当館の目玉作品のひとつであるロダンの《カリアティードとアトラント三部作》はエントランスに恒久設置されているが、普段は見過ごされてしまうことが多い。今回の特集展示でその存在をアピールできた。

●検討課題

- ・特集のテーマを決めたのが遅かったため、PRが十分に行えなかった。
- ・『白樺』というテーマを一般の鑑賞者にわかりやすく伝えるために、説明キャプションや展示にさらなる工夫が必要であった。

担当 濱田真由美

【出品リスト】

展示室1 線と面と

作家名	作品名	制作年
線		
市橋 敏雄	蠟型青銅パネル 風林花山	1997
山本 丘人	湖上嶺	1951
P=E. ランソン	収穫する7人の女性	1895
藤田 熊雄	狩人（またぎ）	1960
安井 曾太郎	読書	1942
三輪 晃勢	飛騨湯屋の水車	1966
B. ライリー	Twisted Curve, Reversed Diagonals	1977
李 禹煥	線より	1976

【前期】

竹内 栖風	睡郷	1930
椿 椿山	梅竹凍雀図	不明
吉川 靈華	逍遙	1904
前田 青邨	被物	不明
牧野 虎雄	柿	1974

【後期】

小林 古徑	飛鶴	1930
竹内 蘆風	秋山晚趣之図	1905
橋本 雅邦	秋景山水図	1892
安田 靱彦	佐久良比東	1939
岩田 正巳	相模太郎	昭和10年代

線と面

村井 正誠	ものうり	1958
高橋 秀	ピンクの中の思考	1971
山口 長男	赤	1983
山口 長男	段	1978
H. バイヤー	Veil mountain	1953

【前期】

亀倉 雄策	Symposium 1	1994
-------	-------------	------

【後期】

亀倉 雄策	Symposium 3	1994
-------	-------------	------

面

三輪 晃勢	満	1964
田中 稔之	円の光景'82-14	1982
阿部 展也	R-29	1967
B. ニコルソン	1946 (paintings)	1946
清水 伸	いつの世までも	2000
E. バルラッハ	ロシアの恋人たち	1908

展示室2 ニイガタ×彫刻 新潟ゆかりの彫刻たち

作家名	作品名	制作年
島田 美晴	牙彫置物蓮	1942以前
北村 四海	空想に耽り居る女	1916
北村 正信	初夏	1969
武石 弘三郎	裸婦浮彫	1939
山脇 敏男	和韻	1932
羽下 修三	鮭遊上	1955
明田川 孝	越後の乳くばり	1938
渡辺 徹	黒潮の詩	1964
戸張 幸男	片隅の男	1955
千野 茂	フォーム	1976
金子 直裕	裸婦（木陰）	1976
瀧川 昆堂	親鸞	1970
細野 稔人	鳥と少女	1976
岩野 勇三	にけ	1986
木津 一夫	未来への遺産Ⅱ	1987
渡邊 利雄	門	1965
渡邊 利雄	隅	1968
渡邊 利雄	鏡の前で毛繕いする猫	1985
野上 公平	燦燦No.9	1996
戸張 公晴	TORSO	1990

展示室3 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
藤田 嗣治	私の夢	1947
佐伯 祐三	広告塔	1927
R. デュフィ	オーケストラ	1949 *
J=E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
A. ロダン	疲れ	1887頃
A. ロダン	花子のマスク（タイプD） 通称・死の顔	1907頃 *
A. ロダン	『悪の華』のための挿絵（複製）	1887-88 (1983刊行)
A. ロダン	考える人	1880
F. ファン=ゴッホ	長い棒を持つ農婦	1885 *
P. セザンヌ	水浴	1875-77 *
中川 一政	李朝三島手偏壺図	1949
岸田 劉生	冬枯れの道路（原宿附近写生）	1916
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
藤島 武二	海	1934
C. コロー	ビブリア	1874-75頃
G. クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
C. ピサロ	ルヴシエヌの画家の家、雪	1871 *
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892

*は寄託作品

【前期】

F. ゴヤ	「カプリチオス」より 7. こうしても彼女が分らない	1799刊行
F. ゴヤ	「戦争の惨禍」より 26. 見るにたえない	1810年代
A. デューラー	メレンコリア I	1514

【後期】

F. ゴヤ	「カプリチオス」より 63. 何と勿体ぶった奴らだ	1799刊行
F. ゴヤ	「戦争の惨禍」より 76. 人喰い禿鷹	1810年代
A. デューラー	「黙示録」より 第10図 聖ミカエル、竜を倒す	1498 (1511版)

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

ロビー

竹田 康宏	Under the leaves 98 AU "Let's stay right here"	1998
-------	---	------

第5期 2018年2月16日(金)～3月31日(土) (39日間)

展示室1 母たちの肖像
展示室2 近代美術館の名品
展示室3 手は語る

母たちの肖像

【趣 旨】

母子を描いた作品は古今東西多くある。とくに西洋美術では、聖母子像として描かれてきた重要なモチーフである。そこには、母親のわが子にむける深い愛情という普遍的なテーマが表されている。一方で、自らの家族をモデルにした作品も多く、母子を包む愛情がみられるのはもちろん、そこからは作家がモデルに向けるあたたかな眼差しまでもが感じられる。

母子を描いた作品を「聖なる母」「画家の母」の二つの章にわけて紹介し、作家が母子というモチーフに込めた思いを探る展示を目指した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・「母子」というシンプルなテーマながら、多分野の作品を紹介することで多彩な展示ができた。
- ・美術鑑賞講座のテーマとすることで、母子像の歴史について、鑑賞者の理解がより深まるよう工夫した。

●検討課題

- ・「母子」という身近で親しみやすいテーマではあったが、その中には宗教主題の作品もあった。これらについて、美術史的な関心や理解を促すためにキャプションや解説パネルに工夫が必要であった。

担当 松本奈穂子

手は語る

【趣 旨】

手は人と人、人と神、あるいは生きとし生けるものとの間に交わされるコミュニケーションの重要な手段である。喜怒哀楽の感情を豊かに表すものでもある。手を見れば、その人物が歩んできた人生やその人物の性格が浮かび上がってくる。

注意深く作品に描かれた手を観察し、手の表情を読みとることを通して、作品にこめられた豊かなメッセージを感じてもらうことを試みた。コレクション展示室外のロビーでは、「あなたの手のメッセージを描いてください」という体験コーナーが設えられた。A5サイズの紙に鉛筆および色鉛筆で、来場者が自由に手を描いて題名をつけ、ホワイトボードに掲示する形式で行った。

【総 括】

●評価すべき点

- ・ベヒシュタインの木版画連作《主の祈り》を全点展示したことで見応えのある展示空間を演出できた。
- ・特定の視点を提案することで、見慣れていた作品の見方のヒントが提供できた。来場者アンケート等にも「“手は語る”を実感した」「面白かった」というコメントがあった。

●検討課題

- ・来場者の反応を観察していると、「手が描かれている」という単純な確認行為に終わっている例も見受けられた。作品の本質に踏み込んだ解説を付してもよかったかも知れない。

担当 平石昌子

【出品リスト】

展示室1 母たちの肖像			
作家名	作品名	制作年	
1.聖なる母			
桐谷 洗鱗	子安観音（聖母像）	不明	*
A. デューラー	黙示録 扉絵 聖母子を仰ぎ見るヨハネ	1498 (1511の版)	
木津 一夫	未来への遺産Ⅱ	1987	
不詳	アイコン：カザンの聖母	19世紀	
不詳	アイコン：聖ソフィア	18世紀	
不詳	アイコン：キリストの復活と十二大祭	19世紀	
宮 芳平	聖地巡礼シリーズ	1966-70	
	1 マリアの驚き		
	2 降誕		
	3 逃避		
2.画家の母			
武石 弘三郎	母	1917	
K. コルヴィッツ	母と二人の子	1932-36	
牛腸 茂雄	SELF AND OTHERS	1977	
柏森 義	黄色いドレス	1973	
柏森 義	雪女	1967	
N. ドロネー (原画:J.H. フラゴナール)	良き母親	1799以前	*
F. ギャ	戦争の惨禍	1810年代 (1863初版)	
	5. やはり野獣だ		
	44. 私は見た		
	45. そしてこれも見た		
	50. かわいそうなお母さん！		
	52. 遅かった		
F. ギャ	カプリーチョス	1799刊行	
	3. ほら、お化けが来るよ		
	25. 水瓶を壊したばかりに		
	65. ママ、どこへ行くの		
穂刈 春雄	大河渡る	2002	
荒井 一郎	母と子	1950	
岩田 正巳	母と子	不明	
横山 操	母子	1958	
岩川 義雄	山羊	1951	
三輪 晃勢	草の上	1947	
長谷部 権次呂	遊	1991	
明田川 孝	母と子	1954	
*は寄託作品			

展示室2 近代美術館の名品		
作家名	作品名	制作年
A. フォンタネージ	ブジェイ高原	1858-60
J+E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
G. クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
C. コロー	ビブリー	1874-75
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
A. ロダン	考える人	1880
小山 正太郎	仙台の桜	1881
岸田 劉生	冬枯れの道路（原宿附近写生）	1916
佐伯 祐三	広告塔	1927
里見 勝蔵	赤と緑の静物	1928
安井 曾太郎	読書	1942
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
藤田 嗣治	私の夢	1947
佐藤 哲三	残雪	1952
脇田 和	あらそい	1955
児島 善三郎	森と聚落	1958
宮 芳平	きざし	1959-64
糸園 和三郎	鳩	1958
山口 薫	林と動物	1958
斎藤 義重	作品1	1957
阿部 展也	SCRITTURA IN BIANCO	1963
前田 常作	人間誕生6	1963
桂 ゆき	異邦人	1961
富岡 惣一郎	作品	1963
佐々木 象堂	蠟型鍍銅獣装耳小花入	1959
岩田 正巳	いかづち	1955
加山 又造	月と駱駝	1957
麻田 鷹司	緒那智	1960
横山 操	高速四号線	1964
下村 良之介	旅	1961
三上 誠	作品	1967-68
工藤 甲人	夜	1963
東山 魁夷	森の静寂	1964
小島 丹次	待つ	1965
宮田 宏平(三代藍堂)	蠟型鍍金・終わりのない物語「恋秤」	1983

回廊		
竹田 康宏	Under the leaves	1994

ロビー		
新保 兵次郎	帰巢	1969
竹田 康宏	Under the leaves 98 AU "Let's stay right here"	1998

展示室3 手は語る		
作家名	作品名	制作年
M. ベヒシュタイン	われらの父よ（主の祈り）	1921刊行
	カヴァー用木版画	
	扉絵	
	天にましますわれらの父よ	
	御名が崇められますように	
	御国が来ますように 御心が天におけるように地の上にも行われますように	
	われらに日々の糧を今日も与えてください	
	われらの食い目を赦してください	
	われらが自分たちに負い目あるものを赦しましたように	
	われらを誘惑に遭わせないでください	
	さもなくば、悪いものから救ってください	
	御国はあなたのものだからです	
	そしてその力と栄光は	
	永遠に アーメン	
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
高村 真夫	女	1920年代後半
田中 道久	舞妓	1934
牧野 虎雄	T婦人像	1928
安宅 安五郎	姉弟	1931
酒井 三良	籠居雪聲	1931
安宅 鼎雄	子守と幼児	1935
矢部 友衛	わらを打つ	1951
M. クリンガー	オヴィディウス『変身譚』の犠牲者たちの救済	1879 (1898第5刷)
	呼びかけ（絵画の捧げ物）	
	ビュラムスとティスベ (I)	
	ビュラムスとティスベ (II)	
	ライオン（ビュラムスとティスベIII）	
遭遇（ビュラムスとティスベIII）		
とどのつまり（ビュラムスとティスベIV）		

企 画 展



漢字三千年 —漢字の歴史と美—

【趣 旨】

「漢字」は、中国文明の中で生まれた古代文字でありながら、誕生以来三千年の長きにわたって人々に愛され使われ続けている。その時代に最もふさわしい形で表現され、読みやすさや書きやすさ、そして美しさを模索され発展してきた、世界で唯一の文字である。

本展では最古の漢字といわれる甲骨文字をはじめ、文字の統一を果たした秦時代の漢字、世界初公開となる文字の刻まれた兵馬俑など、漢字が記された文物を展覧するとともに、漢字を芸術の域にまで高めた王羲之や顔真卿の拓本など歴代の名書作品、歴史上の人物の書作品など、中国の博物館・研究機関17箇所から、国家一级文物21点を含む約110点により、漢字の歴史と美の変遷を探るとともに、漢字にまつわるエピソードなどもあわせて紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・漢字の成り立ちパネルの掲示や、体験コーナーを作ること、単に文物の展示だけを観覧する展覧会ではなく、身近に漢字の歴史に接することができた。
- ・新潟展独自の兵馬俑の背景装飾や、銀印の印面が見える展示をし、より関心をもって展示物を注視するように展示方法を工夫した。

●検討課題

- ・普段何気なしに使用している漢字なので、どこまで一般の興味を引くことができるのか、越える壁が高かった。その上、中国の文物のみの展示であったため、日本との関連を紹介することができず、今日の生活にいかにか近づけることができるか工夫の余地が残った。

【開催日・その他】

=2017年4月29日(土)～6月11日(日) (51日間) =

休館日：5月1日(月)、5月8日(月)、5月15日(月)、5月22日(月)、5月29日(月)、6月5日(月)

主 催：漢字三千年新潟展実行委員会、新潟県立近代美術館、新潟日報社、BSN新潟放送、中国人民对外友好協会、中国文物交流中心、日本中国文化交流協会

後 援：外務省、文化庁、中国国家文物局、中国大使館、中国国際芸術交流院、中国文化センター、日中協会、人民日報海外版日本月刊、中国駐新潟総領事館、長岡市、長岡市教育委員会、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞新潟支局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7、新潟県日中友好協会、新潟県書道協会、亀田郷土地改良区

協 賛：交通銀行東京支店、平和商事株式会社

協 力：漢検 漢字博物館・図書館、山九、華協国際、中国国際航空、藤井寺市教育委員会

企 画：黄山美術社

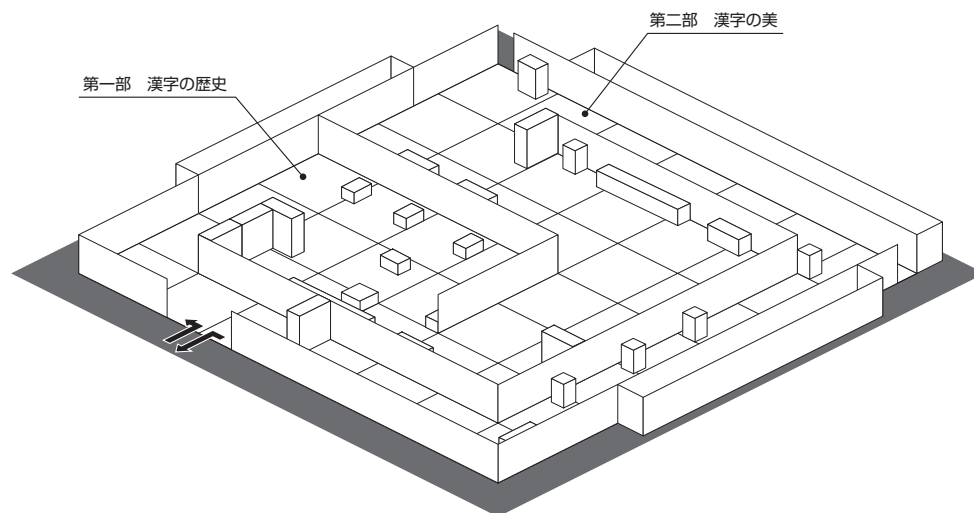
観覧料：一般……………1,200円 (1,000円) <1,000円>

大学・高校生……………1,000円 (800円)

※ 中学生以下無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金

※ < > 内は前売券料金



【関連行事】

・講演会

「漢字にみる日本人の知恵」

日時：5月6日(土)14:00～15:30

講師：阿辻哲次氏（京都大学大学院教授）

参加者数：160名

・講座

「初心者向け楽学中国語」

（主催：新潟日報社）

日時：4月30日(日)10:30～／13:30～

講師：孫犁冰氏（新潟青陵短期大学准教授）

参加者数：4名／5名

「行書を書いてみよう」

（主催：新潟日報社）

日時：5月3日(水)10:30～／13:30

講師：伊藤省風氏（新潟県書道協会事務局長）

参加者数：10名／15名

「漢詩の響きを楽しもう」

（主催：新潟日報社）

日時：5月7日(日)10:30～／13:30～

講師：孫犁冰氏（新潟青陵短期大学准教授）

参加者数：18名／6名

「古代文字を書いてみよう」

（主催：新潟日報社）

日時：5月11日(木)10:30～／13:30～

講師：丘山三槐氏（新潟県書道協会理事長）

参加者数：14名／14名

「ひらがなの原点を探ろう」

（主催：新潟日報社）

日時：5月19日(金)10:30～／13:30～

講師：田中藍堂氏（新潟県書道協会理事）

参加者数：41名／25名

【図録】

仕様：A4判変形 168頁

編集：黄山美術社

発行：黄山美術社

内容：漢字の過去と未来 阿辻哲次

プロローグ

第一部 漢字の歴史

第二部 漢字の美

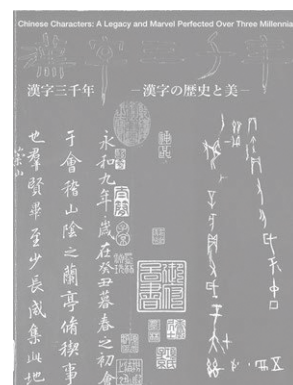
鬼神が泣いて、文字が現れた 唐际根

秦の文字の統一の実態 鶴間和幸

書という芸術—その特質と変遷— 中村伸夫

関連年表

出品目録





【関連記事】

●新聞

4月22日(土) 新潟日報

「漢字三千年に寄せて」／松矢国憲（当館専門学芸員）

5月2日(火) 新潟日報

「漢字三千年に寄せて①」／阿辻哲次（京都大学名誉教授）

5月3日(水祝) 新潟日報

「漢字三千年に寄せて②」／阿辻哲次（京都大学名誉教授）

5月19日(金) 新潟日報

「漢字三千年に寄せて」／関尾史郎（新潟大学人文社会・教育科学系フェロー）

「拓本作り奥深く」

5月20日(土) 新潟日報

「ひらがな元の字は？」

5月27日(土) 新潟日報

「漢字三千年展に1万人」

その他 栃尾タイムス（3/5）

長岡新聞（3/18、4/15）

新潟日報（3/26、4/27、4/28、4/30、5/7、5/11、5/13、6/1、6/6）

十日町新聞（4/13）

妻有新聞（4/15）

こども新聞日報ふむふむ（5/9）

聖教新聞（5/26）

〈連載〉

・新潟日報「漢字クイズ」（4/22～6/11）

・新潟日報「漢字三千年の輝き」（5/12～5/18、5/21～5/26、5/28～6/1）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	8,804
	前売	6,901
無料観覧者数	招待	2,247
	無料	849
	免除	960
総観覧者数		19,761
有料率（％）		79.5

音声ガイド貸出あり

担当 松矢国憲

【出品リスト】

◎一級文物

名称	よみ	時代	収蔵
1 刻符紅陶片	こくふこうとうへん	新石器	西安半坡博物館 ◎
2 刻符紅陶鉢	こくふこうとうはち	新石器	西安半坡博物館 ◎
3 “歳于中丁” 牛胛骨卜辞	“さいうちゅうてい” ぎゅうこうこつぼくじ	商	安陽博物館 ◎
4 “壬申有鹿” 亀腹卜辞	“じんしんゆうろく” きふくぼくじ	商	安陽博物館
5 “婦好” 銅圈足觥	“ふこう” どうけんそくこう	商	河南博物院
6 “光父辛” 銅爵	“こうふしん” どうしゃく	商	安陽博物館 ◎
7 “豊” 銅尊	“ほう” どうそん	西周	宝鶏市周原博物館 ◎
8 “豊” 銅卣	“ほう” どうゆう	西周	宝鶏市周原博物館 ◎
9 “与仲鬯父” 銅觚	“よちゅううほ” どうげん	西周	宝鶏市周原博物館 ◎
10 “效” 銅爵	“こう” どうしゃく	西周	宝鶏市周原博物館
11 “師同” 銅鼎	“しどう” どうてい	西周	宝鶏市周原博物館 ◎
12 “亜牧” 銅鬲	“あぼく” どうれき	商	宝鶏市周原博物館
13 “亜牧” 銅觚	“あぼく” どうこ	商	宝鶏市周原博物館
14 “丁卯” 带蓋銅觶	“ひのとう” たいがいどうし	西周	安陽博物館
15 “封虎” 銅鼎	“ふうこ” どうてい	西周	平頂山博物館
16 “伯” 銅鼎	“はく” どうてい	西周	平頂山博物館
17 “応姚” 銅簋（帶蓋）	“おうよう” どうき（たいがい）	西周	平頂山博物館
18 “応姚” 銅盤	“おうよう” どうばん	西周	平頂山博物館
19 “応侯” 銅缶	“おうこう” どうい	西周	平頂山博物館
20 “応侯” 銅盥	“おうこう” どうしゅ	西周	平頂山博物館
21 “蓮子受” 銅升鼎	“えんしじゅ” どうしょうてい	春秋	河南省文物考古研究院
22 “王子午” 銅鼎	“おうじご” どうてい	春秋	河南省文物考古研究院 ◎
23 “宅陽” 銅平肩布	“たくよう” どうひらかたふ	戦国	河南博物院
24 “周” 銅空首布	“しゅう” どうくうしゅふ	戦国	河南博物院
25 “安陽” 銅平肩布	“あんよう” どうひらかたふ	戦国	河南博物院
26 “陳爰” 金幣	“ちんえん” きんぺい	戦国	河南博物院
27 蟻鼻銅銭	ぎびどうせん	戦国	河南博物院
28 竹簡	ちっかん	戦国	河南省文物考古研究院
29 温県盟書	おんけんめいしよ	戦国	河南省文物考古研究院
30 “鄂君啓” 金節（車節）	“がくくんけい” きんせつ（しゃせつ）	戦国	安徽博物院 ◎
31 “節墨之法化” 銅刀幣	“せつぼくのほうか” どうとうへい	戦国	故宮博物院
32 鎧甲武士陶俑	がいこうぶしとうよう	秦	秦始皇帝陵博物院 ◎
33 銘文銅鈸	めいぶんどうひ	秦	秦始皇帝陵博物院 ◎
34 車工鼓（複製品）	しゃこうこ	戦国（現代複製）	宝鶏青銅器博物院
35 清拓石鼓文冊	しんたくせつこぶんさつ	戦国（清代の採拓）	故宮博物院
36 “半兩” 銅銭	“はんりょう” どうせん	秦	河南博物院
37 “半兩” 銅銭	“はんりょう” どうせん	秦	河南博物院
38 “半兩” 銅銭	“はんりょう” どうせん	秦	故宮博物院
39 秦嶧山刻石拓片	しんえきざんこくせきたくへん	秦（現代の採拓）	西安碑林博物館
40 里耶秦簡・校券（三一年発放粮食帳單）	りやしんかん-こうけん （さんじゅういちねんはつほうりょうしょくちょうたん）	秦	湖南省文物考古研究所 ◎
41 里耶秦簡・木牘（三十年貳春鄉捕鳥及獲得羽毛公文）	りやしんかん-もくとく（さんじゅうねんししゅんきよ うほちょうおびかくとくこうもうこうぶん）	秦	湖南省文物 ◎
42 漢曹全碑拓片	かんそうぜんひたくへん	漢（現代の採拓）	西安碑林博物館
43 金馬書刀	きんばしょとう	漢	遼寧省博物館
44 “唐扶犁簡” 木牌	“とうふしし” もくはい	前漢	湖南省博物館
45 “熬爵簡” 木牌	“ごうしゃくし” もくはい	前漢	湖南省博物館
46 《五十二病方》（部分）	《ごじゅうにびょうほう》	前漢	湖南省博物館 ◎
47 《春秋事語》（部分）	《しゅんじゅうじご》	前漢	湖南省博物館 ◎
48 “一升” “君幸酒” 雲紋漆耳盃	“いっしょう” “くんこうしゅ” うんもんうるしじはい	前漢	湖南省博物館
49 虎溪山竹簡・食方	こけいざんちっかん-しょくほう	前漢	湖南省文物考古研究所
50 郴州蘇仙橋木牘（桂陽郡衙署檔案）	ちんしゅうそせんきょうもくとく（けいようぐんがしやうあん）	西晋	湖南省文物考古研究所 ◎
51 “漢并天下” 陶瓦当	“かんへいてんか” とうがとう	前漢	故宮博物院
52 “維天降靈” 陶瓦当	“いてんこうれい” とうがとう	前漢	故宮博物院
53 “昭明” 銅鏡	“しょうめい” どうきょう	前漢	安徽博物院
54 “駙馬都尉” 銀印	“ふばとい” ぎんいん	漢	洛陽博物館 ◎
55 “五銖” 銅銭	“ごしゅ” どうせん	前漢	河南博物院
56 “五銖” 銅銭	“ごしゅ” どうせん	後漢	河南博物院
57 “小泉直一” 銅銭	“しょうせんちよくいち” どうせん	王莽「新」	河南博物院

名称	よみ	時代	収蔵
58 “大泉五十” 銅銭	“だいせんごじゅう” どうせん	王莽「新」	河南博物院
59 “契刀五百” 銅銭	“けいとごひゃく” どうせん	王莽「新」	河南博物院
60 “大布黄千” 銅銭	“だいふこうせん” どうせん	王莽「新」	河南博物院
61 “貨布” 銅銭	“かふ” どうせん	王莽「新」	河南博物院
62 “貨布” 銅銭	“かふ” どうせん	王莽「新」	河南博物院
63 “貨泉” 銅銭	“かせん” どうせん	王莽「新」	河南博物院
64 “貨泉” 銅銭	“かせん” どうせん	王莽「新」	河南博物院
65 熹平石經殘塊	きへいせきけいざんかい	後漢	洛陽博物館
66 魏三体石經拓片	ぎさんたいせきけいたくへん	三国魏（現代の採拓）	洛陽博物館
67 武則天除罪金簡（複製品）	ぶそくてんじょざいきんかん	唐（現代の複製）	河南博物院
68 唐昇仙太子碑拓片	とうしょうせんたいしひたくへん	唐（現代の採拓）	洛陽偃師商城博物館
69 井真成墓誌（複製品）	せいしんせいぼし	唐（現代の複製）	西北大学博物館
70 井真成墓誌拓片	せいしんせいぼしたくへん	唐（現代の採拓）	西北大学博物館
71 唐懷仁和尚集王聖教序拓片	とうえにんおしょうしゅうおうしょうきょうのじょたくへん	唐（現代の採拓）	西安碑林博物館
72 唐顏氏家廟碑拓片	とうがんしかびょうひたくへん	唐（現代の採拓）	西安碑林博物館
73 唐大秦景教流行中国碑拓片	とうだいしんけいきょうりゅうこうちゅうこくひたくへん	唐（現代の採拓）	西安碑林博物館
74 会昌“開元通宝” 銅銭	かいしょう “かいげんつうほう” どうせん	唐	河南博物院
75 “大観通宝” 銅銭	“だいかんつうほう” どうせん	北宋	河南博物院
76 “慶歴重宝” 銅銭	“けいれきちゅうほう” どうせん	北宋	河南博物院
77 遼道宗皇帝哀冊拓片（契丹文）	りょうどうそうこうていあいさつたくへん（きったんぶん）	遼（現代の採拓）	遼寧省博物館
78 唐懷素千字文拓片	とうかいそせんじもんたくへん	唐（現代の採拓）	西安碑林博物館
79 陸士仁《四体千字文卷》	りくしじん《よんたいせんじもんかん》	明	故宮博物院
80 鵝距筆（複製品）	けいきよひつ	現代の複製	安徽博物院
81 蟬形歙硯	せみがたきゅうけん	明	安徽博物院
82 青玉山形筆架	せいぎよくやまがたひつか	明	安徽博物院
83 龍泉青磁菱紋三足筆洗	りゅうせんせいじひしもんさんそくひっせん	明	安徽博物院
84 「翁方綱」銘圭形端硯	「おうほうこう」めいけいかたたんけいけん	清	安徽博物院
85 洒藍釉海水龍紋磁筆筒	さいらんゆうかいすいりゅうもんじびつとう	清	安徽博物院
86 宣筆	せんひつ	現代	安徽博物院
87 定窯乾隆御制詩碗	ていようけんりゅうぎょせいしわん	金	故宮博物院
89 唐寅《行書和沈周落花詩卷》	とういん《ぎょうしよわしんしゅうらつかしかん》	明	遼寧省博物館
90 文徵明《行草書西苑詩卷》	ぶんちようめい《ぎょうそうしよせいえんしかん》	明	安徽博物院
91 董其昌《行書東方朔客難并自書詩卷》	とうきしょう 《ぎょうしよとうほうさくとうきゃくなんへいじしよしかん》	明	遼寧省博物館
92 「天宮珍玩」龍鈕青玉印	「てんきゅうちんがん」りゅうちゅうせいぎょくいん	明	故宮博物院
93 「御制文源閣詩」墨	「ぎょせいぶんげんかくし」すみ	清	安徽博物院
94 王鐸《行書立軸》	おうたく《ぎょうしよりつじく》	清	安陽博物館
95 傅山《草書軸》	ふざん《そうしよじく》	清	遼寧省博物館
96 姚鼐《行書十九言龍門對》	ようだい《ぎょうしよじゅうくげんりゅうもんつい》	清	安徽博物院
97 鄧石如《隸書“世虛全消”》	とうせきじょ《れいしよ“せりょぜんしよう”》	清	安徽博物院 ◎
98 玄燁（康熙）臨天馬賦卷	げんよう《こうき》《りんてんまふかん》	清	遼寧省博物館
99 胤禛（雍正）《御制序冊》	いんしん《ようせい》《ぎょせいじよさつ》	清	遼寧省博物館
100 弘歷（乾隆）《楷書泥金書卷》	こうれき《けんりゅう》《かいしよでいきんしよかん》	清	遼寧省博物館
101 林則徐《行書手札冊》	りんそくじょ《ぎょうしよしゅさつさつ》	清	遼寧省博物館
102 慈禧太后（西太后）《硃筆書福祿壽字軸》	じきたいごう（せいたいごう） 《しゅひつしよふくろくじゅじじく》	清	故宮博物院
103 李鴻章《行書書札冊》	りこうしょう《ぎょうしよしよさつさつ》	清	遼寧省博物館 ◎
104 妙法蓮華經卷一下冊（方便品第二）	みょうほうれんげきょうかんいちげさく （ほうべんぼんだいに）	清	故宮博物院
105 清拓蘭亭八柱帖第二冊	しんたくらんていはちちゅうじょうだいにさつ	清代の採拓	故宮博物院
106 成化款青花磁百寿瓶	せいかかんせいにかじひゃくじゅびん	清	故宮博物院
107 光緒款御制詩磁蓋碗	こうしよかんぎょせいしじがいわん	清	故宮博物院
108 御制花卉詩管紫電筆	ぎょせいかかしかんしごうひつ	清	故宮博物院
109 紫漆描金四藏書屋文具匣	ししつびようきんしろうしよおくぶんぐこう	清	故宮博物院
110 胡開文小篆秦權墨	こかいぶんしょうてんしんけんぼく	清	安徽博物院 ◎
111 郭沫若《書七律詩軸》	かくまつじやく《ししちりっしじく》	現代	故宮博物院

※88は、新潟展未展示。



生誕90年 加山又造展 生命の煌めき

【趣 旨】

京都西陣の和装図案を生業とする家に生まれた加山又造（1927-2004）は、終戦直後の混乱と伝統絵画の危機に直面しながら、西欧の様々な絵画を貪欲に吸収しつつ独自の表現へと発展させ、戦後日本画の革新を担う旗手として活躍した。日本画の伝統的な意匠や様式を鋭いセンスで現代に甦らせ、華麗な装飾美による屏風絵ばかりでなく斬新な裸婦にも挑戦、後には水墨画にも取り組んだ。その活動は絵画にとどまらず陶器や着物の絵付けなどにも及び、1997年には文化功労者に顕彰され、2003年には文化勲章を受章。

2017年は加山の生誕90年にあたるため、これを記念して、その画業を初期から晩年に至る作品によって四つの章立てで辿り、生命感あふれる美しく華麗な日本画の世界を紹介した。特に当館では、会場の広さを生かし、当館所蔵及び県内で所蔵する作品を加え、いっそう充実した展示を目指した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・加山又造の多様な画業、華麗な屏風作品のみならず、陶磁器や着物など工芸も含む作品群により、画家の全貌を紹介し、来館者に感動を与えることができた。
- ・巡回展ではあったが、当館の会場の広さに合わせて、当館所蔵品および県外からの作品を借用し、独自性を出すことができた。
- ・館独自の音声ガイドや鑑賞資料を制作し、またワークショップや講演会なども行い、多方面から来館者の展覧会理解に資することができた。

●検討課題

- ・多方面からのアプローチを試みたにもかかわらず、多くの人を呼び込むための展開が弱かった。
- ・作家の知名度が、想定していたよりも低かった。通常の広報に加え、良さをアピールするためのプラスアルファの手立てが必要であった。
- ・本展の会期は学校の夏休み期間を含んでいたことから、本展が学校で夏休みの課題となることを見越し、子ども向けの鑑賞資料を作成するなど、若年層へのアピールも必要であった。

【開催日・その他】

=2017年7月8日(土)～8月27日(日)（44日間）=

休館日：7月10日(月)、7月18日(火)、7月24日(月)、7月31日(月)、
8月7日(月)、8月14日(月)、8月21日(月)

主 催：加山又造展新潟実行委員会、新潟県立近代美術館、NST

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

協 力：有限会社 加山、一般財団法人 駒形十吉記念美術館、新潟県立美術館友の会

企画協力：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

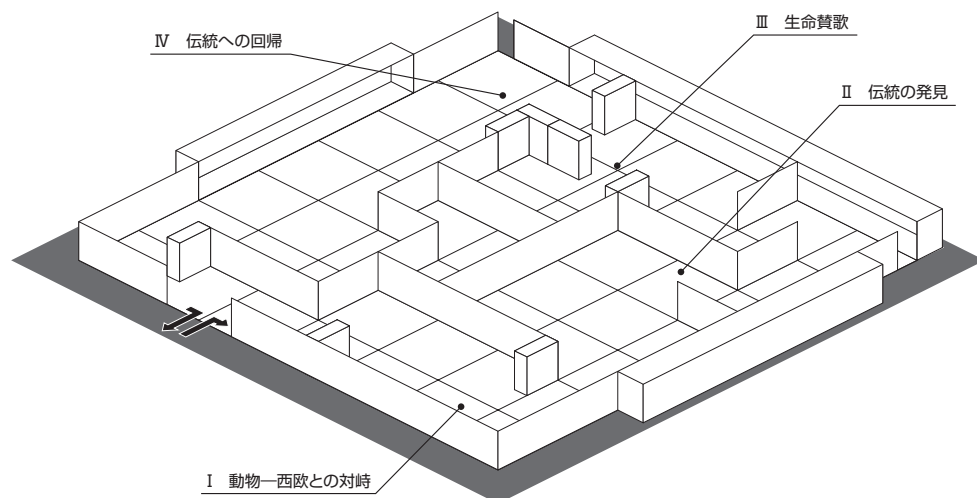
観覧料：一般……………1,200円（1,000円）〈1,000円〉

大学・高校生…………1,000円（800円）

※中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金



【関連行事】

- ・講演会
特別講演会「戦後のチャンピオン 加山又造」
日時：7月23日(日)14：00～15：30
講師：草薙奈津子氏（平塚市美術館 館長）
参加者数：48名
- ・美術鑑賞講座
「加山又造—伝統と革新」
日時：8月5日(土)14：00～15：30
講師：宮下東子（当館学芸課長代理）
参加者数：45名
- ・ワークショップ
「消しゴムはんこで作る又造の世界」
（新潟県立美術館友の会共催事業）
日時：7月30日(日)14：00～16：00
講師：村山裕之（当館副参事）、宮下東子（当館学芸課長代理）
参加者数：14名
- ・作品解説会
学芸員によるギャラリートーク
日時：7月8日(土)／8月13日(日)／8月27日(日)
各14：00～15：00
講師：宮下東子（当館学芸課長代理）
参加者数：20名／25名／80名
- ・お茶会
こらぼ de 茶会
日時：7月16日(日)10：00～15：30
呈茶：長岡大学茶道部
参加者数：168名

【図録】

仕様：200×224mm 本文108頁
編集・発行：アート・ベンチャー・オフィス ショウ
内容：・ごあいさつ／主催者、加山哲也（陶芸家）
・謝辞
・加山又造—過去と現在の対話／野口玲一（三菱一号館美術館学芸グループ長）

- ・図版 I 動物～西欧との対峙、II 伝統の発見、III 生命賛歌、IV 伝統への回帰、V 工芸
- ・加山又造の仕事／岸本員臣（瀬戸内市立美術館長）
- ・略年譜
- ・出品リスト

【関連記事】

- 新聞
7月25日(火) 長岡新聞
「研究の周辺 月と駱駝」／小川幸代（長岡大学教授）
8月3日(木) 新潟日報
「展覧会へようこそ 自由、華麗な様式的表現」
／宮下東子（当館学芸課長代理）

その他 新潟日報 朝刊（7/8）
長岡新聞（6/8、7/13、7/22）
みつけ新聞（6/1）
十日町タイムス（6/18）
上毛新聞（6/26）
十日町新聞（6/29）
栃尾タイムス（7/15）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	7,672
	前売	2,268
無料観覧者数	招待	1,527
	無料	1,578
	免除	1,166
総観覧者数		14,211
有料率（％）		69.9

音声ガイド貸出あり

担当 宮下東子

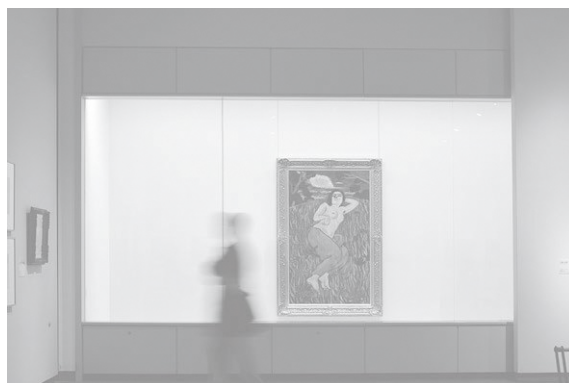
【出品作品リスト】

No.	作品名	制作年	技法・材料	所蔵先	展示期間
I. 動物—西欧との対峙					
1	若い白い馬	昭和25年頃	紙本彩色		
2	月と縞馬	昭和29年	紙本彩色		
3	迷える鹿	昭和29年	紙本彩色		
4	ひるね	昭和30年	紙本彩色		
15	鶉	昭和40年頃	紙本彩色		8/6まで展示
6	蟹とレモン	昭和30年頃	紙本彩色		
7	鳥とナイフ	昭和30年頃	紙本彩色		
9	紅鶴	昭和32年	紙本彩色		
10	ヒョウ	昭和32年	紙本彩色		
54	月と駱駝	昭和32年	紙本彩色	当館	
56	白菜と小鳥	昭和35年頃	紙本彩色	当館	
5	駈ける	昭和30年	紙本彩色		
8	狼	昭和31年	紙本彩色	エール蔵王島川記念館	
11	馬	昭和34年頃	紙本彩色		
57	鳥	昭和36年	麻本彩色	当館	
55	馬	昭和32年	紙本彩色	当館	
13	凍林	昭和35年	紙本彩色	大川美術館	
12	冬林	昭和35年			8/8から展示
14	凍林	昭和35年頃	紙本彩色		8/6まで展示
58	烈風	昭和38年	紙本彩色	当館	
II. 伝統の発見					
20	白梅	昭和61年	紙本彩色	株式会社ヤマタネ	
18	飛翔	昭和45年頃	紙本彩色	エール蔵王島川記念館	
52	染波模様振袖	昭和60年			
50	繻子地牡丹文振袖	昭和53年			
47	鉄赤絵白梅文大鉢 (番浦史郎作陶)	昭和53年	陶器		
48	鉄赤絵金銀彩白牡丹文大鉢 (番浦史郎作陶)	昭和57年	陶器		
17	紅白梅	昭和40年	紙本彩色		8/6まで展示
16-1	夏の瀟・冬の瀟（夏の瀟）	昭和33年	紙本彩色		
16-2	夏の瀟・冬の瀟（冬の瀟）	昭和33年	紙本彩色		
III. 生命賛歌					
31	はなびら	昭和61年	紙本彩色	エール蔵王島川記念館	
32	はなふぶき	昭和61年	紙本彩色	エール蔵王島川記念館	
66	レースの裸婦1	昭和53年	リトグラフ	南魚沼市	
67	レースの裸婦2	昭和53年	リトグラフ	南魚沼市	
70	横たわる裸婦'81-A	昭和56年	リトグラフ	新潟市美術館	
71	横になる裸婦	昭和62年	銅版画	新潟市美術館	
72	ひじをつく裸婦	昭和62年	銅版画	新潟市美術館	
21	猫	昭和35年頃	絹本彩色		
25	洋猫	昭和45年	紙本彩色	郷さくら美術館	
27	猫	昭和47年頃	紙本、ガッシュ		
29	猫	昭和55年頃	紙本彩色		
73	白い華	平成7年	紙本彩色	当館	
22	薊	昭和30年代後半	紙本彩色		8/6まで展示
23	薔薇ノ図	昭和30年代後半	紙本彩色		8/8から展示
24	静物	昭和30年代後半	紙本彩色		8/8から展示
68	翔	昭和55年	紙本墨画	一般財団法人 駒形十吉記念美術館	
69	啼	昭和55年	紙本墨画	一般財団法人 駒形十吉記念美術館	

No.	作品名	制作年	技法・材料	所蔵先	展示期間
26	鯉	昭和45年～50年頃	紙本彩色	光ミュージアム	
30	群鶴図	昭和55年～平成元年	紙本彩色	光ミュージアム	
46	鉄絵金銀彩千羽鶴文大鉢 (番浦史郎作陶)	昭和53年	陶器		
51	黒地金銀泥千羽鶴文留袖	昭和53年			
28	野鳥の会表紙絵				
-1	折鶴	昭和47年	紙本彩色		
-2	アカゲラ	昭和48年	紙本彩色		
-3	オオヨシキリ	昭和49年	紙本彩色		
-4	タマシギ	昭和50年	紙本彩色		
-5	ヤマセミ	昭和51年	紙本彩色		
-6	ダイシャクシギ	昭和54年	紙本彩色		
-7	カワセミ	昭和55年	紙本彩色		
60	莓	昭和50年	銅版画	南魚沼市	
61	サイ	昭和53年	銅版画	南魚沼市	
62	熱帯魚	昭和52年	銅版画	新潟市美術館	
63	朽葉と虫	昭和53年	銅版画	南魚沼市	
64	越後雪景	昭和53年	銅版画	南魚沼市	
65	映	昭和59年	銅版画	南魚沼市	

IV. 伝統への回帰

36	龍図	昭和63年	絹本墨画彩色	光ミュージアム	
49	吹重龍文花瓶 (今泉今衛門作陶)	平成7年	陶器		
74	雪	昭和58年	銅版画	南魚沼市	
75	月	昭和58年	銅版画	南魚沼市	
76	花	昭和58年	銅版画	南魚沼市	
35	夜桜	昭和57年	紙本彩色	光ミュージアム	
38	倣北宋水墨山水雪景	平成元年	絹本墨画彩色	多摩美術大学美術館	
42	淡月	平成8年	紙本彩色	郷さくら美術館	8/6まで展示
43	月と秋草	平成8年	紙本彩色	奈良県立万葉文化館	8/8から展示
39	夜櫻	平成2年	絹本彩色	公益財団法人佐藤国際文化育英財団 佐藤美術館	
45	揺落桜文俎皿 (番浦史郎作陶)	昭和53年	陶器		
53	春秋文祝着	昭和61年頃			
40	長城	平成6年	絹本彩色		
44	白雪の嶺	平成13年	紙本彩色		
34	雪の朝	昭和55年～平成元年	紙本彩色		8/8から展示



没後90年 萬鐵五郎展

【趣 旨】

個性派と呼ばれる芸術家を多数輩出した大正時代において、ひととき特異な才能を輝かせた画家として知られる萬鐵五郎。彼は、当時次々ともたらされるヨーロッパの最先端の芸術を貪欲に吸収しながら、その真似事ではない自らの表現を獲得しようと、新しい表現に挑み続けた。20年ぶりの大規模な回顧展となる本展では、重要文化財《裸体美人》（東京国立近代美術館蔵）を含む作品と資料約400点を展示し、萬鐵五郎という画家が目指した表現の本質に迫った。

【総 括】

●評価すべき点

- ・総出品数400点と膨大な数の作品を、まとまりある展示としてみせることができ、多岐に渡った萬鐵五郎の画業がわかりやすく紹介されていると好評だった。
- ・重要文化財《裸体美人》をはじめ、近代日本美術史上重要な作品を含む萬の油彩画の代表作の中に、当館所蔵作品を位置づけることで、当館所蔵作品の質の高さ、重要性を再認識する機会とすることができた。

●検討課題

- ・県内での知名度が決して高くなかったことに加え、本県との直接的な関連がなかったことで、県内プレスの反応も鈍かったようである。県単独主催の限られた予算の中で効果的な広報展開を再検討すると同時に、今後このような展覧会の際には、将来にわたって美術愛好家を増やしていくような取り組みも必要である。

【開催日・その他】

＝2017年9月16日(土)～11月19日(日) (56日間)＝

休館日：9月19日(火)、9月25日(月)、10月2日(月)、10月10日(火)、
10月16日(月)、10月23日(月)、10月30日(月)、
11月6日(月)、11月13日(月)

主 催：新潟県立近代美術館

共 催：新潟日报社

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、長岡新聞社、NHK 新潟放送局、BSN 新潟放送、N S T、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ21、株式会社エヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

協 力：新潟県立美術館友の会

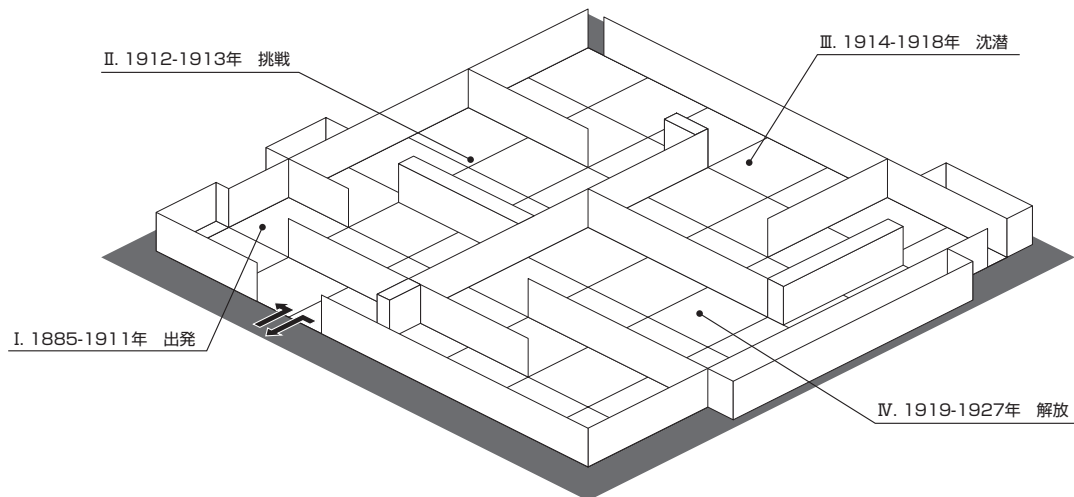
観覧料：一般……………1,200円（1,000円）〈1,000円〉

大学・高校生…………1,000円（800円）

※ 中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

※ 〈 〉内は前売券料金



【関連行事】

・記念講演会

「萬鐵五郎「近代」を越えて生きた画家」

講 師：水沢勉氏（神奈川県立近代美術館長）
日 時：10月9日(月・祝) 14：00～15：30
参加者数：53名

・美術鑑賞講座

「画家・萬鐵五郎への視点—藤田嗣治とくらべてみる」

講 師：澤田佳三（万代島美術館業務課長代理）
日 時：10月28日(土) 14：00～15：30
参加者数：35名

・担当学芸員によるギャラリートーク

日時：9月17日(日)、9月24日(日)、10月1日(日)、15日(日)、
22日(日)、11月5日(日)、12日(日)、19日(日) 14：00～
トーク：藤田裕彦（当館学芸課長、9/17・10/22）
松矢国憲（当館専門学芸員、10/15・11/5）
澤田佳三（万代島美術館業務課長代理、9/24・
11/19）
松本奈穂子（当館美術学芸員、10/1・11/12）
参加者数：25名、20名、12名、14名、3名、11名、
25名、25名（合計135名）

【図 録】

仕 様：B5版変形

編 集：原田光（前岩手県立美術館長）、根本亮子（岩手県立美術館）、加藤俊明（岩手県立美術館）、平澤広（萬鉄五郎記念美術館）、伊藤真紀子（萬鉄五郎記念美術館）、水沢勉（神奈川県立近代美術館長）、長門佐季（神奈川県立近代美術館）、三本松倫代（神奈川県立近代美術館）、高島雄一郎（神奈川県立近代美術館）、藤田裕彦（新潟県立近代美術館）、澤田佳三（新潟県立万代島美術館）、東京新聞事業局文化事業部

翻 訳：小川紀久子

校 正：田宮宣保

制 作：印象社

発 行：東京新聞

内 容：

楕円状の運動体として——「没後90年 萬鐵五郎展」開催にあたって／水沢勉

本図録の編集について／原田光

カタログ

I. 1885-1911 出発

II. 1912-1913 挑戦

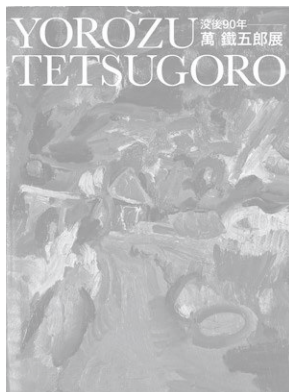
III. 1914-1918 沈潜

IV. 1919-1927 解放



写真資料類

萬鐵五郎 新たな全体像へのアプローチ／平澤広
 記された萬鐵五郎——展覧会評に見る生前の評価／澤田佳三
 萬鐵五郎の版画制作について／根本亮子
 まなざしの磁場——萬鐵五郎《裸体美人》への一視点として／水沢勉
 《宝珠をもつ人》、居場所はどこか。／原田光
 萬事典
 出品作品リスト
 萬鐵五郎主要文献目録
 As an Oval Moving Body -On the Occasion of the Yorozu Tetsugoro Exhibition / Mizusawa Tsutomu
 An Abridge Chronology of Yorozu Tetsugoro



【関連記事】

●新聞

10月14日(土) 産経新聞
 「萬の表現の本質に迫る 県立近代美術館没後90年回顧展」
 10月19日(木) 新潟日報
 「展覧会へようこそ 新たな表現探求の軌跡」／松本奈穂子
 その他 新潟日報 (9/16、11/7)
 長岡新聞 (8/24、9/30)
 十日町新聞 (8/17)
 妻有新聞 (9/16)

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,417
	前売	377
無料観覧者数	招待	1,046
	無料	466
	免除	1,027
総観覧者数		5,333
有料率 (%)		52.3

担当 松本奈穂子、澤田佳三 (万代島美術館業務課長代理)

【出品リスト】

前期：9月16日(土)～10月15日(日)／後期：10月17日(火)～11月19日(日)

出品番号	作品名	制作年	種別・技法	所蔵先	展示替
I. 1885-1911年 出発					
O-1	静物（コップと夏みかん）	1905（明治38）年	油彩、厚紙	岩手県立美術館	
O-2	郊外風景（菜の花）	1907（明治40）年頃	油彩、画布	萬鉄五郎記念美術館	
O-3	雪の風景	1908（明治41）年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-4	自画像	1908（明治41）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-5	裸婦	1909（明治42）年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-6	盛岡住吉神社風景	1909（明治42）年頃	油彩、画布	萬鉄五郎記念美術館	
O-7	裸婦習作	1909-10（明治42-43）年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-8	建物のある風景	1910（明治43）年頃	油彩、板	三重県立美術館	
O-9	果樹園風景	1910（明治43）年頃	油彩、板	公益財団法人大川美術館	
O-10	婦人像	1910（明治43）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-11	燈火	1910（明治43）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-12	霜の朝	1910-11（明治43-44）年頃	油彩、画布	ギャラリー米津	
O-13	水辺風景	1911（明治44）年頃	油彩、画布	横須賀美術館	
O-14	女学生	1911（明治44）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-15	風景	1911（明治44）年頃	油彩、板	京都国立近代美術館	
O-16	読書婦人	1911（明治44）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-17	自画像習作	1911（明治44）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-18	点描風の自画像	1911（明治44）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-19	木立風景	1911（明治44）年頃	油彩、板	萬鉄五郎記念美術館	
O-20	自画像	1911（明治44）年頃	油彩、画布	東京藝術大学	
O-22	落暉（荷車ひきのいる風景）	1911-12（明治44-大正元）年頃	油彩、画布	桜地人館	
W-1	紅葉	1899-1900（明治32-33）年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-2	中禅寺湖	1899-1900（明治32-33）年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-3	夕陽（新案課題）	1900（明治33）年頃	水彩・墨・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-4	静物（鉄瓶とコップ、角ビン）	1901-04（明治34-37）年頃	水彩、紙	岩手県立美術館	前期
W-5	中門（八丁）	1902（明治35）年	水彩、紙	岩手県立美術館	前期
W-6	風景（春）	1904（明治37）年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-7	静物（バイオリン）	1904（明治37）年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-8	風景（丸太置場のある風景）	1904（明治37）年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-9	風景（武蔵野）	1904（明治37）年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-10	雨の風景	1904（明治37）年	水彩、紙	岩手県立美術館	前期
W-11	雨の風景	1904（明治37）年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-12	神奈川丸のデッキ	1906（明治39）年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-13	海	1906（明治39）年	水彩、紙	岩手県立美術館	後期
W-14	アメリカ風景	1906（明治39）年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-15	女学生	1911（明治44）年頃	水彩・墨・鉛筆、紙	萬鉄五郎記念美術館	
D-1	図画帳	1899（明治32）年	鉛筆・墨 冊子	岩手県立美術館	
D-2	橋	1899-1900（明治32-33）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
D-3	冬の家	1899-1900（明治32-33）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
D-4	幹	1899-1900（明治32-33）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
D-5	老婆	1899-1900（明治32-33）年	鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
D-6	スケッチブック その5	1906（明治39）年	鉛筆・水彩等 冊子	岩手県立美術館	
D-7	石膏習作	1906（明治39）年	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-8	石膏習作	1907（明治40）年	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-9	石膏習作	1907（明治40）年	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-10	石膏習作	1907（明治40）年	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-12	裸体習作	1908（明治41）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-14	裸体習作	1909（明治42）年	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-15	裸婦習作	1909（明治42）年	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-16	裸婦習作	1909（明治42）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-17	裸婦習作	1910（明治43）年	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-18	裸婦習作	1910（明治43）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-19	美校のアトリエ	1910（明治43）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-20	女学生	1911（明治44）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-21	女学生	1911（明治44）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-22	女学生群像	1911（明治44）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-23	女学生（部分）	1911（明治44）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
I-1	「山水画譜」の粉本	1899（明治32）年	墨・淡彩 冊子	萬鉄五郎記念美術館	
I-2	速成文学会水墨浄書添削綴	1901（明治34）年頃	墨・朱、紙	岩手県立美術館	

II. 1912-1913年 挑戦

O-21	裸体美人（油彩習作）	1911-12（明治44-45）年	油彩、板	町立久万美術館	
O-23	裸体美人	1912（明治45）年	油彩、画布	東京国立近代美術館(重要文化財)	

出品番号	作品名	制作年	種別・技法	所蔵先	展示替
O-24	静物（噴霧器）	1912（明治45・大正元）年	油彩、板	岩手県立美術館	
O-25	女の顔	1912（明治45・大正元）年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-26	赤マントの自画像	1912（明治45・大正元）年	油彩、画布	個人蔵	
O-27	風景・春	1912（明治45・大正元）年	油彩、画布	宮城県美術館	
O-28	雲のある自画像	1912（明治45・大正元）年	油彩、画布	大原美術館	
O-29	女の顔（ボアの女）	1912（明治45・大正元）年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-30	春	1912（明治45・大正元）年頃	油彩、画布	個人蔵	
O-31	習作	1912（明治45・大正元）年頃	油彩、画布	大原美術館	
O-32	風景・モノクローム	1912（明治45・大正元）年頃	油彩、板	町立久万美術館	
O-33	太陽の麦畑	1912（明治45・大正元）年頃	油彩、板	東京国立近代美術館	
O-34	田園風景	1912（明治45・大正元）年頃	油彩、画布	神奈川県立近代美術館	
O-35	仁丹とガス灯	1912（明治45・大正元）年頃	油彩、板	岩手県立美術館	
O-36	仁丹	1912（明治45・大正元）年頃	油彩、板	岩手県立美術館	
O-37	飛び込み	1912（明治45・大正元）年頃	油彩、板	岩手県立美術館	
O-38	太陽と道／軽業師	1912（明治45・大正元）年頃／ 1912-13（明治45-大正2）年頃	油彩、板	萬鉄五郎記念美術館	
O-39	雲のある自画像	1912-13（明治45-大正2）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-40	心象風景	1912-13（明治45-大正2）年頃	油彩、板	萬鉄五郎記念美術館	
O-41	無題	1912-13（明治45-大正2）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-42	日傘の裸婦	1913（大正2）年	油彩、画布	神奈川県立近代美術館	
O-43	風景・丁字路	1913（大正2）年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-44	裸婦習作	1913（大正2）年頃	油彩、画布	桜地人会	
O-45	風景・丁字路	1913（大正2）年頃	油彩、画布	京都国立近代美術館	
O-46	ガス灯	1913（大正2）年頃	油彩、画布	横須賀美術館	
O-47	風船をもつ女	1913（大正2）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-48	赤い目の自画像	1913（大正2）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-69	飛び込み	1915（大正4）年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
W-16	絵具箱	1912（明治45・大正元）年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-17	女の顔	1912-13（大正元・2）年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-18	見ハラン	1913（大正2）年	墨・水彩、紙	個人蔵	後期
W-19	春	1913（大正2）年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-20	腕ぐみする女	1913（大正2）年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-21	自画像	1913（大正2）年頃	水彩、紙	岩手県立美術館	後期
W-22	軽業師	1913（大正2）年頃	水彩・鉛筆、紙	萬鉄五郎記念美術館	後期
W-23	風景（坂路）	1913（大正2）年頃	水彩、紙	岩手県立美術館	前期
W-24	マントの人が行く	1913（大正2）年頃	水彩、紙	岩手県立美術館	後期
W-25	冬の人物	1913（大正2）年頃	グワッシュ・鉛筆、紙	萬鉄五郎記念美術館	後期
D-11	スケッチブック その18	1907/1909/1911（明治40/42/44）年頃	鉛筆・水彩 冊子	岩手県立美術館	前期
D-13	スケッチブック その25	1908/1912（明治41/45・大正元）年頃	鉛筆 冊子	岩手県立美術館	
D-24	裸婦	1911-12（明治44-45）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
D-25	裸婦	1911-12（明治44-45）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
D-26	裸婦	1911-12（明治44-45）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
D-27	裸婦	1911-12（明治44-45）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
D-28	裸婦	1911-12（明治44-45）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
D-29	裸婦	1911-12（明治44-45）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-30	裸体美人	1911-12（明治44-45）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-31	裸体美人	1911-12（明治44-45）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-32	裸体美人	1911-12（明治44-45）年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
D-33	裸体美人	1911-12（明治44-45）年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-34	自画像	1912（明治45・大正元）年頃	コンテ、紙	岩手県立美術館	前期
D-35	スケッチブック その17	1912（明治45・大正元）年頃	鉛筆 冊子	岩手県立美術館	
D-37	スケッチブック その24	1912（明治45・大正元）年頃	水彩・色鉛筆等 冊子	岩手県立美術館	後期
D-38	スケッチブック（No.5）	1912-13（明治45-大正2）年頃	鉛筆・水彩 冊子	萬鉄五郎記念美術館	
D-39	スケッチブック（No.6）	1912-13（明治45-大正2）年頃	鉛筆・コンテ 冊子	萬鉄五郎記念美術館	前期
D-40	スケッチブック その27	1912-13（明治45-大正2）年頃	鉛筆 冊子	岩手県立美術館	前期
D-41	スケッチブック その20	1912/1915（明治45・大正元／4）年頃	鉛筆 冊子	岩手県立美術館	
D-42	自画像	1913（大正2）年	墨、紙	個人蔵	後期
D-43	小石川風景	1913（大正2）年頃	コンテ、紙	東京国立近代美術館	後期
D-44	スケッチブック その16	1913（大正2）年頃	鉛筆 冊子	岩手県立美術館	後期
P-1	太陽と道	1912（明治45・大正元）年頃	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-2	子守り	1912（明治45・大正元）年頃	エッチング、紙	岩手県立美術館	前期
P-3	田園風景	1912（明治45・大正元）年頃	エッチング、紙	岩手県立美術館	後期
P-4	車曳きのいる風景	1912（明治45・大正元）年頃	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-5	十字架のキリスト	1912（明治45・大正元）年頃	木版、紙	岩手県立美術館	後期
P-6	静物	1912（明治45・大正元）年頃	エッチング・アクアチント・ ドライポイント、紙	岩手県立美術館	後期

出品番号	作品名	制作年	種別・技法	所蔵先	展示替
P-7	芸術座舞台装置	1913 (大正2) 年	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-8	女と太陽	1913 (大正2) 年	木版、紙	岩手県立美術館	後期
P-9	女と花火	1913 (大正2) 年頃	エッチング・アクアチント、紙	岩手県立美術館	前期
P-10	男の顔	1913 (大正2) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-11	花瓶のある人物	1913 (大正2) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	後期
P-12	芸術座の人	1913 (大正2) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-13	芸術座の人 (帽子の横顔)	1913 (大正2) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	後期
P-14	男 (メートルリンク)	1913 (大正2) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-15	歯をみせる男	1913 (大正2) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	後期
P-16	二人の女	1913 (大正2) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-18	丁字路	1919 (大正8) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	前期
I-3	雲	1912 (明治45・大正元) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-4	飛び込み	1912 (明治45・大正元) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-5	あかりと女	1913 (大正2) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	後期
I-6	坂	1913 (大正2) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-7	土沢風景	1913 (大正2) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	後期
I-8	裸の人	1913-14 (大正2-3) 年	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-9	月の影	1914 (大正3) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-10	山あい	1914 (大正3) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-11	雪景	1914 (大正3) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-12	山路	1914 (大正3) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-13	木小屋	1914 (大正3) 年頃	紙本彩色	萬鉄五郎記念美術館	後期
I-14	冬景 (雪道を行く男)	1914 (大正3) 年頃	紙本墨画	萬鉄五郎記念美術館	前期
I-15	夜の杉林	1914 (大正3) 年頃	紙本彩色	萬鉄五郎記念美術館	後期
I-16	雪景之図	1914 (大正3) 年頃	紙本墨画	萬鉄五郎記念美術館	前期

Ⅲ. 1914-1918年 沈潜

O-49	裸婦 (椅子による)	1913 (大正2) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館
O-50	裸婦習作	1913 (大正2) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館
O-51	男	1914 (大正3) 年	油彩、画布	岩手県立美術館
O-52	裸婦	1914 (大正3) 年	油彩、画布	萬鉄五郎記念美術館
O-53	口髭のある自画像	1914 (大正3) 年	油彩、画布	萬鉄五郎記念美術館
O-54	パイプのある静物	1914-15 (大正3-4) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館
O-55	目のない自画像	1915 (大正4) 年	油彩、画布	岩手県立美術館
O-56	自画像	1915 (大正4) 年	油彩、画布	宮城県美術館
O-57	裸婦	1915 (大正4) 年	油彩、画布	福富太郎コレクション資料室
O-58	手袋のある静物	1915 (大正4) 年	油彩、画布	個人蔵
O-59	雪の景 (土沢)	1915 (大正4) 年	油彩、画布	新潟県立近代美術館・万代島美術館
O-60	土沢風景—だんだん畑のある—	1915 (大正4) 年	油彩、画布	個人蔵
O-61	山	1915 (大正4) 年	油彩、画布	三重県立美術館
O-62	自画像習作	1915 (大正4) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館
O-63	絵を描く自画像	1915 (大正4) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館
O-64	自画像	1915 (大正4) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館
O-65	自画像	1915 (大正4) 年頃	油彩、板	岩手県立美術館
O-66	自画像	1915 (大正4) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館
O-67	土沢風景	1915 (大正4) 年頃	油彩、画布	公益財団法人大川美術館
O-68	土沢風景	1915 (大正4) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館
O-70	自画像	1916 (大正5) 年	油彩、画布	岩手県立美術館
O-71	池	1916 (大正5) 年	油彩、画布	岩手県立美術館
O-72	風景 (塀の見える風景)	1916 (大正5) 年	油彩、画布	平塚市美術館
O-73	立木風景	1916 (大正5) 年頃	油彩、画布	東京国立近代美術館
O-74	夜の雪	1916 (大正5) 年頃	油彩、板	萬鉄五郎記念美術館
O-75	雪の景	1916-18 (大正5-7) 年頃	油彩、画布	個人蔵
O-76	木の間よりの風景	1916-18 (大正5-7) 年頃	油彩、画布	三重県立美術館
O-77	もたれて立つ人習作	1917 (大正6) 年	油彩、画布	岩手県立美術館
O-78	もたれて立つ人	1917 (大正6) 年	油彩、画布	東京国立近代美術館
O-79	筆立のある静物	1917 (大正6) 年	油彩、画布	岩手県立美術館
O-80	木陰の村	1918 (大正7) 年	油彩、画布	ポーラ美術館
O-81	薬罐と茶道具のある静物	1918 (大正7) 年	油彩、画布	岩手県立美術館
O-82	木の間から見下した町	1918 (大正7) 年	油彩、画布	岩手県立美術館
O-83	松島屏風	1918 (大正7) 年	油彩、画布	萬鉄五郎記念美術館
O-84	かなきり声の風景	1918 (大正7) 年	油彩、画布	山形美術館寄託
O-85	郊外の朝	1918 (大正7) 年	油彩、画布	盛岡市
O-86	裸婦	1918 (大正7) 年	油彩、画布	個人蔵
O-88	庫	1918 (大正7) 年頃	油彩、画布	福島県立美術館

出品番号	作品名	制作年	種別・技法	所蔵先	展示替
O-89	丘のみち	1918 (大正7) 年頃	油彩、画布	萬鉄五郎記念美術館	
O-90	裸婦	1918 (大正7) 年頃	油彩、画布	神奈川県立近代美術館	
O-91	木の間風景	1918 (大正7) 年頃	油彩、画布	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
O-92	風景	1918 (大正7) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-93	裸婦立像習作	1918 (大正7) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
W-26	後向きに立つ女	1915-17 (大正4-6) 年頃	水彩・鉛筆、紙	東京国立近代美術館	前期
W-27	もたれて立つ人	1915-17 (大正4-6) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-28	家のある風景	1916 (大正5) 年頃	水彩・コンテ、紙	萬鉄五郎記念美術館	前期
W-29	裸婦	1918 (大正7) 年頃	水彩、紙	岩手県立美術館	後期
W-30	裸婦	1918 (大正7) 年頃	水彩、紙	岩手県立美術館	前期
D-36	スケッチブック その23	1912 (明治45・大正元) 年頃	鉛筆・墨 冊子	岩手県立美術館	
D-45	スケッチブック その33	1914 (大正3) 年頃	鉛筆 冊子	岩手県立美術館	
D-46	自画像	1915 (大正4) 年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
D-47	自画像	1915 (大正4) 年頃	コンテ、紙	岩手県立美術館	後期
D-48	自画像	1915 (大正4) 年頃	コンテ、紙	岩手県立美術館	後期
D-49	スケッチブック その32	1915 (大正4) 年頃	鉛筆・水彩 冊子	岩手県立美術館	
D-50	[椅子による裸婦] (「十二月色紙会」会員名簿)	1916 (大正5) 年	水彩等 冊子	岩手県立美術館	
D-51	裸婦	1917 (大正6) 年頃	コンテ・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
D-52	風景 [池]	1917 (大正6) 年頃	墨、紙	東京藝術大学	前期
D-54	風景	1919 (大正8) 年頃	墨、紙	東京藝術大学	後期
D-55	風景 [入り日]	1920 (大正9) 年頃	墨、紙	東京藝術大学	後期
I-22	川辺の石垣	1914-16 (大正3-5) 年頃	紙本墨画	萬鉄五郎記念美術館	前期
I-23	構図	1915 (大正4) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-24	木の間風景	1915 (大正4) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-25	スケッチ10 [木の間風景]	1915 (大正4) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-26	橋下遠望図 (猿橋之図)	1917 (大正6) 年頃	紙本彩色	萬鉄五郎記念美術館	後期
I-27	裸婦	1917 (大正6) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-28	裸婦	1917 (大正6) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-29	裸婦	1917 (大正6) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-30	松島	1917-18 (大正6-7) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	前期
I-31	山頂の松	1917-18 (大正6-7) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	後期
I-32	溪流に魚を釣る	1917-18 (大正6-7) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	前期
I-33	風景	1917-18 (大正6-7) 年頃	紙本彩色	東京藝術大学	後期
I-34	溪流	1917-18 (大正6-7) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	後期

IV. 1919-1927年 解放

O-87	盛夏風景	1918 (大正7) 年	油彩、画布	ポーラ美術館	
O-94	郊外風景	1918 (大正7) 年頃	油彩、画布	宮城県美術館	
O-95	井戸端	1919 (大正8) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-96	少女	1919-20 (大正8-9) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-97	庭の花	1919-20 (大正8-9) 年頃	油彩、画布	個人蔵	
O-98	風景 (大根木に登る)	1920 (大正9) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-99	桑野風景	1920 (大正9) 年頃	油彩、画布	個人蔵	
O-100	水浴	1921 (大正10) 年	油彩、板に貼った画布	名古屋画廊	
O-101	水浴する三人の女 [部分]	1921 (大正10) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-102	立てる裸婦	1921-22 (大正10-11) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-103	雲と裸婦	1921-22 (大正10-11) 年	油彩、画布	平塚市美術館	
O-104	風景	1922 (大正11) 年頃	油彩、画布	個人蔵	
O-105	荒模様	1923 (大正12) 年	油彩、画布	練馬区立美術館	
O-106	ねて居るひと	1923 (大正12) 年	油彩、画布	北九州市立美術館	
O-107	少女 (校服のとみ子)	1923 (大正12) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-108	桑と自転車	1923 (大正12) 年	油彩、画布	ギャラリー・米津	
O-109	浜の納屋	1923 (大正12) 年	油彩、画布	個人蔵	
O-110	海岸風景	1923 (大正12) 年	油彩、画布	萬鉄五郎記念美術館	
O-111	松の木のある風景	1923 (大正12) 年頃	油彩、画布	個人蔵	
O-112	魚煮る小屋	1924 (大正13) 年	油彩、画布	岩手大学	
O-113	枯れ木の風景	1924 (大正13) 年	油彩、画布	三重県立美術館	
O-114	水のほとり	1924 (大正13) 年	油彩、画布	萬鉄五郎記念美術館	
O-115	茅ヶ崎風景 (海岸風景)	1924 (大正13) 年	油彩、画布	平塚市美術館	
O-116	富士 (砂丘風景)	1924 (大正13) 年	油彩、画布	平塚市美術館	
O-117	地震の印象	1924 (大正13) 年頃	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-118	宙腰の人	1924 (大正13) 年頃	油彩、画布	平塚市美術館	
O-119	羅布かづく人	1925 (大正14) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-120	男	1925 (大正14) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-121	少女の像 (次女馨子)	1925 (大正14) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	

出品番号	作品名	制作年	種別・技法	所蔵先	展示替
O-122	枯れた花の静物	1926 (大正15) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-123	裸婦 (ほお杖の人)	1926 (大正15) 年	油彩、画布	東京国立近代美術館	
O-124	湘南風景	1926 (大正15) 年	油彩、画布	東京国立近代美術館	
O-125	〔茅ヶ崎風景〕	1926 (大正15) 年	油彩、画布	ヒノギャラリー	
O-126	T子像	1926 (大正15) 年	油彩、画布	町立久万美術館	
O-127	水着姿	1926 (大正15) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-128	静物	1926 (大正15) 年	油彩、画布	平塚市美術館	
O-129	静物 (果物)	1926 (大正15) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-130	窓	1926 (大正15) 年	油彩、画布	岩手県立美術館	
O-131	裸婦 (宝珠をもつ人)	1926-27 (大正15-昭和2) 年 (未完成)	油彩、画布	岩手県立美術館	
W-31	飛び込む	1920-22 (大正9-11) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-32	風景 (友田の森)	1922 (大正11) 年	水彩・インク、紙	岩手県立美術館	前期
W-33	風景 (友田の森)	1922 (大正11) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-34	曇天砂丘	1923 (大正12) 年	水彩、紙	萬鉄五郎記念美術館	前期
W-35	照りつつ降る日	1923 (大正12) 年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-36	高麗山の見える砂丘	1923 (大正12) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-37	砂丘の富士	1923 (大正12) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-38	暖日	1923 (大正12) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-39	漁村の朝	1923 (大正12) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-40	南湖院	1923 (大正12) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-41	アトリエ	1923 (大正12) 年頃	水彩、紙	岩手県立美術館	後期
W-42	夕陽の砂丘	1923 (大正12) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-43	えぼし岩の見える海	1924 (大正13) 年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-44	夏日	1924 (大正13) 年	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	前期
W-45	砂丘の冬	1924 (大正13) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-46	郊外の道	1924 (大正13) 年頃	水彩・鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
W-47	湘南風景 (一人行く)	1924 (大正13) 年頃	水彩・鉛筆、紙	萬鉄五郎記念美術館	後期
W-48	柳島風景	1925 (大正14) 年	水彩、紙	萬鉄五郎記念美術館	前期
W-49	家のある風景	1925 (大正14) 年頃	水彩、紙	萬鉄五郎記念美術館	前期
D-53	スケッチブック その37	1918 (大正7) 年頃	鉛筆等 冊子	岩手県立美術館	
D-56	裸婦	1920 (大正9) 年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
D-57	裸婦	1920 (大正9) 年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-58	裸婦	1920 (大正9) 年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-59	裸婦	1920 (大正9) 年頃	インク、紙	岩手県立美術館	後期
D-60	裸婦	1920-25 (大正9-14) 年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
D-61	裸婦	1920-25 (大正9-14) 年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-62	裸婦	1920-25 (大正9-14) 年頃	コンテ、紙	岩手県立美術館	前期
D-63	水浴の図 (五人)	1920-25 (大正9-14) 年頃	鉛筆、紙	萬鉄五郎記念美術館	前期
D-64	宙腰の人 (素描)	1921 (大正10) 年頃	墨、紙	萬鉄五郎記念美術館	前期
D-65	水浴する三人の女	1921 (大正10) 年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-66	水浴する三人の女	1921 (大正10) 年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-67	水浴する三人の女	1921 (大正10) 年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	前期
D-68	スケッチブック その42	1923 (大正12) 年	鉛筆 冊子	岩手県立美術館	
D-69	椅子に座る裸婦	1923 (大正12) 年頃	インク、紙	岩手県立美術館	後期
D-70	茅ヶ崎・柳島	1924 (大正13) 年頃	鉛筆、紙	神奈川県立近代美術館	後期
D-71	茅ヶ崎風景	1924 (大正13) 年頃	コンテ、紙	三重県立美術館	前期
D-72	茅ヶ崎風景	1924 (大正13) 年頃	鉛筆・コンテ、紙	茅ヶ崎市美術館	後期
D-73	羅布かづく人	1924 (大正13) 年頃	鉛筆・水彩、紙	ギャラリー・米津	前期
D-74	羅布かづく人	1924 (大正13) 年頃	鉛筆、紙	岩手県立美術館	後期
D-75	羅布かづく人	1924 (大正13) 年頃	木炭、紙	ポーラ美術館	前期
D-76	茅ヶ崎風景	1924 (大正13) 年頃	木炭、紙	東京国立近代美術館	前期
D-77	男	1925 (大正14) 年頃	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-78	自転車の風景	1925 (大正14) 年頃	インク・墨、紙	岩手県立美術館	後期
D-79	ほほ杖の人	1925-26 (大正14-15) 年	墨、紙	岩手県立美術館	前期
D-80	ほほづゑの人	1925-26 (大正14-15) 年	コンテ、紙	三重県立美術館	前期
D-81	ほほ杖の人	1925-26 (大正14-15) 年	木炭、紙	岩手県立美術館	後期
D-82	宝珠を持つ女	1926 (大正15) 年	木炭、紙	宮城県美術館	前期
D-83	もたれて立つ人	1926 (大正15・昭和元) 年頃	墨、紙	岩手県立美術館	後期
D-84	椅子による裸婦	1926 (大正15・昭和元) 年頃	墨、紙	岩手県立美術館	前期
D-85	宝珠を持つ人	1926 (大正15・昭和元) 年頃	墨、紙	萬鉄五郎記念美術館	前期
D-86	裸婦 (宝珠をもつ人)	1926 (大正15・昭和元) 年頃	墨・コンテ、紙	岩手県立美術館	後期
P-17	男	1914 (大正3) 年	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-19	坂	1919 (大正8) 年	木版、紙	岩手県立美術館	後期
P-20	うしろ向き	1922 (大正11) 年	木版、紙	岩手県立美術館	前期
P-21	ねて居る人	1923 (大正12) 年頃	木版、紙	岩手県立美術館	後期

出品番号	作品名	制作年	種別・技法	所蔵先	展示替
P-22	羅布かづく人	1924 (大正13) 年	木版、紙	岩手県立美術館	後期
P-23	羅布かづく人	1924 (大正13) 年	木版、紙	岩手県立美術館	後期
I-35	橋の上の犬	1919 (大正8) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-36	汽車	1919 (大正8) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-37	魚を見る人	1919 (大正8) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-39	井戸端	1919 (大正8) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-40	日の出	1919 (大正8) 年頃	紙本彩色	萬鉄五郎記念美術館	前期
I-41	太陽のある二人の裸婦	1919 (大正8) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-42	はたおりの家	1919 (大正8) 年頃	紙本彩色・コンテ	岩手県立美術館	前期
I-43	釣り	1919 (大正8) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	後期
I-44	水墨画帳 その1	1919-27 (大正8-昭和2) 年	墨 冊子	岩手県立美術館	
I-45	水墨画帳 その2	1919-27 (大正8-昭和2) 年	墨 冊子	岩手県立美術館	
I-46	水墨画帳 その3	1919-27 (大正8-昭和2) 年	墨 冊子	岩手県立美術館	
I-47	水墨画帳 その4	1919-27 (大正8-昭和2) 年	墨 冊子	岩手県立美術館	
I-48	水浴	1920-25 (大正9-14) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	前期
I-49	水浴	1921 (大正10) 年	紙本墨画	茅ヶ崎市美術館	前期
I-50	水浴する三人の女	1921 (大正10) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-51	水浴	1921-25 (大正10-14) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-53	日傘のひと	1922 (大正11) 年	紙本彩色	岩手県立美術館	前期
I-55	里の春	1922 (大正11) 年	紙本彩色	岩手県立美術館	前期
I-56	車曳きのいる風景	1922 (大正11) 年	紙本彩色	岩手県立美術館	後期
I-58	茅ヶ崎風景	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	平塚市美術館	前期
I-59	林の中の家	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-60	車曳きのいる風景	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-61	インパネスの人	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-62	桑畑の道	1922 (大正11) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	前期
I-70	砂丘	1922 (大正11) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	前期
I-71	砂丘	1922 (大正11) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	後期
I-73	砂丘	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	萬鉄五郎記念美術館	後期
I-76	道行く人	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-77	曇りの日の砂丘	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-79	帰り道	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	萬鉄五郎記念美術館	後期
I-80	松林	1922 (大正11) 年頃	紙本彩色	萬鉄五郎記念美術館	後期
I-81	わかれ道	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-82	秋景農夫図	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	萬鉄五郎記念美術館	前期
I-83	山水図	1922 (大正11) 年頃	紙本墨画	三重県立美術館	後期
I-90	雪溪樵夫	1923-24 (大正12-13) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	前期
I-91	富士遠望	1923-24 (大正12-13) 年頃	紙本墨画	岩手県立美術館	後期
I-92	春夏秋冬図	1923-24 (大正12-13) 年頃	絹本彩色 四幅対	萬鉄五郎記念美術館	
I-93	山水図 (茅ヶ崎)	1923-24 (大正12-13) 年頃	絹本彩色	萬鉄五郎記念美術館	前期
I-94	[海岸へと続く松林]	1923-24 (大正12-13) 年頃	紙本彩色	茅ヶ崎市美術館	後期
I-95	湘南風景	1923-24 (大正12-13) 年頃	絹本彩色	萬鉄五郎記念美術館	後期
I-96	風景	1923-24 (大正12-13) 年頃	紙本彩色	平塚市美術館	前期
I-98	山水図	1925 (大正14) 年	絹本墨画	茅ヶ崎市美術館	後期
I-99	寒林帰樵図	1925 (大正14) 年	紙本墨画	大阪市立美術館	
I-102	湖山遊舟図	1925 (大正14) 年頃	紙本墨画	新潟県立近代美術館・万代島美術館	後期
I-103	水郷	1925 (大正14) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	前期
I-104	山水図	1926 (大正15) 年	紙本墨画	神奈川県立近代美術館	前期
I-105	太陽のある蓬莱山	1926 (大正15・昭和元) 年頃	紙本彩色	岩手県立美術館	後期

資料

M-1	速成文学会臨本綴	1901 (明治34) 年4月	岩手県立美術館
M-2	手紙 (萬タダ宛て)	1906 (明治39) 年6月22日	萬鉄五郎記念美術館
M-3	東京美術学校卒業証書	1912 (明治45) 年3月29日	萬鉄五郎記念美術館
M-4	第一回ヒュウザン会展覧会目録	1912 (大正元) 年10月	岩手県立美術館 前期
M-5	表紙画用原画《二人の女 [文芸の三越]》	1913 (大正2) 年	岩手県立美術館 後期
M-6	芸術座初演記念園遊会写真	1913 (大正2) 年	岩手県立美術館
M-7	『作品集 第十』(東京美術学校校友会編)	1913 (大正2) 年11月	岩手県立美術館 後期
M-8	土沢名所旧跡デザイン画	1914 (大正3) 年頃	萬鉄五郎記念美術館
M-9	鎗の里 (パッケージデザイン)	1914 (大正3) 年頃	萬鉄五郎記念美術館
M-10	土沢みやげ包装図案	1914 (大正3) 年頃	岩手県立美術館
M-11	人物 (点火料領収報告書裏スケッチ)	1914-15 (大正3-4) 年頃	岩手県立美術館
M-12	人物 (電灯料金計算書スケッチ)	1914-15 (大正3-4) 年頃	大阪市立美術館
M-13	「萬鉄五郎画会」パンフレット	1915 (大正4) 年10月	萬鉄五郎記念美術館
M-14	「萬鉄五郎画会」会員台帳	1915 (大正4) 年11月	岩手県立美術館

出品番号	作品名	制作年	種別・技法	所蔵先	展示替
M-15	スケッチブック その35	1915 (大正4) 年頃		岩手県立美術館	
M-16	表紙画用原画《種をまく人》	1915-16 (大正4-5) 年		岩手県立美術館	
M-17	「十二月色紙会」申込書 (2種)	1916 (大正5) 年9月		萬鉄五郎記念美術館	
M-18	『岩手農友』創刊号	1916 (大正5) 年2月		萬鉄五郎記念美術館	
M-19	『岩手農友』第2号	1916 (大正5) 年9月		盛岡市先人記念館	
M-20	書簡 (新渡戸仙岳宛て)	1918 (大正7) 年3月12日		盛岡市先人記念館	
M-21	書簡 (三浦竹軒宛て)	1918 (大正7) 年4月7日		萬鉄五郎記念美術館	
M-22	書簡 (萬昌一郎宛て)	1918 (大正7) 年12月8日		萬鉄五郎記念美術館	
M-23	『中学世界』第22巻第5号	1919 (大正8) 年4月		個人蔵	
M-24	第二回四十年社展覧会ポスター	1921 (大正10) 年		大阪市立美術館	後期
M-25	『中央美術』第7巻第6号	1921 (大正10) 年6月		個人蔵	
M-26	鐵人会会員名簿	1922 (大正11) 年		岩手県立美術館	
M-27	『純正美術』第2巻第7号 表紙	1922 (大正11) 年7月		岩手県立美術館	
M-28	『純正美術』第2巻第7号	1922 (大正11) 年7月		岩手県立美術館	
M-29	『純正美術』第2巻第8号	1922 (大正11) 年8月		岩手県立美術館	
M-30	自筆原稿「高間筆子の芸術に就て」	1922 (大正11) 年		萬鉄五郎記念美術館	
M-31	『曠野』第5巻第1号 表紙	1923 (大正12) 年1月		岩手県立美術館	
M-32	『中央美術』第11巻第3号	1925 (大正14) 年3月		岩手県立美術館	
M-33	円鳥会第一回展覧会出品目録	1923 (大正12) 年		岩手県立美術館	
M-34	『中央美術』第11巻第9号	1925 (大正14) 年9月		岩手県立美術館	
M-35	『マロニエ』第1巻第6号	1925 (大正14) 年11月		岩手県立美術館	
M-36	『美の國』第2巻第1号	1926 (大正15) 年1月		個人蔵	
M-37	『マロニエ』第2巻第2号	1926 (大正15) 年2月		岩手県立美術館	
M-38	詩の原稿「海岸小品」	1926 (大正15) 年		岩手県立美術館	
M-39	『中央美術』第12巻第8号	1926 (大正15) 年8月		岩手県立美術館	
M-40	『純正美術』改巻第1号	1926 (大正15) 年9月		萬鉄五郎記念美術館	
M-41	『文兎』(萬鐵五郎著)	1926 (大正15) 年9月		萬鉄五郎記念美術館	
M-42	葉書 (清水七太郎宛て)	1926 (大正15) 年10月27日		岩手県立美術館	
M-43	『みづゑ』第261号 表紙	1926 (大正15) 年11月		岩手県立美術館	
M-44	詩の原稿「ばあさんが死んだ」	1926 (大正15) 年頃		岩手県立美術館	
M-45	展覧会カード「人天社」	1926 (大正15) 年頃		萬鉄五郎記念美術館	
M-46	作品配置検討	1926-27 (大正15-昭和2) 年		岩手県立美術館	
M-47	『万象写真図譜』	1864 (元治元) 年		岩手県立美術館	
M-48	パレット			岩手県立美術館	
M-49	絵具箱			岩手県立美術館	
M-50	根来丸盆			岩手県立美術館	
M-51	花瓶			岩手県立美術館	
M-52	筆立			岩手県立美術館	
M-53	パイプ			岩手県立美術館	
M-54	落款印			萬鉄五郎記念美術館	
M-55	落款印 (犁耳窩主)			個人蔵	
M-56	『美術新論』第2巻第6号	1927 (昭和2) 年6月		岩手県立美術館	
M-57	『みづゑ』第268号	1927 (昭和2) 年6月		萬鉄五郎記念美術館	
M-58	『アトリエ』第4巻第6号	1927 (昭和2) 年7月		萬鉄五郎記念美術館	
M-59	『セレクト』第1巻第17号	1930 (昭和5) 年11月		個人蔵	
M-60	『萬鐵五郎画集』(萬淑子編)	1931 (昭和6) 年4月		岩手県立美術館	
M-61	「四人の画家〈萬鐵五郎・土田麦僊〉」目録 (国立近代美術館)	1953 (昭和28) 年11月		岩手県立美術館	
M-62	「萬鐵五郎作品展」図録 (東京画廊)	1957 (昭和32) 年2月		岩手県立美術館	
M-63	「萬鐵五郎展」出品作品図録 (現代画廊)	1961 (昭和36) 年		宮城県美術館	
M-64	「萬鐵五郎展」出品作品図録 (現代画廊)	1961 (昭和36) 年		宮城県美術館	
M-65	「萬鐵五郎展」目録 (神奈川県立近代美術館)	1962 (昭和37) 年7月		神奈川県立近代美術館	
M-66	『鐵人画論』(土方定一・陰里鉄郎編)	1968 (昭和43) 年3月		萬鉄五郎記念美術館	
M-67	よ志に抱かれた登美子とお手伝いの女の子	1910 (明治43) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	
M-68	寝そべる妻・よ志 (宮下町下宿にて)	1910 (明治43) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	
M-69	寝そべる妻・よ志 (宮下町下宿にて)	1910 (明治43) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	
M-70	庭先風景 (日傘を差して通学する女学生たち、宮下町)	1911 (明治44) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	
M-71	庭先風景 (日傘を差して通学する女学生たち、宮下町)	1911 (明治44) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	
M-72	アトリエの萬鐵五郎 (宮下町下宿にて)	1911 (明治44) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	
M-73	おばあさんと登美子	1914 (大正3) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	
M-74	子ども (博輔)	1921 (大正10) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	
M-75	子ども (響子)	1926 (大正15) 年頃	ガラス乾板からデジタルプリント	萬鉄五郎記念美術館	



堀口大學展－美と文学の探索者

【趣 旨】

堀口大學は明治25年東京に生まれ、2歳から17歳まで家郷の長岡で過ごした。27歳で第一詩集『月光とピエロ』を世に出してから、大正・昭和戦前期・戦後にいたるまで数多くの詩集や翻訳本を刊行し、日本語の新たな表現の可能性を切り拓く優れた仕事を残した。美術や音楽とのコラボレーションも多い。本展は、詩人としての仕事を多面的な切り口から紹介すると同時に、外交官の父九萬一をはじめ家族や友人たちと織りなした生涯にも光を当て、堀口大學の全貌を浮かび上がらせることを目的としたものである。初公開の資料を含む数々の原稿・詩集装幀本・遺品などを一堂に展覧した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・ご遺族の全面的な協力を得て、堀口大學を、文学のみならず美術や文化全体に関わる豊かな人生を送った詩人として紹介できたことは意義深い。
- ・本展覧会の開催にあたって、長岡市立中央図書館、新潟県立美術館友の会、新潟日報美術振興財団の支援を得て、図録の制作、展示造作、広報等で展覧会内容を充実させることができた。
- ・長岡市立中央図書館で、「堀口大學と長岡」が同時開催され、長岡市との協働が実現したことの意義は大きい。また、NPO法人ながおか未来創造ネットワークからは、県立美術館と市立図書館をつなぐイベントを企画運営してもらうことができ、新しい展覧会形式の試みとなった。

●検討課題

- ・厳冬期の開催で入場者数は伸び悩んだ。そのハンディを越えて展覧会の魅力が伝わる広報的工夫が必要だった。

【開催日・その他】

＝2017年12月2日(土)－2018年1月8日(月・祝)(28日間)＝

休館日：12月4日(月)、12月11日(月)、12月18日(月)、
12月25日(月)、12月29日(金)～1月3日(水)

主 催：新潟県立近代美術館

共 催：長岡市、長岡市教育委員会、新潟県立美術館友の会、
新潟日报社、新潟日報美術振興財団

後 援：朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、長岡新聞社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、株式会社エヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

協 力：NPO法人ながおか未来創造ネットワーク

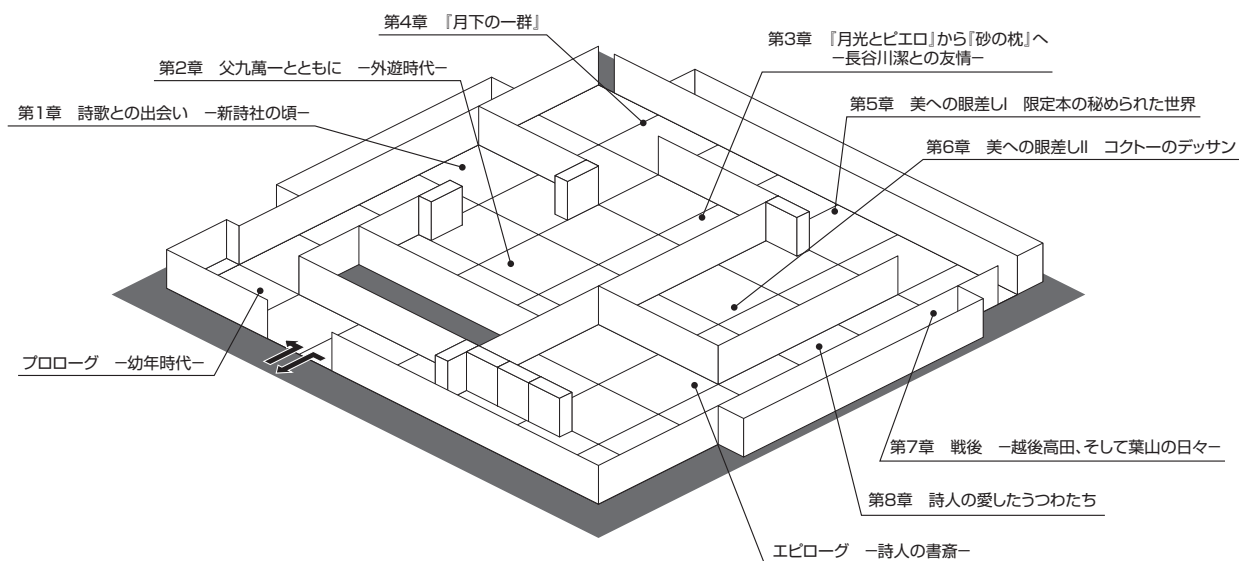
長岡★堀口大學を語る会

観覧料：一般……………1,000円(800円)

大・高生……………800円(600円)

*中学生以下無料

* ()は有料20名以上の団体



【関連行事】

- ・開場式における校歌斉唱
12月1日(金)14:00～
長岡市立上組小学校4年生
- ・講演会
「堀口大學は誰が育てたか」
(主催：NPO法人ながおか未来創造ネットワーク)
12月3日(日)14:00～15:30 講堂
講師：堀口すみれ子氏（堀口大學長女）
聞き手：中村智景氏（FM新潟パーソナリティー）
参加者数：140名
- ・大手高校書道部による書道展示(上記講演会にリンクした企画)
12月1日(金)～2018年1月8日(月・祝) 館内ロビー
- ・美術鑑賞講座
「友情の双像と武石弘三郎」
12月9日(土)14:00～15:30 講堂
講師：伊澤朋美（当館主任学芸員）
参加者数：27名
- 「堀口大學と美しい書物」
1月6日(土)14:00～15:30 講堂
講師：平石昌子（当館学芸課長代理）
参加者数：48名
- ・映画鑑賞会
「オルフェ」（監督J.コクトー／1950年／95分）
12月16日(土)14:00
参加者数：29名

・学芸員によるギャラリートーク

12月17日(日)14:00～15:00 担当：平石昌子（当館学芸課長代理）
参加者数：18名

・バースデー記念ポスタープレゼント

1月6日(土)～8日(月・祝) 全30枚

【図 録】

仕 様：B5判 96頁
編 集：新潟県立近代美術館
執 筆：堀口すみれ子（堀口大學長女）、平石昌子（新潟県立近代美術館学芸課長代理）、長岡市立中央図書館
制作・印刷：株式会社 中央印刷
発 行：新潟県立近代美術館
内 容：ごあいさつ
「展覧会に寄せて」堀口すみれ子
カタログ
プロローグ
第1章 詩歌との出会い－新詩社の頃－
第2章 父九萬一とともに－外遊時代－
第3章 『月光とピエロ』から『砂の枕』へ－長谷川潔との友情－
第4章 『月下の一群』
コラム 堀口大學と第一書房文化
第5章 美への眼差しI ー限定本の秘められた世界ー
第6章 美への眼差しII ーコクトーのデッサンー
コラム サン＝テグジュペリ『夜間飛行』ー時代の暗闇のなかでー
第7章 戦後－戦後高田、そして葉山の日々
第8章 詩人の愛したうつわたち
エピローグ 詩人の書斎

資 料

長岡市市立中央図書館所蔵 堀口大學コレクションについて
堀口大學コレクション精選50
「堀口大學と美しい書物」平石昌子
堀口大學 年譜
主要参考文献
長岡市立中央図書館所蔵 堀口大學コレクション精選50 書誌
出品リスト



【関連記事】

●新聞

12月7日(木) 長岡新聞
「市内で堀口大學展が始まる」
12月12日(火) 新潟日報
「堀口大學展をメキシコ大使が見学ー長岡が育んだ縁 今も」
12月12日(火) 長岡新聞
「郷土の詩人の美と文学を」
12月12日(火) 毎日新聞
「堀口九萬一 サムライ外交官の功績しのぶ」
12月14日(木) 新潟日報
「展覧会へようこそ 美と文学の探索者 堀口大學展」／
平石昌子(当館学芸課長代理)
12月14日(木) 長岡新聞
「素顔の大學像ー娘・すみれ子さんが語る」
12月14日(木) 朝日新聞
「外交官・堀口九萬一 メキシコ大使が感謝」
12月19日(火) 長岡新聞
「新潟県立近代美術館で講座ー彫塑家・武石弘三郎を語る」
12月21日(木) 長岡新聞
「駐日メキシコ大使が来岡ー友好を尽くした堀口九萬一に敬意」
3月26日(月) 新潟日報おとなプラス
「美を愛した詩人 堀口大學」／河上進(ライター・編集者)

その他 長岡新聞(11/21、11/25、11/30、1/7、1/20)
新潟日報(11/29、12/2、12/6、2/25)
妻有新聞(11/25)
十日町タイムス(11/28)
十日町新聞(11/30)
新潟日報おとなプラス(4/6)

●雑誌

『ギャラリー』12月号
『クロワッサン』12/25号「おしゃれの視点 347」、同2/10
号「おしゃれの視点350」／原由美子(スタイリスト)

●インターネット

コミュニケーションギャラリーふいげん社「南陀楼綾繁の「全国
区じゃない本〜地域からの風・書評篇〜第6回 堀口大學の望
郷」」

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	989
無料観覧者数	招待	641
	無料	175
	免除	117
総観覧者数		1,922
有料率		51.5

担当 平石昌子

【出品リスト】

cat. no.	分類	作者等	作品名	備考	制作年・発行年	所蔵先／所蔵品番号
プロローグ ―幼年時代―						
1	写真		生後8ヵ月、東京本郷		1892年	
2	写真		明治25年8月31日 生後8ヵ月、母に抱かれて		1892年	
3	写真		父九萬一、大學、祖母千代、妹花枝、叔母たつ		1896年	
4	写真		長岡中学卒業の年		1909年	
第1章 詩歌との出会い ―新詩社の頃―						
5	書簡	与謝野晶子	与謝野鉄幹宛 恋文		1901年2月2日	
6	書簡	与謝野鉄幹	与謝野晶子宛 恋文		1901年5月3日	
7	遺品	与謝野晶子	形見の品 硯			
8	筆墨	与謝野晶子	源氏物語礼讃歌	折本（二帖）	1931年	
9	筆墨	堀口大學	源氏物語礼讃歌（写し）	和綴じ本 四ツ目	1978年4月8日	
11	筆墨	与謝野鉄幹	国歌三首	軸装		
12	原稿	与謝野鉄幹	形見の品 〈朱入り原稿〉歌稿	軸装		
13	資料	与謝野鉄幹	形見の品 歌の手帳		1932年頃	
14	筆墨	与謝野晶子	短歌（恋をして）	軸装		
15	筆墨	与謝野晶子	短歌（光悦が）	軸装		
16	筆墨	与謝野晶子	短歌（紫陽花が）	軸装		
17	筆墨	与謝野晶子	短歌（ほととぎす）	軸装		
18	筆墨	与謝野鉄幹	短歌（紅梅と）	軸装		
19	筆墨	与謝野鉄幹、与謝野晶子、佐藤春夫他	短冊帖	折本		
20	原稿	永井荷風	堀口大學訳詩集『昨日の花』序文	原稿用紙		
21	原稿	永井荷風	アンドレ・レニエ著 堀口大學訳『燃え上る青春』序文	原稿用紙		
22	書簡	永井荷風	堀口大學宛 手紙 スペイン滞在時代			
23	書簡	永井荷風	堀口大學宛 手紙 ブラジル滞在時代			
24	書簡	永井荷風	堀口大學宛 手紙			
25	筆墨	永井荷風	〈扇面〉俳句	軸装		
26	書簡	永井荷風	堀口大學宛 手紙 俳句二首	軸装		
27	筆墨	永井荷風	〈扁額〉漢詩	額装	1932年	
28	写真		明治42年5月上野池之端の写真館にて、18歳		1909年	
29	書籍	堀口大學	『涙の念珠 歌集』	昭森社	1936年	長岡市立中央図書館 ／HoA0506
第2章 父九萬一とともに ―外遊時代―						
31	遺品	堀口九萬一	愛用の品 シガレットケース	銀製		
32	遺品	堀口九萬一	愛用の品 シガレットケース	銀製		
33	遺品	堀口九萬一	愛用の品 シャンパンクーラー			
34	遺品	堀口九萬一	愛用の品 クリストフル・ディナーセット	銀製		
35	遺品	堀口スチナ	愛用の品 燭台	銀製		
36	遺品	堀口大學	愛用の品 カフスボタン			
37	遺品	堀口大學	愛用の品 カフスボタン、スタッドボタン			
38	遺品		アフリカ、コンゴの黒人彫刻			
39	遺品		アマゾンの魔除けの石斧			
40	資料	堀口大學	作品帳		1915年-	
41	資料	堀口大學	作品帳		1916-20年	
42	資料	堀口大學	作品帳		1922-23年	
43	書籍		『フィユ・ダール』 <i>Feuillets d'Art</i>	Lucien Vogel, Paris	1922年	
44	書籍	マリー・ローランサン	『牝鹿』I、II巻 Marie Laurencin, <i>Les Biches vol. I, II</i>	Éditions des Quatre Chemins, Paris	1924年	
45	書籍	ギヨーム・アポリネール	『カリグラム』 Guillaume Apollinaire, <i>Calligramme, Poèmes de la Paix et de la Guerre 1913-16</i>	Mercure de France, Paris	1918年	
46	写真		ブラジルの風景写真			
47	画帖	鈴木龍一	『大學肖像集』		1922年	
48	素描	鈴木龍一	初対面の堀口大學		1919年	
49	素描	鈴木龍一	『アンリ・マチス』画集 模写 Elie Faure, Jules Romain, Charles Vildrac, Léon Werth, <i>Henri Matisse</i> , Paris, G. Crès, 1920		1921-22年	
50	書籍	堀口大學	『短歌 日本の小さな詩』 Nico-D. Horigoutchi, <i>TANKAS Petits Poèmes Japonais</i>	Fauconnier, Paris	1921年	長岡市立中央図書館 ／HoA0925
51	資料	堀口大學	スクラップブック		大正期	
52	筆墨	堀口九萬一	〈拓本〉山城の久世の鷹坂神代より春は張りつつ秋は散りけり	軸装	1925年以降	
53	書籍	堀口九萬一／著 堀口大學／訳	『長城詩抄 父の漢詩・子の和訓』	大門出版	1975年	長岡市立中央図書館 ／HoA0889
54	原稿	堀口大學	『長城詩抄』和訳	原稿用紙		
55	原稿	堀口大學	『長城詩抄』「子のあとがき」	原稿用紙		
56	写真		堀口大學 1925年頃		1925年頃	
57	写真		ルーマニア、ブカレスト 英国大使館の仮装舞踏会にて		1924年	
58	写真		久世山の自宅玄関にて 右から九萬一、スチナ、大學、岩子		1925年以降	

cat. no.	分類	作者等	作品名	備考	制作年・発行年	所蔵先／所蔵品番号
第3章 『月光とピエロ』から『砂の枕』へ ―長谷川潔との友情―						
59	書籍	堀口大學	『月光とピエロ 詩集』	靄山書店	1919年	長岡市立中央図書館 ／HoA0896
60	書籍	堀口大學	『パンの笛 歌集』	靄山書店	1919年	長岡市立中央図書館 ／HoA0912
61	版画	長谷川潔	バラ（堀口大學訳詩集『失はれた寶玉』外函 別刷）	板目木版	1920年	
62	版画	長谷川潔	バラ（堀口大學訳詩集『失はれた寶玉』外函 別刷）	板目木版	1920年	
63	版画	長谷川潔	堀口大學訳詩集『失はれた寶玉』表紙 別刷	板目木版	1920年	
64	版画	長谷川潔	レダ（堀口大學訳詩集『失はれた寶玉』扉絵 別刷）	板目木版	1920年	
65	版画	長谷川潔	帽子と果物（堀口大學詩集『水の面に書きて』扉絵 別刷）	木口木版	1921年	
66	版画	長谷川潔	鳥と雲（堀口大學詩集『水の面に書きて』装画 別刷）	木口木版	1921年	
67	版画	長谷川潔	堀口大學詩集『水の面に書きて』装画 別刷	木口木版	1921年	
68	版画	長谷川潔	堀口大學詩集『水の面に書きて』裏表紙 別刷	木口木版	1921年	
69	版画	長谷川潔	白鳥（堀口大學詩集『水の面に書きて』函 別刷）	木口木版	1921年	
70	版画	長谷川潔	女と籠（堀口大學詩集『水の面に書きて』表紙 別刷）	木口木版	1921年	
71	版画	長谷川潔	フルートと花（堀口大學詩集『新しき小徑』扉絵 別刷）	木口木版	1922年	
72	版画	長谷川潔	山羊（堀口大學詩集『新しき小徑』表紙 別刷）	木口木版	1922年	
73	版画	長谷川潔	神秘的な花（堀口大學訳詩集『月下の一群』七部本 表紙 別刷）	木口木版	1925年	
74	版画	長谷川潔	神秘的な花（堀口大學訳詩集『月下の一群』七部本 表紙 別刷）	木口木版	1925年	
75	版画	長谷川潔	神秘的な花（堀口大學訳詩集『月下の一群』七部本 表紙 別刷）	木口木版	1925年	
76	版画	長谷川潔	神秘的な花（堀口大學訳詩集『月下の一群』七部本 表紙 別刷）	木口木版	1925年	
77	版画	長谷川潔	神秘的な花（堀口大學訳詩集『月下の一群』七部本 表紙 別刷）	木口木版	1925年	
78	版画	長谷川潔	梟（堀口大學訳詩集『月下の一群』扉絵 別刷）	木口木版	1925年	
79	版画	長谷川潔	堀口大學詩集『詩集 砂の枕』外函 別刷	木口木版	1926年	
80	印刷	長谷川潔	堀口大學『詩集 砂の枕』表紙		1926年	
81	版画	長谷川潔	堀口大學『詩集 砂の枕』扉絵 別刷	木口木版	1926年	
82	版画	長谷川潔	海豚（堀口大學『詩集 砂の枕』裏表紙 別刷）	木口木版	1926年	
83	版画	長谷川潔	貝殻（堀口大學『詩集 砂の枕』装画 別刷）	木口木版	1926年	
84	版画	長谷川潔	海馬（堀口大學『詩集 砂の枕』装画 別刷）	木口木版	1926年	
85	書籍	長谷川潔／画	『竹取り物語』（本野誠一仏訳） <i>La Légende de la Demoiselle de Lumière</i>	Société du Livre d'Art, Paris	1933年	
86	書籍	ロベール・レイ／著	『長谷川 潔の肖像』 Robert Rey, <i>Portrait de Kiyoshi Hasegawa</i>	Manuel Bruker, Paris	1963年	
87	写真		ガレック画廊における創作銅版画個展会場にて	長谷川潔、妻ミチ子、画廊主人ローマン氏	1963年	
88	書簡	堀口大學	長谷川潔宛 手紙		1919年10月22日、 11月16日付	
89	書簡	堀口大學	長谷川潔宛 はがき		1919年11月15日付	
90	書簡	長谷川潔	堀口大學宛 手紙		1925年8月3日消印	
91	書簡	長谷川潔	堀口大學宛 はがき	ブラジル公使館宛		
92	書簡	萩原朔太郎	堀口大學宛 手紙		1923年1月6日消印	
93	資料		〈拓本〉坐禅達磨・渡江達磨	軸装		

第4章 『月下の一群』						
94	書籍	堀口大學	訳詩集『月下の一群』 初版	第一書房	1925年	
95	書籍	堀口大學	訳詩集『月下の一群』 初版 二部本	第一書房	1925年	
96	書籍	堀口大學	訳詩集『月下の一群』 初版 七部本	第一書房	1925年	
97	書籍	堀口大學	訳詩集『新編 月下の一群』	第一書房	1928年	
98	書籍	堀口大學	訳詩集『月下の一群』	白水社	1952年	
99	資料		『月下の一群』等のために収集した詩人の肖像写真			
100	写真		ブラジル、リオ・デ・ジャネイロにて ポール・フォールと		1921年	
101	書簡	ポール・フォール	堀口大學宛 手紙		1921年以降	
102	書簡	西條八十	堀口大學宛 はがき		1927年7月14日付	

【コラム】 堀口大學と第一書房文化						
103	写真		「ルリユ館さんの遺言」 舞台写真	三枚		
104	資料	堀口大學	作品帳		1930年―	
105	書簡	萩原朔太郎	堀口大學宛 手紙		1931年6月20日消印	
106	書籍	アポリネール 堀口大學／訳	『アポリネール詩抄』	第一書房	1927年	長岡市立中央図書館 ／HoA0488
107	書籍	フランシス・ジャム 堀口大學／訳	『フランシス・ジャム詩抄』	第一書房	1928年	長岡市立中央図書館 ／HoA0645
108	書籍	堀口大學	『堀口大學詩集』	第一書房	1928年	長岡市立中央図書館 ／HoA0594
109	書籍	堀口大學ほか／訳	『近代劇全集 第15巻 佛蘭西篇』	第一書房	1928年	長岡市立中央図書館 ／HoA0562

cat. no.	分類	作者等	作品名	備考	制作年・発行年	所蔵先／所蔵品番号
110	書籍	堀口大學ほか／訳	『近代劇全集 第20巻 佛蘭西篇』	第一書房	1929年	長岡市立中央図書館 ／HoA0584
111	書籍	堀口大學ほか／訳	『近代劇全集 第35巻 南欧篇』	第一書房	1928年	長岡市立中央図書館 ／HoA0561
112	書籍	アンドレ・ジイド 堀口大學／訳	『パリュウド』	第一書房	1931年	長岡市立中央図書館 ／HoA0719
113	書籍	アンドレ・ジイド 堀口大學／訳	『一粒の麦もし死なずば 上巻』	第一書房	1933年	長岡市立中央図書館 ／HoA0490
114	書籍	ボオドレエル 堀口大學／訳	『ボオドレエル感想私録』	第一書房	1933年	長岡市立中央図書館 ／HoA0707
115	書籍	マルグリット・オドゥウ 堀口大學／訳	『孤児マリイ』	第一書房	1937年	長岡市立中央図書館 ／HoA0324
116	書籍	マルグリット・オドゥウ 堀口大學／訳	『光ほのか』	第一書房	1938年	長岡市立中央図書館 ／HoA0416
117	書籍	マルグリット・オドゥウ 堀口大學／訳	『マリイの仕事場』	第一書房	1939年	長岡市立中央図書館 ／HoA0631
118	書籍	レイモン・ラディゲ 堀口大學／訳	『ドルチェル伯の舞踏會』	白水社	1931年	長岡市立中央図書館 ／HoA0746
119	書簡	三島由紀夫	堀口大學宛 はがき		1968年10月4日付	
120	書籍		『三猪牧子近代フランス歌曲獨唱會』	中川史郎編	1926年	長岡市立中央図書館 ／HoA1821
121	書籍		『三猪牧子現代フランス歌曲獨唱會』	三猪牧子編	1926年	長岡市立中央図書館 ／HoA1824
122	書籍		『第三回三猪牧子近代フランス歌曲獨唱會』	羽根田理一編	1927年	帆刈隆氏所蔵
123	書籍		『第四回三猪牧子現代歌曲独唱會』	佐野常雄編	1928年	長岡市立中央図書館 ／HoA1822

第5章 美への眼差し！ 限定本の秘められた世界

124	書籍	アンドレ・ルヴェール	『ルヴェールのデッサン フェードル』 André Rouveyre, <i>Dessins de Rouveyre, Phèdre</i>	Mercure de France, Paris	1910年	
125	書籍	アンドレ・ルヴェール	『ルヴェールのデッサン アムール（愛）の死』 André Rouveyre, <i>Dessins de Rouveyre, Mort de l'Amour</i>	Mercure de France, Paris	1911年	
126	書籍	ルミ・ド・グールモン／著 ルネ・キーファー／装幀	『バラ連祷』 Remy de Gourmont/René Kieffer, <i>Les Litanies de la Rose</i>	René Kieffer, Paris	1919年	
127	書籍	モーリス・ヴラマンク／著 アンドレ・ドラ／画	『ア・ラ・サンテ・デュ・コール』 A la Santé du Corps. <i>Poème par Maurice Vlaminck, Décoré par André Derain</i>	François Bernouard, Paris	1919年	
128	版画	マックス・ブルヒャルツ	『悪霊 F.M.ドストエフスキーの長編小説に添えた8点のリトグラフ』 Max Burchartz, <i>Die Dämonen; 8 Steinzeichnungen zu F.M.Dostojewskis Roman</i>	Paul Steegemann, Hannover	1919年	
129	書籍	ジュール・テリエ／著 オトン＝フリエス／画	『ル・バクト・ド・レコリエ・ジュアン』 Le pacte de l'écolier Juan. <i>Nouvelle en prose de Jules Tellier, décorée par Othon-Friesz</i>	François Bernouard, Paris	1920年	
130	書籍	ステファヌ・マラルメ／著 ラウル・デュフィ／画	『恋歌』 Stéphane Mallarmé, <i>Madrigaux. Images de Raoul Dufy</i>	Editions de la Sirène, Paris	1920年	
131	版画		『ヴィルヘルム・モルクナーの想い出に 7点のリノカット集』 In memoriam Wilhelm Morgner. <i>7 Linoleumschnitte</i>	Galerie Flechtheim, Düsseldorf	1920年	
132	版画		『ツァイト＝タスター ヨハネス・モルツァーンによる6点のエッチング集』 Zeit-Taster-6 Radierungen von Johannes Molzahn	Galerie Flechtheim, Düsseldorf	1921年	
133	版画	ルドルフ・グロースマン	『ボクサー 8点のリトグラフ集』 Rudolf Grossmann, <i>Boxer, acht Lithografien</i>	Galerie Flechtheim, Düsseldorf	1921年	
134A	版画		『ラスコーリニコフ マックス・ブルヒャルツによる10点のリトグラフ』 Raskolnikoff. <i>10 Steinzeichnungen von Max Burchartz</i>	Galerie Flechtheim, Düsseldorf	1921年	
134B	版画		ベルンハルト・ヘトガー『第一版画集 6点のリトグラフ』 Bernhard Hoetger, <i>Mappe I. 6 Lithographien</i>	Galerie Flechtheim, Düsseldorf	1922年	
135	書籍	カール・ヴィート	『地蔵 モーシェ・コーガンによる木版画で装飾された』 Karl With, <i>Jizo. Geschmückt mit Holzschnitten von Moyssey Kogan</i>	Galerie Flechtheim, Düsseldorf	1922年	
136	書籍	藤田嗣治	『日本昔ばなし』 Tsuguharu Foujita, <i>Légendes Japonaises</i>	Editions de l'Abeille d'or, Paris	1922年頃	
137	書籍	アンドレ・ルヴェール／画	『パリジェンヌ』 André Rouveyre, <i>Parisiennes</i>	G. Crès & Cie	1923年	
138	書籍	イヴァン・ゴル、クレール・ゴル／著 マルク・シャガール／画	『一万回の朝ぼらけ』 Ivan et Claire Goll, <i>Dix Mille Aubes Huit Dessins de MARC CHAGALL</i>	Falaize, Paris	1951年	
139	書籍	レイモン・ラディゲ 堀口大學／訳	『ドニイズ』	日本限定版倶楽部	1933年	
140	書籍	アルチュール・ラムボオ 堀口大學／訳	『酔ひどれ船』	日本限定版倶楽部	1934年	長岡市立中央図書館 ／HoA0548
141	書籍	ルミイ・ド・グウルモン／著 ジョルジュ・デスパニャ／画 堀口大學／訳	『シモオヌ（田園詩）』	装鳥會	1934年	長岡市立中央図書館 ／HoA0718
142	書籍	ルミイ・ド・グウルモン 堀口大學／訳	『彼女には肉體がある』	装鳥會	1934年	長岡市立中央図書館 ／HoB0020
143	書籍	アルチュール・ランボオ 堀口大學／訳	『酔ひどれ船』	伸展社	1936年	長岡市立中央図書館 ／HoA0513
144	書籍	イヴァン・ゴル 堀口大學／訳	『馬來乙女の歌へる』	驢人荘	1937年	長岡市立中央図書館 ／HoA0798

cat. no.	分類	作者等	作品名	備考	制作年・発行年	所蔵先／所蔵品番号
145	書籍		『書物倶楽部』創刊號	装鳥會	1934年	長岡市立中央図書館 ／HoC1884
146	書籍		『書物倶楽部』第1巻第2號 合併特輯號（複製）	装鳥會	1934年	長岡市立中央図書館 ／HoC0561

第6章 美への眼差しⅡ コクトーのデッサン

147	書籍	ジャン・コクトー	『喜望峰』 Jean Cocteau, <i>Le Cap de Bonne-Espérance</i>	Editions de la Sirène, Paris	1918年刊行	
148	書籍	ジャン・コクトー	『雄鶏とアルルカン』 Jean Cocteau, <i>Le Coq et l'Arlequin</i>	Editions de la Sirène, Paris	1918年刊行	
149	書籍	ジャン・コクトー	『ピカソへのオード』 Jean Cocteau, <i>L'Ode à Picasso</i>	François Bernouard, Paris	1919年刊行	
150	書籍	ジャン・コクトー	『ポトマック』 Jean Cocteau, <i>Le Potomak</i>	Société Littéraire de France	1919年刊行	
151	書籍	ジャン・コクトー	『白紙』 Jean Cocteau, <i>Carte Blanche</i>	Editions de la Sirène, Paris	1920年刊行	
152	書籍	ジャン・コクトー	『ノス・マサクレ』 Jean Cocteau, <i>La Noce Massacrée</i>	Editions de la Sirène, Paris	1921年刊行	
153	書籍	ジャン・コクトー	『用語集』 Jean Cocteau, <i>Vocabulaire</i>	Editions de la Sirène, Paris	1922年刊行	
154	書籍	ジャン・コクトー	『平調曲』 Jean Cocteau, <i>Plain-Chant</i>	Librairie Stock	1923年刊行	
155	書籍	ジャン・コクトー	『山師トマ』 Jean Cocteau, <i>Thomas l'Imposteur</i>	Editions de la N. R. F.	1923年刊行	
156	書籍	ジャン・コクトー	『エッフェル塔の花嫁花婿』 Jean Cocteau, <i>Les Mariés de la Tour Eiffel</i>	Editions de la N. R. F.	1924年刊行	
157	書籍	ジャン・コクトー	『ボエジー 1916-1919』 Jean Cocteau, <i>Poésie 1916-1919</i>	Editions de la N. R. F.	1924年刊行	
158	書籍	ジャン・コクトー	『ボエジー 1916-1923 第2巻』 Jean Cocteau, <i>Poésie 1916-1923</i>	Editions de la N. R. F.	1924年刊行	
159	書籍	ジャン・コクトー	『天使ウルトビーズ』 Jean Cocteau, <i>L'Ange Heurtebise</i>	Librairie Stock	1925年刊行	
160	書籍	ジャン・コクトー	『ジャック・マリタンへの手紙』 Jean Cocteau, <i>Lettre à Jacques Maritain</i>	Librairie Stock	1926年刊行	
161	書籍	ジャン・コクトー	『療養所』 Jean Cocteau, <i>Maison de Santé</i>	Editions Briant-Robert	1926年刊行	
162	書籍	ジャン・コクトー	『オペラ』 Jean Cocteau, <i>Opéra, Oeuvres Poétiques 1925-1927</i>	Librairie Stock	1927年刊行	
163	書籍	ジャン・コクトー	『オルフェ』 Jean Cocteau, <i>Orphée</i>	Librairie Stock	1927年刊行	
164	書籍	ジャン・コクトー	『世俗の神秘』 Jean Cocteau, <i>Le Mystère Laïc</i>	Editions des Quatre-Chemins	1928年刊行	
165	書籍	ジャン・コクトー	『オイディプス王／ロミオとジュリエット』 Jean Cocteau, <i>Edipe-Roi/Roméo et Juliette</i>	Librairie Plon	1928年刊行	
166	書籍	ジャン・コクトー	『恐るべき子供たち』 Jean Cocteau, <i>Les Enfants Terribles</i>	Editions Bernard Grasset	1929年刊行	
167	書籍	ジャン・コクトー	『間接批評の試み』 Jean Cocteau, <i>Essai de Critique Indirecte</i>	Editions Bernard Grasset	1932年刊行	
168	書籍	ジャン・コクトー	『地獄の機械』 Jean Cocteau, <i>La Machine Infernale</i>	Editions Bernard Grasset	1934年刊行	
169	書籍	ジャン・コクトー	『記念写真（わが青春記）』 Jean Cocteau, <i>Portraits Souvenir</i>	Editions Bernard Grasset	1935年刊行	
170	原稿	ジャン・コクトー	『日本への挨拶』 Jean Cocteau, <i>Salut au Japon</i>		1936年	
171	原稿		ジャン・コクトーの言葉 堀口大學訳		1936年	
172	素描	ジャン・コクトー	富士山	色紙	1936年	
173	素描	ジャン・コクトー	富士山	色紙	1936年	
174	資料	ジャン・コクトー	コクトー似顔絵入りの新聞切抜 他			
175	写真		コクトーの写真切抜			
176	書簡	ジャン・コクトー	堀口大學宛 手紙			
177	書簡	堀口大學	コクトー宛 手紙（下書き）		1946年12月5日高田発	
178	原稿	堀口大學	「ジャン・コクトーの死と日本」	NHK国際放送欧米向け（仏語）	1963年10月21日	
179	資料	藤田嗣治	「コクトーと江戸時代」切抜	掲載誌不明		
180	写真		藤田嗣治とマドレーヌ		1934年	
181	写真		藤田嗣治とマドレーヌから贈られた写真			
182	書籍	ジャン・コクトー アンドレ・ロート／画	『寄港地』 Jean Cocteau/André Lhote, <i>Escales</i>	Editions de la Sirène, Paris	1920年	
183	書籍	ジャン・コクトー 堀口大學／訳	『オルフェ 戯曲』	第一書房	1929年	長岡市立中央図書館 ／HoA0499
184	書籍	ジャン・コクトー 堀口大學／訳	『ジャック・マリタンへの手紙』	第一書房	1931年	長岡市立中央図書館 ／HoA0678
185	書籍	ジャン・コクトー 堀口大學／訳	『阿片』	第一書房	1932年	長岡市立中央図書館 ／HoA0423
186	書簡	小林秀雄	堀口大學宛 はがき		1931年3月	

【コラム】 サン＝テグジュペリ『夜間飛行』 —時代の暗闇のなかで—

187	書籍	サン＝テグジュペリ	『夜間飛行』 Antoine de Saint-Exupéry, <i>Vol de Nuit</i>	Gallimard, Paris	1932年	
188	書籍	パトリック・ケッセル	『サン＝テグジュペリの生涯』 Patrick Kessel, <i>La vie de Saint-Exupéry, les albums photographiques</i>	Gallimard, Paris	1954年	
189	資料		映画『夜間飛行』に関する雑誌の切抜 他			
190	資料	堀口大學	作品帳		1944年-	

cat. no.	分類	作者等	作品名	備考	制作年・発行年	所蔵先／所蔵品番号
191		アントワヌ・ド・サン・テクジュベリ 堀口大學／訳	『夜間飛行 小説』	第一書房	1934年	長岡市立中央図書館 ／HoA0652
192		アントワヌ・ド・サン・テクジュベリ 堀口大學／訳	『南方飛行便 小説』	第一書房	1935年	長岡市立中央図書館 ／HoA0420
193		サン・テクジュベリ 堀口大學／訳	『人間の土地』	第一書房	1939年	長岡市立中央図書館 ／HoA0496
194		サン・テクジュベリ 堀口大學／訳	『空の開拓者 “人間の土地” 改題』	第一書房	1942年	長岡市立中央図書館 ／HoA0464
195		サン・テクジュベリ 堀口大學／訳	『空の開拓者』	河出書房	1944年	長岡市立中央図書館 ／HoA0209
196		サン・テクジュベリ 堀口大學／訳	『戦ふ操縦士』	河出書房	1945年	長岡市立中央図書館 ／HoA0238
197		アンドレ・ジイド 堀口大學／訳	『ソヴェト紀行修正』	第一書房	1938年	長岡市立中央図書館 ／HoA0260
198	写真		アンドレ・ジッド肖像写真		1940年2月	
199		夏目漱石／著 ジョルジュ・ボノー、堀口大學／訳	『こゝろ』 Natume Soseki, <i>Kokoro</i>	Gallimard, Paris	1939年	長岡市立中央図書館 ／HoA0700
200		日本文学報国会 編	『大東亜 詩集』	河出書房	1944年	長岡市立中央図書館 ／HoA1660

第7章 戦後 ー越後高田、そして葉山の日々ー

201	書籍	アポリネール デュフィ／画	『動物詩集 又はオルフェさまの供揃い』 Apollinaire, <i>The Metropolitane Museum of Art, New York</i>		1977年	
202	資料	堀口大學	アポリネール『動物詩集』校正			
203	書籍	ギヨーム・アポリネール ラウル・デュフィ／画	『動物詩集 又はオルフェさまの供揃い』	求龍堂	1978年	長岡市立中央図書館 ／HoA0882
204	書籍	北口正治	獣（アポリネール『動物詩集』）	木版画	1963年	
205	版画	田川憲	猫（アポリネール『動物詩集』）	木版画	1959年	
206	版画	田川憲	兔（アポリネール『動物詩集』）	木版画	1960年	
207	書籍	堀口大學	『夕の虹 詩集』	昭森社	1957年	長岡市立中央図書館 ／A0888
208	版画	小林ドンゲ	『夕の虹』挿絵別刷	エッチング	1957年頃	
209	版画	小林ドンゲ	『秋黄昏』函絵別刷	エッチング	1980年	
210	書籍	堀口大學	『饗宴にエロスを招いて』	昭森社	1960年	長岡市立中央図書館 ／HoB0026
211	版画	宮下登喜雄	『饗宴にエロスを招いて』挿絵	エッチング	1960年頃	
212	版画	宮下登喜雄	『饗宴にエロスを招いて』挿絵	エッチング	1960年頃	
213	版画	宮下登喜雄	『饗宴にエロスを招いて』挿絵	エッチング	1960年頃	
214	版画	宮下登喜雄	『饗宴にエロスを招いて』挿絵	エッチング	1960年頃	
215	書籍	イヴァン・ゴル 堀口大學／訳	『馬來乙女の歌へる イヴァン・ゴル詩集』	プレス・ビブリオマヌ	1967年	長岡市立中央図書館 ／HoA0518
216	書籍	堀口大學／詩 横田稔／画	『月光とピエロ 詩画集』	草原社	1976年	長岡市立中央図書館 ／HoA0940
217	版画	横田稔	月を持つ（『詩文集『秋黄昏』より）	銅版画	1980年	
218	版画	横田稔	若き詩人（『詩文集『秋黄昏』より）	リトグラフ	1980年	
219	原稿	堀口大學	「越路抄」組詩	原稿用紙		
220	資料	堀口大學	作品帳		1960年	
221	資料	堀口大學	作品帳「虹消えず 1」		1971年ー	
222	資料	堀口大學	作品帳「虹消えず 2」		1977年	
223	書籍	ボードレール 堀口大學／訳	『ボードレール詩集』	ほるぶ出版	1983年	長岡市立中央図書館 ／HoA0156
224	書籍	コクトー 堀口大學／訳	『コクトー詩集』	ほるぶ出版	1982年	長岡市立中央図書館 ／HoA0149
225	書籍	ヴェルレーヌ 堀口大學／訳	『ヴェルレーヌ詩集』	ほるぶ出版	1982年	長岡市立中央図書館 ／HoA0789
226	書籍	ランボー 堀口大學／訳	『ランボー詩集』	ほるぶ出版	1982年	長岡市立中央図書館 ／HoA0150
227	書籍	ヴァレリー 堀口大學／訳	『ヴァレリー詩集』	ほるぶ出版	1982年	長岡市立中央図書館 ／HoA0155

第8章 詩人の愛したうつわたち

228	写真	書斎にて		昭和前期	
229	写真	高田にて		1974年頃	
230	陶磁器	水滴 10点			
231	陶磁器	酒器 19点			
232	陶磁器	青磁皿			
233	陶磁器	高麗青磁皿		12世紀	

cat. no.	分類	作者等	作品名	備考	制作年・発行年	所蔵先／所蔵品番号
234	陶磁器		白磁壺		18世紀	
235	陶磁器		古染付台皿			
236	陶磁器		南京竜形皿			
237	陶磁器		南京染付七寸皿			
238	陶磁器		南京染付ざくろ形向付			
239	陶磁器		藍手古九谷七寸皿			
240	陶磁器		景德鎮 梅鶯染付南京皿			
241	陶磁器		李朝染付梅絵壺			
242	陶磁器		李朝白磁壺		18世紀	
243	陶磁器		竜柄染付中型壺			
244	陶磁器		周 素焼き壺			
245	陶磁器		古瀬戸瓶子			
246	陶磁器		神代壺		朝鮮5世紀	
247	陶磁器		印花瓶		鎌倉時代	
248	陶磁器		織部花瓶			
249	陶磁器		越州窯蓋物		宋	
250	陶磁器		古伊万里小井			
251	陶磁器		餅花手（藍）大皿			
252	陶磁器		伊万里大皿		18世紀前半	
253	陶磁器		古九谷鉢			
254	陶磁器		古伊万里鉢			
255	陶磁器		呉須赤絵皿			
256	陶磁器		青花模様大鉢			
257	陶磁器	北大路魯山人	「この葉」五寸皿平向			
258	陶磁器	齋藤三郎	手あぶり火鉢	2点		
259	陶磁器	齋藤三郎	佐藤春夫絵付け 灰皿			
260	置物		狛犬	一对		
261	工芸	初瀬川松太郎	漆小引き出し			
262	書	良寛	〈扇面断簡〉短歌「このみやの」	額装		
263	書	良寛	〈書幅〉漢詩「余郷有弟兄」	軸装		

エピソード – 詩人の書齋 –

264	遺品		机、椅子			
265	遺品		違い棚			
266	遺品		ペーパーナイフ			
267	遺品		モンブラン万年筆			
268	遺品		ステッキ			
269	遺品		ネクタイ、チーフ	日本製		
270	遺品		ネクタイ	フランス製		
271	遺品		文化勲章			
272	筆墨	堀口大學	応制歌 御題 魚	額装	1967年	
273	筆墨	堀口大學	「富士山高くつゝましく」	額装		
274	筆墨	堀口大學	「小学生」	色紙		
275	遺品	佐藤春夫	形見の品 陶印2顆			
276	筆墨	佐藤春夫	「別離」	軸装		
277	遺品	室生犀星	形見の品 唐三彩「唐瓦彩雞」			
278	遺品	三好達治	形見の品 月光菩薩仏頭			
279	筆墨	三好達治	「山なみ遠く」	軸装		
280	陶磁器	バブロ・ピカソ	顔とふくろう		1958年	
281	花器	武石弘三郎	銅製花入れ「若芽」			
282	陶磁器	武石弘三郎	形見の品 三代道八作 描銀龍之画 高足卮			



ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法

【趣 旨】

ミッキーマウスの誕生作から最新作「モアナと伝説の海」まで、約90年分の原画等約500点を展示。数々の傑作を生み出したウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオの想像力と技術の軌跡を紹介。

【総 括】

●評価すべき点

- ・平成30年度まで継続により同年度年報に掲載

●検討課題

- ・平成30年度まで継続により同年度年報に掲載

【開催日・その他】

＝2018年2月17日(土)～3月31日(土) (38日間)＝

※全体会期は2月17日(土)～5月13日(日) (78日間)

休 館 日：2月19日(月)、2月26日(月)、3月5日(月)、3月12日(月)、3月19日(月)

主 催：新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟、ディズニー・アート展新潟実行委員会

協 賛：大日本印刷

協 力：日本航空、日本通運、新潟県立美術館友の会

企画協力：日本科学未来館

特別協力：ウォルト・ディズニー・ジャパン

企画制作：ウォルト・ディズニー・アニメーション・リサーチ・ライブラリー

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、(公財)長岡市芸術文化振興財団、新潟県小学校長会、新潟県中学校長会、新潟県特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、読売新聞新潟支局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

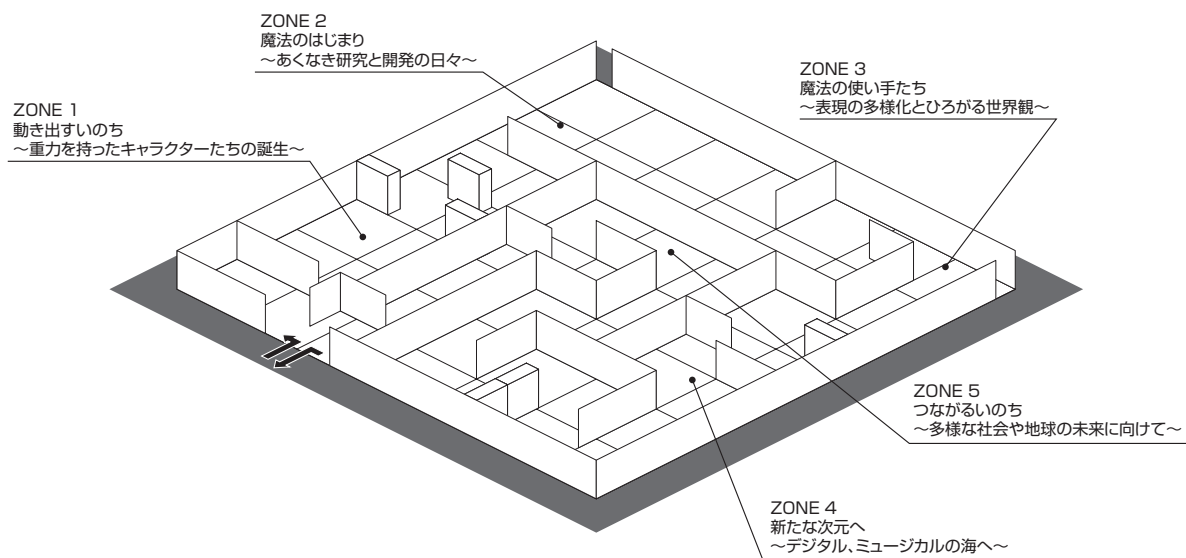
観 覧 料：一般……………1,500円 (1,300円) <1,300円>

大学・高校生………1,300円 (1,100円) <1,100円>

※ 中学生以下無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金

※ < > 内は前売券料金



【関連行事】

・美術鑑賞講座「ディズニー映画の魅力」

2月24日(土)14:00～15:30 講堂

講師：藤田裕彦（当館学芸課長）

参加者数：35名

・コンサート

「0歳からのミニコンサート@ディズニー・アート展」

（主催：（公財）長岡市芸術文化振興財団）

2月27日(火)10:30～11:00 講堂

出演：五十嵐郊味氏（ソプラノ）

参加者数：130名

「長岡少年少女合唱団ミニコンサート@ディズニー・アート展」

（主催：（公財）長岡市芸術文化振興財団）

3月18日(日)10:30～11:00 講堂

出演：長岡少年少女合唱団

参加者数：165名

・託児DAY（全4回）

（サービス提供：ホッとHOUSE）

各日3回

①10:00～12:00／②12:00～14:00／

③14:00～16:00

第1回：3月4日(日)

利用者数：3名

第2回：3月15日(木)

利用者数：2名

※第3回、第4回は平成30年度実施





【図 録】

仕 様：A 4判横型変形 296頁

編 集：齋藤睦志（株式会社クラフトワークス）

デザイン：彦根大助

編集協力：株式会社吉香、井筒理枝子、三井つう

印刷・製本：大日本印刷株式会社

発 行：日本テレビ報道網株式会社

内 容：ごあいさつ

寄稿

- ジョン・ラセター「アニメーションの歴史に学ぶ」
- アラン・メンケン「音楽とアニメーションで描かれる新しい世界」
- ジョン・マスカー、ロン・クレメンツ「自らの“山”を知る」
- メアリー・ウォルシュ「芸術を守り継いでいくために」

本書について

動き出すいのち 重力を持ったキャラクターたちの誕生
魔法のはじまり あくなき研究と開発の日々
魔法の使い手たち 表現の多様化とひろがる世界観
新たな次元へ デジタル、ミュージカルの海へ
つながるいのち 多様な社会や地球の未来に向けて
付記

寄稿

- 内田まほろ「ディズニーの発明——いのちを吹き込む魔法」
- おかだえみこ「ディズニーのなしとげたこと」
- 藤田裕彦「ディズニー・アニメーションの魅力」
- 叶精二「ディズニー長編を支えたアニメーターの系譜」
- 片淵須直（インタビュー）「ディズニーの作画方法から学べること」

展示作品リスト

【関連記事】

・平成30年度まで継続により同年度年報に掲載

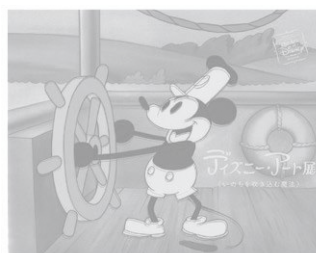
【観覧者数】

※2/17～3/31

有料観覧者数	当日	11,027
	前売	2,117
無料観覧者数	招待	1,081
	無料	865
	免除	6,157
総観覧者数		21,247
有料率（%）		61.9

音声ガイド貸出あり

担当 伊澤朋美



共 催 展

第72回新潟県美術展覧会 長岡展

【趣旨及び総括】

本県の美術の普及と向上を目的に1945年から始まった県内最大の公募展であり、本年度で72回を迎えた。日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真の7部門に、3,911点の応募があり、入賞・入選作品1,111点が選ばれた。

長岡展では、7部門の県展賞、奨励賞、新潟日報美術振興賞の入賞作品、長岡市及び周辺地域の入選作品、並びに審査員、委員の作品、無鑑査作品を展示し、5日間で2,892名と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

＝2017年6月28日(水)～7月2日(日)（5日間）＝

主 催：新潟日报社、新潟日報美術振興財団、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、上越市教育委員会、佐渡市教育委員会

後 援：新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市、柏崎市教育委員会、佐渡市、新潟県文化振興財団

特別協賛：東北電力

観覧料：500円、大学生以下無料

審査員：日本画：重政啓治 高橋天山

洋 画：坂谷和夫 町田博文

版 画：池田良二 平木美鶴

彫 刻：井田勝己 峯田敏郎

工 芸：武腰敏昭 三田村有純

書 道：高木聖雨 三宅相舟

写 真：田沼武能 中村征夫

【関連行事】

長岡展作品解説会

6月28日(水) 河面 元 (工芸)

石丸雨虹 (書道)

村山徳成 (洋画)

内山玉延 (書道)

6月29日(木) 池山阿有 (洋画)

荒川希伊 (書道)

倉茂義隆 (写真)

6月30日(金) 佐藤海雲 (書道)

坪谷幸作 (日本画)

小川 宏 (版画)

田辺千勝 (写真)

7月1日(土) 平澤実知雄 (写真)

松本保忠 (彫刻)

浦上義昭 (日本画)

7月2日(日) 目黒煌人 (書道)

関登美恵 (日本画)

今井 厚 (洋画)

担当 宇賀田和雄

第47回世界児童画展

【趣旨及び総括】

世界児童画展は1970年3月に大阪で開かれた万国博覧会を機に開催されて、今年で47回目を迎えた。この展覧会は、子どもたちの感性と理性の調和のとれた成長を願い、子どもたちが自らつくり出す造形文化の支援と、国境を越えて世界の人々を繋ぐ国際相互理解を目的として開催してきている。

今回は、日本と世界42の国と地域から約95,000点の応募があった。新潟県会場では、この中から選ばれた入選作111点と他県特別賞7点、および海外入賞作品122点を合わせた240点を展示した。

【開催日・その他】

＝2017年8月1日(火)～8月6日(日)（6日間）＝

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：公益財団法人 美育文化協会、TeNYテレビ新潟、新潟県立近代美術館

後 援：外務省、文部科学省、読売新聞社、新潟県教育委員会、公益財団法人 日本美術教育連合、全国造形教育連盟

協 力：べんてる株式会社

観覧料：無料

来場者数：1,032名

担当 宇賀田和雄

第21回新潟県立美術館 友の会作品展

【趣旨及び総括】

友の会会員の制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成9年度に企画、以来開催を続けている。

第21回展では、会員の作品を中心に展示し、またワークショップで制作した作品、美術鑑賞旅行をはじめ友の会の活動の様子を、近代美術館ギャラリーに展示した。

また、来場者にもワークショップと同様の作品を作成してもらい、楽しんでいただいた。

展示作業および来場者の対応は会員が中心となっており、開催期間中に165名の来場者があった。

【開催日・その他】

＝2017年10月3日(火)～10月9日(月)（7日間）＝

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：新潟県立美術館友の会

観覧料：無料

担当 佐藤夏代（友の会事務局）

第28回 MOA 美術館児童作品展 長岡会場

【趣旨及び総括】

MOA 美術館児童作品展は、子どもたちの創作活動の奨励をめざし「生命を尊ぶ心」や「心豊かな人間」形成を目的に、日本国内のみならず海外も含めて400を越える会場で開催されてきた。

長岡会場では、新潟県教育委員会のほか、長岡市・長岡市教育委員会をはじめとして、県内各メディアの後援を得て、1,637点の応募作品の中から179点が選ばれ、県民ギャラリーに10月11日（水曜日）から18日（水曜日）まで展示された。994名の方が観覧され、特に週末は多くの親子連れで盛況であった。

また、10月15日（日曜日）には表彰式が行われた。入賞した児童の作品がスクリーンに映し出される中、一人ひとり賞状が授与された。

児童及び児童の保護者・家族にとって県を代表する美術館で表彰・展示されたという経験は、かけがえのない思い出として心に残るものとなり、地域の芸術振興に大きく寄与する作品展・表彰式となった。

【開催日・その他】

＝2017年10月11日(水)～10月18日(水)（7日間）＝

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：MOA美術館、「MOA美術館長岡児童作品展」実行委員会

共 催：新潟県立近代美術館

後 援：文部科学省、外務省、厚生労働省、農林水産省、日本ユネスコ国内委員会、公益社団法人日本PTA全国協議会、公益社団法人全国子ども会連合会、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、全国新聞社事業協議会、公益財団法人海外日系人協会、全国連合小学校長会、新潟県長岡地域振興局、新潟県教育委員会、長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、(株)長岡新聞社、(株)エヌ・シー・ティ、FMながおか80.7

協 賛：公立大学法人長岡造形大学、北越銀行、大光銀行、長岡西病院、木村医院、べんてる、アオキ住建、イタヤ、コイズミ、中村量工業、小川塗装、藤塚工務店、太田家、サンパレス、新潟グリーン産業、本間材木店、山本板金、中山左官、池津電気商会、フィロ稲門塾、長部配管

観覧料：無料

担当 丸山実

第21回長岡市中学校 美術部作品展

【趣旨及び総括】

長岡市内の中学校美術部の活動の成果を発表する場として、今回が21回目の開催となる。今回は、16校255名、228点（平面219点 立体9点）の作品が展示された。

長岡悠久ライオンズクラブから事業を引き継いだ長岡造形大学が主催となつてから3回目の展覧会となる。地域連携事業として、中学校美術部の活動への参加や作品の展示企画、作品の講評、作品展の広報など、長岡造形大学が主体となり造形教育の活性化を目指した。

【開催日・その他】

＝2017年11月3日(金)祝～4日(土)（2日間）＝

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：長岡造形大学

共 催：新潟県立近代美術館、長岡悠久ライオンズクラブ

後 援：長岡市教育委員会

観覧料：無料

来場者数：765名

【関連行事】

作品講評会

日 時：11月3日(金)祝13：00～15：00

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

講 師：長谷川克義氏(長岡造形大学 美術・工芸学科 准教授)

岡谷敦魚氏(長岡造形大学 美術・工芸学科 准教授)

参加校：7校美術部員（東中、宮内中、西中、旭岡中、堤岡中、秋葉中）

担当 宇賀田和雄

第19回亀倉雄策賞受賞記念 渡邊良重展「絵をつくること」／ JAGDA 新人賞展2017 玉置太一・三澤遥・八木義博

【趣 旨】

JAGDA（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）初代会長の故亀倉雄策のコレクションを所蔵する館として、氏を讃えて創設された「亀倉雄策賞」の受賞作家作品展を継続開催することで、更なるグラフィックデザインの発展に寄与する。本年度も前回と同様、公立大学法人長岡造形大学、新潟県立近代美術館、JAGDAによる三者主催で実施。

展示内容としては、第19回亀倉雄策賞受賞作となった、渡邊良重の洋菓子のパッケージデザイン「AUDREY」をはじめ、これまで渡邊氏が手がけてきたイラストレーションの仕事や作品を紹介。

また、「JAGDA 新人賞」を受賞した玉置太一・三澤遥・八木義博の3名の各受賞作品および近作を集めた展覧会を同時開催。デザインに関心のある若年層を中心に盛況であった。

【開催日・その他】

＝2017年12月2日(土)～12月17日(日)（14日間）＝

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：公立大学法人長岡造形大学、新潟県立近代美術館、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会

協 力：クリエイションギャラリーG8

協 賛：株式会社プレジール、東リ株式会社

協 力：亀倉雄策賞事務局

会場構成：張替那麻建築事務所

（以上亀倉雄策賞展）

協 力：株式会社精美堂、株式会社電通オンデマンドグラフィック、株式会社フレームマン、株式会社ショウエイ、株式会社竹尾

（以上JAGDA 新人賞展）

観覧料：無料

来場者数：1,134名

【関連行事】

・開催記念講演

12月2日(土)

①11：00～12：00

講師：玉置太一氏・三澤遥氏・八木義博氏

※12：00より新人賞受賞者三氏によるギャラリートツアー（約30分）

②14：00～15：30

講師：渡邊良重氏

会場：講堂

参加者数：①110名、②153名

担当 伊澤朋美、藤田裕彦、濱田真由美

第48回 新潟県ジュニア美術展覧会長岡展

【趣旨及び総括】

感性豊かな子どもの育成と美術振興をねらいとして、継続している全県規模のコンクールである。今回は、県内664の幼稚園、小・中学校、特別支援学校等から31,642点の応募があった。9名の審査員により選ばれた2,062点を新潟市、長岡市、柏崎市、上越市の4会場に巡回展示した。

長岡展会場である当館には、10日間の会期中に2,302名の入場があり、家族で美術鑑賞を楽しむ場となった。

【開催日・その他】

会 場：

新潟展 2017年12月2日(土)～12月14日(休)
新潟県民会館ギャラリーにて

長岡展 2018年1月16日(火)～1月25日(休)
新潟県立近代美術館にて

柏崎展 2018年2月1日(休)～2月6日(火)
柏崎市ソフィアセンターにて

上越展 2018年2月10日(土)～2月15日(休)
上越市市民プラザにて

主 催：新潟日報社、新潟県教育委員会、新潟県立近代美術館、
新潟県美術教育連盟、新潟市教育委員会、長岡市教育
委員会、上越市教育委員会、柏崎市

後 援：新潟日報美術振興財団

入場料：無料

審査員（敬称略）：

幼稚園・保育園 松本健義（上越教育大学大学院教授）

特別支援学校 大嶋 彰（立教大学特任教授）

小学校1年 新野貴則（山梨大学准教授）

小学校2年 山田芳明（鳴門教育大学准教授）

小学校3年 結城和廣（長岡造形大学教授）

小学校4年 天形 健（福島大学元教授）

小学校5年 佐藤昌彦（北海道教育大学教授）

小学校6年 竹井 史（愛知教育大学教授）

中学校 佐藤哲夫（新潟大学教授）

担当 村山裕之

長岡造形大学2017年度 こどもものづくり大学校作品展覧会 ～こども×カタチ展～

【趣旨及び総括】

長岡造形大学主催事業「こどもものづくり大学校」は、ものづくりによって豊かな感性と創造力をはぐくみ、また日常生活では体験できない自由な発想の場を提供する、小学3～6年生を対象に行われる講座である。同大学のキャンパスを主な活動場所とし、6クラス156名の子どもが参加した。当館でもそのうちの1講座を学外ワークとして受け持ち、「ヨロズ自画像研究所」をテーマに11月12日及び19日に実施した。

本展覧会は、年間を通して鍛金、鍍金、ガラス、染色など、多彩な10講座を受講した子どもたちのユーモアあふれる作品の数々を展示し、「こどもものづくり大学校」の活動を紹介するものである。今年度は、144名の子どもたちによる319点の作品が展示され、会期中は、作品を出品した子どもの家族を中心とした来場者でにぎわった。

【開催日・その他】

=2018年3月17日(土)～3月25日(日)（8日間）=

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：長岡造形大学

共 催：新潟県立近代美術館

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、長岡新聞社、
BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟
テレビ21、NCT、エフエムラジオ新潟、FM PORT
79.0、FMながおか80.7

入場料：無料

来場者数：831名

担当 宮下東子

所蔵品展



うつくしい暮らし

【趣 旨】

主に県内ゆかりの作家による工芸作品や、燕市出身のグラフィックデザイナー・亀倉雄策がコレクションしたガラス器、陶磁器、絵画など、新潟県立近代美術館・万代島美術館が所蔵する作品に加え、県内の企業が生産しているデザイナーズチェアやカトラリーなどをあわせて展示し、暮らしを彩る「うつくしいもの」を紹介した。

併せて前年度（平成28年度）の新収蔵作品の一部を展示した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・展示に先立ち、亀倉雄策コレクション（亀倉雄策旧蔵の絵画、工芸品など）の再調査を実施。また、展示では当時の写真資料などを加え、生活空間でどのように使われていたかを実感をもって見ていただけるよう工夫した。
- ・当館の所蔵品にはない分野（プロダクトデザイン）を、県内企業からの借用で補い、伝統工芸から工業生産品まで、ものづくりの技術が現代にどのように継承されているかを紹介できた。
- ・会期中複数のイベントを実施し、参加者に好評であった。県内企業からの作品（製品）借用、新潟市美術館学芸員とのギャラリートークなど、外部の団体・企業や個人の協力を得るなどし、新しい試みを実施することができた。

●検討課題

- ・作品解説のキャプションなど、よりわかりやすく工夫する余地がまだあった。

【開催日・その他】

＝2017年9月16日(土)～11月5日(日)（47日間）＝

休館日：9月19日(火)、10月2日(月)、10月16日(月)、10月30日(月)

主 催：新潟県立万代島美術館

後 援：新潟市／新潟市教育委員会／新潟日報社／朝日新聞新潟総局／毎日新聞新潟支局／読売新聞新潟支局／産経新聞新潟支局／日本経済新聞社新潟支局／NHK新潟放送局／BSN新潟放送／N S T／TeNYテレビ新潟／UX新潟テレビ21／NCV新潟センター／エフエムラジオ新潟／FM PORT 79.0／FM KENTO／ラジオチャット・エフエム新潟／エフエム角田山ぽかぽかラジオ／エフエムしばた／燕三条エフエム放送株式会社

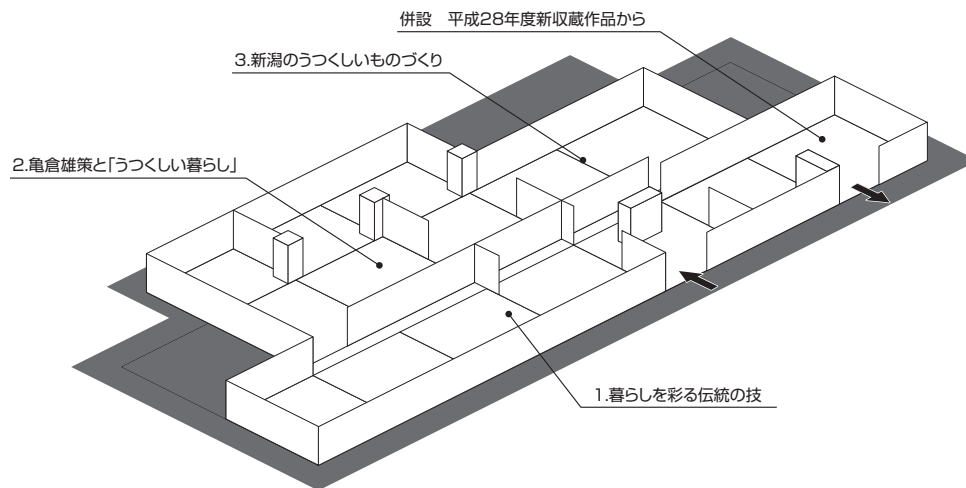
協 力：新潟県立美術館友の会

観覧料：一般……………310円（250円）

大学・高校生……………150円（120円）

※中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金



【関連行事】

- ・学芸員によるギャラリートーク
9月30日(土) 14:00~15:00 展示室
講 師：星野立子氏（新潟市美術館学芸員）、今井有（当館業務課長代理）
参加者数：25名
※NIIGATAアートリンク共催事業
- ・ワークショップ「うまのオーナメントをつくろう」
10月28日(土) ①11:00~/②13:00~/③14:30~
ロビー
講 師：山下真有氏・寺尾雅美氏（北欧工芸研究会）
参加者数：30名
- ・美術鑑賞講座「デザイナー・亀倉雄策のうつくしい暮らし」
10月21日(土) 14:00~15:30 NICO プラザ会議室
講 師：今井有（当館業務課長代理）
参加者数：23名
- ・当館学芸員による作品解説会
9月18日(月・祝)/10月15日(日) 14:00~ 展示室
参加者数：15名/10名

【関連記事】

- 新聞
9月29日(金) 新潟日報おとなプラス
「うつくしい暮らしの品々」
10月18日(水) 新潟日報
「展覧会へようこそ 所蔵品展「うつくしい暮らし」」
／今井有
- 雑誌
月刊ウインド 2017年12月号
「ウインドあらかると 新潟県立万代島美術館所蔵品展
うつくしい暮らし 感想」

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,747
	前売	—
無料観覧者数	無料	247
	招待	562
	免除	392
総観覧者数		3,948
有料率 (%)		69.6

担当 今井有

【出品リスト】

※ 所蔵先の表記がない作品は、新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵先
1 暮らしを彩る伝統の技					
1-001	齋藤 三郎	辰砂葡萄文大壺	1980年頃	磁器	
1-002	齋藤 三郎	白磁連弁文陰刻蓋付壺	1977年	磁器	
1-003	齋藤 三郎	白磁壺	1977年	磁器	
1-004	齋藤 三郎	白磁捻面取瓢形瓶（2客）	1965-70年	磁器	
1-005	齋藤 三郎	白磁鉄斑文瓶	1960-64年	磁器	
1-006	齋藤 三郎	灰釉大土瓶	1945-55年頃	陶器	
1-007	齋藤 三郎	色絵茄子文皿	1945-55年頃	磁器	
1-008	齋藤 三郎	色絵竹垣文金彩茗荷大皿	1962年	磁器	
1-009	齋藤 三郎	色絵唐辛子文大皿	1975年頃	磁器	
1-010	齋藤 三郎	色絵囲碁文皿	1965年頃	磁器	
1-011	齋藤 三郎	辰砂鉄絵掻落牡丹文大皿	1955-65年頃	磁器	
1-012	齋藤 三郎	色絵柚子文大皿	1970年頃	磁器	
1-013	齋藤 三郎	色絵干大根文大皿	1975年頃	磁器	
1-014	齋藤 三郎	色絵椿文松皮菱向付（5客組）	1965-69年	磁器	
1-015	齋藤 三郎	色絵梅文宝瓶（2客）	1975年頃	磁器	
1-016	齋藤 三郎	白磁蓋付小壺	1965-70年	磁器	
1-017	齋藤 三郎	染付梅花文拍子木香盒	1960年代中頃	磁器	
1-018	齋藤 三郎	色絵柚子香盒	制作年不明	磁器	
1-019	齋藤 三郎	染付曲家水滴	1975年頃	磁器	
1-020	齋藤 三郎	瑠璃六角水滴	制作年不明	磁器	
1-021	齋藤 三郎	青白磁水滴（大小各1点）	1965-70年	磁器	
1-022	三浦 小平二	青磁豆彩 茶入れ 中国舞姫文	1987年	磁器	
1-023	三浦 小平二	青磁絵皿シルクロード	1978年	磁器	
1-024	三浦 小平二	青磁鉢	1978年	磁器	
1-025	三浦 小平二	青磁蓋物「ラジャスタン文」	1991年	磁器	
1-026	高井 進	青瓷線文壺	2002年	磁器	
1-027	五代 伊藤 赤水	無名異壺	1988年	陶器	
1-028	亀倉 蒲舟	黄銅鷲文飾箱	1937年	彫金、黄銅	
1-029	玉川 宣夫	木目金花瓶	2009年	鍛金（木目金）、銅、銀、赤銅	
1-030	堀 政晴	鍍分花器「彩」	1997年	鍍金、銅、合金	
1-031	佐々木 象堂	蠟型鍍銅装耳小花入	1959年	蠟型鍍金、青銅	
1-032	山本 自炉	鍍銅花瓶	制作年不明	鍍金、銅	
1-033	鈴木 亨紡庵	越後上布（鼠地松竹梅山水風景経入絵羽絨文様越後上布）	1976年	染織、麻糸	
1-034	広川 松五郎	襖絵紅梅図（光琳梗概図）	1946年頃	染色、麻地	
1-035	広川 松五郎	風呂先屏風	1935年頃	闊縷染、絹	
1-036	堀 浄親	兜釜	1970年	鍍金、鉄	
1-037	吉田 醇一郎	飾り衣桁	1938年	漆工、岩絵具、木、漆	
1-038	目黒 順三郎	彫漆水葵文箱	1989年	彫漆、木、漆	
1-039	目黒 順三郎	彫漆小笹文箱	1988年	彫漆、木、漆	
1-040	内田 宗寛	黒塗大壺	1974年	漆工、木、漆	
1-041	内田 宗寛	黒塗中環	1982年	漆工、木、漆	
1-042	吉田 醇一郎	小硯箱	1944年	漆工、木、漆	
1-043	三代 宮田藍堂(宏平)	指輪 美豆波乃女	1980年頃	蠟型鍍金、金	
1-044	三代 宮田藍堂(宏平)	指輪 美豆波乃女	1980年頃	蠟型鍍金、金	
1-045	三代 宮田藍堂(宏平)	指輪 美豆波乃女	1980年頃	蠟型鍍金、金	
1-046	三代 宮田藍堂(宏平)	ブローチ 花籠	1980年頃	蠟型鍍金、銀	
1-047	三代 宮田藍堂(宏平)	ペンダント 海の城	1980年頃	蠟型鍍金、銀、真珠	
1-048	三代 宮田藍堂(宏平)	ブローチ 秘境	1980年頃	蠟型鍍金、金	
1-049	三代 宮田藍堂(宏平)	指輪 夜もすがら	1980年頃	蠟型鍍金、金	
1-050	宮田 脩平	ブローチ 机、椅子（5点）	1975年	鍍金、銀、ロジウムメッキ	

2. 亀倉雄策とうつくしい暮らし

2-001	亀倉 雄策	東洋レーヨン株式会社カレンダー	1957年	1957年	カレンダー（オフセット）
2-002	亀倉 雄策	東洋レーヨン株式会社カレンダー	1959年	1959年	カレンダー（オフセット）
2-003	亀倉 雄策	ニコンカメラ		1957年	ポスター（オフセット）
2-004	亀倉 雄策	EXPO'70		1967年	ポスター（シルクスクリーン）
2-005	亀倉 雄策	オンキヨーイメージ（コレクションシリーズNo.4）		1982年	ポスター（オフセット）
2-006	亀倉 雄策	ムジカクラブ（コレクションシリーズNo.2）		1982年	ポスター（オフセット）
2-007	亀倉 雄策	Design 19（コレクションシリーズNo.1）		1982年	ポスター（オフセット）
2-008	亀倉 雄策	The Language of Light（コレクションシリーズNo.3）		1982年	ポスター（オフセット）
2-009	亀倉 雄策	ルウシー・リィー展		1989年	ポスター（オフセット）
2-010	亀倉 雄策	北欧デザインの系譜展		1995年	ポスター（オフセット）
2-011	亀倉 雄策	ハーバート・バイヤー展		1986年	ポスター（オフセット）
2-012	亀倉 雄策	江戸京子ピアノリサイタル		1968年	ポスター（シルクスクリーン）

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵先
2-013	亀倉 雄策	ヒロシマアビールズ 1983	1983年	ポスター（オフセット）	
2-014	亀倉 雄策	草月92号	1974年2月	雑誌表紙	
2-015	亀倉 雄策	草月129号	1980年4月	雑誌表紙	
2-016	亀倉 雄策	草月131号	1980年	雑誌表紙	
2-017	亀倉 雄策	1981 草月年鑑	1981年	雑誌表紙	
2-018	海老原 喜之助	市場	1937年	油彩、板	
2-019	マッシモ・カンビーリ	ディアボロ	1954年	モノタイプ、紙	
2-020	ハーバート・バイヤー	Veil Mountain	1953年	油彩、板	
2-021	ポール・ランド	無題	1946年	水彩、紙	
2-022	南 桂子	不詳	制作年不明	油彩、アクリル、キャンバス	
2-023	イサム・ノグチ	女（リシ・ケシュにて）	1956年	鋳鉄、鉄	
2-024	ベン・ニコルソン	Painting 1946	1946年	油彩、キャンバス	
2-025	ルチオ・フォンタナ	空間概念 期待	1962年	水性塗料、布	
2-026	エンリコ・カステラーニ	無題	1964年	油彩、キャンヴァス	
2-027	マリノ・マリーニ	馬	1953年	テンペラ、裏打ちした紙	
2-028	猪熊 弦一郎	不詳	1963年	アクリル絵具、紙	
2-029	エミリオ・グレコ	裸婦	1976年	ペン、紙	
2-030	有元 利夫	無題	1983年	乾漆、手彩色（アクリル絵具）	
2-031	ルーシー・リー	鉢	1960年代	磁器	
2-032	スティグ・リンドベリ	花器 [スウェーデン、グスタフスベリ社製]	1950年頃	陶器	
2-033	スティグ・リンドベリ	カルネヴァルシリーズ [スウェーデン、グスタフスベリ社製]	1958年(発表年)	陶	
2-034	スティグ・リンドベリ	馬（スプリングレ） [スウェーデン、グスタフスベリ社製]	1960年(発表年)	陶	
2-035	スティグ・リンドベリ	魚 [スウェーデン、グスタフスベリ社製]	1959年	陶	
2-036	不詳	蜜蜂模様のボンボン入れ [フィンランド、アラビア社製]	制作年不詳	陶器	
2-037	ルート・ブリュク	蝶々（ベルホセット） [フィンランド、アラビア社製]	1958年頃	陶	
2-038	ルート・ブリュク	蝶々（ベルホセット） [フィンランド、アラビア社製]	1958年頃	陶	
2-039	ルート・ブリュク	蝶々（ベルホセット） [フィンランド、アラビア社製]	1958年頃	陶	
2-040	ルート・ブリュク	蝶々（ベルホセット） [フィンランド、アラビア社製]	1958年頃	陶	
2-041	ルート・ブリュク	蝶々（ベルホセット） [フィンランド、アラビア社製]	1958年頃	陶	
2-042	ルート・ブリュク	蝶々（ベルホセット） [フィンランド、アラビア社製]	1958年頃	陶	
2-043	カイ・フランク	花器 [フィンランド、ヌータヤルヴィ社製]	1958年	ガラス	
2-044	カイ・フランク	花器 [フィンランド、ヌータヤルヴィ社製]	1958年	ガラス	
2-045	サーラ・ホベア	花器 [フィンランド、ヌータヤルヴィ社製]	1957年	ガラス	
2-046	カイ・フランク	花器 [フィンランド、ヌータヤルヴィ社製]	1957年もしくは 1967年	ガラス	
2-047	ナニー・スティル	花器 [フィンランド、リーヒマエン・ラシ社製]	不詳	ガラス	
2-048		花器 [スウェーデン、ボダ社製]	1971年以前	ガラス	
2-049		花器	不詳	ガラス	
2-050		ガラス器	不詳	ガラス	
2-051		花器	不詳	ガラス	
2-052		花器	不詳	ガラス	
2-053		ヴェネチアンレースグラス [イタリア、ヴェニーニ社製]	不詳	ガラス	
2-054		花器「ハンカチ」 [イタリア、ヴェニーニ社製]	不詳	ガラス	
2-055		花器 [イタリア、ヴェニーニ社製]	不詳	ガラス	
2-056		ガラス器 [イタリア、ヴェニーニ社製]	不詳	ガラス	
2-057		ガラス瓶	不詳	ガラス	
2-058		ワイン瓶	18世紀と推定	ガラス	
2-059	オイバ・トイッカ	バード [フィンランド、ヌータヤルヴィ社製]	1972年以降	ガラス	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵先
2-060	オイバ・トイッカ	バード [フィンランド、ヌータヤルヴィ社製]	1972年以降	ガラス	
2-061	オイバ・トイッカ	バード [フィンランド、ヌータヤルヴィ社製]	1972年以降	ガラス	
2-062		鳥の置物 [スウェーデン製]	不詳	木、彩色	
2-063		デコイ	不詳	木、彩色	
2-064		デコイ	不詳	木、彩色	
2-065		デコイ	不詳	木、彩色	
2-067		小鳥笛 [デンマーク、ロイヤルコペンハーゲン社製]	不詳	陶	
2-068		小鳥笛 [デンマーク、ロイヤルコペンハーゲン社製]	不詳	陶	
2-069		鳥の置物 (13点) [スウェーデン製]	不詳	木、彩色	
2-070		絵皿 [メキシコ製]	不詳	陶器	
2-071		絵皿	不詳	陶器	
2-072		皿	不詳	陶器	
2-073		絵皿 [スペイン製]	不詳	陶器	
2-074		絵皿 [スペイン製]	不詳	陶器	
2-075		絵皿	不詳	陶器	

3. 新潟のうつくしいものづくり

3-001	剣持 勇	C-3150 アームレスチェア	1960年	籐 (ラタン)	株式会社ワイ・エム・ケー長岡
3-002	剣持 勇	S-3010 スツール	1961年	籐 (ラタン)	株式会社ワイ・エム・ケー長岡
3-003	剣持 勇	S-3020 スツール	1961年	籐 (ラタン)	株式会社ワイ・エム・ケー長岡
3-004	渡辺 力	QS-10 スツール (トリスツール)	1957年(発表年)	籐 (ラタン)	株式会社ワイ・エム・ケー長岡
3-005	柳 宗理	ステンレスカトラリー (全32種)	1974-2002年	ステンレス	日本洋食器株式会社
3-006	柳 宗理	黒柄カトラリー (全11種)	1982年	ステンレス、木(カバ材積層強化木)	日本洋食器株式会社
3-007	柳 宗理	ステンレスボウル (5種)	1960年	ステンレス	日本洋食器株式会社
3-008	柳 宗理	バンチングストレーナー (4種)	1999年	ステンレス	日本洋食器株式会社
3-009	柳 宗理	キッチンツール (6種)	1997年	ステンレス	日本洋食器株式会社
3-010	柳 宗理	ステンレス片手鍋 (18cm つや消し)	1997年	ステンレス	日本洋食器株式会社
3-011	柳 宗理	ミルクパン (蓋付き、つや消し)	2000年	ステンレス	日本洋食器株式会社
3-012	柳 宗理	ステンレスケトル (つや消し)	1994年	ステンレス	日本洋食器株式会社
3-013	渡辺 力	ユニットレー (3種)	1976年(1990年復刻)		日本洋食器株式会社
3-014	カイ・ボイスン	カトラリー "グランプリ" (全28種)	1938年(発表年)		株式会社大泉物産
参考資料 Lars Hedebo Olsen 書籍『KAY BOJESSEN LINJEN SKAL SMILE』			2014年		株式会社大泉物産

併設 平成28年度 新収蔵作品から

4-001	アンリ・オットマン	屏風の前の裸婦	1920年頃	油彩、キャンバス	
4-002	本間 ケイ	ナーガの旅	1996年	油彩、キャンバス	
4-003	森川 ユキエ	這	1959年	油彩、キャンバス	
4-004	戸張 公晴	TORSO	1990年頃	ブロンズ	
4-005	三木 健	個展の告知ポスター「APPLE+」	2015年	デジタル・プリント	
4-006	コイズミ アヤ	未知の信仰のための空の器 dialogue (対話)	1998年	木、鉛、アクリル、銅	
4-007	コイズミ アヤ	未知の信仰のための空の器 pursuit (追求)	1998年	木、鉛、アクリル、銅	
4-008	コイズミ アヤ	未知の信仰のための空の器 meditation (瞑想)	1998年	木、鉛、アクリル、銅	
4-009	コイズミ アヤ	未知の信仰のための空の器 link (環)	1998年	木、鉛、アクリル、銅	

追悼

4-010	舟越 直木	Chuckwill' s Widow	1993年	ブロンズ	
-------	-------	--------------------	-------	------	--

企画展



マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル

【趣 旨】

フィンランドを代表するデザインハウス、マリメッコの国内初となる大規模な巡回展。ファブリック約50点、ヴィンテージドレス約60点、デザイナーのスケッチなど、フィンランド・デザイン・ミュージアム所蔵の計200点以上の展示作品に加え、著名デザイナーへのインタビュー、ヘルシンキのマリメッコ本社にあるプリント工場の映像も展覧会のために撮り下ろされた。多彩な視点からマリメッコの60年以上にわたる歴史をたどり、個性あふれるデザイナーの仕事ぶりと活躍を紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・当館初のファッション関連の展示となり、ブランド自体の人気にも後押しされ、女性を中心に幅広い年代の来場者があった。
- ・当館の広さと天井高を活かし、巡回他会場とは異なる展示空間を造り出すことができた。
- ・にいがたもよう研究所の協力により開催したイベントでは多くの参加者を楽しんでいた。

●検討課題

- ・新聞、雑誌、テレビを中心とした従来の広報手段に加え、より効果的な、新しい広報手段を模索する必要性も感じられた。

【開催日・その他】

＝2017年4月1日(土)～6月11日(日) (67日間)＝

※全体会期は3月4日(土)～6月11日(日) (93日間)

休館日：4月10日(月)、4月24日(月)、5月8日(月)、5月22日(月)、6月5日(月)

主 催：新潟県立万代島美術館、UX新潟テレビ21、マリメッコ新潟展実行委員会、フィンランド・デザイン・ミュージアム、朝日新聞社、新潟日報社

協 賛：こだま印刷、アフタヌーンティー・ティールーム、アーケベルグループ ピアンベール、カーテン専門館デコワールド、万代シテイ ビルボードプレイス

後 援：フィンランド大使館、新潟市、新潟市教育委員会

協 力：Visit Finland(フィンランド政府観光局)、フィンエア、フィンエアーカーゴ

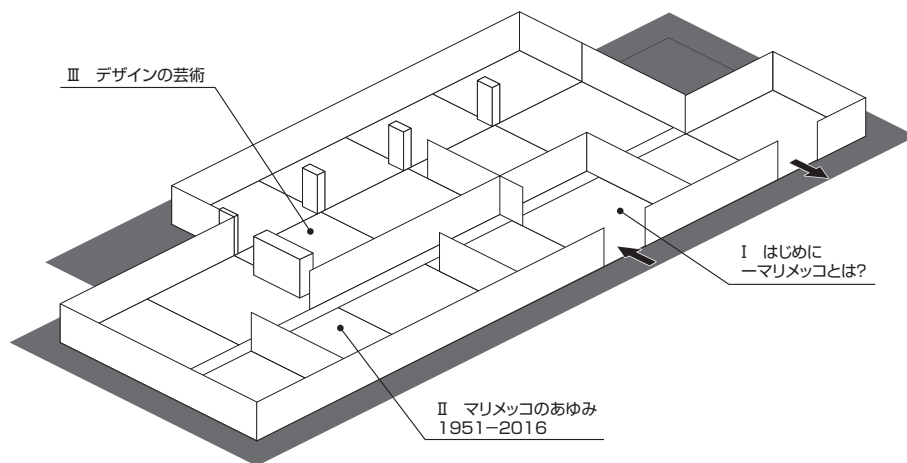
観覧料：一般……………1,100円(900円)〈900円〉

大学・高校生……………900円(700円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金



【関連行事】

- ・美術鑑賞講座
「近代日本のかわいいデザインー竹久夢二と杉浦非水を中心に」
4月23日(日)14:00～
NICOプラザ会議室
講師：池田珠緒（当館主任学芸員）
参加者数：21名
- ・ギャラリートーク
4月1日(土)、4月16日(日)、5月13日(土) 14:00～
展示室
当館学芸員
参加者数：30名、50名、65名
- ・ワークショップ
「にいがたもよう」オリジナルミニノートづくり
4月29日(土)13:00～
ロビー
参加者数：132名

【図 録】

- 仕 様：24.5×18.5cm 240頁
編集・構成：フィンランド・デザイン・ミュージアム、朝日新聞社
執 筆：ユッカ・サヴォライネン（フィンランド・デザイン・ミュージアム）、ハリー・キヴィリンナ（フィンランド・デザイン・ミュージアム）、平泉千枝（元ふくやま美術館）、廣田理紗（島根県立石見美術館）、高木友絵（朝日新聞社）、荻原由希子（朝日新聞社）
翻 訳：クリストファー・スティヴンズ、中村雅子、和田侑子、貝塚朱雅子
編集協力：岩田高明、大橋次郎、クロステック
表紙・函デザイン：田辺智子（田辺智子デザイン室）
デザイン：米山菜津子
制 作：青幻社
印 刷：こだま印刷
発 行：朝日新聞社
内 容：
ごあいさつ（日本側主催者）
はじめに（フィンランド・デザイン・ミュージアム館長 ユッカ・サヴォライネン）
マリメッコー1951年より続く、プリントづくりの芸術（www.marimekko.jp）
ESSAY 1 マリメッコとフィンランド・デザイン（ハリー・キヴィリンナ）
I はじめにーマリメッコとは？
II マリメッコの歩み1951-2016
1 創業者、アルミ・ラティア
2 ヴォッコ・ヌルメスニエーマリメッコ初の正社員デザイナー

- 3 マイヤ・イソラのコレクション
- 4 アンニカ・リマラと洋服
- 5 リーサ・スヴァント
- 6 国際的な評価
- 7 マリ・ヴィレッジ
- 8 ライフスタイル
- 9 新しいデザイナーたち
- 10 アルミ・ラティアの遺産
- 11 1991年、キルスティ・パーッカネンとの新たな門出
- 12 原点への回帰
- 13 マリメッコの今

Ⅲ デザインの芸術

- 1 ストライプと四角形
- 2 色と遊ぶ
- 3 《ルオント》《オルナメッティ》《ヨーナス》
- 4 アンニカ・リマラのデザイナーコインの表と裏
- 5 ひとつのモチーフのヴァリエーションー《タルハ》《ヨケリ》《ケイダス》
- 6 《ライネ》《イソ・ライネ》《リンッシ》
- 7 マイヤ・イソラ、絵画とファブリック
- 8 脇阪克二、絵画とファブリック
- 9 ベンッティ・リント、ファブリックと服
- 10 石本藤雄、スケッチとコレクション
- 11 図案から商品へ

INTERVIEW 1 ヴォッコ・ヌルメスニエミ

INTERVIEW 2 石本藤雄

REPORTAGE ファブリックができるまで—マリメッコ本社の工場を訪ねて

ESSAY 2 フィンランドの自然とマリメッコのデザイン（廣田理紗）

ESSAY 3 マリメッコの到来—なぜ日本でかくも愛されたのか（平泉千枝）

マリメッコ年表

デザイナープロフィール

主要参考文献

作品リスト



【関連記事】

●新聞

4月27日(木) 新潟日報

「展覧会へようこそ マリメッコ展 輝き続ける魅力に迫る」

／池田珠緒

その他

新潟日報（5/3、5/14、5/21、5/31）

〈連載〉

・朝日新聞「マリメッコ展へようこそ」（4/1、4/3、5/2、5/3、5/6、5/12、5/13、5/16）

【観覧者数】

※4/1～6/11

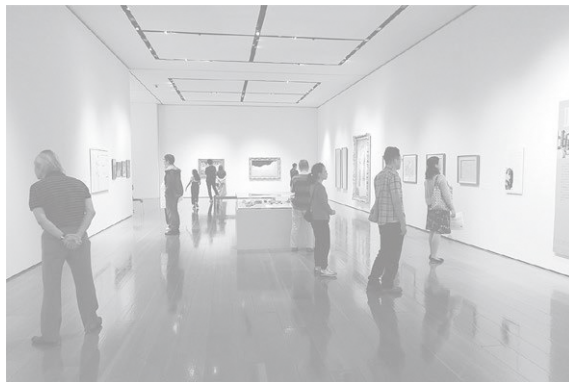
有料観覧者数	当日	14,661
	前売	6,900
無料観覧者数	招待	2,155
	無料	2,232
	免除	945
総観覧者数		26,893
有料率（%）		80.2

※全会期（3/3～6/11）

有料観覧者数	当日	20,646
	前売	9,725
無料観覧者数	招待	2,844
	無料	3,351
	免除	1,278
総観覧者数		37,844
有料率（%）		80.3

※本展の出品リストは平成28年度版年報を参照のこと。

担当 池田珠緒



レオナルド・フジタとモデルたち

【趣 旨】

フランスに渡り、「乳白色の下地」と呼ばれる独自の画面によって、時代の寵児となったレオナルド・フジタ（藤田嗣治、1886～1968年）。本展では、その画業の中心である人物を描いた作品約90点を、描かれたモデルに関連する資料約150点を交えて紹介し、画家のモデルに注ぐまなざしや制作の過程、さらにフジタの人間性までもが浮かび上がることを期した。また、フジタがモデル研究の集大成として挑んだ最初の群像大作表現となる4点の壁画が、フランス・エソンヌ県の特別協力によって出品された。

【総 括】

●評価すべき点

- ・過去の数あるフジタ展とは異なる視点で展覧会を構成し、画家の新たな側面に光を当てて発見と理解を促す機会を提供することができた。
- ・他の巡回先とは異なる独自のイベントを企画し、展覧会の魅力を高めながら来館者の満足度を上げることができた。また舞踊団 Noism との協働によるイベント開催は一つの成果として特筆される。

●検討課題

- ・著作権上の制約が、特に広報面で影響を受けることとなり、展覧会の周知方法が制限された点は無視できない。
- ・成人の美術愛好者には好評を得たと言えるが、その他の人々への関心を広げることができず、入館者数の伸び悩みと訴求面での課題が残った。

【開催日・その他】

＝2017年6月24日(土)～9月3日(日) (67日間)＝

休 館 日：6月26日(月)、7月10日(月)、7月31日(月)、8月7日(月)、8月21日(月)

主 催：新潟県立万代島美術館、N S T、レオナルド・フジタとモデルたち新潟展実行委員会

共 催：新潟日报社

特別協力：ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会

後 援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランス日本、新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 賛：日本貨物航空、日本航空

協 力：新潟県立美術館友の会

企画協力：キュレーターズ

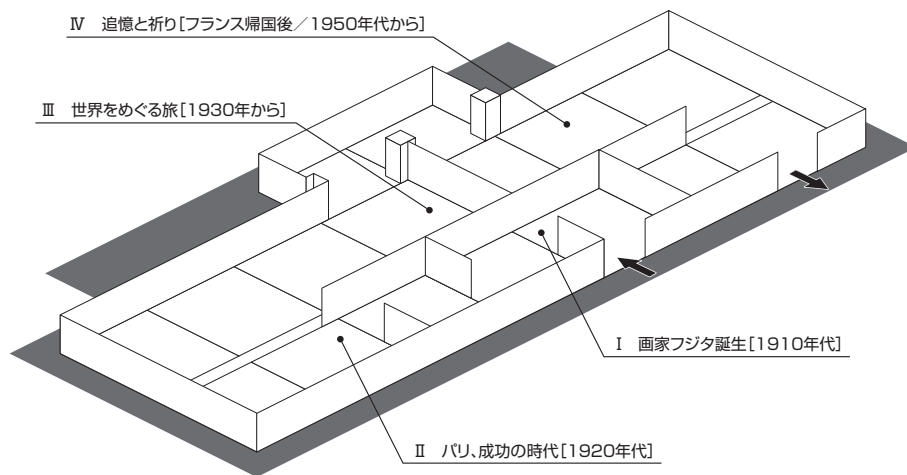
観 覧 料：一般……………1,200円 (1,000円) <1,000円>

大学・高校生……………1,000円 (800円)

※中学生以下無料

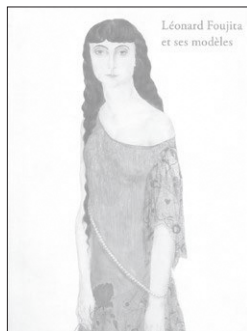
※() 内は有料20名以上の団体料金

※< > 内は前売券料金



【関連行事】

- ・ギャラリー・トーク「会田誠、フジタを語る」
7月23日(日)14:00~15:00 展示室
講 師：会田誠氏（美術家）
参加者数：200名
- ・講演会「絵画保存修復家の仕事～よみがえる絵画、そしてフジタ」
7月30日(日)14:00~15:30 NICOプラザ会議室
講 師：岩井希久子氏（絵画保存修復家）
参加者数：89名
- ・Noism 特別パフォーマンス
8月13日(日)18:45~19:10 展示室
出 演：Noism 1
参加者数：78名
- ・美術鑑賞講座「レオナルド・フジタと5人の妻たち」
7月9日(日)14:00~15:40 NICOプラザ会議室
講 師：澤田佳三（当館業務課長代理）
参加者数：57名
- ・学芸員によるギャラリー・トーク
7月2日(日)、8月6日(日)、8月27日(日)
各回14:00~15:00
参加者数：27名/30名/60名



【図 録】

- 仕 様：25.7×18.9cm 208頁
企画・構成：横山由紀子（DIC川村記念美術館）、水野昌美（キュレイターズ）、ユリス・エック＝コキール（キュレイターズ）
編 集：中村水絵（HeHe）
執 筆：アン・ル・ディベルデル、シルヴィ・ビュイッソン、佐藤幸宏、横山由紀子、原田久美子（秋田県立美術館／平野政吉美術財団）、澤田佳三（当館）、植田玲子（いわき市立美術館）、佐々木佳苗（秋田県立美術館／平野政吉美術財団）、水野昌美
翻 訳：小川隆久、ユリス・エック＝コキール
デザイン：林琢真、鈴木晴奈（林琢真デザイン事務所）
印 刷：サンエムカラー
発 行：キュレイターズ
内 容：ご挨拶
レオナルド・フジタと写真／アン・ル・ディベルデル
レオナルド・フジタとモデルの子供／シルヴィ・ビュイッソン
ポーズする人フジターモデル、裸体、彫刻をめぐって／横山由紀子
図解 レオナルド・フジタの人生と作品の変遷
1 画家フジタ誕生—1910年代
2 パリ、成功の時代—1920年代
藤田嗣治の裸体像をめぐって—乳白色の裸婦像から群像大作へ／佐藤幸宏
3 世界をめぐる旅—1930年から
追悼のマドレーヌ—藤田嗣治 パリへの郷愁／原田久美子
藤田嗣治の作品におけるモデルとしての民族と人種／佐藤幸宏
4 追憶と祈り—フランス帰国後／1950年代から
資料 論考原文／レオナルド・フジタ 年譜／主要参考文献／出品作品リスト



【関連記事】

●新聞

6月24日(土) 新潟日報

「愛注いだモデル生き生き レオナール・フジタ展 きょう開幕」

7月5日(水) 新潟日報おとなプラス

特集「藤田嗣治、新潟を行く／会田誠のフジタ評」

7月22日(土) 新潟日報

「お江戸じょんのび便り フジタの展覧会 恋人たちを包
括する力」／河路和香

7月31日(月) 新潟日報

「県立万代島美術館「会田誠、フジタを語る」戦争画を描
いたから、面白い」

8月11日(金・祝) 新潟日報

「押し入れの中の文化財 絵はがき歳時記 藤田嗣治とノ
ワイユ夫人」／山田俊幸

8月17日(木) 新潟日報

「展覧会へようこそ レオナール・フジタとモデルたち
稀有な画家の新たな顔」／澤田佳三

●雑誌

月刊ウインド 2017年9月号

「レオナール・フジタとモデルたち展 ギャラリー・トー
ク「会田誠、フジタを語る」感想」

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	7,878
	前売	1,522
無料観覧者数	招待	1,548
	無料	731
	免除	920
総観覧者数		12,599
有料率 (%)		74.6

担当 澤田佳三

【出品リスト】

※ 前期：6月24日(土)～7月30日(日)／後期：8月1日(火)～9月3日(日)

カタログNo	作家名	作品名	制作年	技法、素材	サイズ (cm)	所蔵	展示期間
I 画家フジタ誕生〔1910年代〕							
1	レオナルド・フジタ	婦人像	1909年	油彩、カンヴァス	60.3×45.7	東京藝術大学	
2	レオナルド・フジタ	フェルナンドとオウム	1917年	水彩、紙	36×22	個人蔵 (フランス)	
3	レオナルド・フジタ	フェルナンドの肖像、画家の妻	1917年	水彩、紙	22.4×15.4	個人蔵 (フランス)	
4	レオナルド・フジタ	チャーナ・オルロフの肖像	1915年	クレヨン、紙	20.3×17.5	個人蔵 (フランス)	
5	レオナルド・フジタ	女の肖像 (おそらくはジャンヌ・エビュテルヌ)	1916年	水彩、墨、紙	17×13.5	個人蔵 (フランス)	
6	アメデオ・モディリアーニ	フジタの肖像	1919年	鉛筆、紙	48.5×20	北海道立近代美術館	前期
7	レオナルド・フジタ	断崖の若いカップル	1917年	油彩、カンヴァス	73×92.4	ベルナルド・ビュフェ美術館	
8	レオナルド・フジタ	家族	1917年	水彩、紙	46.5×27	個人蔵 (フランス)	
9	レオナルド・フジタ	肖像 (おそらくはモディリアーニとジャンヌ)	1917年	水彩、紙	27.5×30.5	個人蔵 (フランス)	
10	レオナルド・フジタ	ダンス	1917年	水彩、紙	27.5×30.5	個人蔵 (フランス)	
12	レオナルド・フジタ	カーニユ、シェロンへの手紙	1918年	水彩、インク、紙	26×33.5	個人蔵 (フランス)	
14	レオナルド・フジタ	二人の女	1918年	油彩、カンヴァス	92.2×73.3	北海道立近代美術館	
II パリ、成功の時代〔1920年代〕							
15	レオナルド・フジタ	横たわる裸婦	1922年	油彩、カンヴァス	72×115	ニーム市美術館	
16	レオナルド・フジタ	横たわる女	1923年	油彩、カンヴァス	50.5×61	個人蔵 (フランス)	
17	レオナルド・フジタ	横たわる裸婦	1927年	油彩、カンヴァス	81×100	茨城県近代美術館	
18	レオナルド・フジタ	ユキの肖像	1928年	油彩、カンヴァス	33×24	個人蔵 (フランス)	
19	レオナルド・フジタ	座る女性と猫	1923年	油彩、カンヴァス	114×77	鹿児島市立美術館	
21	レオナルド・フジタ	胸抱く裸婦	1924年	墨、水彩、紙	91×69	下関市立美術館	後期
22	レオナルド・フジタ	二人の友達	1929年	油彩、カンヴァス	81×54	DIC川村記念美術館	
23	レオナルド・フジタ	二人の裸婦	1930年頃	エッチング、ルーレット、紙	56×37.8	埼玉県立近代美術館	
24	レオナルド・フジタ	立てる裸婦	1930年頃	エッチング、ルーレット、紙	56.6×37.8	埼玉県立近代美術館	
25	レオナルド・フジタ	横たわる裸婦	1930年頃	エッチング、ルーレット、紙	37.5×56	埼玉県立近代美術館	
26	レオナルド・フジタ	キキ・ド・モンパルナス	1928年	鉛筆、紙	92×67	個人蔵 (フランス)	
28	レオナルド・フジタ	髪を梳く裸婦	1931年	油彩、カンヴァス	40.8×33	DIC川村記念美術館	
30	レオナルド・フジタ	アンナ・ド・ノアイユの肖像	1926年	油彩、カンヴァス	167.1×108.4	DIC川村記念美術館	
31	レオナルド・フジタ	山田キクの肖像	1926年	絹本着色	50×27.5	個人蔵 (フランス)	
32	キク・ヤマト著、 レオナルド・フジタ挿画	『八景』	1927年	木版	26.4×20.2	個人蔵 (日本)	
34	レオナルド・フジタ	ライオンのいる構図	1928年	油彩、カンヴァス	300×300	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
35	レオナルド・フジタ	犬のいる構図	1928年	油彩、カンヴァス	300×300	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
36	レオナルド・フジタ	争闘Ⅰ	1928年	油彩、カンヴァス	300×300	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
37	レオナルド・フジタ	争闘Ⅱ	1928年	油彩、カンヴァス	300×300	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
38	レオナルド・フジタ	弓矢を持つキュービッド	1924年	鉛筆、トレーシングペーパー	34.7×35	個人蔵 (フランス)	
39	レオナルド・フジタ	裸の子供の立像	1928年	鉛筆、紙	74.5×29.5	下関市立美術館	後期
41	レオナルド・フジタ	半身裸婦像	1929年	墨、紙	89.7×64.2	下関市立美術館	前期
43	レオナルド・フジタ	格闘技	1927年頃	鉛筆、カルトン	99.4×80	鹿児島市立美術館	前期
44	レオナルド・フジタ	闘士たち	1928年	鉛筆、木炭、紙	128×123	個人蔵 (フランス)	
45	レオナルド・フジタ	倒れこむ巨人たち	1928年	鉛筆、紙	92.5×147	個人蔵 (フランス)	
III 世界をめぐる旅〔1930年から〕							
46	レオナルド・フジタ	眠れる女	1931年	油彩、カンヴァス	74.4×125	公益財団法人平野政吉美術財団	
47	レオナルド・フジタ	横臥裸婦	1931年	鉛筆、紙	47.8×60	秋田県立近代美術館	
48	レオナルド・フジタ	裸婦立像	1931年	鉛筆、紙	139.6×45.9	秋田県立近代美術館	
49	レオナルド・フジタ	裸婦立像	1932年	鉛筆、紙	140.1×42.6	秋田県立近代美術館	
50	レオナルド・フジタ	猫と裸婦	1932年	墨、紙	55.6×77.7	下関市立美術館	後期
52	レオナルド・フジタ	裸婦	1932年	鉛筆、紙	35×50.5	秋田県立近代美術館	
53	レオナルド・フジタ	横たわるマドレーヌ	1934年	水彩、紙	41×52.5	個人蔵 (フランス)	
55	レオナルド・フジタ	五人女	1935年	油彩、カンヴァス	192.5×128.5	公益財団法人平野政吉美術財団	
56	レオナルド・フジタ	一九〇〇年	1937年	油彩、カンヴァス	144×110.5	公益財団法人平野政吉美術財団	
57	レオナルド・フジタ	踊子	1939年	油彩、カンヴァス	79×64	公益財団法人平野政吉美術財団	
58	レオナルド・フジタ	私の夢	1947年	油彩、カンヴァス	65.5×100	新潟県立近代美術館・万代島美術館	
60	レオナルド・フジタ	三人裸婦	1930年	油彩、カンヴァス	142.5×124.6	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
61	レオナルド・フジタ	ペルーの子供	1932年	水彩、紙	37×25.8	アルトラスト (スイス)	
62	レオナルド・フジタ	メキシコの女性たち	1933年	水彩、紙	60×59	個人蔵 (フランス)	
64	ジャン・コクトー著、 レオナルド・フジタ挿画	『海龍』	1955年	銅版画	35.5×27.2	個人蔵 (日本)	
65	レオナルド・フジタ	北平の力士	1935年	油彩、カンヴァス	180.9×225.4	公益財団法人平野政吉美術財団	

カタログNo.	作家名	作品名	制作年	技法、素材	サイズ (cm)	所蔵	展示期間
66	レオナルド・フジタ	北京の素描	1934年	鉛筆、紙	38.8×28.7	公益財団法人平野政吉美術財団	
67	レオナルド・フジタ	北京の素描	1934年	鉛筆、紙	38×29	公益財団法人平野政吉美術財団	
68	レオナルド・フジタ	北京の素描	1934年	鉛筆、紙	37.8×28.7	公益財団法人平野政吉美術財団	
69	レオナルド・フジタ	北京の素描	1934年	鉛筆、紙	37.8×27.7	公益財団法人平野政吉美術財団	
70	レオナルド・フジタ	サハラ、テーブルを囲んで	1951年	インク、紙	23×35	アルトラスト (スイス)	
71	レオナルド・フジタ	サハラ、人物習作	1951年	インク、紙	25×32	アルトラスト (スイス)	

IV 追憶と祈り【フランス帰国後／1950年代から】							
72		「時代の証人の画家たち」展カタログ	1955-60年			個人蔵 (日本)	
72-1		第4回「幸福」 表紙：キース・ヴァン・ドンゲン	1955年				
72-2		第5回「肖像の復権」 表紙：パブロ・ピカソ	1956年				
72-3		第6回「スポーツ」 表紙：ジャック・ヴィヨン	1957年				
72-4		第7回「パリの女性たち」 表紙：ベルナルド・ピュフェ	1958年				
72-5		第9回「青春」 表紙：レオナルド・フジタ	1960年				
73	レオナルド・フジタ	ジャン・ロスタンの肖像	1955年	油彩、カンヴァス	100×81	カルナヴァレ博物館	
74	レオナルド・フジタ	カルチエ・ラタンのピストロ	1958年	油彩、カンヴァス	97.5×156	カルナヴァレ博物館	
75	レオナルド・フジタ	誰と戦いますか？	1957年	油彩、カンヴァス	130×195	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
76	レオナルド・フジタ	《誰と戦いますか？》下絵 (1)	1957年	鉛筆、紙	45×63	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
77	レオナルド・フジタ	《誰と戦いますか？》下絵 (2)	1957年	鉛筆、紙	46×64	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
78	レオナルド・フジタ	《誰と戦いますか？》下絵 (3)	1957年	鉛筆、紙	36×21	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
79	レオナルド・フジタ	《誰と戦いますか？》下絵 (4)	1957年	鉛筆、紙	90.4×48	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
80	レオナルド・フジタ	《誰と戦いますか？》下絵 (5)	1957年	鉛筆、紙	83×30	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
81	レオナルド・フジタ	《誰と戦いますか？》下絵 (6)	1957年	鉛筆、紙	85.5×38	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
82	レオナルド・フジタ	《誰と戦いますか？》下絵 (7)	1957年	鉛筆、紙	56×38	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
83	レオナルド・フジタ	座るモデルによる習作	1949年	青鉛筆、紙	65×50	アルトラスト (スイス)	
86	レオナルド・フジタ	花の洗礼	1959年	油彩、カンヴァス	130.5×97.5	パリ市立近代美術館	
89	レオナルド・フジタ	衝立	1955年	木、布、金属	181×133×5	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会	
90	レオナルド・フジタ	礼拝	1962-63年	油彩、カンヴァス	114.8×147	パリ市立近代美術館	
91	レオナルド・フジタ	シャツのボタンをかけるベルナルの肖像	1950年	インク、紙	36.2×24.8	個人蔵 (フランス)	
92	レオナルド・フジタ	ベルナルの肖像	1950年	インク、紙	21.5×15.5	個人蔵 (フランス)	
93	レオナルド・フジタ	ベルナルの肖像、思い出	1950年	インク、紙	21×17	個人蔵 (フランス)	
94	レオナルド・フジタ	ニコルの肖像	1958年	インク、紙	32×24	個人蔵 (フランス)	
95	レオナルド・フジタ	ニコルの肖像 (習作)	1958年	鉛筆、紙	25×16	アルトラスト (スイス)	
96	レオナルド・フジタ	小さな職業人たち	1960年	木版、紙 (59/261)		茨城県近代美術館	
96-11		ポスター貼り			19.0×19.0		前期
96-12		女ジゴロ			19.0×19.0		前期
96-13		音楽家			19.0×19.0		後期
96-14		すみれ売り			19.0×19.0		後期
96-15		管理人			23.5×47.0		後期
96-20		掃除人			19.0×19.0		前期
97	レオナルド・フジタ	猫のいる自画像	1927年頃	油彩、カンヴァス	54.3×45.5	三重県立美術館	
98	レオナルド・フジタ	猫のいる自画像	1927年	ドライポイント、紙 (ルーヴル美術館銅版画工房版)	45.5×35	個人蔵 (日本)	
101	レオナルド・フジタ	赤の自画像	1954年	油彩、カンヴァス	15.5×11	個人蔵 (フランス)	
102	レオナルド・フジタ	青の自画像	1954年	油彩、カンヴァス	18×13	個人蔵 (フランス)	

■関連資料

カタログNo.	資料名	点数	所蔵
DF	フランク・シャーマン旧蔵コレクション	12	個人蔵／伊達市教育委員会寄託、 保存管理：NPO法人噴火湾アートビレッジ
E	アトリエに残されたオブジェ (絵皿ほか)	21	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会
G	藤田嗣治資料	24	東京藝術大学
H	藤田嗣治収集品	51	公益財団法人平野政吉美術財団
T	鴉田家資料	39	個人蔵 (日本)



チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地

【趣 旨】

本展は、2014-15年に東京で約47万人の入場者を集めた話題の展覧会を新潟に巡回させたもの。デジタル領域を中心に独創的事業を展開するウルトラテクノロジスト集団チームラボの、世界中で高い評価を得ているデジタルアート作品と、全国各地で子どもたちを楽しませている体験型の作品を結集し、展示室いっぱいに展開した。おとなも子どもも、テクノロジーとアート、学びと遊びの本質を発見し、未来を切り開くクリエイティブな活動に自ら参加することになった。

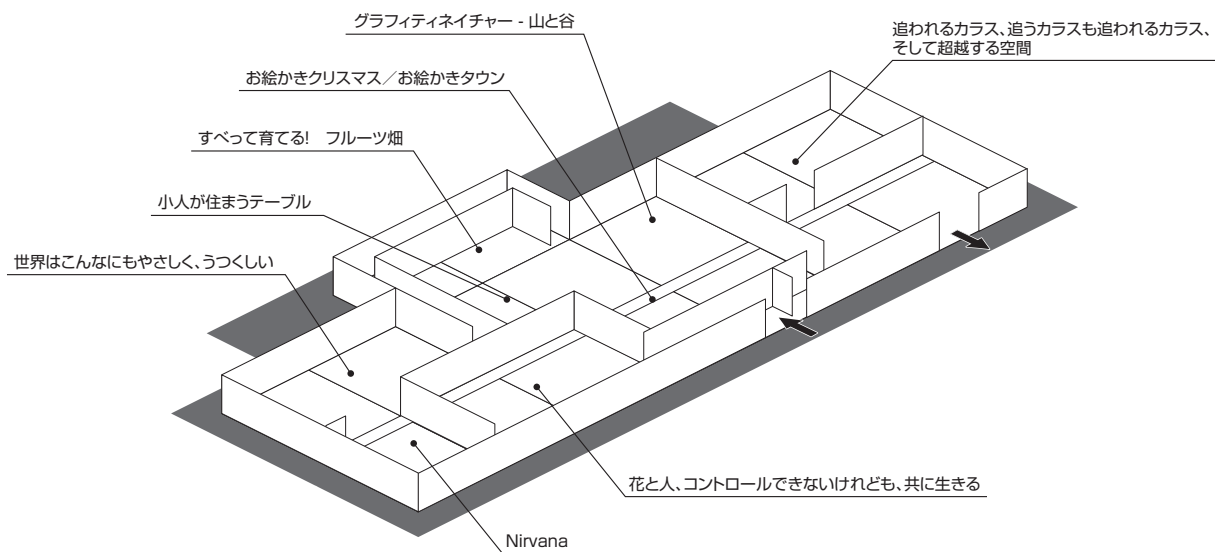
【総 括】

●評価すべき点

- ・デジタルアートを展開するチームラボの展覧会を誘致できたことで、これまでの美術の表現とは異なる最先端のアート作品を鑑賞・体験する機会を提供できた。
- ・大人も子供も一緒に楽しめる内容で、普段美術館を訪れる機会の少ない小さな子供連れの家族や障害者団体など幅広い客層に訴求できた。
- ・これまでの展覧会にはない日々の準備や調整が必要であったが、館のスタッフ全員の協力で最後まで運営でき、新たな経験を積むことができた。

●検討課題

- ・従来の展覧会と違って、より展覧会を楽しんでもらうためには、来館者の安全をはかりつつ、作品説明役も兼ねた場内スタッフを充実させる必要があったのだが、事前に十分な想定ができなかった。そのため、準備が後手に回り、予算の制限もあって、必要最小限の人員配置で乗り切らざるを得なかった。
- ・内容は、大人も子供も一緒に楽しめる質の高いものだったが、以前新潟市内で開催された子供向けのチームラボ展に由来する先入見を払拭できず、大人の鑑賞者数と思うように伸びなかった。
- ・特に説明なしでも十分楽しく鑑賞できるため、あらかじめ解説会などを設定しなかったのだが、実際は作品の表面的な美点だけで鑑賞者が満足してしまいがちだった。会期中から解説会を実施し説明を心掛けたが、作品の魅力丁寧に紹介する手法を予め準備する必要があったと思われる。



【開催日・その他】

＝2017年11月23日(木祝)～2018年3月4日(日) (90日間)＝
休館日：11月27日(月)、12月11日(月)、12月25日(月)、12月29日(金)～1月2日(火)、1月15日(月)、1月29日(月)、2月5日(月)、2月19日(月)

主 催：新潟県立万代島美術館、TeNYテレビ新潟、チームラボ新潟展実行委員会

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、読売新聞新潟支局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 賛：清水フードセンター

協 力：べんてる、王子ネピア

企画制作協力：日本テレビ、チームラボ

観覧料：一般……………1,400円 (1,200円) <1,200円>

大学・高校生………1,200円 (1,000円)

※中学生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

※ < > 内は前売券料金

【関連行事】

・作品解説会

1/30(火)、1/31(水)、2/6(火)、2/7(水)、2/13(火)、2/14(水)、2/20(火)、2/21(水)、2/27(火)、2/28(水) 展示室
参加者数：10回計117名

・ステッカーキャンペーン

①1/13(土) 先着100名

②2/2(金)、2/6(火)から2/9(金) 5日間 各日先着55名(計275名)

③2/14(水) 先着100名

・コスプレイベント

「チームラボ展 de コスプレガタケット」

※共催：ガタケット

12月2日(土)18:00～20:00 展示室

参加者数：40名

【図録】 なし

【関連記事】

●新聞

- 11月24日(金) 読売新聞
「走り出す「車」動くアート展 県立万代島美術館」
2月2日(金) 読売新聞
「チームラボ展 来場5万人突破 新潟・万代島美術館」
2月2日(金) 新潟日報おとなプラス
「他者と楽しむアートの世界」

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	42,490
	前売	6,172
無料観覧者数	招待	2,730
	無料	32,559
	免除	2,119
総観覧者数		86,070
有料率 (%)		56.5

担当 桐原浩



【出品リスト】（総点数10点）

No.	作品名	制作年
1	花と人、コントロールできないけれども、共に生きる	2015年 インタラクティブ・デジタル・インスタレーション
2	Nirvana (6分20秒)	2013年 モニター8面
3	世界はこんなにもやさしく、うつくしい	2011年 インタラクティブ・デジタル・インスタレーション
4	グラフィティネイチャー - 山と谷	2016年 インタラクティブ・デジタル・インスタレーション
5	すべて育てる！ フルーツ畑	2016年 インタラクティブ・デジタル・インスタレーション
6	小人が住まうテーブル	2013年 インタラクティブ・デジタル・インスタレーション
7-1	お絵かきクリスマス ※ 展示期間は11/23～12/24まで	2014年 インタラクティブ・デジタル・インスタレーション
7-2	お絵かきタウン ※ 展示期間は12/26～3/4まで	2014年 インタラクティブ・デジタル・インスタレーション
8	お絵かきタウンペーパークラフト	2015年
9	追われるカラス、追うカラスも追われるカラス、そして超越する空間 (4分20秒)	2017年 インタラクティブ・デジタル・インスタレーション



古代アンデス文明展

【趣 旨】

南米ペルー、ボリビア等の地域で繁栄したアンデス文明について、代表的な9つの文化を紹介し、この地に人類が到達した先史時代からスペイン人によるインカ帝国征服までの約1万5千年の文明史をたどった。国立科学博物館とTBSによる長年の「TBS アンデス・プロジェクト」の集大成として企画され、東京会場（国立科学博物館）に次ぐ2番目の巡回先として開催した。

ペルー、ボリビア及び日本国内の博物館、研究機関等から土器、織物、黄金製品、ミイラ等約200点の資料を借用し、遺跡等の豊富な映像を交えて紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・平成30年度まで継続により同年度年報に掲載

●検討課題

- ・平成30年度まで継続により同年度年報に掲載

【開催日・その他】

＝2018年3月21日(水・祝)～3月31日(土) (11日間)＝

※全体会期は3月21日(水・祝)～5月6日(日) (46日間)

休館日：4月16日(月)

主 催：新潟県立万代島美術館、BSN新潟放送、新潟日報社、
古代アンデス文明展新潟展実行委員会

特別協賛：三井ホーム、三井のリフォーム

協 賛：第四銀行

後 援：ペルー大使館、ボリビア大使館、新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社、新潟日報美術振興財団

協 力：ペルー文化省、ボリビア文化観光省、NTTドコモ、クントゥル・ワシ調査団、国立民族学博物館、東京大学総合研究博物館

企画制作：国立科学博物館、TBSテレビ

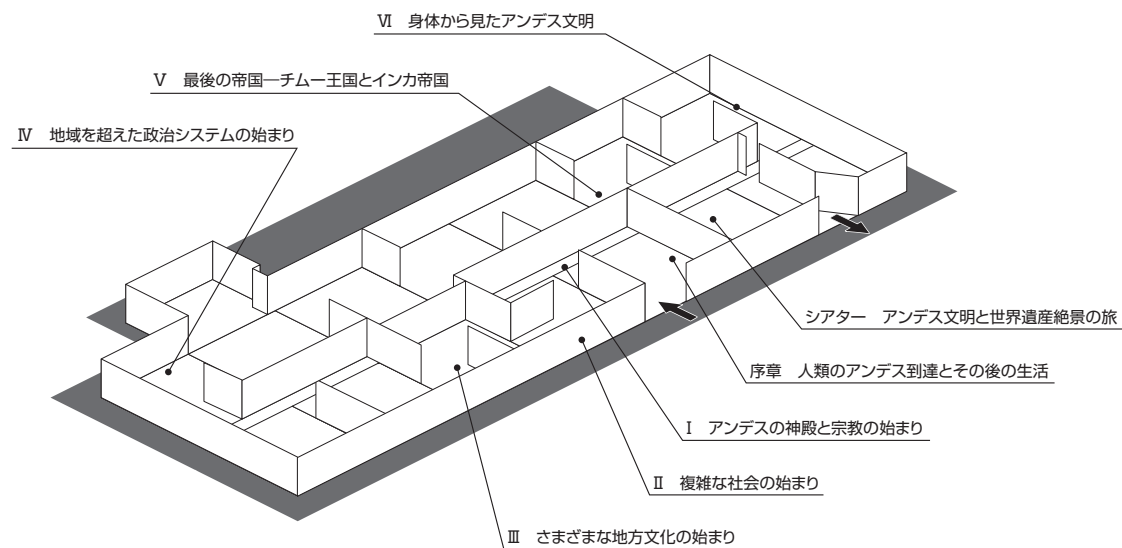
観覧料：一般……………1,300円 (1,100円) (1,100円)

大学・高校生……1,100円 (900円)

※ 中学生以下無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金

※ < > 内は前売券料金



【関連行事】

- ・講演会「古代アンデス文明 その誕生から滅亡まで」
3月21日(水) 14:00~15:30 NICOプラザ会議室
講 師：篠田謙一氏（国立科学博物館副館長 兼 人類研究部長）
参加者数：160名
- ・「#アンデスってなんです？」クイズ&スタンプラリー
展示室内でアンデス文明にまつわるクイズに答えながら、8つのスタンプを集めるスタンプラリーを実施した。

【図 録】

- 仕 様：300×215mm 272頁
編 集：島田泉（南伊利ノイ大学人類学科人類学教授）、篠田謙一（国立科学博物館副館長、人類研究部部长）
日本語翻訳監修：渡部森哉（南山大学人文学部人類文化学科教授）
執 筆：島田泉、篠田謙一、鶴見英成（東京大学総合研究博物館助教）、ジョン・W・リック（スタンフォード大学人類学科人類学准教授）、ジュゼッペ・オレフィチ（イタリア先コロンブス期考古学研究調査センター所長、ナスカ・プロジェクト責任者）、マルクス・ラインデル（ドイツ考古学研究所非ヨーロッパ文化考古学委員会、考古学者）、ジョニー・イスラ・クアドラード（ペルー文化省イカ支局、考古学者）、カルステン・ランバース（ライデン大学考古学部考古学准教授）、フランシス・M・ハヤシダ（ニューメキシコ大学人類学科人類学准教授）、エレナ・フィップス（織物研究者）、田井知二（千葉県教育振興財団文化財センター）、トム・D・ディレヘイ（ヴァンダービルト大学人類学科人類学教授）、ラファエル・ベガ＝センテノ・サラ＝ラフォッセ（ペルー・カトリカ大学人文学科准教授）、クラウディア・リベラ・カサノバス（ボリビア国立サン・アンドレス大学人類学・考古学部教授）、ウィリアム・H・イズベル（ニューヨーク州立大学ビンガムトン校人類学科人類学教授）、渡部森哉
翻 訳：武井摩利、渡部森哉、芝田幸一郎（法政大学経済学部准教授）
写真撮影：義井豊
地図作成：ケイリー・シャープ

図版作成：武井由莉

アート・ディレクション：高岡一弥

デザイン：後藤寿方

印刷：凸版印刷

発行：TBSテレビ

内容：主催者挨拶

ご挨拶（ペルー文化大臣 サルバドル・アレハンドロ・ホルヘ・デル・ソラール・ラバルテ、ボリビア多民族国文化観光大臣 ウィルマ・アラノカ・ママニ）

文化年表

目次

古代アンデス文明の特徴（島田泉）

身体から考えるアンデス文明（篠田謙一）

凡例

人類拡散地図 アンデスへの到達（篠田謙一）

序章 人類のアンデス到達とその後の生活

第1章 アンデスの神殿と宗教の始まり

カラル遺跡

コトシュ遺跡

第2章 複雑な社会の始まり

2-1：チャビンの宗教と、それに関連する文化

2-2：クントゥル・ワシ遺跡

コラム1 日本のアンデス考古学—コトシュ、クントゥル・ワシ、そして現在—（鶴見英成）

第3章 さまざまな地方文化の始まり

3-1：モチェ文化

3-2：ナスカ文化

コラム2 ナスカ文化の地上絵（ジオグリフ）（マルクス・ラインデル、ジョニー・イスラ、カルステン・ランバース）

コラム3 アンデスの家畜と栽培植物（島田泉）

コラム4 南米原産の栽培植物と世界の食文化（フランシス・M・ハヤシダ）

コラム5 文字を持たない文明？（島田泉）

第4章 地域を超えた政治システムの始まり

4-1：ティワナク文化

4-2：ワリ帝国

4-3：シカン文化

土器と織物のチャンカイ文化

コラム6 アンデスの織物：伝統と文化（エレナ・フィッブス）

第5章 最後の帝国—チムー王国とインカ帝国

5-1：チムー王国

5-2：インカ帝国

コラム7 アンデスの金属精錬—独自の発展と独特な意味（島田泉）

コラム8 市場も通貨もない経済（島田泉）

第6章 身体から見たアンデス文明

コラム9 日本人、ペルーでミイラ包みを開梱する（田井知二）

コラム10 時代を超えた貢献—過去と現在におけるアンデスの農業知識と農法（フランシス・M・ハヤシダ）

古代のアンデス

最初期の南米の人々（トム・D・ディレヘイ）

紀元前3千年紀のアンデスにおける定住生活と祭祀（ラファエル・ベガ＝センテノ）

信仰と権威：チャビン・デ・ワントルにおける宗教と初期的な統治（ジョン・リック）

さまざまな地方文化の始まり

ナスカ文化の発展と、アンデス文明におけるその長期的な意味（マルクス・ラインデル、ジョニー・イスラ）

カワチ祭祀センターの複雑な宗教的・社会的役割（ジュゼッペ・オレフィチ）

モチェとその周辺の文化（島田泉）

地域を超えた政治システムの完成と崩壊

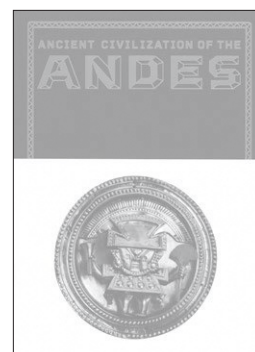
ティワナク：アンデス世界における宗教と権力（クラウディア・リベラ＝カサノバス）

ワリ帝国と首都ワリ、および中期ホライズンの中央アンデス（ウィリアム・H・イズベル）

シカン文化：ワリ後の北部海岸におけるその繁栄と遺産（島田泉）

チムーとインカ 帝国の完成と崩壊（渡部森哉）

対談 展覧会を巡る冒険（島田泉、篠田謙一）





【関連記事】

●新聞

3月13日(火) 新潟日報ふむふむ
「南米ペルーアンデス文明 21日から新潟で展覧会」
3月19日(月) 新潟日報
「古代アンデス文明展 県立万代島美術館21日から 南米に咲いた九つの文化」／篠田謙一（国立科学博物館）

その他 新潟日報（1／7、2／26、3／20、3／21）
長岡新聞（1／27）
十日町新聞（2／1）
十日町タイムス（2／20）
妻有新聞（3／3）

●テレビ

3月19日(月) BSN
「ゆうなび」／飯島沙耶子
3月23日(金) BSN
「見つけタネ」／篠田謙一
3月24日(土) BSN
「土曜ランチTV なじラテ」／飯島沙耶子

担当 飯島沙耶子

●ラジオ

3月29日(木) FM PORT「Mint フレーバー」／飯島沙耶子

【観覧者数】

※ 3/21～3/31

有料観覧者数	当日	2,622
	前売	911
無料観覧者数	招待	269
	無料	724
	免除	254
総観覧者数		4,780
有料率（％）		73.9

音声ガイド貸出あり

【出品リスト】

出品No.	資料名	文化、年代	所蔵者
序章 人類のアンデス到達とその後の生活（紀元前1万3000年頃～前3000年頃）			
1	パイハンの槍先型尖頭器	パイハン文化（前1万1000～前7800年）	ラルコ博物館
第1章 アンデスの神殿と宗教の始まり 先土器時代後期の文化【形成期早期】（紀元前3000年頃～前1500年頃）			
カラル遺跡			
2	未焼成の小型男性人像【レプリカ】	先土器時代後期（前3000～前1500年頃）	ペルー文化省・カラル考古学地区コレクション
3	未焼成の小型男性人像【レプリカ】	先土器時代後期（前3000～前1500年頃）	ペルー文化省・カラル考古学地区コレクション
4、5	線刻装飾のある骨製の笛2本【レプリカ】	先土器時代後期（前3000～前1500年頃）	ペルー文化省・カラル考古学地区コレクション
コトシュ遺跡			
6	交差した手（男の手）【レプリカ】	先土器時代後期（形成期早期）コトシュ・ミト期（前2500～前1800年）	東京大学総合研究博物館
7	交差した手（女の手）【レプリカ】	先土器時代後期（形成期早期）コトシュ・ミト期（前2500～前1800年）	東京大学総合研究博物館
8	交差した手の神殿（下）・ニットスの神殿（上）の重なり（1/50縮小模型）	先土器時代後期（形成期早期）コトシュ・ミト期（前2500～前1800年）	東京大学総合研究博物館
第2章 複雑な社会の始まり			
2-1 チャビンの宗教と、それに関連する文化（紀元前1300年頃～前500年頃）			
9	テーヨのオベリスク【レプリカ】	チャビン文化 形成期後期（前900～前500年）	国立民族学博物館
10、11	テノンヘッド	チャビン文化 形成期後期（前900～前500年）	ペルー文化省・国立チャビン博物館
12	サル人間の画像が彫られた石板	チャビン文化 形成期後期（前900～前500年）	ペルー文化省・国立チャビン博物館
13	ストロンブスの貝殻で作られたトランペット（ブトゥトゥ）	チャビン文化 形成期後期（前900～前500年）	ペルー文化省・国立チャビン博物館
14	鳥に似た生物が彫られた石板	チャビン文化 形成期後期（前900～前500年）	ペルー文化省・国立チャビン博物館
15	幾何学文様のある石製すり鉢	チャビン文化 形成期後期（前900～前500年）	ペルー文化省・国立チャビン博物館
16、17	動物象形石製すり鉢・すり棒	形成期後期（前900～前500年）	ラルコ博物館
18	自身の首を切る人物の象形鍔型土器	クビスニク文化 形成期中期（前1200～前800年）	ペルー文化省・国立チャビン博物館
19	ネズミ型象形鍔型土器	クビスニク文化 形成期後期（前800～前500年）	リマ美術館
20	刺青またはフェイスペイントをした小像	クビスニク文化 形成期中期（前1200～前800年）	リマ美術館
21	蛇・ネコ科動物土器	クビスニク文化 形成期中期（前1200～前800年）	ラルコ博物館
2-2 クントゥル・ワシ遺跡			
22	十四人面金冠【レプリカ】	形成期後期クントゥル・ワシ期（前800～前550年）	クントゥル・ワシ調査団
23	五面ジャガー金冠【レプリカ】	形成期後期クントゥル・ワシ期（前800～前550年）	クントゥル・ワシ調査団
24	金製双子・ジャガー鼻飾り【レプリカ】	形成期後期クントゥル・ワシ期（前800～前550年）	クントゥル・ワシ調査団
25	金製耳飾り【レプリカ】	形成期後期クントゥル・ワシ期（前800～前550年）	クントゥル・ワシ調査団
第3章 さまざまな地方文化の始まり			
3-1 モチェ文化（紀元後200年頃～後750/800年頃）			
26	座った男性をかたどった2色鍔型注口土器	サリナール文化	ラルコ博物館
27	ガイナソの双胴壺	ガイナソ文化	ラルコ博物館
28	儀式用ケーブをまとった人間型超自然的存在の像が付いた土器の壺	後期モチェ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
29	ネコ科動物の毛皮を模した儀式用“ケーブ”	後期モチェ文化	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
30	ネコ科動物の足をかたどりめっきをほどこした爪を付けた土製品	モチェ文化	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
31	銅にめっきをし線刻模様を描いたガラガラ	モチェ文化	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
32	アシカをかたどった鍔型単注口土器	モチェ文化	ラルコ博物館
33	リヤマの背に乗る男をかたどった土器	モチェ文化	ラルコ博物館
34	ウミガメをかたどった鍔型注口土器	前期モチェ文化	ラルコ博物館
35	成人男性のリアルな顔が付いた大型壺	モチェ文化	ラルコ博物館
36	チチャ造りをする男女を表した鍔型注口土器	モチェ文化	ペルー文化省・国立プリューニング考古学博物館
37	金地に象嵌された人面形の装飾品	モチェ文化	ペルー文化省・国立博物館
38～40	同じ人物の人生の3つの時期の顔を表現した肖像土器	モチェ文化	ラルコ博物館

出品No.	資料名	文化、年代	所蔵者
41	木製戦闘用棍棒	モチエ文化	ラルコ博物館
42	戦士の坐像が付いた鍔型注口土器	モチエ文化	ラルコ博物館
43	裸の捕虜をかたどった鍔型注口土器	モチエ文化	ラルコ博物館
44	石製棍棒の頭	モチエ文化	ラルコ博物館
45	2柱の主神が描かれた鍔型注口土器	モチエ文化	ラルコ博物館
46	トウモロコシの穂軸の姿をした神を描いた土器	モチエ文化	ラルコ博物館
47	走る人々を螺旋状に描いた鍔型注口土器	モチエ文化	ラルコ博物館
48	モチエの神の肖像土器	モチエ文化	ラルコ博物館
49	船上の海の神をかたどった土器	モチエ文化	ラルコ博物館
50	象嵌のマスク	前期モチエ文化 (?)	ペルー文化省・国立博物館
51	人間型のシカの坐像をかたどった鍔型注口土器	モチエ文化	ラルコ博物館
52	裸の男性の背中にネコ科動物がおぶさった鍔型注口土器	モチエ文化	ラルコ博物館
53	死んだ男性と生きている女性の性行為を描いた鍔型注口土器	モチエ文化	ラルコ博物館
54	シカを背負う死者をかたどった鍔型注口土器	モチエ文化	ラルコ博物館
55	擬人化したネコ科動物 [レプリカ]	モチエ文化 (古シパン王墓)	在日ペルー共和国大使館
56	戦士の像付き黄金の耳飾り [レプリカ]	モチエ文化 (シパン1号墓 (シパン王墓))	個人蔵

3-2 ナスカ文化 (紀元前200年頃～後650年頃)

57	刺繍マント	パラカス・ネクロポリス期 (前300～後200年頃)	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
58	4つの首が描かれた土製内弯鉢	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
59	植物を身につけた人間型神話的存在が描かれたヒョウタン容器	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
60	髪の毛とスポンディルス貝殻製ネックレス	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
61	階段状基壇建築の土製ミニチュア模型	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
62	クモが描かれた土器	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
63	2匹の魚が描かれた土製の皿	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
64	縄をかけられたラクダ科動物 (リヤマ?) が描かれた土製の皿	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
65	持ち手紐のついた織物バッグ (コカ袋?)	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
66	房の付いた織物バッグ	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
67	糸を巻き付けた房が付いたコカ袋	ナスカ文化? 南部高地?	ディダクティコ・アントニーニ博物館
68	幾何学文様の織物ベルト	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
69	使用痕のある木製農具	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
70	11本の管を持つ大型の土製パンパイプ (アンタラ)	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
71	帽子と胸飾りを身につけた人物の木像	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
72	人間型神話的存在が描かれた双注口壺	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
73	ネコ科動物の特徴を持つ人間型神話的存在が描かれた土製の鉢	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
74	8つの顔で装飾された砂時計型土器	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
75	幾何学模様と顔がある背の高い土器	ナスカ文化	ペルー文化省・イカ地方博物館 「アドルフ・ベルムデス・ジェンキンス」
76	投槍器を持つ2人の男が描かれた背の高いコップ形土器	ナスカ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館

第4章 地域を超えた政治システムの始まり

4-1 ティワナク文化 (紀元後500年頃～後1100年頃)

77～83	カラササヤで出土した金の儀式用装身具	ティワナク文化 (後500～1000年頃)	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビア ラパス市
84	かみ合う犬歯が生えた髑髏をかたどった銀の葬送用冠	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビア ラパス市
85	黒色玄武岩製のチャチャブマ (神話的な人間型ネコ科動物) 彫像 [レプリカ]	ティワナク文化	ティワナク遺跡石彫博物館
86	2人の男性の顔が彫られたティワナク様式の石のブロック	ティワナク文化	国立考古学博物館/ボリビア
87	リヤマをかたどった土製香炉	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ボリビア ラパス市

出品No.	資料名	文化、年代	所蔵者
88	ネコ科動物をかたどった多彩色土製香炉	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ポリビア ラパス市
89	ネコ科動物をかたどった多彩色土製香炉	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ポリビア ラパス市
90	ネコ科動物をかたどった儀式用香炉	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
91	ネコ科動物をかたどった多彩色土製香炉	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
92	猛禽類の頭を持つ神話的存在が描かれた多彩色土製ケロ	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ポリビア ラパス市
93	ティワナク様式の多彩色ケロ	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
94	コカを噛む男の多彩色肖像土器	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ポリビア ラパス市
95	装飾付き吸入用匙	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
96	猛禽類をかたどった土製浅鉢	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
97	ティワナク様式の木製嗅ぎタバコ皿	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
98	ストラップが付いたつづれ織のバッグ	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
99	四つの突起のある帽子	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ポリビア ラパス市
100	猛禽類の特徴を持つ神話的存在2体が描かれた土製深鉢	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ポリビア ラパス市
101	3匹のネコ科動物が描かれた土製深鉢	ティワナク文化	先コロンブス期貴金属博物館/ポリビア ラパス市
102	バリティ島で出土した儀礼用献酒容器	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
103	バリティ島で出土した儀礼用献酒容器	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
104	バリティ島で出土した肖像土器	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
105	放射状に光線を放つティワナク主神の顔が付いた土製のケロ(儀式用飲料容器)	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
106	バリティ島で出土したオウムの象形土器	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
107	カモを持つ男性の象形土器	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
108	バリティ島で出土した女性坐像土器	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
109	バリティ島で出土した太い胴を持つ男性の象形土器	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
110	バリティ島で出土したカボチャ状の胴を持つ男性の象形土器	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア
111	バリティ島で出土した台部が人頭の儀礼用鉢	ティワナク文化	国立考古学博物館/ポリビア

4-2 ワリ帝国(紀元後650年頃～後1000年頃)

112	杖を持つ神が描かれた多彩色壺	ワリ文化	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イボリト・ウナヌエ」
113	「杖を持つ神」が描かれた多彩色鉢	ワリ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
114	土製のコップ	ワリ文化	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イボリト・ウナヌエ」
115	文化英雄モチーフが描かれた多彩色鉢	ワリ文化	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イボリト・ウナヌエ」
116	横向きに従者が描かれた多彩色鉢	ワリ文化	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イボリト・ウナヌエ」
117	植物モチーフで飾られた多彩色鉢	ワリ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
118	人間の顔が描かれた多彩色鉢	ワリ文化	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イボリト・ウナヌエ」
119	土製のリヤマ像	ワリ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
120	多彩色装飾のある双胴壺	ワリ文化	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イボリト・ウナヌエ」
121	杖を持つ神の顔が描かれた多彩色の壺型コップ	ワリ文化	ペルー文化省・アヤクチョ地方歴史博物館「イボリト・ウナヌエ」
122	多彩色の水筒型壺	ワリ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
123	多彩色の水筒型壺	ワリ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
124	葦に毛糸を巻いて作られた葬送用頭飾り	ワリ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
125	茎にラクダ科動物の繊維を巻いたパンパイプ(アンタラ)	ワリ文化	ディダクティコ・アントニーニ博物館
126	つづれ織のチュニク	ワリ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
127	チュニクの一部(?)	ワリ文化	天野プレコロンビアン織物博物館
128	ワリのキーブ	ワリ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館

4-3 シカン文化(紀元後800年頃～後1375年頃)

129	金の胸飾り	シカン文化	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
130	鉢形の金の器	後期シカン文化	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館
131~135	打ち出し技法で装飾をほどこした金のコップ(アキリャ)5点セット	中期シカン文化	ペルー文化省・国立ブリュニング考古学博物館

出品No.	資料名	文化、年代	所蔵者
136	細かい細工がほどこされた金の装飾品	後期シカン文化	ペルー文化省・国立プリユニング考古学博物館
137	細かい装飾がほどこされた銀の浅鉢	後期シカン文化	ペルー文化省・国立プリユニング考古学博物館
138	打ち出し技法でシカン神を描写した金の飲料容器（アキリヤ）	中期シカン文化	ペルー文化省・国立プリユニング考古学博物館
139	シカン神が線刻されたヒ素青銅鑄造刃先	中期シカン文化	ペルー文化省・国立プリユニング考古学博物館
140	金めっきした儀式用ナイフ（トゥミ）	中期シカン文化	ペルー文化省・国立シカン博物館
141	貝殻と鉱物ビーズで作られたU字形の胸飾り	中期シカン文化	ペルー文化省・国立シカン博物館
142	貝殻と鉱物ビーズで作られたU字形の胸飾り	中期シカン文化	ペルー文化省・国立シカン博物館
143~144	ロコ神殿「西の墓」の中心被葬者の仮面と頭骨	中期シカン文化	ペルー文化省・国立シカン博物館
145~147	人間型の土製小像3体	中期シカン文化	ペルー文化省・国立シカン博物館
148,149	海岸カハマルカ様式の水差しと皿	後期シカン文化	ペルー文化省・国立プリユニング考古学博物館
150	土器に星形模様を付けるためのへら	中期シカン文化	ペルー文化省・国立プリユニング考古学博物館
151	装飾付きの壺	中期シカン文化	ペルー文化省・国立シカン博物館
152	生まれたての仔犬をくわえた親犬をかたどった単注口土器	中期シカン文化	ペルー文化省・国立シカン博物館
153	リヤマの頭部をかたどった黒色壺	中期シカン文化	ペルー文化省・国立シカン博物館
154	2種類の超自然的存在の4つの顔が付いた壺	中期シカン文化後期	ペルー文化省・国立シカン博物館

土器と織物のチャンカイ文化

155	頭を覆う布	チャンカイ文化	天野プレコロンビアン織物博物館
156	織物	チャンカイ文化	天野プレコロンビアン織物博物館
157	図案サンプル	チャンカイ文化	天野プレコロンビアン織物博物館
158	コップを持った男性の坐像をかたどった2色（白黒）の手握ね土器	チャンカイ文化	天野プレコロンビアン織物博物館
159	2色の装飾と魚の付いた円筒瓶	チャンカイ文化	天野プレコロンビアン織物博物館

第5章 最後の帝国—チムー王国とインカ帝国

5-1 チムー王国（紀元後1100年頃～後1470年頃）

160,161	木製柱状人物像	チムー文化	ペルー文化省・チャンチャン遺跡博物館
162	人間をかたどった祭祀用の杯（容器）	チムー文化	リマ美術館
163	儀礼用ガラガラ付き銀合金製品	チムー文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
164	木製のミニチュア建築物模型	チムー文化	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
165	木製の葬送行列のミニチュア模型	チムー文化	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館

5-2 インカ帝国（15世紀前半～1572年）

166	インカの象徴的なアリバコ壺	インカ文化	ラルコ博物館
167	淡水エビをかたどった金銀製鎧型注口容器	チムー・インカ期	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
168,169	金合金製の小型人物像（男性と女性）	インカ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
170	インカ帝国のチャチャボヤス地方で使われたキープ	インカ文化	ペルー文化省・ミイラ研究所・レイメンバ博物館
171,172	植民地期の多彩色ケロ	インカ・コロニアル文化	ラルコ博物館

第6章 身体から見たアンデス文明

173,174	人物象形土器の断片	モチェ文化	ペルー文化省・モチェ神殿群博物館
175	開頭術の跡のある男性頭骨	チリバヤ文化	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
176	変形頭蓋（小児）	チリバヤ文化	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
177	変形頭蓋	チリバヤ文化	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
178	変形頭蓋	チリバヤ文化	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
179	ミイラ	ワリ文化	ペルー文化省・国立考古学人類学歴史学博物館
180~187	男児のミイラとその副葬品 (180: ミイラ包み、181: いかだ模型、182: 鉢、183: 多彩色壺、 184: 多彩色壺、185: ケロ、186: 動物のミイラ、187: アンタラ（楽器）)	チリバヤ文化	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館
188~197	少女のミイラとその副葬品 (188: ミイラ包み、189: 多彩色壺、190: 多彩色壺、191: いかだ模型、 192: 多彩色壺、193: ヒョウタン型の容器、194: 櫛、195: 多彩色鉢、196: 桴（織物の道具）[レプリカ]、197: トップ（肩かけをとめるピン）[レプリカ])	チリバヤ文化	ペルー文化省・ミイラ研究所・チリバヤ博物館



イベント

講演会		会場：当館講堂				
開催日	時 間	関連展覧会名	演 題	講 師	内 容	参加者数
5月6日(土)	14:00～15:30	漢字三千年 —漢字の歴史と美—	漢字三千年記念講演会 「漢字の成り立ちにみる人生の知恵」	阿辻哲次氏(京都大学名誉教授)	企画展監修者である講師から、表意文字である漢字の特徴や漢字の成り立ちなどについてわかりやすく紹介。	160
7月23日(日)	14:00～15:30	生誕90年 加山又造展	戦後のチャンピオン 加山又造 共催：新潟県立美術館友の会	草薙奈津子氏(平塚市美術館長)	加山又造の生い立ち、初期から晩年の作品について、また加山の人間や功績、絵画以外の作品まで、幅広くわかりやすく紹介。	48
10月9日(月・祝)	14:00～15:30	没後90年 萬鐵五郎展	萬鐵五郎「近代」を越えて 生きた画家 共催：新潟県立美術館友の会	水沢勉氏(神奈川県立近代美術館長)	萬鐵五郎について、同時代の西洋の画家や平塚らいてうとの関連などをふまえてわかりやすく紹介。	53
12月2日(土)	11:00～12:00	第19回亀倉雄策賞記念 渡邊良重展	JAGDA 新人受賞者トークイベント	玉置太一氏(デザイナー) 三澤遥氏(デザイナー) 八木義博氏(デザイナー) (司会：山本敦氏)	デザイナーを目指したきっかけや新人賞を目指した理由などを中心にトーク。	110
	14:00～15:30		渡邊良重氏講演会	渡邊良重氏(デザイナー) (聞き手：吉川賢一郎氏)	自身の興味や現在のデザインの仕事について語る。	153
12月3日(日)	14:00～15:30	美と文学の探索者 堀口大學展	堀口すみれ子トークショー 「長岡ゆかりの詩人 フランス文学者 堀口大學は誰が育てたか」 主催：NPO 法人ながおか 未来創造ネットワーク 共催：長岡市 協力：新潟県立近代美術館、 長岡市立中央図書館	堀口すみれ子氏(堀口大學長女) 聞き手：中村智景氏(FM新潟パーソナリティ)	堀口大學の人物像を掘り下げ、当館と長岡市立中央図書館の展示作品にまつわるさまざまなエピソードを交えながら、人間・堀口大學に迫る。	140

計664名

美術鑑賞講座		会場：当館講堂				
開催日	時 間	関連展覧会名	講座名	講 師	内 容	参加者数
7月1日(土)	14:00～15:30	コレクション展第2期 「エッチングの楽しみ」	版画のはなし	松矢国憲(当館専門学芸員)	版画について、その歴史を中心に現在までの表現を見る。	14
8月5日(土)	14:00～15:30	生誕90年 加山又造展	加山又造—伝統と革新	宮下東子(当館学芸課長代理)	加山又造の作品について、俵屋宗達や平安時代の美術、西洋の作品などを交えて紹介、日本の美術とは何か考察。	45
10月28日(土)	14:00～15:30	没後90年 萬鐵五郎展	画家・萬鐵五郎の視点～藤田嗣治とくらべてみる	澤田佳三 (新潟県立万代島美術館業務課長代理)	同時期に生まれ、自画像を多く描いた画家として共通点をもつ萬と藤田について、多くの作品や当時の写真を交えて、画風や生き方の相違点を考察。	35
12月9日(土)	14:00～15:30	美と文学の探索者 堀口大學展	友情の双像と武石弘三郎	伊澤朋美(当館主任学芸員)	堀口大學と縁の深かった武石弘三郎が晩年に制作した《友情の双像》について、その生涯と代表作を交えて紹介。	27
1月6日(土)	14:00～15:30	美と文学の探索者 堀口大學展	堀口大學と美しい書物	平石昌子(当館学芸課長代理)	堀口大學が刊行した、美術史的に見ても高い水準の書物について、展覧会の出品作品を中心に解き明かす。	48
2月3日(土)	14:00～15:40	コレクション展第4期	異邦人たちのパリ	濱田真由美(当館主任学芸員)	20世紀前半に芸術の中心地となったパリの歴史的背景と、そこから誕生した新しい芸術動向について紹介。	21
2月24日(土)	14:00～15:30	ディズニー・アート展	ディズニー映画の魅力	藤田裕彦(当館学芸課長)	ディズニー・アニメーションの魅力を、ウォルト・ディズニーの生涯を追いつつ、それぞれの時代の代表作を踏まえながら紹介。	35
3月3日(土)	14:00～15:30	コレクション展第5期 「母たちの肖像」	母子像に親しむ	松本奈穂子(当館美術学芸員)	開催中のコレクション展「母たちの肖像」の展示品を交えながら、聖母子を中心に母子を描いた作品を紹介。	7

計232名

ワークショップ

開催日	時 間	関連展覧会名	ワークショップ名	講 師	会 場	内 容	参加者数
4月30日(日)	10:00～	漢字三千年 ー漢字の歴史と美ー	初心者向け楽学中国語 主催：新潟日報社	孫犁冰氏 (新潟青陵短期大学准教授)	当館講座室		4
	13:30～						5
5月3日(水・祝)	10:30～	漢字三千年 ー漢字の歴史と美ー	行書を書いてみよう 主催：新潟日報社	伊藤省風氏 (新潟県書道協会事務局長)	当館講座室		10
	13:30～						15
5月7日(日)	10:30～	漢字三千年 ー漢字の歴史と美ー	漢詩の響きを楽しもう 主催：新潟日報社	孫犁冰氏 (新潟青陵短期大学准教授)	当館講座室		18
	13:30～						6
5月11日(木)	10:00～	漢字三千年 ー漢字の歴史と美ー	古代文字を書いてみよう 主催：新潟日報社	丘山三槐氏 (新潟県書道協会理事長)	当館講座室		4
	13:30～						5
5月19日(金)	10:30～	漢字三千年 ー漢字の歴史と美ー	ひらがなの原点を探ろう 主催：新潟日報社	田中藍堂氏 (新潟県書道協会理事)	当館講座室		41
	13:30～						25
6月3日(土)	14:00～ 16:00	—	指でくるくる、チョークアートを描こう！ 共催：新潟県立美術館友の会	金子恵氏 (チョークアートインストラクター)	当館講座室	オイルパステルを使ったチョークアートの基本を学び、色のグラデーションやぼかしを生かした表現に挑戦。	14
6月24日(土)	14:00～ 16:30	コレクション展第2期 「エッチングの楽しみ」	ベリベリワクワクメディウムはがし版画に挑戦！ 共催：新潟県立美術館友の会	宇賀田和雄(当館学芸課長代理)	当館講座室	コレクション展出品作品の繊細な技法を鑑賞した後、メディウムはがし版画で、ニードルを使った類似の技法に挑戦する。	5
7月30日(日)	14:00～ 16:00	生誕90年 加山又造展	消しゴムはんこで作る又造の世界 共催：新潟県立美術館友の会	鑑賞：宮下東子（当館学芸課長代理） 制作：村山裕之（当館副参事）	当館企画展示室および講座室	加山又造展の桜作品を鑑賞し、それぞれの表現の違いに気づき、様式を体感。消しゴムで作った花びら型の半を使用して自分だけの桜を制作。	14
8月6日(日)	10:00～ 15:00	コレクション展第2期 「奇想（へんてこりん）のたくらみ」	夏休みこどもアート「へんてこりんをくみたてる」 共催：新潟県立美術館友の会、中越美術教育研究会	峰村恵利子氏（長岡市立高等総合支援学校教諭） 鑑賞活動：宮下東子（当館学芸課長代理）	当館コレクション展示室および講座室	いくつかの展示作品およびコイズミヤ作品を鑑賞し、作品に題名をつける活動後、三次元空間を自由に工作。その作品に互いに題名を付けあって楽しむ。	9
9月9日(土)	14:00～ 16:00	—	絵手紙をかいてみませんか？ 共催：新潟県立美術館友の会	丸山節子氏(絵手紙講師)	当館講座室	絵手紙の基本を学び、知人や人に送る絵手紙を制作する。	7
10月7日(土)	14:00～ 16:00	コレクション展第3期	ミニ絵本を作ろう 共催：新潟県立美術館友の会	村山裕之（当館副参事）	当館講座室	コレクション展で展示されている作品を鑑賞し、そこから物語を考えて絵本を作る。	7
11月25日(土)	14:00～ 16:00	—	毛糸で織る ～コースターを作ろう～ 共催：新潟県立美術館友の会	中川アイ氏 (あみもの教室講師)	当館講座室	チャンティ織機を使用して毛糸を平織りしてコースターを作成する。	10

計199名

対話型鑑賞（一般観覧者向け）

会場：コレクション展示室

開催日	時 間	関連展覧会名	イベント名	ナビゲーター	内 容	参加者数
7月29日(土)	11:00～	コレクション展第2期	ギャラリートーク 「美術でおしゃべり」	宇賀田和雄（当館学芸課長代理）	ナビゲーターと来館者が話し合いながら、みつけたり考えたりしながら所蔵品を鑑賞	7
8月5日(土)				伊澤朋美（当館主任学芸員）		5
8月12日(土)				宮下東子（当館学芸課長代理）		6

計18名

映画鑑賞会 会場：当館講堂

開催日	時 間	関連展覧会名	タイトル	内 容	参加者数
6月17日(土)	14:00～16:00	—	ジキル博士とハイド氏	1941年／アメリカ／113分	14
7月22日(土)	14:00～16:30	—	火垂るの墓	1988年／日本／88分	18
9月2日(土)	14:00～16:00	—	シャレード	1963年／アメリカ／113分	8
11月18日(土)	14:00～16:00	—	カルメン	1950年／アメリカ／95分	12
12月16日(土)	14:00～15:30	美と文学の探索者 堀口大蔵展	オルフェ	1950年／フランス／95分	29
2月10日(土)	14:00～15:45	—	ベリッシマ	1951年／イタリア／109分	9

計90名

コンサート 会場：当館講堂

開催日	時 間	関連展覧会名	イベント名	講師他	内 容	参加者数
2月27日(火)	10:30～11:00	ディズニー・アート展	0歳からのミニコンサート @ディズニー・アート展 主催：(公財)長岡市芸術文化振興財団	五十嵐郊味 (ソプラノ)	通常リリックホールで開催しているコンサートを展覧会に関連し当館で開催。ディズニー映画の音楽に親しむイベント。	130
3月18日(日)	10:30～11:00	ディズニー・アート展	長岡少年少女合唱団ミニコンサート @ディズニー・アート展 主催：(公財)長岡市芸術文化振興財団	長岡少年少女合唱団	ディズニー・アート展に登場する作品の音楽。	165

計295名

その他のイベント

開催日	時 間	関連展覧会名	イベント名	講師他	会 場	内 容	参加者数
7月16日(日)	10:00～15:30	生誕90年 加山又造展	こらぼ de 茶会 共催：新潟県立美術館友の会	長岡大学茶道部	当館ロビー	企画展「加山又造展」の内容を意識した道具立ておよび菓子によりお茶会を実施。	168

計168名

総合計1,666名

体験コーナー 会場：コレクション展示室ロビー

開催期間	関連展覧会名	体験コーナー名	企画者	内 容
4月1日(土)～5月7日(日)	コレクション展第5期「近代美術館の名品」	ならべてならべてこすたら…	宇賀田和雄 (当館学芸課長代理)	カボグロッシ作品から取りだした形を厚紙で用意し、これを自由に配置しこすり出す。
5月9日(火)～6月18日(日)	コレクション展第1期後期「近代美術館の名品」	金昌烈の(水滴)にチャレンジしよう！	村山裕之 (当館副参事)	金昌烈の描いた水滴を観察し、パステルペンシルで立体的な水滴を描く。
6月22日(木)～9月3日(日)	コレクション展第2期「近代美術館の名品」	点描で描く幾何学模様を楽しもう	村山裕之 (当館副参事)	前田常作の曼荼羅を参考に、点描による幾何学的な模様を描く。
9月7日(土)～11月26日(日)	コレクション展第3期「自然と生きる」	点と点をつなごう	宮下東子 (当館学芸課長代理)	ハーバート・バイヤーなどの作品を参考に、紙の両端に印刷してある点を線でつなぐことにより、不思議な立体感のある空間を作り出す。
11月30日(木)～2月12日(月・振)	コレクション展第4期「線と面と」	点と点をつなごう	宮下東子 (当館学芸課長代理)	ハーバート・バイヤーなどの作品を参考に、紙の両端に印刷してある点を線でつなぐことにより、不思議な立体感のある空間を作り出す。
2月16日(金)～3月31日(土)	コレクション展第3期「手は語る」	あなたの手からのメッセージ	宇賀田和雄 (当館学芸課長代理)	自身の手や指を観察し、表情をつけて描き、題名などの言葉を添える。

館外活動・地域との連携

巡回ミュージアム

【趣旨及び総括】

巡回ミュージアムは、所蔵作品の中から作品を選定し、県内を巡回展示するもので、広く県民に美術鑑賞の機会を提供し、文化振興を図ることを目的としている。

本年度は、村上市で開催した。名品に親しんでもらおうと「アートなココロ」と題して、大人だけでなく、子供たちの鑑賞教育の機会となるよう、話し合いながら楽しめる作品を中心に選定した。

村上市街地から離れた施設であったが、解説会では多くの来場者が参加し、熱心に鑑賞している様子がうかがえた。入場者数は少なめだったものの、近代美術館からは距離のある村上市民にとって、貴重な美術鑑賞の機会となった。これに加え、教育委員会に協力いただき、小学生が参加しての対話型鑑賞を行ったことは、質の高い美術品の鑑賞の機会が少ない児童にとって、またとない体験の場になったと思われる。

【開催地・開催期日・その他】

会 場：村上市総合文化会館

会 期：平成29年9月26日(火)～10月5日(木)（10日間）

観覧時間：9：00～16：00

主 催：新潟県立近代美術館、村上市教育委員会

後 援：新潟日報社、NHK 新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、村上市美術協会

観覧料：無料

出品点数：32点

入場者数：444名（小学生未満を含む）

【関連行事】

・作品解説会

10月1日(日)13：30～

・対話型鑑賞会（村上市立塩野町小学校5・6年生）

10月4日(水)14：00～

担当 村山裕之、宮下東子、宇賀田和雄

【出品リスト】

No	作家名	作品名	制作年
1	星 襄一	大樹	1974
2	横山 操	湖映	1960
3	石井 柏亭	池	1928
4	藤島 武二	海	1934
5	富岡 惣一郎	雪国シリーズ 北海道雷電海岸	1974
6	栢森 義	黄色いドレス	1973
7	三浦 文治	浜	1973
8	矢部 友衛	裸婦	1932頃
9	峰村 リツ子	婦人	1986
10	佐藤 哲三	稲	1941
11	佐藤 哲三	郵便脚夫宮下君	1931
12	千野 茂	裸婦	1957
13	オーギュスト・ロダン	疲れ	1887
14	脇田 和	啄木鳥	1958
15	マリノ・マリーニ	騎手	1950
16	長崎 莫人	赤い魚	1955
17	小野 末	闘牛（猛進）	1977
18	福岡 奉彦	海と鳥	1991
19	山本 自炉	飛躍	1940
20	三芳 悌吉	オルガンの上	1977
21	横尾 深林人	菖蒲	不明
22	浜口 陽三	ざくろ	1961
23	地主 悌助	石	1966
24	高間 惣七	パンダの花と青い鳥	1971
25	中山 爾郎	海の獲物	1954
26	菅井 汲	森の太陽	不明
27	末松 正樹	作品	1951
28	斎藤 義重	作品（Blue）	1961
29	前田 常作	人間風景 No.13	1960
30	高松 次郎	カギ#223	1968
31	宮崎 進	かたち	1995
32	アルナルド・ボモドーロ	予言	1983

出前講座

本年度は、企画展に合わせたプログラムを作成しなかったため、出前講座の希望数は5回にとどまった。しかしながら、毎年定番の2講座を除く本年の申請者は、当館からのプログラム提案がないにもかかわらず希望してきた学校ばかりで、学校への広報活動が実を結んできたことを感じさせた。

No.	月 日	時 間	対 象	内 容	コマ数	受講者数	担当者
1	6月5日(月)	9:00~11:25	長岡市立上組小学校 6年生 (2クラス 73名)	「学芸員について学ぼう」	2	73	伊澤
2	6月13日(火)	11:10~12:40	新潟デザイン専門学校 モンセラート美術大学 学生 18名+3名	「日本画の基礎知識」	1	21	宮下
3	6月14日(水)	9:30~10:15	十日町市立千手小学校 2年生	「絵をみてみんなでおしゃべりしよう！」(低学年向け)	1	21	宮下
4		10:40~11:25	十日町市立千手小学校 5年生	「絵をみてみんなでおしゃべりしよう！」(高学年向け)	1	20	宮下
5	9月22日(金)	14:00~14:45	燕市立吉田北小学校 3年生 (2クラス 44名)	旧吉田町出身〈美術〉の偉人 横山操と亀倉雄策	1	44	宮下

合計 6コマ 179名

こらぼ de 茶会

2013年度の開館20周年の行事のひとつとして始まった長岡大学茶道部によるお茶会はすっかり定番となった。

本年度は、企画展「生誕90年 加山又造展 生命の煌めき」の会期中に実施。例年どおり展覧会に併せた工夫がなされ、今回の茶会では、茶杓の銘が展覧会タイトルに因んだ「きらめき」、水指は加山が描いた波の表現に関連させた流水文、お菓子は当館所蔵の加山作品から想を得て注文した「月と駱駝」であった。

共 催：新潟県立美術館友の会
日 時：7月16日(日) 10:00～15:30
会 場：新潟県立近代美術館ロビー
呈 茶：長岡大学茶道部
参加者数：168名

担当 宮下東子

こどもものづくり大学校学外ワーク

子どもたちに日常生活ではできない創るよこびを体験してもらうため、隣接する長岡造形大学が平成23年度から毎年「こどもものづくり大学校」を主催している。年間を通しておこなわれる10回の講座のうち、1回を「学外ワーク」として新潟県立近代美術館が受け持っている。

本年は開催中の企画展「没後90年 萬鐵五郎展」に関連させ、「ヨロズ自画像研究所」と題し、子どもたち自身の自画像を描いた。実際に展示室で萬の自画像作品を複数鑑賞させたうえで、どんな自分を描くか計画を立て、ボードにオイルパステルで描いた。子どもたちにとって初めての画材であるオイルパステルの使い方を研究しつつ、背景の色や描くものを工夫して描くことができた。しかしながら、萬鐵五郎の自画像は感情的な面でマイナス要素が多く、子どもたちの中で作品の色や形を受け入れて自分の作品に生かすことは難しかったようである。とはいえ、3月の作品展の展示には10の講座の中から当講座で描いた自画像を選んだ子どもたちが多く、この講座が充実した時間となったことがうかがえた。

主 催：長岡造形大学
テ ー マ：萬自画像研究所
日 時：11月12日(日)10:00～16:00
11月19日(日)10:00～16:00
プログラム：宮下東子（当館学芸課長代理）
講 師：宮下東子（当館学芸課長代理）
宇賀田和雄（当館学芸課長代理）
村山裕之（当館副参事）

参加者数：73名／70名（合計143名）

担当 宮下東子、宇賀田和雄、村山裕之

長岡造形大学「市民のためのオープンキャンパス2017:ものづくり体験教室」

長岡造形大学からの依頼により、同学の「市民のためのオープンキャンパス2017」のものづくり体験教室に出席した。「市民のためのオープンキャンパス」では、あらゆる年代を対象とした、多くのものづくり体験プログラムを実施しており、学内の教授や学生、市内の工房等が出席している。

当館では、「金昌烈の《水滴》を描こう!」と題して所蔵作品と関連させたプログラムにより、リアルな水滴を描く体験を実施した。子どもから大人まで参加できるプログラムで、簡単な技法により10分程度でリアルな表現ができるため、参加者は喜び、親子で作品を見せ合って楽しむ光景も見られた。

長岡造形大学との連携を深めるため、今後も協力していく。

主 催：長岡造形大学

日 時：平成29年10月22日(日)

①10:00-11:30/②12:30-14:30

※参加無料

講 座 名：金昌烈の《水滴》を描こう

会 場：長岡造形大学 講義室

講 師：村山裕之（当館副参事）

宮下東子（当館学芸課長代理）

参加者数：①80名/②85名

担当 村山裕之、宮下東子

NIIGATA アートリンク

◇沿革

2011年4月に新潟市美術館と新潟県立近代美術館との間で学芸員同士の人事交流を行うこととなった。それを受けて、当館・徳永健一館長（当時）と新潟市美術館・高橋建造館長（当時）の間で、この機会に両館協働による活動を進めていくことを確認した。

2011年10月新潟市美術館館長として塩田純一氏が着任され、当初より近隣美術館と協働の可能性を模索していたが、2012年に新潟県立近代美術館、新潟県立万代島美術館、新潟市美術館ではほぼ同時期に現代美術系の展覧会が開催されることから、それぞれの学芸員出席によるシンポジウム開催を3館共同事業の嚆矢として提案した。この提案を受けて、3館の学芸員が集まり、この共同事業を一過性のものではなく、継続事業として進めていきたいという考えから、母体組織として発足したのが「NIIGATA アートリンク」である。2013年には新潟市新津美術館が参加。館の自主性や個性を尊重しながらも、様々な事業で緩やかに連携を図っていくことを目的とした。

2012年度

NIIGATA アートリンク ―現代美術三昧―

「現代美術」をテーマとして三館連携を行った。

■スタンプラリー及び相互割引を実施

【対象展】

万代島美術館 ジバング展 10/6(土) → 12/2(日)

新潟市美術館 草間彌生展 11/10(土) → 12/24(月)

近代美術館 GUN展 11/3(土) → 1/14(月)

景品交換数：191

■記念シンポジウム「みつけた、ローカル・アヴァンギャルド!!」を共催

パネリスト：鈴木正美（新潟大学人文学部教授）

高晟俊（新潟県立万代島美術館主任学芸員）

濱田真由美（新潟市美術館学芸係長）

モデレーター：塩田純一（新潟市美術館館長）

日時：2012年11月25日(日)14:00~16:00

会場：新潟市美術館 講堂

参加者数：13人

■会議の開催

第1回：2012年5月25日(金)

第2回：2012年7月6日(金)

第3回：2013年2月7日(木)

2013年度 NIIGATA アートリンク2013summer 古今東西 アートの旅

前年度に続き、新潟市新津美術館を加えた四館の連携を行った。

■スタンプラリーの実施

期間：2013年7月2日(火)～2014年10月14日(火)

景品交換数：166

■会議の開催

第1回：2013年5月22日(水)15：00 新潟市美術館

第2回：2013年8月9日(金)14：00 新潟市美術館

第3回：2013年11月22日(金)15：00 新潟市美術館

第4回：2014年3月5日(水)15：00 新潟市美術館

2014年度 NIIGATA アートリンク2014

1年間有効のスタンプラリーを開始した。

■スタンプラリーの実施

期間：2014年4月19日(土)～2015年3月31日(火)

景品交換数：256

■会議の開催

第1回：2014年5月21日(水)15：00 新潟市美術館

第2回：2014年9月25日(木)15：00 新潟市美術館

第3回：2014年12月4日(木)15：00 新潟県立万代島美術館

第4回：2015年2月5日(木)15：00 新潟県立万代島美術館

2015年度 NIIGATA アートリンク2015

■スタンプラリーの実施

期間：2015年4月11日(土)～2016年3月31日(木)

景品交換数：313（景品にオリジナルカンバッジを制作）

■会議の開催

第1回：2015年5月28日(木)15：00 新潟市美術館

第2回：2015年10月7日(水)15：00 新潟市美術館

第3回：2015年12月2日(水)14：00 新潟市美術館

第4回：2016年2月23日(火)14：30 新潟市美術館

2016年度 NIIGATA アートリンク2016

■スタンプラリーの実施

期間：2016年4月9日(土)～2017年3月31日(金)

景品交換数：451

■会議の開催

第1回：2016年5月17日(火)14：00 新潟市美術館

第2回：2016年10月5日(水)14：00 新潟県立近代美術館

第3回：2017年1月11日(水)14：00 新潟市新津美術館

第4回：2017年3月9日(木)14：00 新潟県立万代島美術館

2017年度 NIIGATA アートリンク2017

■スタンプラリーの実施

期間：2017年4月8日(土)～2018年3月31日(土)

・景品交換数：435

■シンポジウム「美術館のあしたのあした」を開催

パネリスト：伊澤朋美（新潟県立近代美術館 主任学芸員）

飯島沙耶子（新潟県立万代島美術館 主任学芸員）

星野立子（新潟市美術館 学芸員）

長島彩音（新潟市新津美術館 学芸員）

司会：児矢野あゆみ（新潟市美術館 学芸員）

日時：6月11日(日)14：00～15：30

会場：新潟市美術館講堂

参加者数：65人

■万代島美術館「所蔵品展 うつくしい暮らし」ギャラリートーク共催

講師：星野立子（新潟市美術館 学芸員）

今井有（新潟県立万代島美術館 業務課長代理）

日時：9月30日(土)14：00～15：00

会場：新潟県立万代島美術館展示室

参加者数：25名

■会議の開催

第1回：2017年5月9日(火)14：00 新潟市美術館

第2回：2017年10月5日(木)14：00 新潟県立近代美術館

第3回：2018年1月18日(木)14：00 新潟県立万代島美術館

第4回：2018年3月8日(木)14：00 新潟市新津美術館

刊行物・鑑賞資料

刊行物名	概 要	仕 様	発行部数	発行日	内 容
平成29年度 年間スケジュール	平成29年度の企画展とコレクション展の日程及び内容、年間のイベントなどをまとめたもの	A4判変形（展開サイズ 210×376mm） 蛇腹4つ折り	35,000部	2017年 4月1日	
新潟県立近代美術館だより 「雪椿通信」48号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り（A4判）4頁	10,000部	2017年 4月28日	2017年度前半期の企画展／漢字三千年 漢字の歴史と美に浸る…／生誕90年加山又造展 生命の煌めき／私とこの1点 木下晋《101年の胎動》／新収蔵作品紹介 広川松五郎《襖絵紅梅図（光琳様模写）》、戸張公晴《TORSO》、アンリ・オットマン《屏風の前の裸婦》／退任のご挨拶／近美のおすすめ／お世話になってますシリーズその10 コピー機／編集部からのひとこと
新潟県立近代美術館だより 「雪椿通信」49号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り（A4判）4頁	10,000部	2017年 7月7日	館長所感／ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法 あのカラクターたちに"いのち"が吹き込まれた瞬間／没後90年 萬鐵五郎展／新潟県立近代美術館の教育プログラム、対話型鑑賞って？／「堀口大學展」の開催に向けて／わたしとこの1点 白髪一雄《志賀#107》／NIIGATAアートリンク2017 トークセッション「美術館のあしたのあした」を行いました！／近美のおすすめ／お世話になってますシリーズその11 講堂／編集部からのひとこと
企画展「生誕90年 加山又造展 ―生命の煌めき― 鑑賞シート	「生誕90年 加山又造展 ―生命の煌めき―」の見どころや作品解説をまとめた3種類のシート。会場内ソファ上各所に配置し、自由に手に取り、読み終えたらその場に戻すようにした。	A4両面カラー（印刷機にて作成）ラミネート加工	3種 各5部	2017年 7月8日	加山又造は、日本画に西洋絵画の手法を取り入れました／加山又造が取り入れた西洋美術の手法から〈水〉の形をさがしてみよう／〈様式〉に関する加山又造の言葉／数ある〈桜〉の表現も作品によってさまざまです
企画展「堀口大學展 美と文学の探索者」図録	企画展「堀口大學展 美と文学の探索者」の公式図録	B5判、96頁	500部	2017年 12月2日	展覧会に寄せて／プロローグ 幼年時代／第1章 詩歌との出会い―新詩社の頃―／第2章 父九萬一とともに―外遊時代―／第3章 『月光とピエロ』から『砂の枕』へ―長谷川潔との友情―／第4章 『月下の一群』／〈コラム〉堀口大學と第一書房文化／第5章 美への眼差しⅠ―限定本の秘められた世界／第6章 美への眼差しⅡ―コクトーのデッサン／〈コラム〉サン＝テグジュペリ『夜間飛行』―時代の暗闇のなかで―／第7章 戦後―越後高田、そして葉山の日々―／第8章 詩人の愛したうつわたち／エピソード 詩人の書斎／資料 長岡市立中央図書館所蔵 堀口大學コレクションについて／堀口大學コレクション精選50／堀口大學 年譜／主要参考文献／長岡市立中央図書館所蔵 堀口大學コレクション精選50書誌／出品リスト／謝辞
巡回ミュージアム 村上展 鑑賞の手引き 「アートなココロ」	「巡回ミュージアム 村上展」のためのセルフガイド	A3二つ折り（A4判）4頁 モノクロ（リングラフにて作成）	1,000部	2017年 9月26日	

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるように、学芸員による作品解説会を行った。コレクション展は毎週土曜日の午前11時から、企画展は毎週日曜日の午後2時から、それぞれの会場で行った。参加者がなかった解説会については、記録から除いた。

企画展（日曜日 14：00～）

コレクション展（土曜日 11：00～）

企画展 展覧会名 期日	人数	近代美術館の名品 親と子のワクワク美術館③ 奇想のたくらみ エッ チングの楽しみ（前期）／ミロ太陽 の賛歌（後期）
漢字三千年 ※ 音声ガイドの使用と毎週イベントを行ったため実施せず		7月 1日 4 7月 8日 10 7月15日 12 7月22日 8 7月29日（美術でおしゃべり）7 8月 5日（美術でおしゃべり）5 8月12日（美術でおしゃべり）6 8月19日 15 8月26日 15 第2期小計 82
生誕90年 加山又造展 生命の煌めき 7月 8日 20 8月13日 25 8月27日 80 小 計 125		自然と生きる 近代美術館の名品 暮らしの中の絵 9月 9日 5 9月16日 4 9月23日 1 9月30日 6 10月 7日 3 10月14日 3 10月21日 2 10月28日 1 11月 4日 5 11月11日 1 11月25日 1 第3期小計 129
没後90年 萬鐵五郎展 9月17日 25 9月24日 20 10月 1日 12 10月15日 14 10月22日 3 11月 5日 11 11月12日 25 11月19日 25 小 計 135		線と面と ニイガタ×彫刻 新潟ゆか りの彫刻たち 近代美術館の名品 12月 9日 13 12月23日 1 1月 6日 1 1月20日 2 2月 3日 1 2月10日 1 第4期小計 19
堀口大寿展 美と文学の探索者 12月18日 18 小 計 18		母たちの肖像 近代美術館の名品 手は語る 近代美術館全体の混雑が予想されるため実施せず 第5期美術館全体の混雑が予想されるため実施せず
ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法 ※ 音声ガイドの使用と会場の混雑が予想されるため実施せず		コレクション展合計 281
企画展合計 278		
コレクション展 展覧会名 期日	人数	
新収蔵品を中心に 近代美術館の名品 怪奇・夢・幻 4月15日 1 4月22日 4 4月29日 5 5月 6日 2 5月13日 8 5月20日 2 5月27日 3 6月 3日 6 6月10日 20 第1期小計 51		

団体の受入れ

団体の来館者を受入れ、希望があった団体には作品解説等を行った。

2017年度団体観覧対応実施一覧。（申請があった団体のみ記載）

●一般団体	※	* 印は解説等を行った団体
コレクション展第1期 4月 7日(金) 大東建託		36名
計1団体	小 計	36名

漢字三千年		
5月11日(木)	日報趣味の会	* 45名
5月14日(日)	メッセージイラストレーション	* 26名
	ポスター展実行委員会(多摩美)	
5月16日(火)	大島コミュニティセンター	* 12名
5月24日(水)	胎内市教育委員会	17名
5月24日(水)	燕市ライオンズクラブ	20名
6月 9日(金)	ほのぼの絵手紙、久美子と仲間たち	24名
計6団体	小 計	144名

加山又造展		
7月13日(木)	県退職女教の会中越支部	* 11名
7月15日(土)	長岡大学（コレクション展のみ）	21名
8月 6日(日)	フカミ美術	27名
8月18日(金)	新潟県美術教育研究大会参加者	100名
8月24日(木)	出雲崎町教育委員会	* 30名
8月25日(金)	ギャラリー三余堂	31名
計6団体	小 計	220名

萬鐵五郎展		
9月28日(木)	新潟デザイン専門学校	67名
9月29日(金)	新潟デザイン専門学校	56名
10月 6日(金)	長岡造形大学	34名
10月13日(金)	胎内市教育委員会	20名
10月19日(木)	糸魚川一七会	20名
10月21日(土)	吉澤織物親和会	28名
10月24日(火)	新潟教育公務員弘済会	* 55名
10月25日(水)	新潟教育公務員弘済会	* 47名
10月29日(日)	郡山市立美術館友の会	32名
11月 5日(日)	大川美術館友の会	14名
計10団体	小 計	373名

●大学	学芸員が講座の一部を受け持ち	
加山又造展		
8月10日(木)	上越教育大学	12名
計1団体	小計	12名

コレクション展第3期	
9月13日(水) 和洋女子大	38名
計1団体	小計
	38名

●幼稚園・保育園			
加山又造展			
8月 9日(水)	恵和保育園	5歳	17名 4名
計1団体	小 計		21名

ディズニー・アート展			
2月20日(火)	長生学園 中島幼稚園	3/4/5歳 101名	13名
2月28日(水)	社会福祉法人 長生保育園	4/5歳 89名	6名
2月28日(水)	認定こども園明幸幼稚園	4/5歳 86名	6名
3月 6日(火)	ジュニアスクール第一幼稚園	3~5歳 69名	11名
3月14日(水)	みどり保育園	5歳 17名	5名
3月16日(金)	恵和保育園	3歳 80名	6名
3月16日(金)	恵和めぐみキッズランド	4・5歳 16名	3名
3月16日(金)	恵和保育園	5歳 33名	2名
3月20日(火)	恵和保育園	4歳 78名	6名
計9団体	小 計		627名

●その他			
第31回新潟県美術教育研究会中越大会の授業会場として利用			
8月18日(金)	恵和保育園	5歳	18名 4名
計1団体	小 計		22名

幼・保合計	670名
-------	------

総合計	1,493名
-----	--------

学校教育との連携

●図工・美術、および部活動での利用

学校のカリキュラムで来館した学校等団体に展覧会鑑賞の機会を提供した。

対話型鑑賞を主目的に来館する団体が増えつつある。積極的に取り組んできた小千谷市の小学校の他に長岡市内の小学校にも着実に浸透している。

また、本年度の最後に「ディズニー・アート展」が開催されたことにより、2月～3月の年度末に来館する団体が多く見られた。

【対話型鑑賞の実施】

954名

(児童・生徒875名+引率79名)

6月 6日(火)	長岡市立太田小学校	(2・4年)	4名 (3名)
6月30日(金)	十日町市立田沢小学校	(6年)	24名 (3名)
7月11日(火)	長岡市立高等総合支援学校(高等部3年)		37名 (13名)
7月12日(水)	新潟県立長岡明徳高等学校(3年)		15名 (1名)
7月12日(水)	長岡市立福戸小学校	(3年)	27名 (2名)
7月13日(木)	新潟県立長岡鷺学校(高等部2年)		2名 (3名)
7月14日(金)	小千谷市立片貝小学校	(5年)	39名 (2名)
7月20日(木)	長岡市立上川西小学校	(3年)	131名 (6名)
8月 4日(金)	長岡市立太田中学校(美術部)		5名 (2名)
8月31日(木)	小千谷市立小千谷小学校(5年)		69名 (3名)
9月 8日(金)	小千谷市立小千谷小学校(5年)		76名 (6名)
9月12日(火)	長岡市立上通小学校	(3年)	15名 (2名)
9月20日(水)	長岡市立上組小学校	(6年)	71名 (3名)
9月27日(水)	長岡市立浦瀬小学校	(6年)	14名 (1名)
12月 6日(水)	長岡市立刈谷田中学校(特別支援)		3名 (2名)
12月14日(木)	柏崎市立鯖石小学校	(5年)	17名 (1名)
1月17日(水)	出雲崎町立出雲崎小学校(2年)		24名 (2名)
1月23日(火)	出雲崎町立出雲崎小学校(4年)		31名 (1名)
2月20日(火)	小千谷市立千田小学校	(5年)	24名 (2名)
2月20日(火)	長岡市立前川小学校	(3年)	26名 (2名)
2月21日(水)	小千谷市立吉谷小学校	(5年)	12名 (1名)
2月21日(水)	小千谷市立和泉小学校	(5年)	16名 (1名)
2月22日(木)	小千谷市立東小千谷小学校(5年)		61名 (2名)
2月22日(木)	小千谷市立東山小学校	(5年)	4名 (2名)
2月23日(金)	小千谷市立南小学校	(5年)	14名 (2名)
3月 1日(木)	長岡市立黒条小学校	(5年)	35名 (2名)
3月 2日(金)	長岡市立黒条小学校	(5年)	34名 (2名)
3月 2日(金)	長岡市立黒条小学校	(5年)	35名 (2名)
3月16日(金)	小千谷市立総合支援学校(中等部)		10名 (5名)

【展覧会解説の実施】

749名

(児童・生徒688名+引率61名)

漢字三千年

5月30日(火)	新潟県立長岡大手高等学校(3年)		4名 (1名)
----------	------------------	--	---------

加山又造展

7月11日(火)	新潟県立長岡商業高等学校(2年)		37名 (2名)
7月11日(火)	新潟県立長岡商業高等学校(2年)		37名 (2名)
7月12日(水)	新潟県立長岡商業高等学校(2年)		40名 (2名)
7月13日(木)	新潟県立長岡商業高等学校(2年)		39名 (2名)
7月13日(木)	新潟県立長岡商業高等学校(2年)		40名 (2名)
7月14日(金)	新潟県立長岡商業高等学校(2年)		38名 (2名)
7月27日(木)	新潟県立長岡工業高等学校(美術部)		12名 (2名)
7月27日(木)	新潟県立燕中等教育学校(高校美術部)		20名 (0名)
7月27日(木)	新潟県立燕中等教育学校(中学美術部)		7名 (3名)
8月 1日(火)	加茂市立葵中学校(美術部)		8名 (1名)
8月 4日(金)	上越市立城北中学校(美術部)		26名 (2名)

コレクション展第3期

9月 7日(木)	上越市立浦川原中学校(2年)		25名 (2名)
9月12日(火)	長岡市立日越小学校	(3年)	87名 (5名)

萬鐵五郎展

9月28日(木)	新潟県立長岡明徳高等学校(1・4年)		263名 (32名)
----------	--------------------	--	------------

ディズニー・アート展／コレクション展第5期

3月30日(金)	新潟県立新潟工業高等学校(美術部)		5名 (1名)
----------	-------------------	--	---------

【展覧会鑑賞のみ】

1,435名

(児童・生徒1,310名+引率125名)

漢字三千年

5月 2日(火)	新潟県立白根高等学校(3年)		99名 (6名)
5月20日(土)	新潟県立新潟高等学校(1・3年)		17名 (1名)
5月25日(木)	新潟県立長岡大手高等学校(3年)		4名 (1名)
5月25日(木)	長岡市立山古志小学校(5・6年)		7名 (1名)
6月 9日(金)	魚沼市教育委員会(中2年)		1名 (3名)

加山又造展

7月15日(土)	新潟県立長岡商業高等学校(1年)		4名 (1名)
7月19日(水)	県立小出特別支援学校川西分校(高等部2年)		23名 (9名)
7月27日(木)	柏崎市立東中学校(美術部)		12名 (1名)
8月 4日(金)	柏崎市立第一中学校(美術部)		9名 (1名)
8月 5日(土)	新潟県立栃尾高等学校(美術部)		10名 (1名)
8月 8日(火)	新潟市立亀田西中学校(美術部)		16名 (2名)

コレクション展第2期

9月1日(金)	長岡市立深沢小学校(特別支援)		1名 (1名)
---------	-----------------	--	---------

萬鐵五郎展

10月13日(金)	新潟第一高等学校(1年)		356名 (19名)
10月22日(日)	新潟県立長岡商業高等学校(1・2年)		2名 (1名)
10月27日(金)	長岡市立高等総合支援学校(高等部1・2年)		8名 (7名)

10月29日(日) 小千谷市立小千谷中学校(美術部) 14名(1名)
 11月 1日(水) 長岡市立日越小学校 (6年) 24名(1名)
 11月 2日(木) 長岡市立高等総合支援学校(高等部1・2年)3名(5名)
 11月 3日(金) 長岡市立越路中学校 (美術部) 10名(0名)
 11月 3日(金) 長岡市立秋葉中学校 (美術部) 5名(1名)
 11月12日(日) 子どもものづくり大学校(小3年・6年)73名(8名)
 11月19日(日) 子どもものづくり大学校(小3年・6年)69名(11名)

コレクション展第3期

11月21日(火) 見附市立名木野小学校 (特別支援) 9名(4名)

堀口大蔵展

12月 6日(水) 長岡市立上組小学校 (6年) 67名(2名)
 12月 9日(土) 上越市立浦川原中学校 (美術部) 4名(1名)
 12月16日(土) 柏崎市立第二中学校 (美術部) 7名(1名)

コレクション展第4期

1月20日(土) 長岡市立上組小学校 (6年) 65名(3名)
 2月 7日(水) 長岡市立富貴亀小学校 (5年) 111名(5名)

ディズニー・アート展

2月17日(土) 魚沼市立広神中学校 (美術部) 6名(1名)
 2月18日(日) 見附市立西中学校 (美術部) 24名(2名)
 3月 1日(木) 見附市立特別支援学校 (高等部2年)8名(5名)
 3月 7日(水) 長岡市立江陽中学校 (1年)124名(10名)
 3月 7日(水) 燕市立分水中学校 (美術部2年)2名(3名)
 3月13日(火) 長岡市立上川西小学校 (6年) 104名(4名)
 3月20日(火) 新潟市立南浜中学校 (1・2年)5名(1名)
 3月29日(木) 長岡市立旭岡中学校 (美術部1・2年)7名(1名)

●施設見学

228名

美術館の施設についての学習を行い、子どもたちの質問などに対応した。

(児童・生徒217名+引率11名)

5月23日(火) 長岡市立西中学校 (2年) 19名(1名)
 9月12日(火) 長岡市立日越小学校 (3年) 87名(5名)
 2月 7日(水) 長岡市立日越小学校 (5年) 111名(5名)

●職場体験

7名

学校からの要望に応じて、職場体験を受け入れた。(1日程)

(児童・生徒7名)

6月22日(木) 長岡市立東北中学校 (2年) 1名
 6月22日(木) 長岡市立大島中学校 (2年) 2名
 8月23日(水) 長岡市立堤岡中学校 (2年) 3名
 10月26日(木) 長岡市立中之島中学校 (2年) 1名

●子ども学芸員作品解説

長岡市立上組小学校6年生の総合的な学習の時間、図画工作の取組として、児童が当館で学習の成果を来館者に披露する「子ども学芸員」の活動を行った。学校と美術館が連携し、以下の日程で1年間をかけて取り組んだ。

5月17日(水) 年間活動計画打合せ
 6月 5日(月) 出前講座「学芸員について学ぼう」の実施
 9月20日(水) 6年生全員が来館し、クラスごとに対話型鑑賞を体験
 12月 6日(水) 子ども学芸員として自分が解説する作品の選定
 1月20日(土) 作品解説会「子ども学芸員」の実施
 (会場：コレクション展示室)

●その他

83名

第31回新潟県美術教育研究会中越大会の授業会場として利用

(児童・生徒73名+引率10名)

8月18日(金) 魚沼市立堀之内小学校 (4年) 39名(4名)
 8月18日(金) 長岡市立宮内中学校 (美術部) 10名(1名)
 8月18日(金) 長岡市立越路中学校 (美術部) 6名(1名)
 (8月18日(金) 恵和保育園 (5歳) 18名(4名[※]))

※再掲

●教員研修会の受入れ

211名

要望があった場合、学校教員の研修会の会場として館の施設を提供。研修会の講師や展覧会の解説等を行った。

5月12日(金) 長岡市教育センターながおか学講座 28名
 5月31日(水) 長岡小学校長会 60名
 6月15日(木) 三条市小教研図画工作研修 22名
 7月13日(木) 長岡市三島郡小学校教頭会 10名
 8月 4日(金) 長岡市江陽中学校区研修 49名
 8月 8日(火) 十日町市小教研図工研修 7名
 8月 9日(水) 南魚沼市小教研図工研修 18名
 10月18日(水) 長岡市美術教育研究会 17名

◆高等学校生徒夏季休業中事前申請観覧

10名

(児童・生徒10名)

8月 6日(日) 新潟県立新潟向陽高等学校(2年) 4名
 8月 8日(火) 新潟県立見附高等学校(2年) 2名
 8月 8日(火) 新潟県立見附高等学校(3年) 3名
 8月 9日(水) 新潟県立長岡高等学校(2年) 1名

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障害者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

月	期間	日数	開催企画展名称	企 画 展									コレクション展										月計	
				学 校 等						障がい者	介助	合計	学 校 等						障がい者	介助	合計			
				小中			高校						小中			高校								
				校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率				校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率						
4	1~28	24	漢字三千年 —漢字の歴史と美—										0	0	0	0	0	0	23	2	25	77		
	29~30	2		0	0	0	0	0	0	42	10	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
5	2~31	26		1	(7)	1	4	124	9	370	132	636	0	0	0	0	0	0	2	0	2		638	
	1~11	10		2	(5)	5	0	0	0	208	59	272	0	0	0	0	0	0	1	0	1			
6	13~18	6											0	0	0	0	0	0	3	0	3	293		
	22~30	8											1	(24)	3	0	0	0	10	4	17			
7	1~7	6											0	0	0	0	0	0	9	0	9	687		
	8~30	20	生誕90年 加山又造展 生命の煌めき	5	(216)	14	7	344	41	211	68	678	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
8	1~27	24		5	(119)	14	4	18	1	345	110	488	0	0	0	0	0	0	3	1	4	500		
	29~31	3											1	(69)	3	0	0	0	3	2	8			
	1~3	3											1	(1)	1	0	0	0	8	0	9			
9	7~15	8											4	(203)	15	0	0	0	3	0	18	410		
	16~30	13		2	(85)	4	1	263	32	67	17	383	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
10	1~31	26	没後90年 萬鐵五郎展	1	(14)	1	3	366	27	128	25	547	0	0	0	0	0	0	0	0	0	547		
	1~19	17		3	(39)	2	0	0	0	78	17	97	0	0	0	0	3	5	0	0	8			
11	21~26	6											1	(9)	4	0	0	0	3	0	7	112		
	30	1											0	0	0	0	0	0	0	0	0			
12	1	1											0	0	0	0	0	0	1	0	1	85		
	2~28	23	堀口大學展	5	(98)	7	0	0	0	67	9	83	0	0	0	0	0	0	1	0	1			
1	4~8	5		0	0	0	0	0	0	30	4	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58		
	10~31	19											2	(120)	6	0	0	0	15	3	24			
	1~12	11											1	(111)	5	0	0	0	3	0	8	210		
2	16	1											0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	17~28	10	ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法	9	(175)	15	0	0	0	148	39	202	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
3	1~31	28		9	(356)	30	2	13	6	474	140	663	0	0	0	0	0	0	0	0	0	663		
合 計				301		42	(1,114)	93	21	1,128	116	2,168	630	4,135	11	(537)	37	0	3	5	88	12	145	4,280

* 小学校・中学校及び特別支援学校の児童生徒は観覧料無料のため、免除者数には含まない。(表中カッコ書きの数値)

平成29年度 夏休み期間 観覧料免除者数 (再掲) 7/22~8/31

月	期間	日数	展 覧 会 名	高校生	月計	合計
7	22~31	8	生誕90年 加山又造展 生命の煌めき	20	20	28
8	1~27	24		8	8	
	28~31	3	コレクション展 第3期 (前期)	0	0	

博物館実習

【趣 旨】

学芸員資格取得を目指す学生のための博物館実習を実施し、5名の実習生を受け入れた。美術館学芸員の諸業務に関する講義のほか、各分野の作品の取り扱いについて実習を行った。後半には「展覧会計画」として、展覧会を計画・立案、図面や要項の作成、展示、撤収までのひととおりの流れを体験する演習を行った。また、準備を重ねコレクション展出品作品の作品解説を行ったりするなど、学芸業務を実際に体験させることに重点をおいた。

【実習期間】

7月13日(木)～7月27日(木) 土・日・祝日を除く計10日間

【実習生の所属および受け入れ人数】

新潟大学 1名
長岡造形大学 3名
東北芸術工科大学 1名

合計5名

【カリキュラム】

月日	時間	内 容	
7月13日(木)	1	開講式・館の概要説明／オリエンテーション	館長・副館長／松本
	2	展覧会見学 （「加山又造展」・「コレクション展第2期」）	宮下・藤田
	3	バックヤード見学	松本
	4	講 義：博物館運営に関わる法律・現在の博物館を取り巻く状況	藤田
7月14日(金)	1	実 習：作品の取り扱い・展示・点検（平面作品）	松矢・松本
	2		
	3	講 義：作品の収集・分類・保管／データベース管理	平石／濱田
	4	実 習：作品の取り扱い・展示（彫刻）	伊澤・平石
7月18日(火) 休館日	1	講 義：ミュージアムエデュケーション	宮下
	2		
	3	講 義：美術館と地域連携／ボランティアと友の会	伊澤
	4	講 義：作品の調査・研究	松矢
7月19日(水)	1	実 習：作品の取り扱い・展示（軸・屏風）	宮下
	2		
	3	講 義：学芸課の業務／展覧会の企画から礼状まで	藤田
	4	講 義：総務課の業務／施設管理・安全対策	高尾／太平BS・セコム
7月20日(木)	1	実 習：作品の取り扱い・展示（工芸）	藤田
	2	講 義：美術館の広報	宇賀田
	3	講 義：作品の保存・修復	松矢
	4	講 義：美術館のサービスと来館者の視点	囃託員
7月21日(金)	1		
	2	実 習：展覧会計画①（作品・テーマ選定）	松本・伊澤・平石
	3		
	4		
7月24日(月) 休館日	1		
	2	実 習：展覧会計画②（リスト、図面、開催要項作成）	松本・伊澤・平石
	3		
	4	実 習：作品解説会説明、準備①	平石・伊澤・松本
7月25日(火)	1	実 習：展覧会計画③（パネル・キャプション等の作成）	松本・伊澤・平石
	2		
	3		
	4	実 習：作品解説会準備②	平石・伊澤・松本
7月26日(水)	1		
	2	実 習：作品搬入、展示作業	松本・伊澤・平石
	3		
	4	実 習：展示講評、撤収作業	学芸課・松本・伊澤・平石
7月27日(木)	1	実 習：作品解説会準備③	平石・伊澤
	2		
	3	実 習：作品解説会（一般公開）	平石・学芸課
	4	講 義：作品解説会・講評／実習のまとめ・閉講式	平石・学芸課／館長・松本

8時50分出勤 実習場所は会議室を基本とする
①9：00～10：20（80分） ②10：40～12：00（80分）
③13：10～14：30（80分） ④14：50～16：10（80分）

担当 松本奈穂子、伊澤朋美、平石昌子

イベント

講演会等

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
7月23日(日)	14:00～15:00	レオナルド・フジタとモデルたち	会田誠、フジタを語る	会田誠氏（美術家）	フジタの壁画作品を前に、同じ画家として見たフジタの絵画の特徴と人間像について語った。	一般 要観覧券	展示室内	200
7月30日(日)	14:00～15:30	レオナルド・フジタとモデルたち	絵画保存修復家の仕事～よみがえる絵画、そしてフジタ	岩井希久子氏 (絵画保存修復家)	絵画保存修復家の仕事を具体的に紹介しながら、フジタの絵画についても語った。	一般 参加無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	89
9月30日(土)	14:00～15:00	所蔵品展 うつくしい暮らし	学芸員によるギャラリートーク ※共催：NIGATAアートリンク	星野立子氏（新潟市美術館学芸員）／今井有 (当館業務課長代理)	展示室を巡りながら、2人の学芸員がそれぞれの視点から作品について語り、多角的に鑑賞した。	一般 要観覧券	展示室内	25
3月21日(水・祝)	14:00～15:30	古代アンデス文明展	古代アンデス文明 その誕生から滅亡まで	篠田謙一氏（国立科学博物館副館長兼人類研究部長）	古代アンデス文明を概説しながら、文明の多様性と魅力などを語った。	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	160

計474名

美術鑑賞講座

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
4月23日(日)	14:00～15:40	マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	近代日本のかわいいデザイナー—竹久夢二と杉浦非水を中心に	池田珠緒 (当館主任学芸員)	竹久夢二と杉浦非水のデザインを紹介し、両者の接点と大正初期のデザインの特徴について解説した。	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	21
7月9日(日)	14:00～15:40	レオナルド・フジタとモデルたち	レオナルド・フジタと5人の妻たち	澤田佳三 (当館業務課長代理)	画家と妻との関わりを居住地と室内の様子、画風の変化、主な出来事などとともにたどりながら、フジタの人間像を解説した。	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	57
8月20日(日)	14:00～15:40	レオナルド・フジタとモデルたち	日本画家／挿絵画家 水島爾保布とピアズリー	桐原浩 (当館業務課長)	長岡で没した水島爾保布について、大正期の作品と英国世紀末に活躍したピアズリーとの関連について解説した。	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	18
10月21日(土)	14:00～15:25	所蔵品展 うつくしい暮らし	デザイナー・亀倉雄策のうつくしい暮らし	今井有 (当館業務課長代理)	亀倉雄策が収集した絵画、彫刻、工芸品、民芸品などを紹介しながら、亀倉の審美眼について解説した。	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	23

計119名

ワークショップ

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
4月29日(土・祝)	13:00～16:30	マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	「にいがたもよう」オリジナルミニノートづくり	にいがたもよう研究所	にいがたもよう研究所がデザインしたカラフルで可愛い「にいがたもよう」を切り貼りして、オリジナル表紙のミニノートを制作。	一般 参加無料	美術館ロビー	132
10月28日(土)	11:00～12:00／ 13:00～14:00／ 14:30～15:30	所蔵品展 うつくしい暮らし	うまのオーナメントをつくろう	山下真有氏・寺尾雅美氏（北欧工芸研究会）	新潟産の自然素材（麦わら）を編んで、秋田の工芸品であるイタヤ馬を制作。	一般 参加無料 要申込	美術館ロビー	30

計162名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
8月13日(日)	18:45～19:10	レオナルド・フジタとモデルたち	Noism 特別パフォーマンス	Noism 1	フジタの壁画作品を前にしたNoism 1の10名による特別パフォーマンス『DoGoD』（演出振付：金森稯氏）。	一般 要観覧券 要申込	展示室内	78
12月2日(土)	18:00～20:00	チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地	コスプレイベント「チームラボ展 de コスプレガタケット」 ※共催：ガタケット	—	チームラボ展の展示室内でのコスプレによる撮影会。	一般 有料 要申込	展示室内	40

計118名
総合計873名

刊行物

刊行物名	概 要	仕 様	発行部数	発行日	内 容
平成29年度 年間スケジュール	平成29年度の企画展と所蔵品展の日程及び内容、年間のイベント予定などをまとめたもの。	A 4判 観音四つ折り	55,000部	2017年4月1日	展覧会予定／開館カレンダー／美術鑑賞講座案内／新潟県立近代美術館スケジュール／観覧料免除／乳幼児・障害者向け施設案内／サポートメンバー募集／友の会案内／市内美術館・博物館案内／駐車場案内／交通案内
新潟県立万代島美術館だより 「B.island」 No.16	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したもの。	A 3判二つ折り (A 4判) 4頁	5,000部	2017年4月1日	2017年度の企画展／2017年度の所蔵品展／注目の展覧会 マリメッコ展ーデザイン、ファブリック、ライフスタイル／注目の作品 レオナルド・フジタ《ライオンがいる構図》《犬がいる構図》《争闘Ⅰ》《争闘Ⅱ》1928年／イベントピックアップ 講演会「ピアズリーの魅力を語る」、「カオナシがやって来る!」、アートコンプレックス&トーク「冬の遠吠え」、トーク「針と糸は物語る」／退任のご挨拶 (前新潟県立近代美術館長・徳永健一)／NIIGATA アートリンク／サポートメンバーを募集しています／新潟県立近代美術館の企画展／開館基本情報、交通案内

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会の会期中に展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるよう学芸員による作品解説会等を行った。

企画展		企画展		所蔵品展		企画展	
マリメッコ展		レオナルド・フジタとモデルたち		うつくしい暮らし		チームラボ	
期日	人数	期日	人数	期日	人数	期日	人数
4月 1日(土)	30名	7月 2日(日)	27名	9月18日(月・祝)	15名	1月30日(火)	9名
4月16日(日)	50名	8月 6日(日)	30名	10月15日(日)	10名	1月31日(水)	4名
5月13日(土)	65名	8月27日(日)	60名			2月 6日(火)	6名
(3回)		(3回)		(2回)		2月 7日(水)	8名
小計	145名	小計	117名	小計	25名	2月13日(火)	10名
						2月14日(水)	11名
						2月20日(火)	13名
						2月21日(水)	18名
						2月27日(火)	19名
						2月28日(水)	19名
						(10回)	
						小計	117名
						総合計	18回 404名

団体の受入れ

団体来館のうち、希望に応じて作品解説や施設紹介等を行った。

マリメッコ展

5月18日(木)	剣野ふるさと学級	20名
6月 3日(土)	新潟県立美術館友の会	25名

レオナルド・フジタとモデルたち

6月29日(木)	三条市大島公民館	21名
7月 5日(水)	新潟市小学校教育研究会図画工作部	15名
7月12日(水)	美術館連絡協議会	18名
7月27日(木)	新潟日報カルチャースクール万代校	11名

チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地

12月26日(火)	新潟県立美術館友の会	21名
-----------	------------	-----

合計131名

学校教育との連携

●図工・美術の授業及び部活動での利用－展覧会の鑑賞

学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展覧会の鑑賞の機会を提供した。

特に希望のあった学校団体に関しては、学芸員による作品解説を行った。

【学芸員による作品解説を行った学校】 474名

(児童・生徒440名＋引率者34名)

マリメッコ展

4月29日(土)	新潟向陽高等学校	(1～3年) 8名 (2名)
----------	----------	----------------

レオナルド・フジタとモデルたち

6月24日(土)	新潟大学教育学部	38名 (1名)
7月11日(火)	新潟県立新津南高等学校(1年)	77名 (3名)
7月14日(金)	新潟県立新津南高等学校(1年)	38名 (2名)
7月18日(火)	新潟県立新津南高等学校(1年)	72名 (4名)
7月27日(木)	新潟市立亀田中学校	(1～3年) 19名 (2名)
8月 1日(火)	阿賀野市立京ヶ瀬中学校(1～3年)	10名 (1名)
8月 1日(火)	新潟市立小新中学校	(1～3年) 28名 (2名)
8月 3日(木)	加茂市立葵中学校	(1・2年) 10名 (2名)
8月 4日(金)	上越市立直江津東中学校(1・2年)	16名 (1名)
8月 4日(金)	新潟市立黒埼中学校	(1～3年) 41名 (3名)
8月 4日(金)	新潟市立横越中学校	(1～3年) 12名 (1名)

うつくしい暮らし

10月 6日(金)	新潟市立下山中学校	(1・2年) 14名 (1名)
11月 2日(木)	新潟県立長岡商業高等学校(1・2年)	12名 (2名)

チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地

12月 2日(土)	上越市立直江津中学校	(1～3年) 16名 (2名)
12月 5日(火)	新潟県立新潟向陽高等学校(1～3年)	10名 (2名)
12月26日(火)	新潟県立新潟工業高等学校(1・3年)	8名 (1名)
2月 8日(木)	新潟市立笹山小学校	(3・4年) 11名 (2名)

【展覧会鑑賞のみの学校】 322名

(児童・生徒290名＋引率者32名)

マリメッコ展

5月27日(土)	新潟青陵高等学校	(1～3年) 12名 (1名)
----------	----------	-----------------

レオナルド・フジタとモデルたち

7月28日(金)	新潟市立亀田西中学校	(1・2年) 11名 (1名)
8月 3日(木)	新潟市立南浜中学校	(1～3年) 16名 (1名)
8月 4日(金)	新潟市立光晴中学校	(1～3年) 16名 (1名)
8月 8日(火)	三条市立下田中学校	(1～3年) 23名 (2名)
8月18日(金)	村上市立朝日中学校	(2・3年) 7名 (1名)

うつくしい暮らし

9月24日(日) 新潟市立新津第二中学校	35名
11月 2日(木) 新潟県立新潟工業高等学校(1・3年)	9名(1名)

チームラボ 踊る!アート展と、学ぶ!未来の遊園地

12月16日(土) 魚沼市立堀之内中学校(1・2年)	14名(2名)
12月16日(土) 新潟第一高等学校	18名(2名)
12月21日(木) 新潟市立木戸小学校(1～5年)	16名(8名)
12月23日(土) 新潟市立西川中学校(1・2年)	11名(1名)
12月24日(日) 魚沼市立広神中学校(1・2年)	5名(1名)
12月26日(火) 三条市立第三中学校(1～3年)	19名(1名)
1月 5日(金) 新潟市立東新潟中学校(1・2年)	18名(1名)
1月26日(金) 新潟市立笹山小学校(1・2年)	16名(3名)
2月 2日(金) 新潟県立江南高等特別支援学校	20名(3名)
2月18日(日) 見附市立西中学校(1・2年)	24名(2名)

●校外学習・総合学習

学校教育、特に中学校の校外学習及び総合学習での利用に供した。希望のあった場合は目的に応じて施設や職業に関する質問への対応や案内を行った。

【学芸員による解説を行った学校】 304名
(児童・生徒288名+引率者16名)

マリメッコ展

4月23日(日) 新潟大学教育学部	39名(1名)
5月11日(木) 新潟市立坂井輪中学校(2年)	40名
5月16日(火) 新潟市立西川中学校(2年)	4名
5月17日(水) 新発田市立加治川中学校(2年)	5名(1名)
5月18日(木) 阿賀野市立安田中学校(2年)	5名(1名)
5月19日(金) 新潟市立臼井中学校(1年)	14名
5月23日(火) 新潟市立巻西中学校(2年)	5名

レオナルド・フジタとモデルたち

6月29日(木) 新潟市立濁川中学校(3年)	2名
7月13日(木) 新潟市立鳥屋野中学校(2年)	7名

うつくしい暮らし

10月13日(金) 新潟県立小千谷西高等学校(3年)	149名(8名)
----------------------------	----------

チームラボ 踊る!アート展と、学ぶ!未来の遊園地

2月 7日(水) 新潟県立大学国際地域学部	8名(1名)
2月26日(月) 新潟県立新発田竹俣特別支援学校(高等部2年)	10名(4名)

【展覧会鑑賞のみの学校】

669名

(児童・生徒549名+引率者120名)

マリメッコ展

4月 9日(日) ヒューマンキャンパス高等学校(1～3年)	47名(8名)
4月25日(火) 新潟市立中野小屋中学校(2年)	4名
4月26日(水) 新潟市立関屋中学校(2年)	5名
5月10日(水) 新潟市立亀田中学校(2年)	6名
5月16日(火) 新潟市立葛塚中学校(2年)	31名
5月16日(火) 新発田市立豊浦中学校(2年)	17名(1名)
5月17日(水) 新潟市立大形中学校(2年)	13名
5月25日(木) 新潟工科専門学校	9名(1名)

レオナルド・フジタとモデルたち

7月 3日(月) 福島県会津坂下町立坂下中学校(2年)	5名
8月17日(木) 山形県立鶴岡東高等学校	6名(1名)
8月29日(火) 日本アニメ・マンガ専門学校	14名(2名)

うつくしい暮らし

10月 6日(金) 新発田市立本丸中学校(1年)	21名(1名)
11月 2日(木) 新潟県立長岡明德高等学校(4年)	20名(3名)
11月 2日(木) 新潟県立柏崎工業高等学校	4名(1名)

チームラボ 踊る!アート展と、学ぶ!未来の遊園地

11月29日(水) 新潟県立はまぐみ特別支援学校(小学部1年他)	5名(17名)
11月30日(木) 新潟県立はまぐみ特別支援学校(中学部1・2年)	3名(5名)
12月 1日(金) 新潟県立村上特別支援学校(高等部3年)	2名(1名)
12月 8日(金) 三条市立長沢小学校・大浦小学校(4年)	27名(4名)
12月 8日(金) 新潟県立江南高等特別支援学校(3年)	9名(5名)
12月15日(金) 新潟市立明鏡高等学校	10名(4名)
1月12日(金) 新潟市立小林小学校(4年)	25名(2名)
1月21日(日) 国際情報工科自動車大学校(2・3年)	48名(2名)
2月 1日(木) 新潟明訓高等学校	13名
2月 2日(金) 新潟県立出雲崎高等学校	41名(8名)
2月 6日(火) 新潟県立江南高等特別支援学校	12名(7名)
2月 8日(木) 三条市立月岡小学校(1～6年)	13名(5名)
2月15日(木) 新潟県立江南高等特別支援学校	7名(5名)
2月20日(火) 見附市立見附中学校	10名(5名)
2月22日(木) 阿賀町立三川中学校(1・2年)	3名(1名)
2月22日(木) 新潟県立江南高等特別支援学校	28名(12名)
2月23日(金) 新潟県立新発田ジャパン・ビューティ・アカデミー	43名(2名)
2月27日(火) 新潟県立五泉特別支援学校(高等部1～3年)	10名(2名)
2月27日(火) 新潟県立江南高等特別支援学校	11名(3名)
3月 1日(木) 新潟市立葛塚東小学校(1～6年)	26名(9名)
3月 2日(金) 新潟県立新潟盲学校(小学部2年)	1名(3名)

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障害者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

展覧会名	会期	日数	学 校 等						障害者	介助	合 計
			小中・特			高校					
			校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率			
マリメッコ展	4月1日～6月11日	67	12	(149)	3	3	67	11	677	187	945
レオナルド・フジタとモデルたち	6月24日～9月3日	67	15	(223)	18	11	229	9	534	130	920
うつくしい暮らし	9月16日～11月5日	47	3	(70)	2	4	190	14	151	35	392
チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！ 未来の遊園地	11月23日～3月4日	90	19	(258)	57	14	196	59	1,260	547	2,119
古代アンデス文明展	3月21日～3月31日	11	0	(0)	0	0	0	0	194	60	254
合 計		282	49	(700)	80	32	682	93	2,816	959	4,630

注）小学校、中学校及び特別支援学校（初等部・中等部）の児童生徒は観覧料無料のため、合計には含まない。（表中カッコ書きの数値）

夏休み期間 観覧料免除者数（再掲）

展覧会名	期間	日数	校数	生徒
レオナルド・フジタとモデルたち	6月24日～9月3日	67	8	42

サポートメンバー (新潟県立万代島美術館ボランティア組織)

新潟県立万代島美術館では、美術館と県民とをより親しく結びつけることを目的として、新潟県立万代島美術館サポートメンバーを組織している。本年度は下記のとおり活動を行った。

【ねらい】

- 1 来館者に生涯学習の機会と場を提供する。
- 2 美術館の活動を共有し、美術館への関心と関わりを深めることにより、美術館の愛好者を増大する。

【登録人数】(H30年3月現在)

8名

【活動内容】

展覧会に付随するイベントへの協力、万代島美術館の活動や展覧会業務で必要な活動への協力

- ・各展覧会広報活動（ポスター、チラシ発送）への協力
- ・「レオナルド・フジタとモデルたち」展 ギャラリー・トーク 会場準備、整理
- ・「レオナルド・フジタとモデルたち」展 講演会 会場準備、整理
- ・「うつくしい暮らし」展 キャプション準備作業
- ・「チームラボ展」クレヨン、ケース準備
- ・図書、作家資料、新聞切り抜き等整理

【課題】

- ・各展覧会のイベントへの協力、ポスター・チラシ等の発送などを中心に活動していただいた。
- ・各メンバーの希望もふまえながら、活動機会を増やせるよう工夫したい。

博物館実習

【趣 旨】

学芸員資格取得を目指す学生のために博物館実習を実施し、7名の実習生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取扱いの指導も行った。研究課題として、所蔵品展のギャラリートークを行った。

【実習期間】

10月11日(水)～18日(水) ※土・日を除く計6日間

【実習生の所属および受入人数】

新潟大学	2名	
長岡造形大学	2名	
京都造形芸術大学	1名	
日本大学	1名	
専修大学	1名	合計7名

【カリキュラム】

月日	曜日	時限	内容	担当
10月11日	水	1	開校式／館長挨拶／オリエンテーション／施設案内	館長・池田
		2	館長講話	館長
		3	展示室案内・所蔵品展見学	今井
		4	研究課題（課題説明・テーマ検討）	池田
10月12日	木	1	展覧会の企画・運営／総論	桐原
		2	作品の点検・取扱い（平面）	澤田
		3	調査研究／作品収集／保存・修復	澤田
		4	研究課題（発表準備）	池田
10月13日	金	1	10：20～11：00 施設見学	松本（近代美術館）
		2	11：20～12：00 教育普及	宮下（近代美術館）
		3	13：00～14：20 作品の点検・取扱い（日本画）	池田
		4	14：40～16：00 展覧会見学	—
10月16日	月	1	広報／ホームページ／所蔵品貸出	飯島
		2	作品の点検・取扱い（立体・写真）	桐原
		3	研究課題（発表準備・資料作成）	池田
		4		
10月17日	火	1	受付・監視の仕事	囑託員
		2	総務担当の業務について（予算・人事等）	佐々木
		3	刊行物／著作権／他館・外部団体との連携	今井
		4	研究課題（発表準備）	池田
10月18日	水	1	研究課題（発表準備）	池田
		2	研究課題（配布資料準備）	池田
		3	課題発表・講評	館長・学芸
		4	閉校式	館長・池田

※10月13日(金)は近代美術館（長岡市）で実施

10：10出勤 実習場所：準備室

①10：10～11：30（80分） ②11：50～13：10（80分）

③14：15～15：35（80分） ④15：55～17：15（80分）

担当 池田珠緒、飯島沙耶子、澤田佳三



新潟県立近代美術館

【調査】

- 藤田裕彦 萬鐵五郎作品調査 岩手県立美術館/萬鐵五郎記念美術館 4月15～16日
- 濱田真由美 ロダン作品調査 新潟市美術館 5月9日
- 松矢国憲 高村真夫作品調査 東京都中央区 6月5日
- 伊澤朋美・藤田裕彦 武石弘三郎作品調査 新潟市 6月7日
- 宮下東子 横山操作品調査 三鷹市 6月11日
- 伊澤朋美 武石弘三郎作品資料調査 長岡市 6月16日
- 伊澤朋美 武石弘三郎作品調査 三条市 6月30日
- 藤田裕彦 堀口大學作品調査 神奈川県 7月11～12日
- 松矢国憲 良寛作品調査 新潟市 7月24日
- 平石昌子 堀口大學作品調査 神奈川県 7月28日
- 伊澤朋美 武石弘三郎作品及び関連作品調査 長岡市 8月21日
- 平石昌子・宮下東子・松本奈穂子 堀口大學展作品調査 新潟県長岡高等学校記念資料館 8月24日
- 松矢国憲・宇賀田和雄 江口草玄作品調査 京都市 8月30日～9月1日
- 松矢国憲 江口草玄作品調査 柏崎市 9月20日
- 松矢国憲 江口草玄作品調査 柏崎市 9月30日
- 濱田真由美 新潟県出身写真家作品調査 千葉県 11月5日
- 藤田裕彦・宮下東子・長嶋圭哉（※文化行政課）個人所蔵家作品調査 新潟市 11月7日
- 濱田真由美・村山裕之 個人所蔵家作品調査 長岡市 11月8日
- 伊澤朋美・今井有（※万代島美術館）亀倉雄策旧蔵図書調査 クリエイションギャラリー G8 12月13日
- 松矢国憲 江口草玄作品調査 京都市 12月18～20日
- 松矢国憲 江口草玄作品調査 燕市 1月30日
- 松矢国憲 江口草玄展作品調査 京都市 2月8～9日
- 松矢国憲・長嶋圭哉（※文化行政課）資料調査 三条市 2月23日
- 濱田真由美 久保田成子展作品調査 生涯学習推進センター 3月9日

【図録執筆】

- 平石昌子 『美と文学の探索者—堀口大學』論文「堀口大學と美しい書物」及び各章扉・解説文 12月2日

【寄稿】

- 新聞
- 松矢国憲 新潟日報「漢字三千年に寄せて」 4月22日
- 宮下東子 新潟日報「展覧会へようこそ・コレクション展 新収蔵品を中心に」 5月13日
- 松本奈穂子 新潟日報「展覧会へようこそ・かぐわしき風の中で—猪爪彦一展」 6月16日
- 宮下東子 新潟日報「展覧会へようこそ・加山又造展」 8月3日
- 松本奈穂子 新潟日報「展覧会へようこそ・没後90年 萬鐵五郎展」 10月19日
- 平石昌子 新潟日報「展覧会へようこそ・堀口大學展」 12月14日
- 宮下東子 加山又造展音声ガイド原稿執筆 6月

【講演・講義等】

- 新潟大学人文学部（美術史概説A）
- 濱田真由美 ①「全体の流れと方法論」 10月4日
- 平石昌子 ⑦「近代美術 18世紀フランス美術」 11月22日
- 平石昌子 ⑧「近代美術 ロマン主義」 12月6日
- 平石昌子 ⑨「近代美術 レアリスム」 12月13日
- 平石昌子 ⑩「近代美術 世紀末美術」 12月20日
- 濱田真由美 ⑪「20世紀美術 1 世紀前半の欧米美術」 1月10日
- 藤田裕彦 ⑭「20世紀美術 4 戦後・現代」 1月24日
- ※業務の関係の為、当初 1/24 予定の⑬「20世紀美術 3 パウハウスを中心に」と 1/31 予定の⑭「20世紀美術 4 戦後・現代」を変更。

- 木村哲郎・丸山実（パネラー参加）
- 「現代美術で地域発信」パネルディスカッション 長岡商工会議所 11月25日
- 藤田裕彦 「スティーヴン・スピルバーグの魅力」新潟県立美術館友の会アートカフェ ジュンク堂 参加者14名 2018年3月17日

教職員研修

宇賀田和雄・宮下東子

長岡市教育センター研修講座 当館「長岡学講座」
参加者28名 5月12日宇賀田和雄 長岡市立表町小学校図画工作科校内研修会 長
岡市表町小学校 参加者12名 5月17日宮下東子 燕市西蒲原郡小学校教育研究会 燕市立島上小
学校「鑑賞指導の工夫」参加者13名 6月7日宮下東子 三条市小学校教育研究協議会図画工作部一斉研
修 当館「対話型鑑賞の体験」参加者27名
6月15日宮下東子 長岡市三島郡小・中・総合支援学校教頭会 当
館「美術館の利用に関する研修・児童生徒の心の
変容を促す対話型鑑賞」参加者10名 7月13日宮下東子 江陽中学校区小中連携第2研修会 当館「美術
館の鑑賞について」「加山又造展解説」参加者
49名 8月4日

松本奈穂子・宇賀田和雄

長岡市三島郡美術教育研究会研修会 当館「萬
鐵五郎展解説」「美術館の利用促進について」
参加者17名 10月18日宮下東子 三条市中学校教育研究協議会美術部研修会 三
条市立第二中学校「対話型鑑賞の指導について」
参加者65名 10月31日

【研 修】

宮下東子 「勇気づけのリーダーシップセミナー」新潟県自
治会館別館 10月25日松本奈穂子 「タイムマネジメント研修」新潟県自治研修所
10月31日松本奈穂子 全国美術館会議第32回学芸員研修会
国立新美術館 3月19～20日

【会議等】

木村哲郎・丸山実・藤田裕彦

新潟県博物館協議会総会 朱鷺メッセ 4月24日

藤田裕彦 第66回全国美術館会議 鎌倉プリンスホテル
5月25～26日

木村哲郎・丸山実・村山裕之

第59回北信越博物館協議会 日本博物館協会北
越支部総会・研究協議会 6月6～7日丸山実 新潟県博物館協議会運営研究会 三条市各企業
7月24日藤田裕彦 公開承認施設担当者会議/国宝重要文化財（美術
工芸品）防災・防犯対策研修会 文部科学省第2
講堂 7月25～26日村山裕之 第48回ジュニア展運営会運営委員会 新潟日報
メディアシップ 9月5日丸山実 全国公立美術館副館長会議 山梨県立美術館
9月7～8日

木村哲郎・藤田裕彦

2017年度美術館連絡協議会総会

よみうり大手町ホール 10月26～27日

藤田裕彦 長岡造形大学3年絵画・版画ゼミ進級判定展作品
講評会 第1安達ビル プリン長岡 1月25日藤田裕彦 新潟市美術館美術資料購入候補作品額評価
新潟市美術館 1月30日松矢国憲 小林古径記念美術館収集委員会 上越市立総合博
物館 3月6日宮下東子 第1回全国障害者芸術・文化祭企画会議 県庁
3月14日

NIIGATA アートリンク2017連絡会議

藤田裕彦・宇賀田和雄・濱田真由美・伊澤朋美・松本奈穂子
第1回 新潟市美術館 5月9日

藤田裕彦・濱田真由美・松本奈穂子

第2回 新潟県立近代美術館 10月5日

藤田裕彦・宇賀田和雄・濱田真由美・松本奈穂子

第3回 新潟県立万代島美術館 1月18日

藤田裕彦・宇賀田和雄・濱田真由美・松本奈穂子

第4回 新潟市新津美術館 3月8日

新潟県立万代島美術館

【調 査】

展覧会関連

「レオナルド・フジタとモデルたち」関連調査

澤田佳三 いわき市立美術館 5月18日

「萬鐵五郎展」関連調査

澤田佳三 神奈川県立近代美術館葉山 7月1日

作品調査

池田珠緒・飯島沙耶子

酒井三良作品調査 福島県立美術館 7月27日

作家調査

水島爾保布関連

桐原浩 国立国会図書館 6月28日、10月27日

新潟県立図書館 7月6日

亀倉雄策関連

今井有 リクルート 12月13日、2月7日

【寄 稿】

澤田佳三 新潟日報「展覧会へようこそ レオナルド・フジタとモデルたち 稀有な画家の新たな顔」 8月17日

今井有 新潟日報「展覧会へようこそ 所蔵品展 うつくしい暮らし」 10月18日

【講演・講義等】

池田珠緒 にいがた県政出前講座「お出かけ美術講座」
「新潟出身の日本画家について」 天明会館
(新潟市中央区) 5月16日

今井有 Kaede Gallery+full moon
ギャラリートーク：コイズミアヤ×今井有
(「コイズミアヤ展 かさなりとかたまり」関連イベント) 11月11日

新潟大学人文学部(美術史概説A)

桐原浩 ②「ルネサンス イタリア美術①」 10月11日

③「ルネサンス イタリア美術②」 10月18日

④「ルネサンス 北方美術」 10月25日

⑤「バロック イタリア美術」 11月8日

今井有 ⑥「バロック オランダ・フランドル美術」 11月15日

桐原浩 ⑫「20世紀美術2 ドイツ表現主義」 1月17日

今井有 ⑬「20世紀美術3 バウハウスを中心に」 1月31日

【研 修】

澤田佳三 ミュージアム照明体験セミナー「これからのミュージアムライティング」新潟県民会館 9月21日

澤田佳三 全国美術館会議第32回学芸員研修会
国立新美術館 3月19日～20日

【審 査】

池田珠緒 新潟デザイン専門学校卒業修了制作展 審査員
新潟市民プラザ 2月3日

【会議等】

NIIGATAアートリンク2017連絡会議

今井有、澤田佳三

第1回 新潟市美術館 5月9日

今井有、澤田佳三

第2回 新潟県立近代美術館 10月5日

桐原浩、今井有、澤田佳三、池田珠緒

第3回 新潟県立万代島美術館 1月18日

今井有、澤田佳三

第4回 新潟市新津美術館 3月8日

桐原浩・飯島沙耶子

「創立100周年記念 国画創作協会の全貌展」
第1回全体会議 和歌山県立近代美術館 5月30日

池田珠緒・飯島沙耶子

「創立100周年記念 国画創作協会の全貌展」
第2回全体会議 笠岡市立竹喬美術館 2月20日

桐原浩 美術館連絡協議会総会 よみうり大手町ホール
10月26日

【その他】

澤田佳三 1950年代展研究会 埼玉県立近代美術館
第1回 8月1日 ※当初の名称は1950年代展準備会
第2回 11月1日
第3回 3月3日

美術品の収集

平成29年度収集作品一覧

分 野	各領域点数	合計点数
新潟の美術	日本画2 素描1 書1	4
日本の美術	デザイン1	1
世界の美術		0
総合計	日本画2 素描1 書1 デザイン1	5

新 潟 の 美 術



日本画
横山 操 YOKOYAMA, Misao
1920～1973（大正9～昭和48）

網 *Fishing Net*
1959年（昭和34）
日本画 Japanese-style painting
紙本彩色 color on paper
額装
37.5×45.2
画面左下に落款「操59」
2017年度（平成29）寄贈
JP546



素描
横山 操 YOKOYAMA, Misao
1920～1973（大正9～昭和48）

野の川 *The River on the Field*
1972年頃（昭和47）
素描 drawing
紙、パステル paper, pastel
まくり
37.0×45.0
2017年度（平成29）寄贈
DR764



日本画
横山 操 YOKOYAMA, Misao
1920～1973（大正9～昭和48）

潮来の夕 *Evening of Itako*
1960年（昭和35）
日本画 Japanese-style painting
紙本彩色 color on paper
額装
52.6×84.6
画面左下に落款（操、白文方印「山」）
2017年度（平成29）寄贈
JP547



書
良寛 RYOKAN
1758～1831（宝暦8～天保2）

和歌一首 *Japanese Poem*
江戸時代後期
書 calligraphy
紙本墨書 paper, sumi
まくり（裏打ちのみ）
17.0×48.5
釈良寛書
2017年度（平成29）高島哲夫氏・高島淳二氏 寄贈
CA140

日|本|の|美|術|

デザイン

渡邊 良重 WATANABE, Yoshie
1961～(昭和36～)

洋菓子のパッケージデザイン「AUDREY」



クリスマス 2015 丸缶
(第19回亀倉雄策賞)

Round can for AUDREY Christmas 2015

2015年(平成27)

シルクスクリーン印刷 silkscreen printing

スチール缶、インク steel, ink

①φ14.0×11.7

②φ15.5×11.7

③φ17.0×11.7

サイズ違い3点

2017年度(平成29) 渡邊良重氏 寄贈
GD937-1



クリスマス 2015 包装紙
(第19回亀倉雄策賞)

Wrapping paper for AUDREY Christmas 2015

2015年(平成27)

オフセット印刷 offset printing

紙、インク paper, ink

まくり

①41.0×38.3

②46.5×51.0

サイズ違い2点

2017年度(平成29) 渡邊良重氏 寄贈
GD937-2



手提げ袋

Shopping bag for AUDREY

2014年(平成26)

オフセット印刷 offset printing

紙、インク paper, ink

①25.0×27.0×14.0

②23.4×33.9×10.0

サイズ違い2点

2017年度(平成29) 渡邊良重氏 寄贈
GD937-3



化粧箱

Gift box for AUDREY

2014年(平成26)

オフセット印刷 offset printing

紙、インク paper, ink

①10.5×23.5×4.2

②16.5×17.0×5.5

③15.0×20.0×5.8

④17.5×20.0×6.8

⑤20.0×24.8×5.4

サイズ違い5点

2017年度(平成29) 渡邊良重氏 寄贈
GD937-4



蓋付き化粧箱

Gift box with lid for AUDREY

2014年（平成26）

オフセット印刷 offset printing

紙、インク paper, ink

①18.3×25.0×6.9

②23.3×30.2×6.9

③24.9×33.3×5.4

サイズ違い3点

2017年度（平成29）渡邊良重氏 寄贈

GD937-5



生ケーキサービス箱

Cake box for AUDREY

2014年（平成26）

オフセット印刷 offset printing

紙、インク paper, ink

①14.0×12.7×9.9

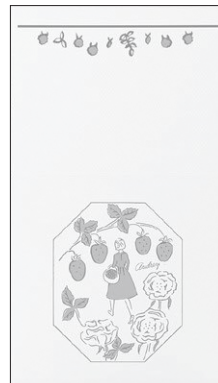
②14.0×18.7×9.9

③14.0×24.5×9.9

サイズ違い3点

2017年度（平成29）渡邊良重氏 寄贈

GD937-7



デコレーションケーキ箱

Decorating cake box for AUDREY

2014年（平成26）

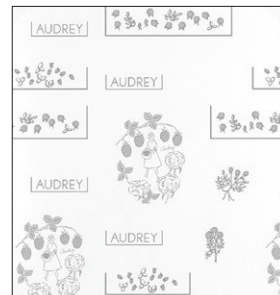
オフセット印刷 offset printing

紙、インク paper, ink

18.6×19.0×14.9

2017年度（平成29）渡邊良重氏 寄贈

GD937-6



包装紙

Wrapping paper for AUDREY

2014年（平成26）

オフセット印刷 offset printing

紙、インク paper, ink

まくり

①41.0×38.3

②46.6×51.0

③56.7×60.0

サイズ違い3点

2017年度（平成29）渡邊良重氏 寄贈

GD937-8

美術品の修復

平成29年度は実施せず。

美術品の燻蒸

平成29年度は実施せず。

美術品の貸出

展覧会名	貸出先（住所）	会期	作家名	作品名
「レオナール・フジタとモデルたち」	いわき市立美術館	平成29年4月15日～5月28日	藤田 嗣治	私の夢
	新潟県立万代島美術館	平成29年6月24日～9月3日		
	秋田県立美術館	平成29年9月9日～11月12日		
「日本画山脈－再生と革新～逆襲の最前線－」	新見美術館	平成29年4月13日～5月28日	横山 操	炎々桜島
	唐津市近代図書館美術ホール	平成29年6月3日～7月17日		
「リアル（写真）のゆくえ」	平塚市美術館	平成29年4月15日～6月11日	岸田 劉生	冬枯れの道路（原宿附近写生）
	足利市立美術館	平成29年6月17日～7月30日		
	碧南市藤井達吉現代美術館	平成29年8月8日～9月18日	小泉 成一	小春ノ日和
	姫路市立美術館	平成29年9月23日～11月5日		
「没後90年 萬鐵五郎展」	岩手県立美術館	平成29年4月15日～6月18日	萬 鉄五郎	雪の景（土沢）
	萬鉄五郎記念美術館	平成29年4月15日～6月18日		木の間風景
	神奈川県立近代美術館 葉山	平成29年7月1日～9月3日		湖山遊舟図
「19世紀パリ時間旅行－失われた街を求めて－」	練馬区立美術館	平成29年4月16日～6月4日	ジェームス・ティソ	夏の夕べ
			ジェームス・ティソ	新聞
			ジェームス・ティソ	野心を抱く女
			リヒャルト・ランフト	洋装店の女性たち 『エスタンプ・オリジナル』誌より
			ピエール・ボナール	パリ生活の諸相
			ベンジャミン・ジャン・ピエール・アンリ・リヴィエール	エッフェル塔三十六景
「フェリーチェ・ベアトの写真 人物・風景と日本の洋画」展	DIC川村記念美術館	平成29年9月19日～12月3日	小山 正太郎	仙台の桜
			浅井 忠	農人
「生誕百年 江川蒼竹の書」展	雪梁舎美術館	平成29年9月30日～11月12日	江川 蒼竹	漢武帝詩 「秋風辞」
「日本近代洋画の醸成と発展」	国立台北教育大学北師美術館	平成29年10月6日～1月7日	梅原 龍三郎	紫禁城
「福岡道雄 つくらない彫刻家」	国立国際美術館	平成29年10月28日～12月24日	福岡 道雄	ピンク・バルーン（寄託）

展覧会名	貸出先（住所）	会期	作家名	作品名
「生誕140年尾竹竹坡展」	富山県水墨美術館	平成30年2月16日～3月25日	尾竹 竹坡	蘭図
				七福神図
				梧桐
				鳳凰と麒麟
				豪華天下絵
				山岳図
				山岳図
				大地円
				阿寒湖
				画帳（12冊）
				印章33顆
「阿部展也—あくなき越境者」	広島市現代美術館	平成30年3月23日～6月3日	阿部 展也	作品
				太郎
				子供
				人
				埋葬
				埋葬2
				予言者
				人間
				作品
「長谷川利行展」	福島県立美術館	平成30年3月24日～4月22日	長谷川 利行	風景
				抱イテ寝モセス
				ナイトハウス

管 理 ・ 運 営



新潟県立近代美術館

コレクション展観覧者数

期 間 (企画展名)	第1期 H29 4/1～6/18 (68日間)			第2期 H29 6/22～9/3 (64日間)			第3期 H29 9/7～11/26 (70日間)			第4期 H29 11/30～H30 2/12 (60日間)			第5期 H29 2/16～3/31 (39日間)		合計 (年間301日)
	4/1～4/28 24日間 (コレクション展のみ)	4/29～6/11 38日間 (漢字三千年のみ)	6/13～6/18 6日間 (コレクション展のみ)	6/22～7/7 14日間 (コレクション展のみ)	7/8～8/27 44日間 (加山又造展のみ)	8/29～9/3 6日間 (コレクション展のみ)	9/7～9/15 8日間 (コレクション展のみ)	9/16～11/19 56日間 (萬鐵五郎展のみ)	11/21～11/26 6日間 (コレクション展のみ)	11/30～12/1 2日間 (コレクション展のみ)	12/2～1/8 28日間 (堀口大學展のみ)	1/10～2/12 30日間 (コレクション展のみ)	2/16～2/16 1日間 (コレクション展のみ)	2/17～3/31 38日間 (ディズニー・アート展)	
	個	人	小	計	個	人	小	計	個	人	小	計	個	人	小
一 般	224	123	67	153	157	53	105	167	63	4	55	193	0	129	1,493
大学・高校生	4	12	3	3	14	6	5	13	4	0	3	9	0	20	96
人 小 計	228	135	70	156	171	59	110	180	67	4	58	202	0	149	1,589
無 料	36	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	39
免 除	0	0	0	0	20	0	36	0	0	0	0	0	0	0	56
企画展チケット	36	0	0	0	21	0	38	0	0	0	0	0	0	0	95
合 計	78	88	32	70	163	78	220	69	16	76	36	283	1	32	1,242
コレクシ	25	7	3	26	5	17	18	8	7	1	2	36	0	0	155
ョン展のみ	0	8,128	0	0	8,033	0	0	2,590	0	0	861	0	0	3,978	23,590
合計(再掲)	367	8,358	105	252	8,393	154	386	2,847	90	81	957	521	1	4,159	26,671
		8,830			8,799			3,323			1,559			4,160	26,671
	367	230	105	252	360	154	386	257	90	81	96	521	1	181	3,081
		702			766			733			698			182	

* 無料には友の会会員を含む。

企画展観覧者数

企画展名	漢字三千年 —漢字の歴史と美— 4/29～6/11(38日間)	生誕90年 加山又造展 生命の煌めき 7/8～8/27(44日間)	没後90年 萬鐵五郎展 9/16～11/19(56日間)	堀口大學展 12/2～1/8(28日間)	ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法 2/17～3/31(38日間)	合 計
一 般	8,439	7,230	1,995	918	9,800	28,382
大学・高校生	282	212	65	53	1,192	1,804
人 小 計	8,721	7,442	2,060	971	10,992	30,186
一 般	58	225	228	12	12	535
大学・高校生	25	5	129	6	23	188
体 小 計	83	230	357	18	35	723
前 売	6,901	2,268	377		2,117	11,663
無 料	3,096	3,105	1,512	816	7,238	15,767
免 除	960	1,166	1,027	117	865	4,135
合 計	19,761	14,211	5,333	1,922	21,247	62,474

企 画 展 名	漢字三千年 —漢字の歴史と美—	生誕90年 加山又造展 生命の煌めき	没後90年 萬鐵五郎展	堀口大學展	ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法	合 計
図録販売数(冊)	1,040	793	269	220	511	2,833
音声ガイド使用数(台)	2,916	1,047			1,266	5,229

共催展

展覧会名	会 期	日 数	観覧者数
新潟県美術展覧会「長岡展」	6/28～7/2	5	2,892
第46回世界児童画展	8/5～8/11	7	1,032
友の会 第21回作品展	10/3～10/9	7	165
第25回 MOA 美術館長岡児童作品展	10/11～10/18	8	994
第21回長岡市中学校美術部作品展	11/3～11/4	2	765
第19回亀倉雄策賞受賞記念 渡邊良重展	12/2～12/17	14	1,134
第48回新潟県ジュニア美術展覧会「長岡展」	1/16～1/25	9	2,302
こどものづくり大学校	3/17～3/25	8	831
計		60	10,115

巡回ミュージアム

開催地	会 場 名	会 期	日 数	観覧者数
村上市	村上市総合文化会館	9/26～10/5	10	444
計			10	444

総観覧者数

	常 設 展	企 画 展	共 催 展	巡回ミュージアム	合 計
観覧者数	3,081	62,474	10,115	444	76,114

※ 常設展および企画展どちらも観覧した者を加えた常設展観覧者総数は26,671名

新潟県立万代島美術館

所蔵品展・企画展 観覧者数

展覧会名		マリメッコ展	レオナルド・フジタと モデルたち	所蔵品展 うつくしい暮らし	チームラボ 踊る！アート展と、 学ぶ！未来の遊園地	古代アンデス文明展	合 計
期 間		4/1～6/11 (67日間)	6/24～9/3 (67日間)	9/16～11/5 (47日間)	11/23～3/4 (90日間)	3/21～3/31 (11日間)	
個人	一 般	13,739	7,391	2,621	39,968	2,389	66,108
	大高生	775	351	102	2,284	224	3,736
	小 計	14,514	7,742	2,723	42,252	2,613	69,844
団体	一 般	58	88	24	80	8	258
	大高生	89	48	0	158	1	296
	小 計	147	136	24	238	9	554
前売(一般のみ)		6,900	1,522	-	6,172	911	15,505
招 待		2,155	1,548	562	2,730	269	7,264
無 料		2,232	731	247	32,559	724	36,493
免 除		945	920	392	2,119	254	4,630
合 計		26,893	12,599	3,948	86,070	4,780	134,290

* 所蔵品展の無料には友の会会員を含む

** 小中学生は無料を含む

*** 招待：封筒、ピラ下、パス、招待券、開場式等

講堂・ギャラリーの貸出

県民の文化活動の促進に資するため、新潟県立近代美術館講堂及びギャラリー使用要項に則り、講堂は1日につき27,100円、ギャラリーは1日につき17,700円で貸し出した。

講堂使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
4/2	1日間	おさらい会	ピアノ発表会	130
4/4	1日間	教室生徒の勉強会	4/29本番のための勉強会	13
4/8	半日間	健康セミナー	健康セミナー	124
4/13	半日間	音楽研究会	ピアノ勉強会	30
4/20	半日間	新潟県中越吹奏楽連盟 29年度総会	会議・研修会	100
4/23	1日間	翼の会発表会	ピアノ・歌の発表会	100
4/29	1日間	畠永裕教 ピアノスプリングコンサート	教室の生徒のピアノ発表	230
5/14	1日間	オペラコンサート	オペラコンサート	130
5/18	半日間	音楽研究会	ピアノ勉強会	60
5/31	半日間	長岡市・三島郡小学校長会	研修	60
6/3	1日間	ピアノの集いコンサート	発表会	52
6/9	半日間	ピアノ研究会	ピアノ勉強会	36
6/11	1日間	第11回ハーモニカフェスタin長岡	県内外のハーモニカグループが一堂に会する	350
6/18	半日間	大人のおさらい会	ピアノ発表会	25
6/23~25	3日間	映画上映会	映画「君のまなざし」上映	400
7/2	半日間	ラルゴピアノ発表会	ピアノ発表会	80
7/9	1日間	ピアノ発表会	生徒さんのピアノ発表会	60
7/13	半日間	美術館の利用に関する研修(長岡市三島郡教員会)	研修会	10
8/4	半日間	平成29年度江崎中学校区小中連携第2回研修会	研修会	80
8/11	1日間	キラキラミュージックコンサート	音楽の演奏会	160
8/16	半日間	損害評価会議及び研修会	損害評価実地計測調査及び水稲栽培技術講演	149
8/19	半日間	ピアノ演奏会	ピアノ演奏会	3
8/22	半日間	ピアノ研究会	ピアノ勉強会	36
9/3	1日間	Music of wing	音楽発表会	80
9/12	半日間	ピアノ研究会	ピアノ勉強会	35
9/24	1日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	70
9/30	半日間	越後一席の会	落語会	150
10/14	1日間	研修会	学習会	107
10/22	1日間	新潟県読書大会表彰式	特別賞受賞者の表彰	140
11/1	半日間	新潟県アンサンブルコンテスト抽選会	抽選会(出場順)	53
11/3	1日間	スクール合同発表会	音楽教室発表会	50
11/4	1日間	中澤卓也お楽しみ会	歌謡イベント	190
11/5	1日間	ピアノスタジオアンダンテ第12回発表会	ピアノ発表会	230
11/9	半日間	ピアノ音楽研究会	ピアノ勉強会	35
11/11	1日間	ピアノ発表会	演奏会	60
11/12	半日間	ドルチェの会ピアノ発表会	ピアノ発表会	40
11/15	半日間	アンサンブルの練習	アンサンブルの練習	40
11/19	1日間	ライトリビングピアノ発表会	ピアノ発表会	125
11/23	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	120
11/25	1日間	2017 Piano Concert	ピアノ教室発表会	40
11/26	半日間	吉澤ピアノ教室発表会	ピアノ演奏	130
12/10	半日間	合唱練習	合唱練習	24
12/23	1日間	ピアノ・エレクトーンコンサート	ピアノ・エレクトーンの発表会	60
1/7	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	53
1/12	半日間	フルート演奏と書写会	演奏会と書写(リハーサル)	20
1/13	半日間	フルート演奏と書写会	演奏会と書写	106
2/4	半日間	エリゼの会ピアノ発表会	ピアノ発表会	60
2/4	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	50
2/10	1日間	戸田ピアノ教室発表会	ピアノ発表会	50
2/11	1日間	ステラ・ムジカピアノ発表会	ピアノ発表会	85
2/12	1日間	酒井ピアノ教室ファミリーコンサート	ピアノ発表会	180
2/25	1日間	新潟県書き初め大会 新潟県硬筆書き初め大会	小・中学生の書写のコンクール の優秀作品の授賞式	300

以上 52件 (延べ日数…42日) 合計人数5,101

ギャラリー使用状況

期 間	日数	展 示 会 名	内 容	利用者人数
5/4~5/14	9日半間	松本保忠 彫刻展	彫刻作品の発表(約100点)	866
10/20~10/22	3日間	新潟県読書大会	優秀作品の展示	3,013
2/23~2/25	3日間	新潟県書き初め大会 新潟県硬筆書き初め大会	小・中学生の書写のコンクールの優秀作品の展示	5,807
3/3~3/11	8日間	第七回白雪ノ会	長岡造形大学絵画コースOB展	289

以上 4件 (延べ日数…23.5日) 合計人数9,975

講座室使用状況

期 間	日数	展 示 会 名	内 容	利用者人数
4/4	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	9
4/7	1日間	会議	会議	11
4/11	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	14
4/16	半日間	船舶免許更新講習	船舶免許更新講習	11
4/20	半日間	新潟県中越吹奏楽連盟 29年度総会	会議・研修会	30
4/23	半日間	翼の会発表会	ピアノ・歌の発表会	6
4/29	1日間	演奏会(29日)に向け勉強会	教室の生徒のピアノ勉強会	40
5/9	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
5/14	1日間	オペラコンサート	オペラコンサート	10
5/16	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	12
6/6	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	7
6/10	半日間	船舶免許更新講習	船舶免許学科講習	20
6/11	1日間	第11回ハーモニカフェスタin長岡	県内外のハーモニカグループが一堂に会する	50
6/13	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
7/2	半日間	ラルゴピアノ発表会	ピアノ発表会	3
7/4	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	9
7/8	1日間	会議	会議	14
7/11	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	8
7/13	半日間	セイノスパーエクスプレス新協賛会社連絡会	協力会社との打ち合わせ	8
7/22	1日間	技能審査試験	医療事務等の資格試験	18
8/10	1日間	体験学習F 美術館へ行く!!	講義と鑑賞	12
8/11	1日間	キラキラミュージックコンサート	音楽の演奏会	10
8/22	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	8
8/24	半日間	会議	会議	20
8/29	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	7
9/12	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	7
9/26	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
9/30	半日間	越後一席の会	落語会	10
10/14	1日間	研修会	学修会	15
10/17	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
10/24	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
10/28	1日間	無料説明会・ご入会カウンセリング	お見合いの説明及びカウンセリング	4
11/3	1日間	スクール合同発表会	音楽教室発表会	30
11/4	1日間	中澤卓也お楽しみ会	歌謡イベント	15
11/5	1日間	ピアノスタジオアンダンテ第12回発表会	ピアノ発表会	30
11/7	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	6
11/14	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	9
12/5	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	7
12/12	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
12/23	半日間	ECCジュニア湘田1丁目教室クリスマス発表会	レッスンの成果発表、アクティビティー	25
1/13	半日間	フルート演奏と書写会	演奏会と書写	15
1/16	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
2/6	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
2/12	1日間	酒井ピアノ教室ファミリーコンサート	ピアノ発表会	10
2/20	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	9
3/3	半日間	平成29年度 第一回北信越ENDOR勉強会	学習会	7
3/6	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	8
3/20	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10

以上 48件 (延べ日数…31日) 合計人数634

新潟県立近代美術館

展覧会名	展覧会開催期間	入場者数	回答者	回収率
漢字三千年	4月29日～6月11日	19,761	209	1.06%
加山又造展	7月8日～8月27日	14,211	151	1.06%
萬鐵五郎展	9月16日～11月19日	5,333	66	1.24%
堀口大學展	12月2日～1月8日	1,922	36	1.87%
合 計		41,227	462	1.12%

I 企画展覧会の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答
漢字三千年	54.5%	31.6%	5.7%	3.3%	4.8%
加山又造展	58.9%	29.1%	4.0%	1.3%	6.6%
萬鐵五郎展	51.5%	33.3%	4.5%	3.0%	7.6%
堀口大學展	69.4%	11.1%	2.8%	0.0%	16.7%
平 均	58.6%	26.3%	4.3%	1.9%	8.9%

II 企画展覧会のきっかけ

展覧会名	新聞記事	新聞広告	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑 誌	インターネット	友の会だより	知 人	たまたま来て	その他	無回答
漢字三千年	27.5%	19.5%	13.1%	1.3%	9.1%	1.0%	4.7%	0.7%	8.4%	2.3%	7.7%	4.7%
加山又造展	13.6%	12.6%	16.7%	0.5%	13.1%	1.5%	8.1%	0.5%	7.1%	5.1%	15.2%	6.1%
萬鐵五郎展	8.8%	8.8%	8.8%	0.0%	10.0%	2.5%	21.3%	3.8%	5.0%	12.5%	11.3%	7.5%
堀口大學展	13.3%	4.4%	6.7%	4.4%	15.6%	0.0%	13.3%	2.2%	11.1%	2.2%	11.1%	15.6%
平 均	15.8%	11.3%	11.3%	1.6%	12.0%	1.3%	11.9%	1.8%	7.9%	5.5%	11.3%	8.5%

III コレクション展の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答
漢字三千年	27.8%	29.2%	3.8%	1.4%	37.8%
加山又造展	36.4%	32.5%	3.3%	0.7%	27.2%
萬鐵五郎展	42.4%	25.8%	1.5%	1.5%	28.8%
堀口大學展	44.4%	13.9%	0.0%	0.0%	41.7%
平 均	37.8%	25.4%	2.2%	0.9%	33.9%

IV 普段の情報源

展覧会名	新 聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑 誌	インターネット	友の会だより	知 人	たまたま来て	その他	無回答
漢字三千年	29.8%	29.2%	6.7%	5.6%	2.7%	16.3%	0.7%	3.3%	0.9%	0.7%	4.2%
加山又造展	26.4%	28.8%	6.0%	6.7%	5.0%	16.1%	1.0%	3.3%	0.7%	2.3%	3.7%
萬鐵五郎展	23.1%	20.7%	6.6%	3.3%	5.0%	23.1%	1.7%	4.1%	2.5%	3.3%	6.6%
堀口大學展	24.6%	13.8%	4.6%	7.7%	6.2%	26.2%	4.6%	3.1%	0.0%	3.1%	6.2%
平 均	26.0%	23.1%	6.0%	5.8%	4.7%	20.4%	2.0%	3.5%	1.0%	2.4%	5.2%

V 当館への来館回数

展覧会名	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答
漢字三千年	18.7%	19.1%	22.5%	32.1%	7.7%
加山又造展	10.6%	17.9%	25.8%	41.1%	4.6%
萬鐵五郎展	27.3%	9.1%	21.2%	30.3%	12.1%
堀口大學展	19.4%	11.1%	25.0%	30.6%	13.9%
平 均	19.0%	14.3%	23.6%	33.5%	9.6%

Ⅵ 展覧会ジャンルの希望

展覧会名	日本画	洋画(日本)	西洋絵画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	その他	無回答
漢字三千年	19.5%	9.5%	11.0%	5.0%	6.0%	6.0%	9.5%	9.8%	7.6%	5.7%	4.8%	5.7%
加山又造展	21.7%	15.8%	12.8%	6.3%	7.1%	6.0%	3.3%	6.8%	6.8%	8.4%	1.1%	4.1%
萬鐵五郎展	18.4%	17.0%	14.2%	8.5%	2.1%	5.7%	5.0%	8.5%	5.0%	5.0%	2.8%	7.8%
堀口大學展	16.5%	11.0%	8.8%	9.9%	5.5%	7.7%	6.6%	7.7%	4.4%	6.6%	5.5%	9.9%
平均	19.0%	13.3%	11.7%	7.4%	5.2%	6.4%	6.1%	8.2%	6.0%	6.4%	3.6%	6.9%

(性別)

展覧会名	男性	女性	無回答
漢字三千年	40.2%	48.3%	11.5%
加山又造展	33.8%	57.0%	9.3%
萬鐵五郎展	45.5%	37.9%	16.7%
堀口大學展	36.1%	55.6%	8.3%
平均	38.9%	49.7%	11.5%

(お住まい)

展覧会名	長岡市	新潟市	県内	県外	無回答
漢字三千年	26.8%	24.4%	33.5%	4.3%	11.0%
加山又造展	27.8%	23.2%	30.5%	9.9%	8.6%
萬鐵五郎展	13.6%	24.2%	21.2%	27.3%	13.6%
堀口大學展	25.0%	30.6%	19.4%	16.7%	8.3%
平均	23.3%	25.6%	26.2%	14.6%	10.4%

(年代)

展覧会名	小・中学生	高校・大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上	無回答
漢字三千年	12.9%	3.3%	0.0%	3.3%	3.8%	8.6%	12.9%	19.1%	24.4%	11.5%
加山又造展	14.6%	7.9%	0.0%	1.3%	5.3%	6.0%	15.9%	23.8%	16.6%	8.6%
萬鐵五郎展	6.1%	6.1%	0.0%	1.5%	7.6%	4.5%	28.8%	16.7%	13.6%	15.2%
堀口大學展	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	16.7%	2.8%	27.8%	8.3%	16.7%	5.6%
平均	11.2%	7.1%	0.0%	1.5%	8.4%	5.5%	21.4%	17.0%	17.8%	10.2%

新潟県立万代島美術館

平成29年度 開催展覧会名	会 期	入館者数	アンケート 回収数	アンケート 回収率	
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	平成29年4月1日（3月4日）～6月11日	26,893	433	1.6%	※ 全体会期のうち、平成29年度の数を抽出
レオナルド・フジタとモデルたち	平成29年6月24日～9月3日	12,599	444	3.5%	
所蔵品展 うつくしい暮らし	平成29年9月16日～11月5日	3,948	118	3.0%	
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	平成29年11月23日～平成30年3月4日	86,070	957	1.1%	※ 全体会期のうち、平成29年度の数を抽出
古代アンデス文明展	平成30年3月21日～3月13日（5月6日）	4,780	113	2.4%	
合 計		134,290	2,065	1.5%	

展覧会の感想

展覧会名	良かった	まあまあ 良かった	やや不満	かなり 不満	無回答
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	76.2%	18.9%	2.1%	0.7%	2.1%
レオナルド・フジタとモデルたち	77.4%	18.1%	1.4%	0.5%	2.7%
所蔵品展 うつくしい暮らし	71.2%	24.6%	0.8%	0.0%	3.4%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	82.8%	9.7%	2.5%	1.0%	4.0%
古代アンデス文明展	74.3%	23.0%	1.8%	0.0%	0.9%
平 均	76.4%	18.9%	1.7%	0.4%	2.6%

作品や作家についての解説

展覧会名	適度な 量である	量が 少ない	量が 多い	その他	無回答
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	70.2%	10.0%	3.3%	15.6%	0.9%
レオナルド・フジタとモデルたち	71.1%	6.5%	3.1%	2.5%	16.8%
所蔵品展 うつくしい暮らし	66.1%	14.0%	1.7%	3.3%	14.9%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	54.7%	14.5%	11.2%	3.9%	15.7%
古代アンデス文明展	61.9%	16.8%	2.7%	0.0%	18.6%
平 均	64.8%	12.4%	4.4%	5.0%	13.4%

展覧会名	わかり やすい	難しい	簡単 すぎる	無回答
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	78.3%	12.0%	1.4%	8.3%
レオナルド・フジタとモデルたち	85.6%	6.3%	0.2%	7.9%
所蔵品展 うつくしい暮らし	83.1%	8.5%	0.0%	8.5%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	62.1%	26.0%	1.9%	10.0%
古代アンデス文明展	81.4%	8.0%	2.7%	8.0%
平 均	78.0%	12.2%	1.2%	8.6%

展覧会についてどのようにお知りになりましたか

展覧会名	ポスター・チラシ	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌・フリーペーパー	知人	友の会便り	web	その他	無回答
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	29.4%	18.1%	21.6%	0.6%	6.0%	9.2%	0.5%	8.9%	3.8%	1.9%
レオナルド・フジタとモデルたち	29.5%	17.6%	14.2%	0.2%	4.6%	10.5%	0.9%	12.3%	7.9%	2.3%
所蔵品展 うつくしい暮らし	35.7%	10.1%	3.9%	0.0%	3.1%	7.8%	0.0%	14.7%	23.3%	1.6%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	26.9%	4.3%	28.3%	2.9%	3.3%	13.5%	1.2%	9.7%	6.8%	2.9%
古代アンデス文明展	24.3%	21.3%	25.0%	1.5%	0.7%	14.0%	1.5%	8.1%	1.5%	2.2%
平 均	29.1%	14.3%	18.6%	1.0%	3.6%	11.0%	0.8%	10.7%	8.7%	2.2%

お客様ご自身について

(1) 性別

展覧会名	男性	女性	(不明)
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	15.0%	80.4%	4.6%
レオナルド・フジタとモデルたち	34.5%	58.8%	6.8%
所蔵品展 うつくしい暮らし	27.1%	62.7%	10.2%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	35.6%	59.2%	5.2%
古代アンデス文明展	51.3%	44.2%	4.4%
平 均	33.0%	61.0%	6.0%

(2) 年代

展覧会名	中学生以下	高校生	左記以外の10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	(無回答)
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	17.7%	3.5%	2.8%	14.2%	15.1%	16.5%	14.2%	9.8%	3.7%	2.6%
レオナルド・フジタとモデルたち	11.3%	3.4%	2.5%	8.6%	7.2%	10.2%	20.4%	19.9%	13.6%	2.9%
所蔵品展 うつくしい暮らし	13.6%	8.5%	0.8%	10.2%	9.3%	13.6%	20.3%	16.9%	5.1%	1.7%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	42.5%	2.9%	4.1%	20.6%	11.3%	9.2%	3.4%	1.6%	0.7%	3.7%
古代アンデス文明展	22.3%	8.0%	4.5%	10.7%	9.8%	11.6%	13.4%	10.7%	7.1%	1.8%
平 均	21.5%	5.3%	2.9%	12.8%	10.6%	12.2%	14.3%	11.8%	6.1%	2.5%

(3) お住まい

展覧会名	新潟市内	新潟市以外の下越地区	佐渡地区	中越地区	上越地区	県外・海外	(無回答)
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	47.0%	10.0%	0.9%	14.8%	3.9%	11.8%	11.6%
レオナルド・フジタとモデルたち	44.1%	10.0%	0.5%	10.2%	3.6%	21.9%	9.7%
所蔵品展 うつくしい暮らし	37.1%	20.7%	1.7%	10.3%	0.0%	25.9%	4.3%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	52.5%	11.9%	1.3%	14.6%	2.9%	7.5%	9.3%
古代アンデス文明展	47.8%	15.0%	2.7%	15.9%	4.4%	7.1%	7.1%
平 均	45.7%	13.5%	1.4%	13.2%	3.0%	14.8%	8.4%

(4) 当館へは主としてどんな交通手段でおいでになりますか。

展覧会名	自家用車	徒歩・自転車	バス	タクシー	電車	貸切バス	その他	(無回答)
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	60.9%	9.0%	16.5%	0.4%	9.7%	0.0%	1.7%	1.7%
レオナルド・フジタとモデルたち	47.6%	12.4%	21.4%	2.6%	10.4%	0.8%	2.8%	2.0%
所蔵品展 うつくしい暮らし	34.3%	20.3%	21.7%	2.8%	11.9%	4.9%	2.8%	1.4%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	67.4%	6.4%	11.0%	1.5%	7.5%	0.4%	1.5%	4.3%
古代アンデス文明展	65.3%	10.7%	9.9%	1.7%	7.4%	0.8%	2.5%	1.7%
平 均	45.9%	9.8%	13.4%	1.5%	7.8%	1.2%	1.9%	1.9%

(5) 万代島美術館に来たのは何回目ですか

展覧会名	初めて	2～4回目	5回以上	回答なし
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	32.9%	35.7%	28.8%	2.5%
レオナルド・フジタとモデルたち	27.3%	27.5%	43.3%	1.8%
所蔵品展 うつくしい暮らし	39.8%	18.6%	39.8%	1.7%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	47.7%	34.8%	13.0%	4.4%
古代アンデス文明展	33.6%	36.3%	27.4%	2.7%
平 均	36.3%	30.6%	30.5%	2.6%

(6) 当館に限らず年に何回展覧会に来ますか

展覧会名	1回以下	2～4回目	5回以上	回答なし
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	29.6%	49.2%	18.0%	3.2%
レオナルド・フジタとモデルたち	16.9%	42.3%	39.0%	1.8%
所蔵品展 うつくしい暮らし	21.2%	33.1%	43.2%	2.5%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	47.0%	39.0%	8.8%	5.2%
古代アンデス文明展	32.4%	54.1%	9.9%	3.6%
平 均	29.4%	43.5%	23.8%	3.3%

(7) どんなジャンルの展覧会を望みますか

展覧会名	日本画	洋画	西洋絵画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	県人作家	アジアの美術	絵本	アニメーション・マンガ	その他	無回答
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	7.9%	7.4%	10.5%	3.3%	4.3%	7.0%	3.0%	10.0%	14.1%	6.4%	0.9%	2.0%	11.3%	8.9%	1.3%	1.8%
レオナルド・フジタとモデルたち	15.7%	13.7%	16.2%	5.7%	6.0%	5.4%	2.8%	5.9%	5.0%	6.8%	1.3%	2.3%	5.1%	5.4%	1.6%	1.1%
所蔵品展 うつくしい暮らし	14.3%	8.3%	10.3%	6.2%	6.2%	9.5%	4.4%	8.1%	6.0%	4.6%	3.5%	2.1%	6.6%	7.0%	2.1%	0.8%
チームラボ！踊るアート展と、学ぶ！未来の遊園地	8.6%	5.5%	6.6%	3.3%	2.3%	5.4%	3.0%	8.7%	9.7%	7.9%	1.2%	2.0%	10.3%	19.5%	2.4%	3.5%
古代アンデス文明展	12.1%	8.1%	14.7%	4.3%	2.9%	6.1%	3.2%	6.9%	3.2%	5.2%	1.2%	5.8%	7.5%	10.7%	4.9%	3.2%
平 均	11.7%	8.6%	11.7%	4.6%	4.3%	6.7%	3.3%	7.9%	7.6%	6.2%	1.6%	2.9%	8.1%	10.3%	2.5%	2.1%

組織及び業務

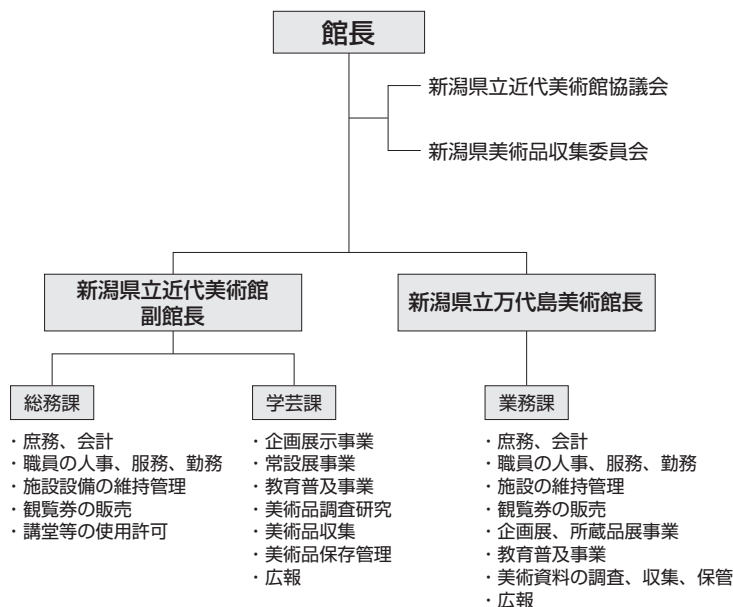
新潟県立美術館の業務

■新潟県立近代美術館条例（平成5年3月31日 新潟県条例第24号）（抜粋）

- （設置）第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、県民の教育、学術及び分科の発展に寄与するため、新潟県立近代美術館（以下「美術館」という）を長岡市千秋3丁目に設置する。
- 2 前項に規定する美術館には、教育委員会の定めるところにより、分館として新潟県立万代島美術館（以下「万代島美術館」という。）を設置する。

（事業）第2条 美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術品、美術に関する資料等（以下「美術品等」という）の収集、保管及び展示
- (2) 美術品等の利用に関し必要な説明、助言、指導等
- (3) 美術品等の調査及び研究
- (4) 美術品等に関する講演会、講習会、映画会等の主催及びその開催の援助
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の目的を達成するために必要な事業



職 員

新潟県立近代美術館

	館長	木村 哲郎
	副館長	丸山 実
●総務課	総務課長	高尾 和明
	主査	茨木 晃
	主任	重高 優子
	非常勤職員	佐野 一美
	非常勤職員	藤井 幸子
	非常勤職員	太田 昌子
●学芸課	学芸課長	藤田 裕彦
	専門学芸員	松矢 国憲
	学芸課長代理	宇賀田和雄
	学芸課長代理	宮下 東子
	学芸課長代理	平石 昌子
	副参事	村山 裕之
	主任学芸員	濱田真由美
	主任学芸員	伊澤 朋美
	美術学芸員	松本奈穂子
	嘱託員	佐藤 和子
	嘱託員	深井 尚子
	嘱託員	酒井 真李
	嘱託員	武 紗織（～H29.6.30）
	嘱託員	中村 有斐
	嘱託員	砂山 冴貴
	嘱託員	笠井万里加（～H30.2.26）
	嘱託員	酒井 里加
	嘱託員	南 景子（H29.7.1～）
	嘱託員	朝比奈智子（H29.11.20～）

新潟県立万代島美術館

	近代美術館万代島美術館長	川口 剛
●業務課	業務課長	桐原 浩
	課長代理	佐々木巨会
	課長代理	澤田 佳三
	課長代理	今井 有
	主査	斎藤 百子
	主任学芸員	池田 珠緒
	主任学芸員	飯島沙耶子
	嘱託員	中嶋 美幸（～H30.3.19）
	嘱託員	豊島 晶子
	嘱託員	齋藤 恵理
	嘱託員	佐藤美香子
	嘱託員	田村真珠美
	嘱託員	渡邊 由里

新潟県立近代美術館

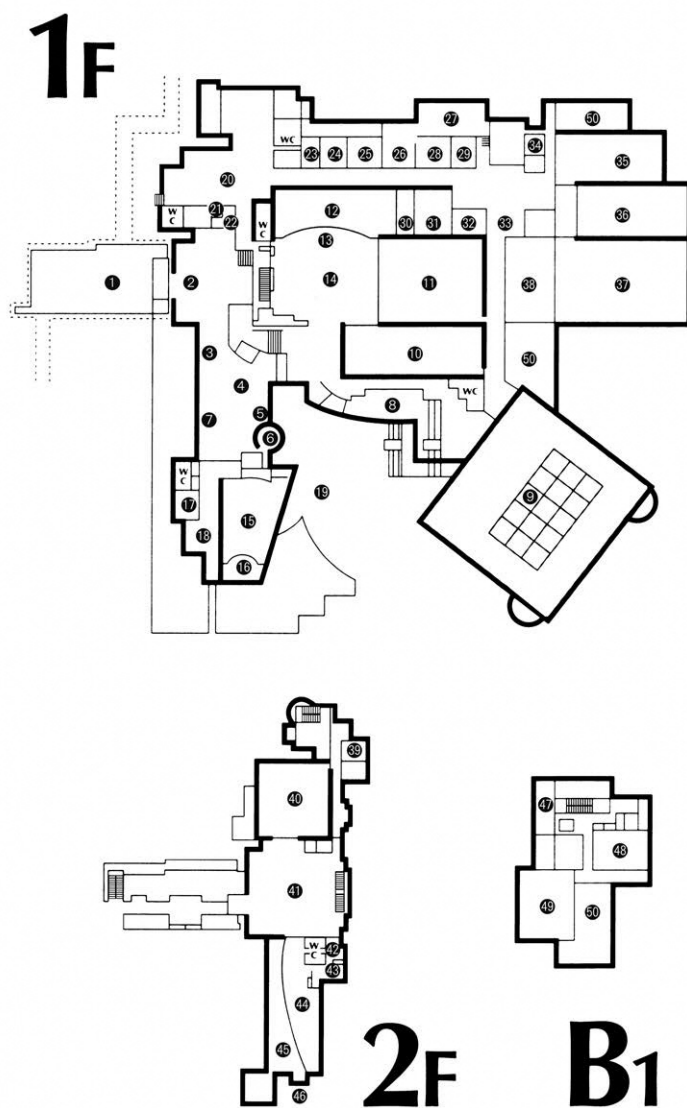
【施設概要】

〈名 称〉新潟県立近代美術館
 〈所 在 地〉新潟県長岡市千秋3丁目278-14
 〈設 計〉(株)日本設計
 造園設計 (株)日本設計・(株)日本造園
 設計期間 1990年9月～1991年2月
 〈監 理〉新潟県土木部都市整備局営繕課
 (株)日本設計
 〈施 工〉大成・吉原・小杉特定共同企業体
 電気工事 六興・大原・長岡特定共同企業体
 空調工事 三建・日立・越後特定共同企業体
 衛生工事 ナカムラ・北陸特定共同企業体
 ガス工事 北陸瓦斯(株)
 昇降機工事 日本オーチスエレベーター
 備品工事 (株)高島屋
 植栽工事 北陸緑化、ニューガーデン、
 長生園、宮川苑、吉茂造園、
 鈴木造園、新潟造園土木、
 長岡ガーデン、川崎農園、
 グリーン産業、松木造園
 工事期間 1991年7月29日～1993年5月31日
 〈総工事費〉9,859,851千円
 支出内訳
 建築工事費 7,442,809千円
 造園工事費 1,261,187千円
 電気工事費 79,654千円
 展示工事費 1,121,201千円
 〈主体構造〉鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、
 プレストレストコンクリート梁
 基礎・地業 PHC抗
 〈規 模〉地下1階、地上2階、塔屋1階
 軒高 13.0m
 最高高 19.250m
 主なスパン 3.9m
 階高 5.7m
 〈面 積〉敷地面積 33,800㎡
 建築面積 9,133㎡
 延床面積 10,723㎡
 地下—機械室・電気室 716㎡
 1階—展示室・収蔵庫・講堂・
 事務室・他 8,873㎡
 2階—レストラン・県民ギャラリー
 1,064㎡
 屋階—ELV機械室
 地域地区 市街化調整区域
 〈面積配分〉
 導入部門 1,356㎡
 (エントランスホール636㎡、ロビー576㎡、ほか)
 展示部門 2,674㎡
 (常設展示室391㎡+472㎡+265㎡、
 企画展示室1,332㎡ ほか)
 教育普及部門 384㎡
 (講堂234㎡、講座室53㎡、ハイビジョン67㎡、ほか)
 収蔵部門 1,746㎡
 (収蔵庫第一292㎡、第二575㎡、
 第三267㎡、作業室49㎡、ほか)
 調査研究部門 272㎡
 (研究室83㎡、資料保管室61㎡、書庫128㎡)
 管理事務部門 416㎡
 (事務室133㎡、会議室70㎡、館長室55㎡、ほか)
 設備・機械 1,017㎡
 (熱源機械室、電気室、空調機械室、ほか)
 他共用部門 2,858㎡
 (廊下、階段、ほか)

〈展示室の環境〉
 室の明るさ 70～150lux+局部照明
 照明方法 全体照明(ダウンライト・間接)
 スポットライトによる局部照明
 光源の種類 ハロゲンランプ(熱線カット)
 美術館用蛍光灯
 温度・湿度 夏季/26℃・50%
 冬季/22℃・55%
 〈主な設備〉
 空調方法 個別式(単ダクト方式・FCU方式)
 熱源:ガス・電気
 熱源機器/ガス冷温水発生機2台
 冷房能力/240USRT
 暖房能力/52,000kCal/h
 冷却塔/2,810,000kCal/h
 空調機器/全空気方式 空冷ヒート
 ポンプエアコンファン
 給排水衛生 給 水/上水直結
 給 湯/中央式(ガス)、
 個別式(電気)
 排 水/屋内合流、屋外下水道放流
 給排水 BIF床上受水槽(FRP40㎡)
 排水槽/有効0.76㎡
 電 気 受 電/3相3線 50Hz 6.6kV
 660kW
 発電機/3Φ3W 50Hz 6.6kV
 375kVA
 非常保安動力/300kVA
 非常保安電灯(スコット)/50kVA
 変圧器/1,400kVA7台
 防 災 消化/屋内消火栓、屋外消火栓、
 ハロゲン化物消失
 排煙/自然排煙
 屋内消火栓 粉末消火器 ハロン
 消化設備 ハロン消火器 連結散
 水設備 屋外消火栓
 昇降機 乗用ELV/750kg積
 (30m/分)1台
 人荷用ELV/3,000kg積
 (30m/分)1台
 駐車場 屋内2台、屋外165台
 〈主な外部仕上〉
 屋 根 アルミクラッド鋼板立ハゼ葺
 外 壁 四丁掛精妬器質タイル(割肌)
 二丁掛精妬器質タイル
 建 具 アルミサッシュ電解二次着色
 ステンレスサッシュH.L.仕上
 外 構 御影石ブロック+陶製ブロック舗装
 〈主な内部仕上〉
 エントランスホール
 天井/コンクリート打放し
 壁/御影石こぶ出し仕上
 床/御影石ジェットバーナー仕上
 展示室 天井/P.B.E.P
 壁/ガラスクロスE.P
 床/タイルカーペット
 収蔵庫 天井・壁/スプルス
 床/ナラ緑甲板張
 講 堂 天井/
 壁/四丁掛精妬器質タイル+P.B.E.P
 床/カーペット
 研究室・事務室
 天井/岩綿吸音板
 壁/ビニールクロス貼
 床/タイルカーペット

【施設の配置】

- | | |
|---------------|-------------|
| ① キャンピ | ②⑥ 研究室 |
| ② エントランスホール | ②⑦ 書庫 |
| ③ ロビー | ②⑧ 資料保管室 |
| ④ ミュージアムショップ | ②⑨ 倉庫 |
| ⑤ データベース室 | ③⑩ フィルム保管室 |
| ⑥ ハイビジョンギャラリー | ③⑪ 撮影室 |
| ⑦ レファレンス | ③⑫ 作業室 |
| ⑧ 企画展示室ロビー | ③⑬ 荷解室 |
| ⑨ 企画展示室 | ③⑭ 燻蒸室 |
| ⑩ 展示室 1 | ③⑮ 収蔵室 1 |
| ⑪ 展示室 2 | ③⑯ 収蔵室 3 |
| ⑫ 展示室 3 | ③⑰ 収蔵室 2 |
| ⑬ 常設展示室ロビー | ③⑱ 展示備品倉庫 |
| ⑭ 中庭 | ③⑲ ガラリー控室 |
| ⑮ 講堂 | ④⑰ ガラリー |
| ⑯ ステージ | ④⑱ アトリウム上部 |
| ⑰ 講座室 | ④⑲ レストラン事務室 |
| ⑱ 講堂ロビー | ④⑳ 厨房 |
| ⑲ 屋外展示スペース | ④㉑ レストラン |
| ⑳ 事務室 | ④㉒ 吹抜 |
| ㉑ 乳児室 | ④㉓ テラス |
| ㉒ ロッカー室 | ④㉔ ドライエリア |
| ㉓ 応接室 | ④㉕ 電気室 |
| ㉔ 館長室 | ④㉖ 熱源機械室 |
| ㉕ 会議室 | ④㉗ 空調機械室 |



新潟県立万代島美術館

【施設概要】

〈機能別延床面積〉

	内 訳	用途等	面 積
展示室		美術品等の企画展示	1,433.09㎡
収蔵	収蔵庫	美術品等の保管	102.05㎡
130.2㎡	収蔵庫前室	収蔵庫の室温度を安定させる	28.15㎡
専用エレベーター		地下1階より美術品を搬入	27.59㎡
27.59㎡			
管理	事務室	学芸員、一般事務の執務室	72.66㎡
	資材倉庫	文書・書籍カタログ等の収納	32.75㎡
	準備室	展示作業用の作品移動ケース置場等	95.56㎡
	荷解室	美術品の開梱・点検場所	107.58㎡
	休憩室	嘱託員の休憩場所	10.04㎡
	応接室	来賓等の応接	13.99㎡
	トイレ	職員・来館者用	92.58㎡
	空調機械室	美術館専用の空調機械設置	120.15㎡
	ポンペ庫	ハロン消火設備用ポンペ庫(予)	28.63㎡
共通	ロビー	来館者の導入、休憩及びインフォメーション等	279.63㎡
	廊下等	来館者の通路、避難経路など	321.84㎡
	乳児室	乳児のために使用	6.35㎡
	ロッカー・ルーム	来館者の利便のために手荷物を保管	22.62㎡
B1F	専用エレベーター(B1F)	美術品の搬入用	26.23㎡
	専用エレベーター機械室	専用エレベーター用の機械設置	13.42㎡
	専用荷捌スペース	美術品の荷捌スペース	124.54㎡
合計			2,959.45㎡

〈建築概要〉

1. 全体概要

種 別／複合ビル内包型 公立美術館
所 在 地／新潟県新潟市万代島5番1号
工事期間／平成12年10月3日～平成15年3月30日
敷地面積／103,128.93㎡ (万代島一団地認定敷地全体)
建築面積／6,017.37㎡
延床面積／52,585.54㎡ (うち、美術館2,959.45㎡)
構造種別／鉄骨鉄筋コンクリート造
階 高／美術館フロア6.3m

2. 建築主体

設 計／鹿島建設株式会社一級建築士事務所
監 理／鹿島建設株式会社一級建築士事務所
施 工／鹿島・大成・福田・五洋・本間・東亜共同企業体

3. 仕上げ (美術館部分のみ)

屋 根／鉄筋コンクリート下地断熱アスファルト防水押え、コンクリート鋼製根太組天然スレート敷
外 壁／プレキャストコンクリート下地アルミスバンドレル張り、アルミカーテンウォールふっ素樹脂焼付塗装、プレキャストコンクリートカーテンウォールふっ素樹脂常乾塗装
内 装／ (設備概要を参照のこと)

4. 電気設備

電力引込／3相3線6.6Kv50Hz、
2回線受電、地中引込
受 変 電／1階サブ変電所、キュービクル式受変電設備
非常用電源／発電機1台、ディーゼル1000KVA、
蓄電池400AH
電話設備／電話配管 (機器、配線は別)
放送設備／非常放送兼用アンプ1160W、130回線、
美術館業務用アンプ80W、5回線

5. 空調設備

熱 源／全体熱源：冷温水発生器 (ガス焚)
240RT×2台
収蔵庫：空冷ヒートポンプ
空 調 機／コンパクトエアハン7台
単一ダクト
換 気／個別換気
給気ファン1台、排気ファン15台
制御機構／24時間中央温湿度管理システム

6. 昇降機

乗 用／ロープ式 210m/分 定員20名1,350kg
4基 (うち、車椅子仕様1基)
荷 物 用／油圧式
15m/分 3,000kg 1基
テーブルリフター／
リフト 0.9m
テーブル 2.0m×2.0m 3,000kg

〈設備概要〉

1. 展示室概要

壁 仕 上／不燃プラスターボード、ガラスクロス表面仕上げ
床 仕 上／フローリング (ダグラスファー)
可 動 壁／不燃プラスターボード、ガラスクロス表面仕上げ
L4.0m×H4.5m:30枚、L2.0m×H4.5m:26枚、L2.4m×H4.5m:4枚
固定展示ケース／2箇所
 (外側) スチール製・高透過ガラススチール製・アクリル焼付塗装、高透過ガラス・重量キャスター・アジャスター付、シリンダー錠付
 (内側) 低ホルマリン合板、クロス張り、エアタイト、寸法D18.0m、W1.2m、H4.5m
照 明／全て美術館用UV/IRカットフィルター付
ベース照明：ハロゲンウォールウォッシャー200W
展示照明：ローボルトハロゲン (12V50W)
ケース内照明：高効率照明器具 (32W) 及びローボルトハロゲン (12V50W)
設定温湿度／春・夏期：23℃、60%、
秋・冬期：20℃、50%
 (変動率±3℃、±10%以内)

2. 収蔵庫概要

床 仕 上 / フローリング

壁 仕 上 / ゼオライトパネル (天井共)

内部寸法 / L11.5m、W7.5m、天井H3.5m

入口寸法 / H3.0m、W3.0m

収蔵庫内作品固定方法 / 収蔵棚

収蔵庫扉の構造及び仕様 / スチール製

耐火2時間扉

照 明 / 高効率照明器具 (32W)

美術館用UV/IRカットフィルター付

空 調 / 恒温恒湿パッケージ2台 単一ダクト (VAV)

設定温湿度 / 春・夏期: 20℃、60%

秋・冬期: 20℃、60%

(変動率±2℃、±5%以内)

3. 搬入口関連概要

専用搬入口寸法 / H3.8m、W5.0m

高位置の接岸ドック / 地上からの高さ0.7m

可動接岸ドック / 0~0.9mレベルまで

油圧式リフト / 最大重量3,000kg

クレーン / 最大重量3,000kg

搬入可能なクレートの最大サイズ /

H3.0m、W3.0m、D3.0m

セキュリティ / 画像センサー機械警備

荷解室への立入管理 / カードリーダー方式電気錠

昇降機内部寸法 / L3.0m、W3.0m、

天井H3.0m

4. 防災設備

消火設備 / 湿式スプリンクラー

展示室、準備室、荷解室及び収蔵庫はハロン消火

感知器の種類 / 自動煙感知

火災警報への伝達 / 発信機、非常電話

補助消火栓 / 搬入場所1基、その他4基

連結送水管 / その他2基

消 化 器 / 搬入場所: 粉末ABC

展示室: ハロンガス

その他: 粉末ABC及びハロンガス

5. 防犯設備

監視設備 / ITVモニター、ITVカメラ15台

(美術館14台、EV1台)

機械警備設備 / 画像センサー+スピーカ

警備会社 / SECOM株式会社

使用警報機の種類 / 画像センサー及び

水銀スイッチ

警報入電場所 / 館内中央監視盤及び

美術館事務室

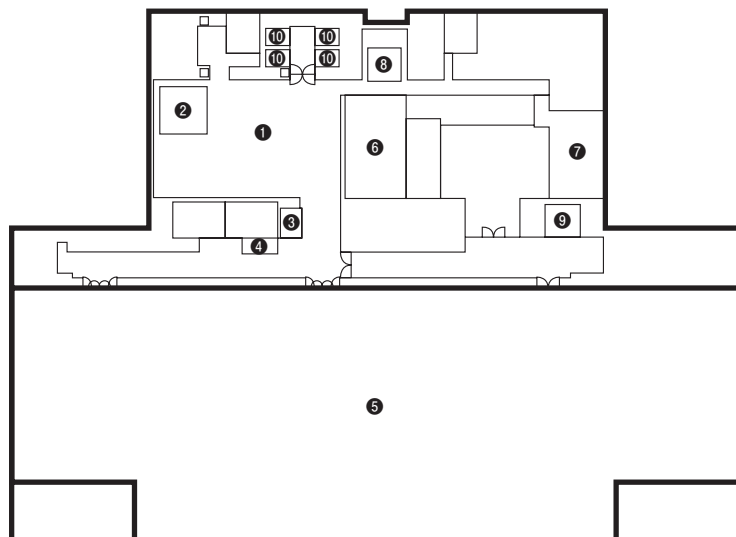
盗難防止ケースの種類 /

ガラス・ケース及び壁面固定ケース全てにシ

リンダー錠付

【施設の配置】

- ① エントランスホール
- ② ミュージアムショップ
- ③ 情報検索コーナー
- ④ 乳児室
- ⑤ 展示室
- ⑥ 収蔵庫
- ⑦ 事務室
- ⑧ ロッカー・自販機
- ⑨ 作品専用エレベーター
- ⑩ エレベーター



新潟県立近代美術館協議会

【委員】(依頼当時)

(平成28年8月1日から平成30年7月31日まで)

●学識経験者

- 丹治 嘉彦(新潟大学教育学部教授)
- 岡塚 章子(東京都江戸東京博物館展示企画係長)
- 松本 健義(上越教育大学大学院学校教育研究科教授)
- 山田 一郎(新潟県美術家連盟事務局長)
- 西條和佳子(特定非営利活動法人ワーキングウイメンズアソシエーション常任理事)

●社会教育関係者

- 竹内 伊澄(歯科衛生士／上越市社会教育委員／上越市民館運営審議会委員／上越市民芸能祭協議会副会長／いすみジャズダンス代表)

●学校教育関係者

- 古田 修(五泉市立川東中学校長／新潟県美術教育連盟副会長／下越美術教育研究会会長)
- 佐藤 直人(新潟県立長岡商業高等学校教諭／新潟県高等学校文化連盟美術・工芸専門部門副委員長)

●一般公募

- 高石真理子
- 高橋健太郎

※○は会長 ○は副会長

【日程及び内容】

第1回新潟県立近代美術館協議会

- 日程：平成29年5月21日(日) 13:30～15:30
- 会場：新潟県立万代島美術館
- 内容：(1)「平成28年度新潟県立近代美術館協議会評価報告書」の作成について
- (2) 平成29年度事業について

第2回新潟県立近代美術館協議会

- 日程：平成29年9月18日(月・祝) 13:30～15:30
- 会場：新潟県立近代美術館
- 内容：(1) 新潟県立近代美術館協議会の概要
- (2)「平成28年度県立近代美術館協議会評価報告書」について
- (3) 平成29年度「事業目標・取り組みに対する達成状況」の中間報告について

第3回新潟県立近代美術館協議会

- 日程：平成30年2月2日(金) 13:30～15:30
- 会場：新潟県立万代島美術館
- 内容：(1) 平成29年度事業の中間報告②
- (2) 平成29年度評価の分野と執筆担当
- (3) 作成手順およびスケジュール
- (4) 次年度評価に向けた意見交換

【自己評価に対する委員評価(平成28年度)】

平成29年9月

はじめに

昨今の美術状況を見ると、日本各地で地域活性化のために行われる芸術祭や街単位で行われるアートイベント、そして誰もが気軽に参加出来るアート系のワークショップ等が盛んに行われるようになってきている。これらの取り組みは芸術作品を鑑賞するだけでなく、誰もが気軽に参加できて、賑わいを多面的に演出できることから各メディアに取り上げられることが多くなっている。これらが盛んに行われる理由は、人の営みや暮らしの中に芸術的な「もの」や「こと」を積極的に取り入れることで、生きる上での新たな指針をつくることに成功したからである。

しかし、芸術作品を鑑賞し作品理解に繋げることや、ワークショップを通してコミュニケーションを深める等の取り組みは、本来美術館が担っていた。観覧者に対話型の鑑賞を通して丁寧に作品解説を行ったり、子ども達を対象とした創造的なワークショップの実践は芸術の本質的な営みであり、展覧会を通して観覧者に生きることの意味を常に問いかけてきたわけである。大きなイベントは日常空間で行われることで人々の生活と密接な取り組みとなり、多様な側面も持ち合わせていることから、より注目度が上がるプログラムとなるが、それぞれどこまで継続出来るかが大きな問題となっていることは見過ごすわけにはいかないだろう。また、芸術表現も今までにないものが加わり、芸術の定義がより一層広くなっている。アニメやメディア芸術も芸術表現の一端を担うまでになってきたのはその表れでもあり、大衆が好むものが芸術作品として幅広く認知されるようになった証でもある。

以上のように美術館の姿勢が問われることが多面的に生じている。そのような現状において美術館の役割は益々重要であるとともに、これまで以上に地域社会に根ざした美術館像を構築していく必要があると考える。

現代社会において私達の幸福を考えたときに、経済成長を第一に考えそれが上向くことで生活が豊かになるということ、また地球環境を考えた際には科学技術の進歩こそが地球の未来に繋がることをそれぞれ信じて生きてきたが、これらはすべて幻想であると気づかされた。これらに鑑みて我々が生きる上で新たな気づきを与えてくれる芸術こそがこれらの問題解決の糸口と成り得るのである。自分自身がなにものなのかを想像し、そしてそこから自分にしかできないものを作り上げること、そして自分にしか出来ない行為を積み上げることがイメージすることが芸術の意義なのである。そしてこの意義を具現化していくことが美術館の使命ではないだろうか。

新潟県立近代美術館、万代島美術館には、このような状況下において市民、県民の期待に沿うべく、次世代に向けた新たな「解」を大いに期待する。

平成29年9月

新潟県立近代美術館協議会
会長 丹治 嘉彦

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

(1) 美術館運営の全般について

近代美術館、万代島美術館が地域に求められているのは、「新潟固有の文化の価値を見直し、併せて未来に継承すべきコレクションの充実と研究、活用、普及を通じて、多様な美術館活動を開発、提供し、創造力溢れる人材の育成に取り組み、地域人々と協働しながら、県民の誇りとなる新潟県の文化を発信する」ことである。本年度、この「社会的使命」に照らし合わせてみるならば、それぞれの館で行われた展覧会はその使命に合致したものとなった。しかしながら良い企画が観覧者数の増加に繋がっているかは疑問符が投げかけられる。いわゆる視聴率が高い放送番組が良い番組とは限らないことと同様に、展覧会においても観覧者数だけをその成否とすることは避ける必要がある。また美術館の「基本運営方針」の一つである「芸術文化を踏まえた憩いと学びの場を提供し、利用者に愛される美術館となる」、「地域や各種教育機関との連携を深める」に照らせば、友の会、ボランティア、そして学芸員の尽力により、ワークショップをはじめとする様々なイベントは多大な成果を上げ、本年度も着実な進歩が見られた。

(2) 目標設定のあり方について

本年度、美術館の社会的使命に対して、近代美術館においては新潟県民の文化レベルの向上という目標を掲げ、東西の多様な時代の展示を扱い、県関係の作家の作品研究、保存、作品鑑賞の実践があげられる。また万代島美術館においては現代の多様な表現形態を扱っているため、若年層の観覧者増を重点的に掲げている。その上で両館ともに、観覧者にとって快適な空間の提供、また魅力ある広報の工夫、そして展覧会における資料収集とその調査、研究成果の発表、支援体制の構築を目標に掲げ、それらについて具体的な方法とその評価が行われている。

(3) 目標に対する達成状況について

近代美術館、万代島美術館とも意欲的に展覧会を実施できたことは、長年に渡って行った準備と調査・研究が実を結んだことと、他の関係機関との連携協力による結果でもあり、大いに評価出来ると思う。今後、他館を含めて関係機関、あるいはアーティストや研究者等との積極的な連携を構築し研究を深めることによって、より魅力的な展覧会を作り上げることが出来ると考える。

教育普及等の関連分野については鑑賞者の感動を通じた学びや気づきを浮上させ、アーティストとの積極的な交流を通して展覧会の質的な向上に繋げ、観覧者の学びの質を深めている。また出前講座における工夫等が、学校の教育課程と連動し観覧者増に貢献している。

調査・研究・収集・保存・発信分野では、その成果が企画展における図録や講座等において公開発表された。特に専門性を生かし深く追求したことにより、精度の高い資料を作り

上げたと言えるだろう。

環境・施設に関しては、万代島美術館において来館者に快適な環境を提供することを目的に、ロビーに長椅子を設置してくつろげる空間を提供出来たことは美術館の新たな魅力開拓に繋がったと思う。

協働組織の分野においては、他館や大学、そして自治体等との連携を推し進めるために、様々な取り組みを行った。特に公立の美術館を持たない市町村が県内に複数あることに鑑みると、数年に一度しか廻らない巡回ミュージアムではその任に堪えているとは言えないだろう。新潟県を俯瞰しながらこれを各自治体と協議しながら発展的に展開して行く必要があると思う。

以上のような分野別の取り組みとその成果について、美術館の自己評価はおおむね妥当であると判断する。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 展覧会に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

本年度、近代美術館においては「ジブリの大博覧会」「モネ展」「ヴェネツィア展」という大規模展覧会を開催し、また万代島美術館では「スタジオジブリ・レイアウト展」「鴻池朋子展」等をそれぞれ開催した。

「ジブリの大博覧会」（近代美術館）と「スタジオジブリ・レイアウト展」（万代島美術館）には多数の観覧者が訪れ、特に「ジブリの大博覧会」では過去最高の観覧者数を記録した。ジブリと言うネームバリューに頼ることなく、担当した学芸員の努力が実を結んだとともに、他の関連施設との連携等を行ったことがそれに繋がったと言えるだろう。また「モネ展」「ヴェネツィア展」は大規模展覧会とは言え展示の設えに工夫を施した結果、館としての独自性に繋がったと言える。「鴻池朋子展」では出品作家の鴻池氏が平成28年度（第67回）芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。これは予測できることではなく、鴻池氏の作品と活動に着目し、展覧会開催を決定したことは慧眼と言えるだろう。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

美術館における活動の妥当性とその効果については美術館における展覧会の観覧者数が大きな指標となるだろう。本年度行われた「ジブリの大博覧会」は過去最高の観覧者数を記録し、美術館における取り組み内容の妥当性とその効果が数値に表れた展覧会だった。しかしながら、展覧会の成功の証はそこを訪れた観覧者の数だけで決まるものではない。たとえ観覧者が少なくとも重要かつ意味のある展覧会は数多く存在している。例えば、鑑賞した人に展覧会の印象を聞きながらその人の生活等に展覧会がどのような影響を与えたかを追跡して、展覧会の評価に繋げることも必要ではないだろうか。また鴻池朋子展で会場内を撮影可能としたことは、観覧者にとって展覧会をより一層楽しめるものとし、情報拡散に一定

の効果をもたらしたと思う。美術館において撮影は出来ないのが一般的だが、鴻池朋子展においてはそれを許可したことにより展覧会情報を広めるきっかけとなったことは言うまでもないだろう。また展覧会途中で中高生が学芸員と作品を介して交流する姿を見ることができた。このような鑑賞者との丁寧な交流こそ何よりも重要であり、近代美術館、万代島美術館の明日に繋がる事項であると考えられる。このような姿勢を基盤として美術館に足を運んでもらう人を増やすための知恵を皆で出し合いながら、どこにもないオリジナリティ溢れる美術館を表現して頂ければと思う。

(3) 自己評価に対する総括

以上のような企画展についての各館の取り組み、展覧会のカタログ製作、あるいは紀要による研究発表等の成果に対する評価を妥当とする。また観覧者に関しては、例え観覧者目標を達成した展覧会であってもそれに満足することなく、しっかりと分析調査を行い次の企画展に繋げてくれることを期待する。

2 教育普及等関連事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

「利用事後調査票」の実施と回収が順調に実施されている。学校側のニーズや教育普及事業全般の成果と定着が確認されている。企画展のための鑑賞資料の作成や作家とのトークや対談は、観覧者の学びを刺激して効果的な成果を得ている。また、広報活動への効果的な利用も図られている。出前講座は夏休み前に企画展と連動して実施することで、夏休み期間中の児童生徒以外の観覧者増も達成している。実施目標は十分に達成されている。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

団体観覧者への「利用事後調査票」を通して成果とニーズを質的に把握したことにより、重点的事業目標実現のためのこれまでの取り組みである対話型鑑賞のよさとその意義が、観覧者の鑑賞体験として実現されていることが明らかになっている。

夏休み前に企画展と連動して集中して実施した学校への出前講座プログラムが、児童生徒の興味や関心を喚起した他、広報効果をもたらした個人や団体での観覧者増につながっている。市単位の教頭会での細やかな広報の取り組みも効果を上げている。

企画展の鑑賞資料の作成と展示や広報への活用は、教育普及活動の今後の可能性が期待される。鴻池朋子展は、作品世界に子どもや若者の視線や視点が豊かに感じられた。展示方法も作品世界と鑑賞者をつなぐ大胆な工夫があり、教育普及の効果が認められた。また、こうした若者層が関心をもつ企画展での作家を中心に据えたトークや対談は、観覧者の学びを刺激して効果的な成果を得ている。

各種団体のニーズに応じて、対話型鑑賞、作品解説、ワー

クショップ、教員研修等の教育普及事業は、量的にも質的にも充実した内容で実施している。

(3) 自己評価に対する総括

教育普及事業の重点目標とその取り組みが、事業相互に有機的に連動してきている。成果とニーズを把握する手段の工夫も効果的に実施され、これまでの取り組みの成果も確認できている。また、鑑賞者の感動を通した学びを生み出そうとする鑑賞資料の作成や作家との多面的な交流が、企画展の内容や広報活動としても有効に機能し、観覧者の学びの質を深めている。出前講座の実施時期や実施方法の工夫が、学校の教育課程と連動し観覧者増ももたらしている。

教育普及事業の目標と取り組みの連動と美術館事業全体を視野にいたした事業相互の連動の一層の工夫と改善が期待される。特に、学校の教育課程と目的や方法を共有させた社会に開かれた教育普及事業の展開が期待される。また、企画展やコレクション展等と連動した教育普及事業を企画し、子どもや観覧者の視点から教育普及事業のあり方を開発することが期待される。

3 調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

萬鐵五郎展開催のための調査・研究は着実に実施されており、他機関との連携も含め、高い水準で成果があがっている。県ゆかりの作家である水島爾保布、武石弘三郎の調査・研究に関しても丁寧に行われており、目標を十分に達成している。館ならではの調査・研究に堅実に取り組んでいることを高く評価したい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

萬鐵五郎展については、担当者が近代美術館から万代島美術館に異動となったが、バックアップ体制を整えることにより、スムーズに準備を行うことができたことは賞賛に値する。次年度以降開催予定の展覧会に関連しての調査・研究も2館の協働により進められていることは、今後に向けて非常に有益な取組と言える。

学芸員の調査・研究の成果が、展示解説、鑑賞講座、図録、紀要等に反映されていることは、高く評価できる。またこれまでの研究紀要の論文はホームページで公開されており、誰でも閲覧できるようになっている。このような情報発信は、美術館の活動を広く一般に知ってもらうために非常に有意義である。

作品修復についても展示を見据えて計画的に進められており、着実に成果が上がっている。

(3) 自己評価に対する総括

調査・研究、収集・保存は、館の礎となるものであり、将来の発展に不可欠である。展覧会開催を視野に入れた調査が進められているが、開催の有無にかかわらず、長いスパン

での地道な調査の進展も期待したい。

4 環境・設備に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

限られた予算の中で、施設の充実と来館者の安全の為に、空調を中心とした改修の予算化が出来た事は評価出来る。

○万代島美術館

屋上改修工事実施は業者が決定せず難航したが、作業完了に尽力された。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

設備改修工事の際に、来館者に影響が及ばないように施工業者、警備委託会社、設備保全会社及び消防署と連携して進行管理し、遂行する事は来館者の安全確保に繋がる。また、施工時に工事の概要や効果などを来館者に伝え、協力をお願いする事により理解が深まると考える。

○万代島美術館

来館者に快適な環境を整える為に、ロビーに長椅子を設置し、くつろげる空間が提供出来たことは県民の利用拡充に繋がると思う。

(3) 自己評価に対する総括

近代美術館については、展示室の照明等、作品保存の環境の見直しが始まっており、予算折衝の段階まで進行しているとの事。県民の憩いと学びの場として速やかに設備改修が行われる様に尽力されている。

万代島美術館については、出来れば、「朱鷺メッセ」の展望に來た人の為に展望室に美術館のPRコーナーを設置したり、売店の近くの空きスペースに常設展の作品紹介コーナーを設ける等の市民目線の配慮も考えてほしいと思う。

5 協働組織に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

「友の会、アートボランティアにおけるボランティア活動の内容を深める」という取組目標については、友の会の協働部設置に伴いボランティア活動が盛んになるなど、友の会改組後に本格的に始まった協働の実績作りが着実に進んでいることを評価したい。

また、美術館の「運営基本方針」の一つである「美術に関心のある人材の育成」という点においても、モネ展におけるスペシャルトークやヴェネツィア展における記念講演会の共催、「夏休み子どもアート」や「友の会ボランティアによるとおきの美術館ツアー」などのワークショップの共催は的を得ており、今後も継続を期待したい。また、

可能であれば子どもを対象とした「子ども協力隊」制度などを作り、子どもの頃から美術館に親しんでもらえるような活動にまで広げて頂きたい。

「長岡造形大学、長岡大学、長岡市などの連携をすすめる」という取組目標については、長岡造形大学とは亀倉雄策賞展など年数の経過とともに安定した協働の形が出来ていると思われるものの、長岡大学との協働は茶道部によるお茶会に留まっており、それだけでは美術館側が「イベントのアウトソーシング」をしているように見えてしまうのが残念である。

せっかく学生と接する機会があるのだから、学生の観覧者増に結び付くような取り組みを考えて貰いたい。また、造形大学についても、公立大学化によって新潟県内よりも県外出身の学生の比率が高くなったと聞いているので、新潟県の人材の育成という点で、今後も造形大との連携が中心で良いのか検討が必要かもしれない。これまでの協働の成果をいったん取りまとめた上で、長岡市内の中学校や高校の美術部との連携など、新たな協働を模索しても良いのかもしれない。また、28年度において長岡市との協働が実績として上がってこなかったのは残念であった。

「糸魚川市教委や見附市と協働、連携し教育活動を進める」という取組目標については、糸魚川市における巡回ミュージアムの観覧者数の多さや、一般向けの解説会や小学生向けの対話型鑑賞会の7回開催など、公立美術館を持たない自治体の美術教育を支援するという点で大変良い成果を上げたと思う。

しかしながら、次年度の村上市も同様だが、公立の美術館を持たない市町村が県内に複数あることを考えると、数年に一度巡ってくる巡回ミュージアムで十分なのだろうか。美術館の職員体制などから「出向いていく」形での協働は難しいと思うが、「教育普及活動」とも絡め、「来てもらう」形で市町村と協働ができないか、ぜひ考えてみてもらいたい。

○万代島美術館

「友の会との協働を強化していく」という取組目標については、鴻池展における友の会によるワークショップへの協力、マリメッコ展における友の会の活動紹介など、「顔の見える関係づくり」と「相互のモチベーションアップ」に繋がる良い実績ができた。

ただし、先方からの申し出によるということであるが、友の会という民間組織から公的施設である美術館に対する人的・物的協力や、友の会会員を対象とした先行予約など、金銭に関わることや美術館から友の会への利益供与に見えかねない点については、県民の誤解を招かないように十分な配慮と情報公開をして貰いたい。

「近隣施設と連携・協働する」という重点目標については、「タクシー運転手への情報提供」、「美術館と万代島ビル、朱鷺メッセ間の広報協力」、「スタンプラリーの継続」、「アートリンク参加館への備品の貸し出し」、「年に4回の連絡会議」

など、協働の土台となる内容についてはしっかり実施されていると思う。しかし、万代島ビルと朱鷺メッセ間の広報協力は同じエリアに立地していることを考えれば実施されても何の違和感もなく、むしろ当然のことようにも思われる。

数年前に「万代島ビルで勤務している女性のランチ会を共同で行い、そこで美術館の紹介をした」という事例があったが、その時のように人を介して波及力がある協働をぜひ行って頂きたい。

また、ピアズリー展などに見られるような各種団体との協働は好ましい。今後も機をとらえて多様な団体と協働を進めるとともに、その効果についても検証してもらいたい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

「友の会、アートボランティアにおけるボランティア活動の内容を深める」については、美術館のファンを増やし、魅力を増やすという点において基礎となるものであり、たいへん妥当なものだと思う。また、ボランティア活動を通して友の会会員の意欲を向上させ、会の発展にも寄与できるものだと思う。今後は協働とともに効果測定も行い、他団体との協働にも活用できる「美術館協働マニュアル」の策定などに取り組んでみて貰いたい。

また、「長岡造形大学、長岡大学、長岡市などの連携を進める」、「糸魚川市教委や見附市と協働、連携し教育活動を進める」については、現状の取組は妥当であるし、一定の効果も上がっていると思うが、将来、美術館を支える「次世代の育成」という点で新たな取組を模索するに相応しい時期に来ているように思われる。

○万代島美術館

近代美術館に遅れて協働の取り組みを始めた万代島美術館にとって、「友の会との協働を強化していく」という取組は協働の形を学び、実績を上げるために大変妥当であり、効果も上がっていると考えられる。

その上で、万代島という立地を生かした「近隣施設との連携」や、同じ新潟市に所在する新潟市美術館、新津美術館との「アートリンク」という形の協働も、当館ならではの取組として妥当である。

その一方、民間の美術館やギャラリーなども多数存在している新潟市に立地しているということは、他館との競争も激しく、万代島美術館に来てもらうためには美術館自体の魅力を高めていく必要がある。それを考えると、万代島美術館にとって、より必要なのは今年度連携をした県立図書館のように美術館とは異なる施設との協働であり、その一歩が踏み出せたのが最も効果的だったかもしれない。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、おおむね妥当と考える。ただし、近代美術館、万代美術館ともに「友の会」への依

存度が高いので、友の会との協働については少し点数を割り引いて評価する方が適当なように思われる。

また、近代美術館については造形大学などと「安定した協働スタイル」が構築されている一方で目新しさに欠けるため、今年までは「高値安定」評価が続いたが、次年度は新たな協働先の開拓や具体的な観覧者数の増加に繋がる取り組みを期待したい。

万代島美術館については従来通りの地道な取り組みを継続する一方で、新潟市に数あるなかで選ばれる美術館になることを意識して協働相手を増やして貰いたい。

第3章 平成29年度県立近代美術館運営への提言

【丹治 嘉彦 会長】

新潟県立近代美術館の使命は、「広く新潟県民と新潟を訪れた人のために、新潟県固有の文化の価値を見直し、併せて未来に継承すべきコレクションの充実と研究、活用、普及を通じて、多様な美術館活動を開発、提供し、創造力溢れる人材の育成に取り組み、地域の人々と協働しながら、県民の誇りとなる新潟県の文化を発信する」ことである。

現代における美術館の役割を考えると、新潟県立近代美術館において「面白い企画」がしっかりと打ち立てられるかが重要である。あるいは芸術作品の調査保存、そして人材育成を兼ねた教育普及が大きな使命でもあるだろう。しかしながら、特色ある展覧会や美術館独自の事業がなかなか県民に伝わってこないのは、この使命が達成出来ていないことの表れとも言えるのではないかな。

それには幾つか要因があると感じる。その大きなものは美術館に対する予算である。当然ながら予算がないと良い動きが出来なくなるとともに、調査・研究も疎かになることは目に見えている。まずは県から美術館への予算をしっかりと組んで頂き、学芸員が組み立てる企画展がその理想に近づけるよう積極的な支援をお願いしたいと思う。

また「地域の人々と協働しながら、県民の誇りとなる新潟県の文化を発信する」に関しては、学芸員が美術館の外で活動出来る枠組みを考えて欲しいと思う。学芸員とアーティスト、学芸員と市民、そしてアーティストと市民と学芸員の繋がりが学芸員の目に見えない力となるだろう。またそこで起こった様々な活動こそが美術館の財産となり、結果的には県民の財産となるはずである。美術館における作品の収集と調査は美術館としての大きな役割であろう。しかし、現代において芸術の役割は広範囲に渡っている。美術館の外でも芸術の意味が当然ながら問われていることを考えると、学芸員の役割もその枠組みだけでは収まりきれない。新潟県立近代美術館の学芸員が美術館外で活動出来る仕組みをしっかりと打ち立てることを提言する。

【松本 健義 副会長】

平成28年度教育普及活動は、対話型鑑賞のよさや意義の

定着が「利用事後調査票」等より確認されてきている。教育普及事業の目標と取り組みの連動が認められる。企画展や広報等の美術館事業全体を視野にいたした事業相互の柔軟で有機的な連動も認められる。

29年度は、さらに工夫改善が期待される。外部組織との関係においては、学校の教育課程や教育体制と目的や方法を共有し、社会に開かれた教育普及事業の緊密な展開が期待される。教育課程との連携においては、図画工作科や美術科だけでなく、国語科、社会科、総合的な学習の時間等と時間を共有して位置付けることで、来館目的や所要時間等の多面的なニーズの解決につながるであろう。

美術館業務における連携の観点からは、企画展や収蔵品展の内容や展示と連動した鑑賞資料の作成、鑑賞活動や作品解説の設定等が、魅力に溢れ学びを喚起するような連携を期待する。こうした取り組みが、広報活動や支援組織との連携にもつながることで、子どもや観覧者の視点から美術館事業の質を総体的に開発することが期待される。こうした取り組みが、美術の鑑賞をきっかけとした鑑賞者の感動体験の実現と、芸術作品との対話的な深い学びの実現の拡大へとつながるであろう。

変化の激しいこれからの時代において、文化や社会と主体的にかかわることで自らと対話し、異質な文化や他者との共感と理解をつくり、協働して文化と社会を建設していく資質や能力が期待されている。しかし、芸術の表現と鑑賞の活動を通して、こうした直観的、共感的、創造的、対話的な資質や能力を育み、「生きる力」を育む機会が中等教育では十分に準備されていない状況にある。また、社会的格差の急速な拡大も指摘されるところである。教育普及事業の学校の教育課程との連携を高めるとともに、県内在住の18歳以下の子どもや若者の芸術文化経験の充実と教育的質の保証は、中等教育における芸術教育の授業時間数の減少が進んだ現在、県立美術館の重要な社会的使命でもある。先に述べた学校との連携の質的充実とともに、観覧料無償化の早期実現がきわめて重要な課題となっている。是非、実現に向けた取り組みや連携を開始していただきたい。

【岡塚 章子 委員】

近代美術館、万代島美術館ともに、運営の基本方針に基づき、それぞれの特性を活かした活動が展開できている。

活動の中心である展覧会のラインナップの決定は、難しい部分も多いと推察されるが、ジャンルや時代、観覧者数など全体を俯瞰したバランスのとれたものになっており、安定した運営が出来ていることは素晴らしい。

展覧会開催のための調査・研究は着実に実施されており、他機関との連携も含め、高い水準で成果があがっている。巡回展であっても、館蔵品との比較展示（「ヴェネツィア展」）や、館独自で他館から作品借用を行うとともに館蔵書籍も出品するなど（「ピアズリーと日本」展）、学芸的視点により展覧会にオリジナリティを持たせ、新たな価値を創出している。

毎年刊行されている研究紀要においても、調査・研究成果の発信が行われていることを評価したい。

現状では出来ているものの、展覧会を担当しながら調査・研究の時間を確保するのは並大抵なことではない。職員の業務が加重にならないように運営面で省力化できる部分は省力化し、長期的展望に立った研究に腰を据えて取り組めるような環境を作ることが、館の将来の発展に寄与すると考える。質の高い展覧会を継続的に実施できるような、より良い体制づくりに取り組んでいてもらいたい。

【山田 一郎 委員】

平成31年度には、本県では初めての国民文化祭が開催される。近代美術館、万代島美術館とも心に残る魅力ある展示を考え、一人でも多く足を運んで頂く企画を考えていただきたい。県内作家展（新潟の作家100人展）など一つの考えではないか。出来ることなら、県出身の国内外で活躍している作家の人達の作品も展示できれば県内美術界の活性化と振興にも寄与し、新潟の文化力を全国に発信する国民文化祭の主旨にも合致すると思う。

良い作品展を企画するために、照明、空調などの整備も当然必要である。近代美術館、万代島美術館の観覧料について、特に県立近代美術館は長岡市内以外から行くと交通費もかさみ観覧料を合わせると家族ではなかなか足が向かない。せめて家族などで観覧する場合の割引などの工夫が必要ではないか。なお県立万代島美術館でも、同様の事が考えられる。

【西條 和佳子 委員】

今年度の提言は2つ。一つは25年度に続いて2度目の提言であるが、フェイスブック（FB）の活用、もう一つは「学芸員の顔を見せる」である。

フェイスブックの活用を提言する理由は、1. 情報の即時発信が容易なこと、2. 観覧者との双方向性の2つである。情報の即時発信が容易にできるということは、観る側にとっては美術館の日々の活動を知ることができるということであり、それによって間接的ではあるが美術館への理解が深まることを期待できるだろう。また、観覧者との双方向性というのは、具体的にはフェイスブック上で観覧者が記事にコメントを付けたり、投稿をする、といったやり取りが出来るということであり、それによって「開かれた美術館」というイメージ創りやファン拡大へと繋げていくことができるだろう。

美術館側としては、「投稿やコメントの管理が出来ないのではないか」、「施設側に都合の悪い投稿があるのではないかな」といった心配があるかもしれないが、この点については管理者権限で投稿制限などの設定をすることで回避できる。美術館と同じように県立の施設であり、4年以上前からフェイスブックを開通している県立歴史博物館や、アートリンクの参加館でもある新潟市美術館のフェイスブックページなどを参考にして、ぜひ小さな心配より大きなメリットを得て貰いたい。

二つ目の「学芸員の顔を見せる」を提言する理由は、29年度のアートリンクの一環として新潟市美術館を会場に開催された各館学芸員によるトークセッション「美術館のあしたのあした」

が大変良かったからである。

学芸員という仕事について知ることが出来ただけでなく、学芸員一人ひとりに専門分野があり、志をもって日々の仕事にあたっていることを知り、美術館に対する好感度が大幅にアップした。

「モノ（展示物）しか見えない美術館」より、「ヒトの熱意が見える美術館」の方がずっと良い。サイズは小さくても良いので、展覧会ごとに担当学芸員の顔がわかるウエルカムボードを設置するなど、ぜひ検討をして貰いたい。

以上2点、私たち県民がコミュニケーションを取ることができる美術館に進化して欲しいという希望をもって提言とする。

【竹内 伊澄 委員】

○友の会、ボランティアの活動について

友の会、ボランティアにおける活動の充実が美術館主導ではなく友の会の会員やボランティア自らが活動し、やり甲斐のある活動が出来たかどうか、そして、達成感はあったのかどうか、と自問自答活動を振り返る事も大切な事だと思う。

その意味でも協働部が新設され、組織づくりや活動内容の検討など具体的に動き出した事は心強い事である。その芽吹き出した芽を大切に育てるのも美術館の役割だと思う。

もしも、可能であれば、私たち協議会委員と友の会の会員やアートボランティアの方々と共に話し合う機会があれば、また違う立場からの意見交換が出来るのではと考える。

○巡回ミュージアム（糸魚川市）の実施で見えてきたもの

- ・観覧者に分かりやすい鑑賞の手引きを作成
- ・教育委員会との連携で市内の小学生を動員
- ・会場で対話型鑑賞を7回開催
- ・一般向けの解説会を2回開催

この成果はひとえに糸魚川市教育委員会との連携によるものと思うが、やはり一番はそれぞれの担当者の熱意ではないだろうか。

糸魚川市は富山県に隣接し、開催地の青海地区はより富山県に近い町である。青海の子ども達は本物の美術品や芸術品を目の当たりにして、作品の背景や作者の話を聞いてきっと目を輝かせていた事であろう。

新潟県は細長い県である。その為、この巡回ミュージアムの担うものは大きく、重要な事業だと思う。

美術館に行った事のない子ども達の未来の可能性のお手伝いをする為には美術館と教育委員会との密なる連携、協働が大切だと思う。

一人でじっくりと鑑賞するのも良いだろう。しかし、鑑賞会で観覧者や子ども達と話のキャッチボールが出来るような楽しい鑑賞会があったらどうだろう。それが可能なのが巡回ミュージアムだと思う。

担当の方が楽しくなければ観覧者も楽しくない。担当者も楽しい事業の計画、立案を期待している。

【古田 修 委員】

美術館と学校等の関わりについて、以下の通り提言したい。

提言① 地理的な条件を克服する

特に遠方でない限り、美術館での活動は可能である。しかし、1日、半日を使い美術館での授業や行事を組むことに踏み切れないのが現状であるとする。下記の3つは、学校による利用促進のために欠かせない要素であろう。

- ・管理職の意識と担当者の意欲
- ・児童生徒にとってわかりやすい、学校向けのポスターやチラシ
- ・事前学習に使えるホームページによる紹介（子供の目線の内容であるといふ）

ICT教育の整備が進んでいる。学校のどの教室でもインターネットによる授業を構想しているところである。生徒も理解しやすい企画展の紹介やバーチャル美術館のようなサイトをつくり、県立美術館に関わる鑑賞授業が楽しみながらできるようにしてはどうか。

遠方の子供たちは、中学生であっても一人では行けない。多くの児童生徒に興味をもたせ、実際に行ってみてみたいと保護者に伝える必要がある。結果、子供と一緒に、大人が入ることに繋がっていく。

提言② 教育活動として充実させていく

全県校長会等で、美術館の教育活動利用について説明を行っているそうだが、私はあまりそのような場で説明を受けた印象がない。その他の施設からはよくある。

全県での説明に問題がある。個々に校長が集まる場で意識に訴えることは難しいと思われる。市町村単位で校長会が組織されている。校長会長がいるので、そこに説明に行くのが、校長会組織が動きやすい部分だと思う。

学校での美術館との活動を容易にするために、企画展に合わせた（タイムリーに）、または、コレクション展（年間を通して）の出前授業を行う。小中高の発達段階に合わせたワークショップ型・対話的な内容で、子供たちの美術館への興味を高める。これが、のちに大人と一緒に美術館を訪れるきっかけとなり、観覧者増に繋がる。

専門的な難しい内容では、子供たちの理解は期待できない。楽しい授業になるよう工夫が必要である。

モネ展、ヴェネツィア展は、展覧会図録をもとに鑑賞活動を行っても充実したものになり得る。授業に役立つと思われるものは、音声ガイドの内容である。これを真似て授業に使ってみた。印象派のモネは、日本の浮世絵と組み合わせたり、他の印象派画家（ゴッホ）等と比較したりしながら、生徒の思考の働く深い学びの授業を組み立てるのに大変有効であった。

提言③ 児童・生徒にとって身近なものに

美術館を通して、子供たちの豊かな人間性を育む。未来を背負うことになる子供の生きる力となる教育の一つである。

小学生、中学生、高校生については、学校の児童生徒証明や手帳でいつでも無料にしてはどうだろう。両美術館とも、近隣に住む人は別として、子供たちは一人で来ることができない。

無料化によって保護者の気持ちちが美術館に向くことを考えれば、むしろ観覧者増に繋がるのではないかと考える。

美術関係者は専門性が高く、その視点で展示方法や説明を考ええると思う。教育関係者としては、児童・生徒が美術館を身近に感じるために、子供の目線でどう感じるかを踏まえて展示や説明を行う必要があると感じている。

【佐藤 直人 委員】

モネ展、ヴェネツィア展、良寛と巻菱湖などは、大変良質で、生徒・学生の知的好奇心を高める展覧会であった。また一方二つのジブリ展覧会は、若い人たちの興味を惹く企画で、美術館に接するチャンスを大きく与えた年でもある。両者のバランスがとれた企画内容となる年であったと考える。

私の学校（長岡商業高校）では芸術選択者全員でモネ展を見る企画を行い、生徒に好評を博した。学芸員の方々には鑑賞前に美術館でのマナーやモネの鑑賞ポイントなどを、六クラスとも事前指導いただき、非常にありがたく頭の下がる思いでいっぱいである。見てきた生徒はいずれも美術館への感動や、印象派に対する理解が深まる様子を伝えており、収穫のあるイベントだったと感ずる。

一緒に引率をした同僚の教諭も、経験してきた鑑賞授業の中でも、生徒に見せるに最もふさわしい内容であったという感想であった。

ただ、当日、クラブ活動大会や病気で欠席の生徒に対するフォローができず、見られずじまいであった。美術館では再び日への指定を提出する書類を作れば生徒だけでも見に行けるようであるが、複数の生徒がまた同時に都合のつく日にちは決められず再企画はかなわなかった。高校生であればいつでも足を運べるような仕組みにして欲しい。

大きい企画展では全校生徒分の割引チケットを、美術館より各校に郵送していただいている。これについても、もれなく数をかぞえ各クラスの棚に配布するが、実際にこのチケットを使用して鑑賞しに行く生徒は窺えず、このシステムがうまく機能しているようには思えない。

ここ五年ほどで、教育費についてはとても大きなお金が動いており、高等学校も公立の授業料は無料化し、地方の私立大学も国が経費を肩代わり国公立化しはじめている。教育にお金を使うことに国民が理解を示している中、これらに比すればわずかな値段の美術館観覧料が、高校生に限っては、いつまでたっても小中学生同様に無料でないのは、解せない話である。

これを実現することは、県民全体で行う先行投資となる。少年期・青年期に自力で美術館に行き、建物や作品になれ親しんだことはよい記憶として、後まで心に残っているものだ。そして若い頃に美術館に接した人は大人になってからも、恋人や家族とお金を払ってまた訪れるものである。

美術館が設立された当初からも希望をし続けており、高校教諭仲間も意願している高校生観覧料無料化を、行政と手を取り是非とも実現に向けていただきたい。

【高石 真理子 委員】

「提言」の前に、美術館職員の日ごろの努力に敬意を表する。

まず、学芸員相互の横のつながりにより、様々な企画が開催されていることは今後も楽しみにしている。

企画に関しては、美術館のスタッフ以外に様々な専門に加わっていただき、より視野の広がった展覧会となることを期待する。本年度、万代島美術館が、ポスターのデザインを外部にお願いしたことなどは、美術館の視点だけでなく作品の魅力を引き出す工夫を積極的にされており、今後もこのような展覧会をお願いしたいと思う。

近代美術館の入り口に立つと、エントランスの暗さがとても気になる。作品を引き立てるための照明かと思うが、子供たちはどのように感じているのだろうか。友の会の皆さんが、モネ展の時に庭を制作して下さったように、なにか友の会の皆さんと協働で美術館に入りやすい工夫ができないだろうか。

コレクション展示に関して。「親と子のワクワク美術館」はとても楽しく見せていただいた。コレクション展示室は3室あるのだから、常に1室はこのような楽しめる展示にしていだけると、学校の見学の際にも活用できるとし、一般の方々も家族で楽しむことができ、新たな発見の場となることと思う。常設展の回廊だが、常設のワークショップ空間にしてはいかがだろうか。子供たちが自由に利用できる材料を常に用意して自由に制作できる場を作っていただきたいと思う。友の会の皆様それぞれの個性を発揮していただき、子供たちとのワークショップのお手伝い、展示のご案内など積極的にかかわっていただける方を発掘し、美術館にかかわっていただくことで美術館に新たな魅力が加わり、友の会の方も美術館を支えているという喜び、満足感を持ていただけることと思う。

お茶会に関して。長岡茶道協会が昨年発足した。長岡は、以前県民茶会という大きな会を開催していた地である。美術館協の公園で開催されたこともある。大学生のお茶会だけでなく、もう少し深くとりいれてはいかがであろうか。

新潟県では、クオリティの高い工芸品が製作されている。そのような業者の方と協働でグッズの開発、また優良な製品の紹介をする場を作っていただきたいと考える。

妻有トリエンナーレでボランティアをして、アートに関わることがどんなに楽しいか、楽しんでいる仲間がこんなにたくさんいることを発見した。アートを心から楽しめる、そんな県民が増えるよう、美術館の魅力を発信のお手伝いをしていきたいと思う。

【高橋 健太郎 委員】

県民に支えられ、共存共栄する施設へ。

美術館の役割は、大切な文化財を後世に遺していくこと。

これからも文化財がしっかりとした設備で保管され、展示されていくことを願う。

後世に伝えることを考えてみると、保管だけではなく、知ってもらうことや見ってもらうことも重要になってくる。

どちらに重点を置いて、施設・設備の改修を行っていくのか。予算の配分は、とても難しいと思う。

最近では、沢山のプロジェクトがクラウドファンディングによって実現している。プロジェクトの実現を願う人達から資金を集めて運営する手法である。

美術館で素晴らしい美術品を鑑賞することが出来るようにするための資金や、後世に伝えるため、子供と家族が美術館をもっと身近に感じてもらえるようにするための設備投資などを県内外の愛好者達から資金を募る。

愛好者が満足する形で資金が使われ、美術館がますます魅力的になり、新しいファンが増えていく。そのような好循環が生まれると良いと考えた。

観覧者より、ファンを増やすことで、新しいお金の生み出し方が生まれる。

【自己評価に対する委員評価（平成29年度）】

平成30年9月

はじめに

新潟県立近代美術館協議会の会長のポジションを与えられて、2年が経とうとしている。それまで新潟県立近代美術館をはじめ全国の美術館、あるいは他の国の美術館の展覧会を観て回ったが、その任に着いてからそれらを観る視点に変化が生じている。純粋にアート作品の美しさを味わうことはもちろんだが、それぞれの展覧会が生まれる舞台裏に強く興味を抱くようになった。特に、今年3月に万代島美術館において開催されていた「チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地」展を2度鑑賞した中で感じたことがある。主な内容は最新のデジタル技術を用いた仕掛けが施され、来場者が楽しめる体験型の展覧会であった。特に3月4日の最終日はあふれる程の人が会場を埋め尽くし、学芸員数名が会場整理を行うほどの盛況ぶりであった。美術館に賑わいが起きたこととして今年度開催された展覧会の中でも特筆すべきものと位置付けられる。

美術館における鑑賞の形態とは、作品と向き合いその良さを味わいながら時を過ごすことがそのスタイル（礼拝の場）であると信じていたし、また展示されている作品や制作者に対しての礼儀でもあると考える。しかしながら、美術館における展示スタイルが昨今揺らいでいることは、万代島美術館で開催された今回の展覧会からも理解出来るだろう。それは、アート作品を鑑賞する従来の形態から、美術館で展示を皆で楽しむ「こと」をその目的としていることから判断出来る。（アート作品が鑑賞者を巻き込んだ体験型の作品やワークショップ等を基軸とした作品が美術館やアートセンターにて数多く実践されていることがその表れでもある。）このような作品様式が美術館において実践された背景には、現代のアート作品が壁に飾る絵画であったり台座ののった彫刻と言った形式から跳躍し、様々な表現形態を繙き始めた作品（インスタレーション作品等）が表現されるようになったことがその要因であろう。また、そのことが鑑賞者に対して作品を鑑賞すると言った一方的な解釈から展覧会を体験すること、いわゆる作品としての「もの」以上に体験等を多く含んだ「こと」に鑑賞者の興味が移行したとも言える。

美術館における大きな役目としてアート作品の調査研究、また作品を次の時代に引き継ぐこと等がこれにあたるが、現状における美術館は表現形態が多様化したことで様々な表現形態を引き受けることになる。このことは鑑賞者にとって鑑賞の幅が広がりがかつ肩肘張らずに美術館に足を運ぶことになったことに繋がるとともに、美術館を管轄する行政サイドにとって、入場者が増えたという喜ばしい結果に映ったのではないかと。

しかし、アートは既成の概念から一定の距離をとり、見過ごされそうなものに光を当て、また世の中に異議申し立てを述べるものでもある。美術館はその代弁者でもあることから、学芸員がそれらをしっかりと編集して展示に結び付けてくれることが求められる。（美しく喜ばしい表現だけではなく、顔を背け

てしまう作品等もその中に含まれる。)これらのメッセージを整えた展覧会を企てたならば、エンターテインメント性が薄くなり美術館に足を運ぶ人の数が減ることも予想される。もちろん全ての展覧会に人々が足を運んでもらうことが理想ではあるが、学芸員が現代を映すリアルな展覧会を披露することで僅かな鑑賞者に新たな気づきが生まれるならば、その展覧会は市民に対して十分なものとなり得るだろう。

現代社会において何かを標榜した場合、必ず求められるのが数値目標や、それに対しての説明責任になる。だが、アートをそれに対して直接当てはめて解決することは難しいし、美術館における展覧会もそれと同等であると考ええる。もちろん入場者が少なくても良い展覧会はあり得ないし、それに対しての工夫はしっかりと組み立てなければいけないだろうが、入場者数を追いかけることをその筆頭に置くことだけは絶対に避けなければいけない。

文化の力はすぐにその結果が市民に見えるとは限らない。むしろ、ゆっくりと芽が出て花が咲くまで見守ることも必要なものである。その花が咲くように学芸員はじめ美術館スタッフが土を耕し、水を与えていることに対して、市民はそれを見守り、時には叱咤する場面があるかもしれないが、背中を支えることを忘れてはいけない。

平成30年7月

新潟県立近代美術館協議会
会長 丹治 嘉彦

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

(1) 美術館運営の全般に関して

近代美術館並びに万代島美術館の使命は地域固有の文化を見直し、未来に継承するコレクションの充実と研究、そしてその活用と普及にある。それに加えて、美術館に期待されているのは、誰もが分け隔てなく美術館を利用できることであり、そのために市民参加、あるいは支援体制の整備が必要である。多くの市民が自分たちの美術館となるよう展覧会の充実はもちろん、その他研究や教育普及等を展覧会に絡めながら、アートの発信基地となるよう期待する。

(2) 目標設定のあり方について

近代美術館、万代島美術館ともに評価の対象領域として、各館で開催される展覧会、ワークショップ等を含めた教育普及、作品の収集とその調査研究等がある。これらの領域においてそれぞれ観覧者数、友の会活動やワークショップ、そして新規の企画等が評価対象となっている。

しかしながら、これらは数値にて可視化できるものもあれば、表し難いものもあるはず。また、これらの目標に関してアンケート等がそれに利用されているが、それだけではなく一定の観覧者を追跡させてもらい美術館での出来事が暮らし等にとどのような影響があったのか等、いわゆるエピソードなども加え

ながら数値に現れない新たな評価軸等を用いてそれぞれの目標に向かって欲しい。

(3) 目標に対する達成状況について

近代美術館、万代島美術館それぞれが魅力ある企画を立ち上げることは、学芸員の地道な調査・研究あるいは地域との密接な連携が実ることによって初めて成立する。しかし、その努力が展覧会の成功と直接結び付くとは言い難いし、それは現代において芸術文化に親しむ場が美術館以外にも様々な場で生まれている事実からも判断出来るだろう。何れにしても上記に対して関係者の弛まない努力こそが展示内容を充実させ、観覧者の増加を促し、そのことが結果的に市民力に繋がる。それこそが美術館が美術館たる所以なのである。

しかしながら、多様な業務がリアルタイムで派生すること、あるいは社会の中で美術館に対する理解の不足等が生じているのも事実である。このような問題を美術館の内側だけで解決するのはあまりにもハードルが高すぎる。このような状況下、美術館の自己評価は概ね妥当なものと判断できる。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 展覧会に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

平成29年度に実施されたコレクション展、及び企画展とも目標達成に向けて成果を上げた評価できるだろう。近代美術館において開催された「ディズニー・アート展」や「堀口大寿展」等においては、幼児・小学生同伴の家族や障害者団体などの来館、そしてこれまであまりアートに関心がなかった観客層も呼び込むことができたことは、県民に開かれた美術館として発展するための布石と見ることができ、開催意義は非常に大きいと言える。また、万代島美術館で開催された「チームラボ展」は大勢の来場者が足を運んだ。これは今までにない新しいスタイルの展覧会で、新たな美術館像として県民に浸透した証と思われる。これからも多様な表現形態の作品を鑑賞できる機会を作っていってほしい。

(2) 今年度活動の取り組み内容の妥当性とその効果について

今年度も県民及び来館者の期待に沿った展覧会が開催された。エンターテインメント性が高いもの、デザイン性を現したものの、そして、書や文学等を扱った展覧会等である。これらがバランスよく配置されて県民の関心を得たとともに、具体的な観覧者数から判断しても展覧会が成功したと評価できる。例えば、「ディズニー・アート展」や「チームラボ展」においては、今の時代における美術館の役割を表したもので、特に鑑賞のあり方に関して新たな光を当てたものと解釈できると同時に、空間演出が展覧会成功の鍵となる。実施に当たっては事前に他会場での実施状況についての情報を収集し、実行委員会を含む関係者内で対応を協議し、予算内で展示設営を完了することができたことは見事であり、現場が持つマネ

ジメント力の高さが表れている。また巡回先の会場の中で最も充実しかつ鑑賞し易い展示となったことは大変すばらしく、準備体制が整っていたことの表れと言えよう。現代における美術に目配りした取組で高く評価できる。

(3) 自己評価に対する総括

近代美術館、万代島美術館それぞれで開催された企画展についての取組、その中でも展覧会開催中のイベントの開催やワークショップの充実は評価に値する。単に鑑賞する美術館というスタイルから体験する場に変容させたこと等がそれにあたる。また、近代美術館で開催された「堀口大學」展等は、観覧者数の増加に繋がらなかった。展覧会そのものがエンターテインメント性を宿していなかったが、これらの展覧会に対して県民にいかん足運んでもらうかが今後の課題と言えるだろう。

2 教育普及等関連事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

対話型鑑賞を通した主に学校との連携による教育普及事業全般の成果と定着が確認されている。「利用事後調査票」の運用については、学校と美術館双方において効果的に機能している。企画展のための鑑賞資料作成や企画展に合わせた作家のトークや対談等の企画は、観覧者の学びを刺激して効果的な成果を得ている。また、学校等に対象を焦点化した広報活動も連携を実質化し具体化する上で効果的に機能している。実施目標は十分に達成されている。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

多くの学校団体が対話型鑑賞を自発的に希望するようになっている。「利用事後調査票」の記入と回収も順調に実施され、対話型鑑賞実施時の児童生徒の反応や変化が学校や教員の視点から具体的に記載されて、その効果が観覧者にも実感され、確かなものとなっていることが明らかになっている。前年の事後調査票分析結果を、教員向け研修会に活かすことで、美術作品鑑賞と鑑賞教育について教員の理解を深めていることも確認されている。年度前半の教頭会で展覧会事業と普及活動について、出前講座や対話型鑑賞を紹介し参加を呼び掛けたことも、教育普及事業と学校の教育課程との連携をつくり効果的である。一般参加者への対話型鑑賞も実施され好意的な感想を得ている。「加山又造展」では独自に制作した鑑賞資料が次回以降の巡回会場でも採用されるなど、美術館の教育普及事業の取組が一般性を得ているといえる。

万代島美術館で開催された「チームラボ展」には、幼児から成人まで幅広い来館者と、保育園、特別支援学校、福祉施設等の団体来館があった。参加型の鑑賞と支援体制、小児科病棟からの依頼と入院患者への参加型の対応に、美術館の提供する文化がすべての県民のニーズを対象としていることを改めて気づかせてくれている。美術館の存在意義に光をあてる成果が認められる。「アンデス展」では小学生から高齢者

までの幅広い観覧者の見たい、知りたい、学びたいという熱気を会場で強く感じる展覧会であった。来館の動機、展覧会を見る楽しさ、美術館で過ごす楽しさを総合的に高めることができている。

両館がそれぞれに特徴的な企画展を開催し、そのコンセプト、内容、方法が、教育普及事業の方法や意義と効果的な相互作用を生み出し、観覧者の感動経験と喜びをつくり始めている。こうした事実と関係を丁寧に活かすことで今後の更なる発展が期待される。

(3) 自己評価に対する総括

以上のとおり、両館から提出された平成29年度教育普及事業へのそれぞれの自己評価は、妥当である。

3 調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

所蔵作品等に関する調査研究や展覧会に向けた調査研究、そして他機関との連携などが計画的に実施されており、館ならではの調査・研究に堅実に取り組んでいることを高く評価したい。

調査研究の成果は、展覧会並びに展覧会図録等に反映されており、目標を十分に達成している。また、各展覧会において、関連講座やギャラリートークが数多く開催されており、調査・研究の成果を広く発信している。これは美術館の活動を広く一般に知ってもらうために非常に有意義な取組である。

作品修復についても、公開のタイミングを念頭に入れながら計画的に作品選定が行われ、実施計画が立てられており、着実に遂行されていることを高く評価したい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

江口草玄の調査・研究が着実に進められ、その成果が平成30年度開催の「白寿 江口草玄のすべて」展ならびに決定版的な図録の刊行に反映されたことは、高く評価できる。「堀口大學展」でも調査で明らかになった版画作品を展示することで美術展としても充実した内容となり、展覧会を見た来館者から資料の寄贈の申し出があったことは非常に嬉しいことであり、美術館の理想とする展開と言えよう。

「堀口大學展」は、「詩人・堀口大學と美の世界」展（2002年）での調査・研究の成果を発展させたものである。また、亀倉雄策に関連したいくつかの展覧会も、これまでの展覧会で得られた成果を反映しながら企画されている。

これは学芸員のたゆまぬ努力が実を結んだものである。今後もこのような好循環を生み出していってほしい。

「国画創作協会の全貌展」に向けての調査・研究も着実に進められ、他館と協働することで、高い成果があがっている。近代美術館収蔵の土田麦僊作品を含め、国展に関連する素描・資料類の調査・研究の成果が展示や図録に反映されることを期待する。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、問題点や実現できなかった事項、そしてその原因などについての確、かつ客観的に分析できており、極めて妥当である。

4 環境・設備に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

工事着手に向けて、予算の範囲内で美術館の要望を踏まえた基本設計となったことは評価できる。

○万代島美術館

どの企画展示も美術館の施設が有効に活用され、鑑賞しやすい環境であったが、調光システムの更新予算が認められたことにより、より快適な環境を整えることが可能となったのは評価できる。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

利用者により愛される美術館となるために施設整備の修理、補修の工事着手に向けた工事関係者との会議、打ち合わせを通して美術館として納得のいく基本設計となった。

工事期間中も改修箇所や、それによって改善されることを具体的に分かりやすく情報発信してほしい。

○万代島美術館

幼児や子どもが喜び企画展があり、家族連れが利用しやすい環境作りを心掛けていたと思う。

ただ、チームラボ展は展示部屋によって、暗くて出口が分かりにくいところがあったので、緊急時の対応、安全を考慮してほしい。

(3) 自己評価に対する総括

美術館職員が一体となって展示に取り組んでいることを感じる。この意気込み、やる気を潰さないように職員も育ててほしい。そして、くれぐれも身体を壊さないように楽しんで取り組んでほしい。自己評価は妥当と思われるが、もう少し良かった点を加えても良いと思う。

5 協働組織に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

・「友の会におけるボランティア活動の内容を深め、展覧会や美術講演会等、協働による事業を計画的に進める」という取組については、相互の意思疎通と調整を図り、実のある協働事業を実施した点を高く評価する。そのなかでも、新潟市において初のアートカフェが実施できたことは美術館に積極的に関わってくれる人材を増やし、今後の活動を広げる上で大きな一歩になったと思われる。また、ボランティア

活動は「日常的な信頼関係」を築き、いざという場面で大きな力を発揮してくれると思うので、今後もぜひ継続していただきたい。

今後はアートカフェを長岡や新潟市だけでなく他の地域でも開催してみるなど、より多くの人に美術館や友の会の活動を知ってもらえる場創りと、増加するシニア層を取り込んで行く何か仕掛けを進めてはどうだろうか。

・「長岡造形大学、長岡大学、長岡市などの連携を進め、本年度中に次年度以降の計画案を策定する。また、新潟アートリンク内で新たな事業を推進する」という取組については、長岡造形大学、長岡大学との協働が安定的に実施され、新潟県の未来を支える学生や子どもたちの美術教育に繋がっている点を評価する。

その一方で、今年度については長岡市との協働が実績として示されていないことが残念である。特に長岡市と関わり深い「堀口大蔵展」については、内容も非常に良かったため、PRの面などで市と連携が行われれば良かった。

また、造形大学、長岡大学についても次年度以降の計画案について言及されていないのが残念である。美術館が休館中、両大学とどのような形で協働を継続していくのか、これまでの検証を行うとともに、新たな取組を創出してもらいたい。

新潟アートリンクについては、これまでの地道な取組により、4館の信頼関係が構築され、新たな事業へ繋がったことを評価したい。その一環として実施された若手学芸員によるトークイベントは、美術館が単に美術を紹介する施設ではなく、美術館を支える人と観覧者が「共に創り上げる場」であることを外に発信する非常に良い機会であった。

また、次年度に教育普及に関する部会を立ち上げることを決定したことは、4館の人材育成に繋がるとともに、「切磋琢磨できる関係こそ良い関係である」ことを子ども達に伝える良いチャンスになるであろう。

その一方で、これまでスタンプラリーを楽しみにしていた観覧者への説明と、ラリーに代わる楽しみをどのように提供していくか、観覧者の立場に立って考えることも忘れてはならない。また、アートリンクの対象を今年度リニューアルされる上越市立歴史博物館など、より広範囲に広げ、内容についても多様化を図ってみても良いかもしれない。

・「村上市総合文化会館の巡回ミュージアムを計画的に進めるとともに、本年度以降の計画案を策定する」という取組については、物品の搬送や会場設営の指示など美術館側の手間は大きかったであろうが、「県民の文化レベルの向上に資する」という基本方針にのっとり、大変有意義な事業であったと考える。また、小中学校の児童生徒対象の対話型鑑賞のために教育委員会の協力が得られたのは良かった。

しかしながら、毎年一か所だけでは、せっかく企画された巡回のための作品やプログラムがもったいない。可能で

あれば、県内数箇所に巡回拠点を決め、展示してもらおうといったことができないだろうか。各地域の教育委員会と連携を図り、毎年この時期には県立美術館から作品が巡回されるといった仕組みが作られることを希望する。

また、巡回展の実施に当たり、教育委員会との協働が必要なのであれば、巡回先の市町村だけでなく県の教育委員会に対しての根回しや協働提案も有効かもしれない。

○万代島美術館

・「4館でのスタンプラリーを継続し、新たな協働について考える」という取組については、スタンプラリーの4館周遊達成者が当館で113名、全体で435名という結果を出し、アートリンクが県民に対して「美術館巡りをする」楽しさと、スタンプを集めるという行為を通して「美術館に関わる」喜びを提供できていたことを評価したい。

また、新潟市の美術館の学芸員とのギャラリートークという新たな試みは、万代島美術館の積極的な姿勢を示すものとして高く評価したい。

今後はスタンプラリーに代わる喜びをいかに県民に提供していくか、知恵を絞っていただきたい。

・「友の会と協働する」という取組については、「マリメッコ展」、「チームラボ展」と2回にわたりバスツアーが実施され、各20名以上の参加が得られたことなど、目に見える成果があったことを評価したい。また、講演会やワークショップの共催は県民の美術館に対する認知度向上と学びの場の提供に寄与したものと思われる。

今後は友の会の人も活かし、更に新しい魅力を発信していったほしい。

・「既存の活動を継続しつつ、新たな協働活動を模索する」という取組については、にいがたもよう研究所、舞踊団ノイズム、北欧工芸研究会、子ども用車椅子の普及団体、そして一般企業など、展覧会の内容に合わせ、これまでになく多様な相手との協働ができたことを高く評価する。この背景には、タクシー運転手への説明会や新潟大学人文学部における講義の担当など、従来からの取組をしっかりと継続していることがあるだろう。

また、ガタケットとの共催によるコスプレイベントの開催には、県立の美術館という固いイメージを崩す斬新な驚きがあり、美術館の新たな可能性を模索するとともにチャレンジ精神を示した点を評価する。SNSでの拡散ができなかった点は残念だったが、これを機に「若者と美術館との協働」を目指してほしい。

大学病院に入院している子どものために美術館の力を提供したことは、協働から社会貢献へと繋がる良い取組であった。また、休館日を利用した柔軟な職員の対応は大いに評価できる。今後も責任ある立場として、県民の為になる取組には積極的に関わっていただきたい。

そのためには、職員に余裕がなく協働ができなかったということがないように、協働の効率化ということを次のステップとして考えてもらいたい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

・「友の会におけるボランティア活動の内容を深め、展覧会や美術講演会等、協働による事業を計画的に進める」については、これまで蓄積してきた実績のうえに新たな活動を展開しており、まことに妥当なものだと考える。

その一方で、友の会、ボランティアとも、その活動内容が一般県民に知られていない（外部への発信が足りない）のが現状ではないかと思われるため、この点を改善し、さらに愛される美術館を目指して欲しい。

・「長岡造形大学、長岡大学、長岡市などの連携を進め、本年度中に次年度以降の計画案を策定する。また、新潟アートリンク内で新たな事業を推進する」という取組のうち、造形大学と長岡大学並びに市との連携は長岡市に立地している館として当然のことである。そのうち、大学との連携は若者の教育支援及び育成という点で着実に効果を上げていると考えるが、長岡市との連携については年度によって差があり、この2年間、協働実績が掲げられていないのは残念なことである。休館後のリニューアルオープンに照準を合わせ、ぜひ長岡市との協働を図って頂きたい。

新潟アートリンク内での新たな事業の推進という取組は新潟県全体の芸術や文化をけん引する立場として非常に妥当なものである。また、実際の取組内容としても、積極的に挑戦し、実績を上げたことを評価したい。長期的な展望になるかもしれないが、ぜひ全県版アートリンクを目指していただきたい。

・「村上市総合文化会館の巡回ミュージアムを計画的に進めるとともに、本年度以降の計画案を策定する」という取組は、市町村単位の「芸術文化」の向上を応援し、各市町村の職員が実践力を身に付けるとともに住民が美術に触れる機会を提供するという点で非常に妥当なものである。今後は各市町村及び教育委員会との連携を更に進め、年に一市町村の巡回を将来的には複数回へと拡充し、市民が芸術に触れる機会を増やしていただきたい。

○万代島美術館

・「4館でのスタンプラリーを継続し、新たな協働について考える」という取組は、県立近代美術館の休館に向け、万代島美術館として準備を進めるという点で妥当なものであったと考える。このあと1館体制となった際にぜひ力を発揮していただきたい。

「友の会と協働する」という取組は、従来、長岡市を中心に活動をしていた友の会にとっても活動の幅を広げ、会

員に益のある有意義なものであったと考える。協働は相手にとって益があってこそ成果があったといえるのではないかとと思われるので、その点で大変妥当なものであったと考える。

・「既存の活動を継続しつつ、新たな協働活動を模索する」という取組は、今年度大変高い成果を上げた。この背景には従来からの細やかな取組の積み重ねにより万代島美術館の存在が協働相手に認知され、それに合わせて、新潟市にあるという立地の良さがようやく活かされたように思われる。今後ぜひ自信をもって活動をしていただきたい。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、おおむね妥当、万代島美術館については多少控えめであると考ええる。

このあと近代美術館は1年間の休館を経て新たな付加価値の創造がされるだろうし、近代美術館に追従していた感のある万代島美術館も開館から15年の節目を越えた。

今後は近代美術館と万代島美術館の双方がそれぞれの魅力を生かし、切磋琢磨するような華のある協働事業を展開していただいたい。

そのためには近代美術館が休館となる期間を使い、これまでの協働相手にリサーチをかけ、これまでの協働実績の再評価をするとともに、次につながる協働の種探しを進めていただきたい。

第3章 平成30年度県立近代美術館運営への提言

【丹治 嘉彦 会長】

本年度近代美術館においては「漢字三千年展」「加山又造展」「萬鐵五郎展」「堀口大寿展」「ディズニー・アート展」がそれぞれ行われ、また万代島美術館においては「マリメッコ展」「レオナルド・フジタ展」「うつくしい暮らし展」そして「チームラボ展」が開催された。両館とも工夫を凝らした展覧会となり、鑑賞者にアートのもつ魅力を存分に伝える事が出来たのではないだろうか。

これらの展覧会を客観的に見るならば、近代美術館は研究的な要素を多く含んだ展覧会、万代島美術館はエンターテインメント性を宿した展覧会という図式が垣間見えた。もちろんそれぞれの展覧会において、美術館が果たすべきより良い展覧会を開く事には変わりはないし、それぞれ良質な展示であったと思われる。また万代島美術館で開催された展覧会は「観る」と言う形態だけでなく「体験」が伴う展示形態が多く感じられた。特に「チームラボ展」は子どもから大人まで楽しめる設えとなっており、今まで抱いていた美術館のイメージを一新した新たな美術館像を示したとも言える。ただし、展覧会においてエンターテインメント性が強くなったのと反対に11月に開催された「うつくしい暮らし展」が目を引きつけた。この展覧会は万代島美術館独自の企画で、日々の人々の暮らしに光を当てその機能を表現した展覧会であり、生活とアートの関係性を丁寧に表現したことはア-

トが日常と近い距離にあることを実証したと言える。見過ごされそうなものを「たからもの」に変容させた学芸員の力に感服した。しかしながら、展示会場の最後の空間においてこの年に美術館が収集した作品を紹介するコーナーが位置づけられ、この空間に入った瞬間それまでの丁寧な暮らしのイメージとは真逆な感覚を覚えた。もし、このコーナーを設えるならば、オリジナルな空間を設えるか、あるいは展示空間をしっかりと仕切る必要があるのではないだろうか。「暮らし」と言う生活に密接な時間に寄り添った、とても意味のある展覧会であったが故にこの設えがとても残念であると感じた。

そして、展覧会に関しては、「ディズニー・アート展」など、アニメ等のエンターテインメント的な企画が増えていると同時に、これらの企画は子どもから大人まで幅広い年齢層にフィットすることから確実に観覧者増に繋がる。当然ながら美術館に大勢の観覧者が訪れること自体喜ばしいことであろう。ただし、実施する展覧会構成に偏りが生じてはいないだろうか。子ども達の長期休暇にエンターテインメントな企画を入れる。また閑散期には専門的な展覧会の企画等…。所謂展覧会の定形化が浮上していると感じる。

市民に寄り添う美術館としてこれらは有機的に機能するかもしれないが、その反面市民を芸術を介して挑発する美術館の姿も見せる必要があると感じる。次の時代の到来を感じさせる企画である。これらをしっかりと位置付け、凛とした美術館像を表現すべきではないだろうか。

【松本 健義 副会長】

平成29年度は、企画展や対話型鑑賞への取り組みを契機として形成されてきた美術館と観覧者との相互的で互恵的な関係が、来館者の多様なニーズに対応した柔軟で緊密な協働形式に活かされ実現されている。特に、企画展の特性に基づいた広報や鑑賞のためのツール等の開発と導入は、美術館事業全体に柔軟で有機的な連動を生み出している。万代島美術館で開催された「チームラボ展」は、幼児から成人までの幅広い来館者、参加型の鑑賞形式、来館できない県民への配慮等に、美術館の提供する文化がすべての県民を対象としていることを改めて気づかせてくれており、美術館の存在意義に光をあてる成果も認められる。「アンデス展」では小学生から高齢者までの幅広い観覧者の見たい、知りたい、学びたいという熱気を会場で強く感じる展覧会であった。観覧者のニーズの多様性への細やかな捉え直しを可能とする取り組みや手段の検討と開発により、企画展、教育普及、調査・研究、施設設備、協働組織をトータルに機能させていく取組を期待したい。こうした取組の成果から美術館の意義と目的への評価も中期的に行うことが期待される。

観覧者は幼児から成人まで、幼稚園、保育所から小中高等学校、特別支援学校、福祉施設、病棟患者等へと拡張している。中学校、高等学校の青年期の生徒は、芸術の直接的経験に乏しい状況にある。芸術鑑賞を通して、直観的、共感的、創造的、対話的な資質や能力を育む機会が十分に準備されていない状況にある。中等教育に焦点を当てた教育普及の開発、教員、学校、教育委

員会、県の文化行政等との連携と協働が充実するよう、29年度の成果をヒントにこれまでにない観点や関係から検討され、試みが開始されることを期待する。

【岡塚 章子 委員】

近代美術館、万代島美術館ともに、幅広い層の関心に応えられるような多様な展覧会ラインナップを揃え、観覧者の立場に立った活動が展開できている。特に、これまで美術館では取り上げたことのなかった服飾関係（「マリメッコ展」）や最新のデジタルアート（「チームラボ展」）を開催するなどの積極的な姿勢は、高く評価できる。

両展ともにこれまであまりアートに関心がなかった観覧者層を呼び込めたことは、将来に向けて館が発展するための布石と見ることが出来、開催意義は非常に大きい。加えて目標以上の観覧者数を得られたことは、大変喜ばしいことである。

「チームラボ展」のような新しいジャンルやスタイルの展覧会の開催にあたっては、運営も試行錯誤であったと推察されるが、日々、会場や受付スタッフの意見を取り入れ、観覧者目線で会場の修正を行い、観覧者の安全を図るとともに、快適な鑑賞環境の創出に向けて、全館員で運営に当たったことは賞賛に値する。今回の経験は非常に得がたいものである。今後の活動に是非活かしていただきたい。

近代美術館は、改修工事のため2018年7月から2019年8月まで休館する。施設設備の修理・補修のためであるが、当面の問題解決だけではなく、館の将来を見据えた計画、特に作品収集を継続していくための収蔵スペースをどのように確保していくのかの検討も是非行ってほしい。近代美術館・万代島美術館は、質、量ともに国内有数のコレクションを持っている。コレクションは館にとって何よりも大切であり、活動の基盤となるものである。適切な保存環境の整備は、常に美術館の最重要課題と言えよう。

また休館中は、調査・研究、収集・保存に力を入れる絶好の機会である。この機会を活かし、長期間の調査出張など、開館中ではなかなか難しい調査・研究活動を是非行ってほしい。収蔵作品ならびにそれに関連する作家や作品・資料の調査・研究、収集・保存も重要である。館外の研究者との調査・研究交流、情報交換も積極的に進めていただければと思う。

【山田 一郎 委員】

「レオナール・フジタとモデルたち」、「加山又造展」、「チームラボ展」、「古代アンデス文明展」など、大型の魅力ある展覧会が行われた。おそらく高額な展覧会費用が掛かったのだろうか、期待しただけの観覧者がこられたのだろうか。

美術館の観覧者の中心である中高年の美術ファンが次第に高齢化して、余裕のある人は地方の巡回展で満足せず東京の展覧会に、あるいは海外の美術館巡りに出かけて行く。一方、年金生活者の大部分である生活に余裕のない人からは、美術館の入場料が高すぎると苦情が聞こえてくる。

美術展の企画が果たして県民が県立美術館に求めているニ-

ズと合致しているだろうか。ネット社会になって大きく世の中がかわったのは、あらゆる情報を一般の人が専門家とほぼ同じレベルの知識と情報を時差なく入手できるようになったことである。そして、そのレベルで展覧会选择するようになっている。ある人から聞いた言葉であるが、「貧乏人はネット美術館、お金持ちは海外の美術館に行く時代」だと。

学校や市町村との連帯も取組んでいるようであるが、展覧会ニーズの把握にもその連帯を来館者アンケートとともに利用すべきではないだろうか。

気になっていることがある。県美連事務局長として開場式に呼ばれるが、新潟市の展覧会には必ず議会関係者が列席する。県の展覧会では地元の議員の姿はない。美術館側から県民の代表である議員を呼び寄せる努力があっても良いのではないか。きっと美術館の味方になってもらえるはずである。

近代美術館と万代島美術館両館が収蔵している作品点数は6千点以上と聞いている。でも、コレクション展示室に展示されている作品の多くは繰り返し展示されているもので、あまり新鮮味がない。普通に考えればコレクション全てを観るには最低10年にかかる筈である。新潟の美術館でしか見ることができない作品があるならば、きっと美術ファンは足を運ぶ。なにしろコレクション展観覧料は430円なのだから。

来年秋には中越地震で流れた国民文化祭が新潟県で開催される。新潟県のアートを全国に発信できるチャンスである。近代美術館の改修もその頃には終わると聞いている。素晴らしいコレクションの数々を全国に発信してほしい。近代美術館工事休館期間の万代島美術館の展覧会を期待している。

【西條 和佳子 委員】

今年度の提言は3つ。一つは「ベアチケット」の導入、もう一つは「美術館を核とした観光コースの策定」、そして「万代島ビルの駐車場から車椅子が利用できるようにすること」である。

ベアチケットの導入については以前にも提言を行ったことがあるが、その主たる理由は「若者へのアプローチ」である。現在でもジブリやディズニーなど若者に馴染みのある題材を取り上げた企画展には若いカップルの観覧も目立つが、それ以外の場合は若いカップルの観覧率は低いのではないだろうか。

この背景には「企画展の題材について馴染みがなく、それゆえ興味がわかない」といった理由があるかもしれないが、だからといって美術に親しむ機会を逃すのは勿体ない。

そこで、たとえ馴染みがなかったとしても、恋人や友人同士で気軽に美術館に来てもらえる仕掛けとして、多少割引のついたベアチケットを導入してみたいかがだろうか。

二つ目の「美術館を核とした観光コースの策定」を提言する理由の一つは近代美術館のリニューアルである。具体的なりニューアルの内容は存じ上げないが、リニューアルによって近代美術館の魅力が増すのは確かなことであろう。また、万代島美術館についても、開館から15年を経過してその認知度は高まっていることだろう。

折しも、北陸新幹線の開通や新潟空港への格安航空便の乗り

入れなどにより、他県から新潟県を訪れる観光客も少しずつではあるが増えている。観光客の誘致に力を入れ始めている新潟県や県内市町村と協働し、中・上越地域なら近代美術館、新潟市及び下越地域なら万代島美術館を「文化芸術の拠点」として通年型の観光コースの策定に取り組んでみて欲しい。

そして三つ目の「万代島ビルの駐車場から車椅子が利用できるようにすること」という提言を行う背景には私自身の経験がある。3年ほど前、足の不自由な義母を万代島美術館に連れていったとき、なるべく歩く距離を少なくしようと万代島ビルの駐車場に車を停めたのだが、車から降りた時点で、義母がビルの5階にある美術館まで自力で行くのは無理なことがわかった。

そこで、何か方法が無いかと美術館に電話をして相談をしたところ、美術館に備え付けてある車椅子を1階まで持ってきて頂けることになり、職員の方が持ってきてくださった車椅子をエレベーターの前で受け取って車まで戻り、そこで義母を車椅子に乗せて美術館に向かった。

この時に思ったことの一つは5階から1階まで車椅子を持ってきた下だった美術館職員の方への感謝だが、それと同時に、ビルの駐車場に貸出用の車椅子が配置されていたら職員の方に余計な手間をかけることもなく、また、美術館に行く側も余計な時間をかけずに済むのに、ということだった。ビルの管理上、管理人のいない駐車場に車椅子を配置するのが難しければ、1階の駐車場から繋がる管理室に車椅子を配置し、必要な人に貸し出すことができないだろうか。

美術館に行きたいと思うのは健康者だけではないはずである。また、若い時は健康だった人も加齢とともに足が不自由になることは珍しくないことであろう。

身体が不自由だからとか、足が悪くなったからという理由で美術館を訪れることを諦めている人がいるとしたら、それはとても不幸なことではないかと思う。ぜひ万代島ビル全体の問題としても検討を願いたい。

【竹内 伊澄 委員】

新聞に財政難のあおりで、県立の文化・教育施設（自然科学館、美術館）が予算不足にあえいでいる。現場の学芸員らは魅力的な企画に知恵を絞るが展示が長く更新できず、美術品も購入出来ない事態に陥っている。とあった。そして、近代美術館とその分館である万代島美術館も厳しい状況に置かれ、美術館の大きな役割の一つに地元作家の作品の収集、研究があるが、2003年を最後に金額が大きい作品の購入はなく、その結果、厚意による寄贈に頼っているのが現状だそうだ。

このように、メディアに窮乏を取り上げてもらうことで広く市民に現状を知ってもらう事は重要だと思う。集客も大切な事項だが、残さなければならない地元の作家の作品などの収集、研究は未来への大切な架け橋となる事を忘れてはいけない。

また、作品を観覧した人の生の声は市民にわかりやすく届き、より身近に感じる。これからも、多くのメディアに注目してもらうなど、リアルタイムで情報発信してほしい。

○チームラボ展について

これまでになく今年度は、小学校や特別支援学校・障害者団体の来館を受け入れた事は、今後の美術館の新たな役割を見つけたように思う。特に、知的障害、身体障害の方たちは来館することに遠慮がある。その為に美術館が遠い存在になりがちである。来館するにあたり、窓口に問い合わせがあったと思うが、その時に対応された方の心遣いが来館に繋がったと思う。

日頃の美術館の職員の対応が言葉に現れたのだろう。そしてこの経験が職員の経験値を上げた事は言うまでもない。

どんなに職員が頑張っても、どんなに良い企画を出しても、ある程度の予算や人員は不可欠だ。根気よく県に働きかけて欲しいと強く思う。

【古田 修 委員】

○近代美術館について

改修を機に一新する姿をアピールする。この改修が美術館の新たな集客につなげるチャンスと捉え、新たな企画を起こすことが求められ、美術関係者に限らず少なからずも期待している人が多くいることが想像できる。例えば、2020年の東京オリンピックに関連して、100周年を終えたばかりであるが、亀倉雄策のコレクション等の特別なコーナーを中心に、1964年の東京オリンピックのポスターだけでなく、当時のポスターや広告、写真などノスタルジックな雰囲気をつくり出す。このような一室があれば、話題性が高まり、普段美術館に足を運ばない人を惹きつけることが出来ないだろうか。魅力あるものや知名度の高い企画展は当然高い集客に繋がる。観光の名所として、または県民が自慢できる美術館として、日常の集客につなげる工夫を図る。

○コレクション作品のPR

普段あまり集客していない常設の展示室を県内外にPRしていく。例えば、近代美術館の入口でロダンの彫刻のことを聞かれたことがある。「あれは本物ですか」と。この近代美術館にロダンをはじめ名作があることをもっと広める手立てを工夫していく。教育関係、美術系大学との連携はもちろんであるが、美術教科書や美術資料集（副教材）等に掲載する。

○教育普及に関して

長岡市以外の学校とのかかわりを強化する。美術教育の普及に美術館への来館以外の手立てを講じる。長期休業中の大学生等の作品解説ボランティアや、長期休業中の小学生向けの簡単な内容の造作活動を取り入れたワークショップの解説及び指導者ボランティアの募集などを行う。

県内規模小中学校の美術教員に声をかけワークショップの指導をお願いする。このことから県立近代美術館への関心が高まり平日の団体集客に繋がる。

県内高校生は証明書の提示によりいつでも無料が望ましい。

○その他

近代美術館・万代島美術館の共通チケット等、チケットを工夫する。例えば、企画展のチケットを購入するとき、割引で両館の企画展を観覧できるチケットを販売したり、常設展を鑑賞したら、シール等の景品があったり、シールラリーをやって両館の展覧会を観覧して景品を出すなどの工夫があるとよい。

専門性は美術館の質的向上や維持に必要であるが、広く関心を持ってもらわなければ集客には繋がらない。各市町村教育委員会、校長会等への直接的なPRを行う。

【佐藤 直人 委員】

県立美術館の運営についての協議会委員を2年間やらせていただいた。県民として職員の皆さまの細やかで真摯な仕事に改めて尊敬の念を禁じえない。

この一年に印象に残る企画展でいえば、「加山又造展」「レオナルド・フジタ展」「萬鐵五郎展」「マリメッコ展」「チームラボ展」などが挙がる。日本画・洋画・デザイン・コンテンポラリービジュアルアートとジャンルも多様で、幼児から高齢の客層までの要望に応える内容が緻密に盛り込まれていた。「ディズニー・アート展」「古代アンデス文明展」についてはアニメーション、歴史・古代美術というジャンルに所属し、思い切った会場作りなどで東京の美術館と見紛うほどの集客を寄せていた。定期的にこれだけの人を集める企画展を呼べるのは美術館の職員の方々の先見性や仕事がしっかりとしている証左であり、また県内外からの観覧者を呼び込むことができるのは地域の活性化にも良いことである。

さらに美術館は人気や観覧者数に拘らず、私たちに知性や教養、新しい感性を与えてくれる活動にも積極的である。例えば私の所属する高校では毎年2年生全クラスが美術館に赴き本物の作品に触れるが、ここでもすべての生徒が鑑賞前に丁寧な説明を加えていただいた。館内でのスタンプラリーや小品を作り飾る体験コーナーの充実など、若い人に目を向けた場所を設けていただき、いい演出が施されていた。

教育普及事業の担当としての立場で述べると、企画展の観覧者数などはよくリサーチしてあるが、常設展の関心がどれだけ観客にあるかという点が気になる。「ディズニー・アート展」は本場ディズニーランドを彷彿させる盛況ぶりだったが、同じ館内で入場できるすぐ隣の常設展は残念ながら圧倒的に人気が少ない。

タダで見られる観覧券の半券を余らせて帰る観客の多いこと、ファミレスでセットに付くライスやサラダをそのまま残していきテーブルを見る思いである。後で彼らにとりどんな栄養となってくれるかは未知数であるが、自分の気に入ったジャンルだけでなく、幅広くアートの領域に関心を寄せていくこと、知的好奇心を高めさせていくことが私たち教員の仕事でもあり、また美術館教育普及活動の課題でもあるだろう。

近代美術館については18年7月より1年間休館となるが、拠点を新潟市に移し、万代島美術館でどんな教育普及活動がで

きるか試される年にもなるかと思う。近美は教育の場たるハイビジョンシアターは現在閉鎖され、図書室もなく、レファレンスコーナーは画集なども更新されず、あまり利用されているように思えない。どんな風にリニューアルされ、子供たちに教育の場が提供できるのか興味は尽きない。また文化行政課と手を取り合い、県内高校生の入館料無料化実現となるため、引き続きのご尽力に期待も寄せている。

【高石 真理子 委員】

美術館運営に努力されている皆様に敬意を表する。

2年近く皆様の活動を拝見し、委員の様々な意見を真摯に受け止め、実現できるものはすぐに実行し、また努力されている姿勢には頭が下がる。

さて、いくつか皆様へのエールとしていくつか書かせていただきたい。

企画展について：担当した人が何に感動し、何を見てほしいか、そしてそこに物語があればもっと観覧者に伝わり、より感動を呼ぶのではないだろうか。

常設展について：素晴らしい所蔵品を見ていただけるチャンスである。県外から来られる方はここでの展示を期待していると思う。近代美術館は3室もあるのだから、大胆に利用して所蔵品をアピールしたらどうだろうか。

観光として：今年は大地の芸術祭が開かれる。せっかく多くの県外者がこられるので、県内の美術館をつなげ、新潟県の美術館のすばらしさをアピールする企画があってもよいのではないかと。

施設について：近代美術館の入口の暗さが気になる。もっと子供たちも楽しく観覧できる工夫があってもよいのでは。企画展の受付から展示室の入り口までのアプローチは長い。いままで様々な利用されていたが、もっと展覧会の導入として、また学芸員からの見どころ紹介や喫茶スペースとなれば、作品の感想を語り合える場所にもなるのではないかと。

近代美術館が1年間休館するが、きちんと県民に伝わっているだろうか。1年は長いようで短い。やりたいこと、しなければならぬことを決める意義に過ごしていただきたい。できれば、県内に作品を貸し出し（作品数は少なくてもよい）、美術館をアピールしていただけたらと思うがいかがだろうか。

美術館には友の会というファンクラブが支えている。職員の皆様も素晴らしい企画をすることをいつでも応援している。私も応援団として期待している。

【高橋 健太郎 委員】

新しく生まれ変わる新潟県立近代美術館に、大きな期待をしている。

美術館が美術を鑑賞するためのものではなく、新しい楽しみ方や体験を求める観覧者のニーズを踏まえて、改装が行われたら良いと考える。

また「改装をする」という事実を多くの県民の方に知って頂き、新しい新潟県立近代美術館への期待を高めていくことが必要で

新潟県美術品収集委員会

ある。美術館からどのような情報を出していくのかSNSやブログ、公式ホームページの活用などをお願いしたい。

あわせて、万代島美術館は休館中の近代美術館に代わり、更なる情報発信を続けていく役割があると思う。

大きな変化をするタイミングは、今まで美術館を訪れたことがない人にも興味・関心を持って頂く良い機会である。

様々なアプローチにチャレンジして頂き、新しい形の美術館へ更なる進化を遂げて頂くことを提言としたい。

【委員】

宮田 亮平（文化庁長官）欠席

◎草薙奈津子（平塚市美術館長）

本江 邦夫（多摩美術大学教授）欠席

前川 公秀（DIC川村記念美術館前顧問）

柳原 正樹（京都国立近代美術館長、富山県水墨美術館顧問）

松本 透（長野県県民文化部参与）欠席

郷 晃（新潟大学教育学部教授）欠席

樋田豊次郎（東京都庭園美術館長）

◎は委員長代理

【日程及び内容】

平成29年度「新潟県美術品収集委員会」

日程：平成30年2月25日(日)

内容：(1) 平成29・30年度美術品収集について

①収集候補の全体説明

②収集候補の内覧

③収集候補作品の協議

(2) その他

新潟県立美術館友の会

新潟県立美術館友の会は、新潟県立近代美術館開館の翌年、平成6年4月8日に「新潟県立近代美術館友の会」として発足。平成15年、新潟県立万代島美術館の開館にともない二館共通の友の会組織となり、「新潟県立美術館友の会」と改称した。

広く美術を愛する人達を中心として、美術館の活動及び運営に協力するとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深め、芸術文化の普及、向上を図ることを目的として活動している。

【会費・会員の種類】

一般会員	一般	2,000円	352人
	学生他	1,000円	1,052人
ファミリー会員		4,000円	82人
特別会員	個人	30,000円	0人
	法人		26人
計			1,512人

【会員の特典】

- ・会員証による近代美術館コレクション展、万代島美術館所蔵品の無料観覧
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展を観覧できるモニター券の配布（モニター券1枚で一回観覧可）
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展の優待観覧（団体料金）
- ・企画展図録の割引
- ・近代美術館、万代島ビル内のレストランの割引
- ・友の会日より、美術館パンフレット等の配布
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展開場式への参加

【役員体制】

会 長	丸山 結香	
副会長	小林 新治	上松 和義
	山本 正明	宮澤奈緒子
	蒲木みゆき	目黒 真弓
理 事	保科幸太郎	丸岡 稔
監 事	松永 芳文	永塚 重松
代議員	阿部 貴子	阿部美恵子
	永島 賢司	大平 剛
	恩田 里士	片野 トク
	星野 佳人	近藤フジエ
	高橋 信雄	高田 博俊
	羽賀 享	原 和彦
	樋口 栄治	保坂 太
	丸山 智	宮本 恵子
	山梨玲江子	舩岡 武雄
	久島 芳尚	高石 恒一
	中川 アイ	金子かおる
	金子 明子	

名誉顧問	豊口 協	
顧問	平山 征夫	和田 裕
相談役	徳永 健一	澤 秀一郎
事務局	佐藤 夏代	

【事業内容】

友の会独自事業および美術館との共催事業

- ◇5月16日 代議員会
会場：近代美術館会議室
- ◇6月 3日 ワークショップ「指でくるくるチョークアートを描こう」
- ◇6月24日 ワークショップ「ペリペリワクワクーメデュムはがし版画に挑戦！」
- ◇7月16日 こらぼde茶会
- ◇7月23日 加山又造展講演会
- ◇7月30日 レオナルド・フジタとモデルたち講演会
- ◇7月30日 ワークショップ「消しゴムはんこで作る又造の世界」
- ◇8月 6日 夏休みこどもアート
- ◇9月 9日 ワークショップ「絵手紙をかいてみませんか？」
- ◇9月23日 美術鑑賞ツアー「富山」
行き先：富山県美術館他
参加者：38名
- ◇10月3日～9日 第21回作品展
会場：近代美術館ギャラリー
作品数：42点
来場者：165名
- ◇10月 7日 ワークショップ
「ミニ絵本をつくろう」
- ◇10月 9日 萬鐵五郎展講演会
- ◇10月13日 作品展交流会
- ◇10月28日 ワークショップ「うまのオーナメントをつくろう」
- ◇11月25日 ワークショップ「毛糸で織る～コースターをつくろう～」
- ◇12月26日 万美直行バス
参加者：20名
- ◇3月17日 アートカフェ
会場：ジュンク堂書店新潟店
参加者：14名
- ◇友の会だよりの発行
(カラー版1回、速報4回)

沿革

《新潟県立近代美術館》

昭和63年度予算で美術館建設調査費計上

昭和63年12月

「新潟県美術品収集基金条例」制定

平成元年10月

新潟県美術館建設基本構想を策定

平成2年3月

新潟県美術館建設基本計画を策定

平成2年3月

県立近代美術館建設の設計者選考方式を指名設計競技（コンペ）に決定

平成2年3月

指名設計競技の参加設計事務所5社を決定

平成2年7月

県立近代美術館建設指名設計競技審査会開催

（株）日本設計の作品が入選

平成2年8月

設計業務の委託を（株）日本設計と契約

平成3年2月

県立近代美術館建設の実施設計策定

平成3年5月

県立近代美術館建設工事入札

大成・吉原・小杉特定共同企業体等が落札

平成3年7月

県議会で建設工事の契約承認

平成3年7月

新潟県立近代美術館の建設着工

平成4年12月

県立近代美術館建設本体工事完了・引き渡し

平成5年3月

新潟県立近代美術館条例公布

平成5年4月

新潟県立近代美術館発足

平成5年7月

開館

《新潟県立近代美術館万代島美術館》

平成12年8月

新潟県新美術館基本構想を発表

平成13年2月

新潟県新美術館基本計画を策定

平成13年4月

新潟県新美術館開設準備室発足

平成14年8月

新美術館の名称を一般公募により「新潟県立万代島美術館」と決定

平成15年3月

朱鷺メッセ万代島ビル竣工

平成15年4月

新潟県立近代美術館万代島美術館発足

平成15年7月

開館

平成29年度

新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館 年報

編集 新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館

印刷 株式会社第一印刷所

発行 平成30年12月25日